

第218図 IV-A区26・27・29～34・36・37号溝

第3章 調査の内容

A-A'

1. 暗黒褐色土 白色バミス(As-C?)を20%含む。ローム粒を少量含む。
2. 暗灰褐色土 白色バミス(As-C?)を70~80%含む。ローム粒を10%粒含む。砂質(洪水等による水成堆積?)。
3. 暗褐色土 白色バミス(As-C?)を30%含む。ロームブロック(φ10~50mm)を含む。黒色土ブロックを含む。砂質(水成堆積?)。
4. 暗黒褐色土 白色バミス(As-C?)を極少量含む。部分的に洪水による細砂の堆積が層位的に見られる。
5. 暗褐色土 2に似るが、白色バミスがやや少ない。

B-B'

1. 暗褐色土 シルト質。締まり良い。
2. 暗黒褐色土 白色バミスを含む。ローム粒を少量含む。
3. 暗黒褐色土 白色バミスをやや多く含む。やや砂質。
4. 暗黒褐色土 3に似るが、白色バミスがやや少ない。
5. 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。砂の水成堆積。下層の溝?。
6. 暗褐色土 白色バミスを含む。ローム粒をやや多く含む。砂質。溝?。

C-C'

1. 灰白色シルト 土質均質。
- 2a. 明黄褐色 シルト・細砂がクミンナ状に堆積。洪水堆積物。
- 2b. 灰黄色 シルト・洪水堆積物。
3. 灰白色シルト+微砂。
4. 黒褐色土 細砂(φ1~2mm)・軽石(As-C)を斑点状に含む。粘性強い。
5. 褐色土 φ1~10mmの粗粒灰白軽石(As-C+Hr-FP?)を含む褐色土。細砂シルトを乱れて含む。
6. 黒褐色粘質土ブロック
7. 砂(φ1~2mm)+軽石
8. 灰黄褐色土 地山ローム+細砂+褐色土。

D-D'

1. 黄褐色砂質土 洪水起源。
2. 黄褐色砂質土 洪水起源。
3. 暗褐色土 白色バミスを含む。砂の集中。
4. 暗灰白色土 2層を斑状に含む。水成堆積。(洪水層?)
5. 暗褐色土 白色バミス含む。
6. 暗褐色土 As-Bを含む。
7. 暗黒褐色土 白色バミスを含む。黒色土が層位的に堆積。
8. 暗黄褐色土 ローム粒が主体。

E-E'

1. 褐色土 As-Bを多く含む。(As-B降下後の攪乱)
2. 黄褐色砂質土 細砂主体。水成堆積(洪水層?)
3. 暗黄褐色土 白色バミスを含む。砂の集中あり。
4. 暗灰白色土 白色バミス(Hr-FPに似る)を含む。水成堆積(洪水層?)。
5. 暗褐色土 白色バミス(Hr-FPに似る)を含む。3層を斑状に含む。
6. 暗褐色土 白色バミスを含む。
7. 暗黒褐色土 白色バミス(Hr-FPに似る)ローム粒・焼土を少量含む。
8. 暗黒褐色土 白色バミスを含む。

F-F'

1. 灰褐色シルト 細砂のシルト層。フミンナ状に堆積。
2. 暗褐色土 白色軽石粒(Hr-FP)をわずかに含む。弱い粘性あり。締まり良い。
3. 暗褐色土 薄い黒色粘質土を下部に挟む。
4. 暗褐色土 白色軽石粒(As-C+FP)を少量含む。粘性あり。
5. 暗褐色土 白色軽石粒(As-C+Hr-FP)・ローム粒を含む。粘性あり。
6. 暗褐色土 白色軽石粒(As-C?)を含む。4層によく似る。粘性高い。
7. 暗褐色土 硬く締まる。白色軽石粒(Hr-FP?)を若干含む。

IV区31号溝 G-G'

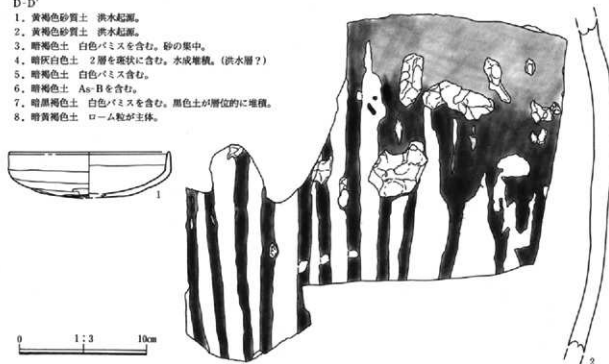
1. 暗褐色土 砂を少量含む。白色軽石(Hr-FP)をわずかに含む。

IV区32号溝 H-H'

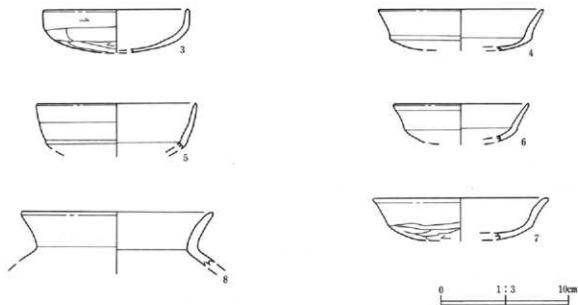
1. 暗褐色土 白色軽石(Hr-FP)を若干含む。ローム粒含む。やや砂質。

IV区37号溝 A-A'

1. 暗黒色土 白色バミス(As-Cに似るが不明)を40%程含む。細砂(洪水起源)を層位的に含む。



第219図 IV-A区29号溝出土遺物



第220図 IV-A区30・31・33号溝出土遺物

IV-A区29・30・31・33号溝出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①地成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土器器 坏	29溝 +3cm	口径(12.7) 底径 - 器高 -	①酸化焰②淡赤橙 ③粗細砂・角閃石を 含む。	外面 □縁部横ナデ。体部指ナデ。底部窪削り。 内面 □縁部横ナデ。体~底部ナデ。	□~底部1/4 残存
2	須恵器 甕	29溝 埋没土	口径 - 底径 - 器高 -	①還元焰②灰白 ③白色鉱物粒を含む。	内外面 回転ナデ。外面軸着有り。	体部破片
3	土器器 坏	30溝 +23cm	口径(11.5) 底径 - 器高 -	①酸化焰②橙 ③白色鉱物粒・角閃 石を少量含む。	外面 □縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部窪 削り。 内面 □縁部横ナデ。体~底部ナデ。	□~底部破片
4	土器器 坏	31溝 埋没土	口径(13.0) 底径 - 器高 -	①酸化焰 ②橙 ③赤色鉱物粒を含む。	外面 □縁部横ナデ。坏部横方向窪削り。 内面 □縁部横ナデ。坏部ナデ。	□縁部破片 122土坑の遺 物か。
5	土器器 坏	30溝 +2cm	口径(12.6) 底径 - 器高 -	①酸化焰②橙 ③粗細砂・角閃石を 含む。	外面 □縁部横ナデ。底部横方向窪削り。 内面 □縁部横ナデ。底部ナデ。	□縁部破片 重複の可能性 有り。
6	土器器 坏	埋没土	口径(13.6) 底径 - 器高 -	①酸化焰②橙 ③赤色鉱物粒を含む。	外面 □縁部横ナデ。坏部横方向窪削り。 内面 □縁部横ナデ。坏部ナデ。	□~体部破片
7	土器器 坏	33溝 +26cm	口径(13.6) 底径 - 器高 -	①酸化焰 ②橙 ③細砂を含む。	外面 □縁部横ナデ。坏部横方向窪削り。 内面 □縁部横ナデ。坏部ナデ。	□~体部破片
8	土器器 甕	30溝 +13cm	口径(15.0) 底径 - 器高 -	①酸化焰②鈍い橙 ③粗細砂・赤色鉱物 粒・角閃石を含む。	内外面 ハケメ後、□縁部横ナデ。	□縁部破片

第3章 調査の内容

7. 畠

I-B区 畠

位置 K-103・104 L-103~105 M-104・105

写真 PL84

重複 一部調査範囲外あり、全体の形状は不明である。I-B区8号溝に掘り込まれている。

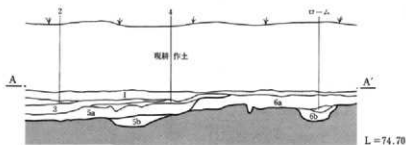
規模 各サクの規模は以下の通りである。

	上幅	下幅	深さ	調査長(m)
溝1	0.52	0.30	0.14	3.60
溝2	0.48	0.30	0.10	4.32
溝3	0.44	0.20	0.22	4.56
溝4	0.42	0.24	0.08	6.06
溝5	0.50	0.27	0.14	6.06
溝6	0.50	0.30	0.18	3.38
溝7	0.62	0.40	0.13	4.40

埋没土 褐灰色粘質土・ロームブロックで埋まっていた。

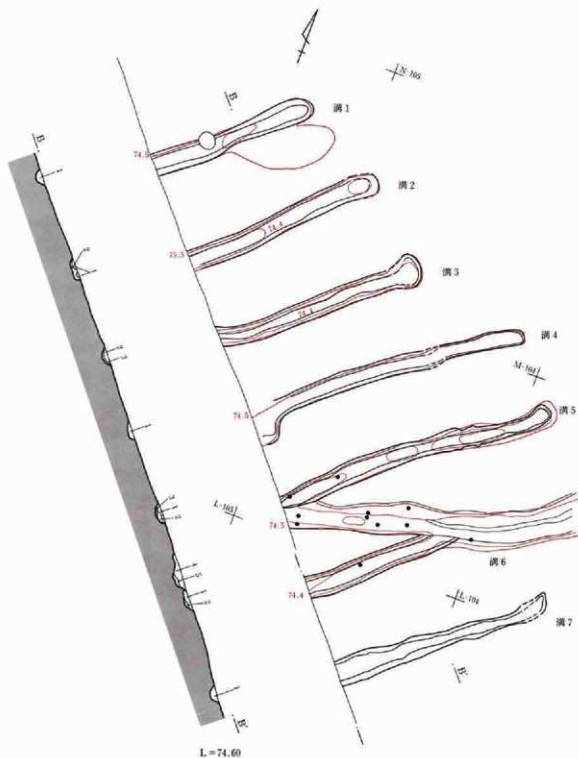
出土遺物 出土遺物はなかった。

所見 I-B区西台地で、畠と思われる遺構を検出した。年代については出土遺物がなく、断定しきれないが、遺構はAs-B下水田耕作土の下層から検出されていること、埋没土にHr-FPが含まれており、西善尺司遺跡の奈良・平安時代に特徴的な埋没土によって埋まれているといったことから、奈良・平安時代の遺構であるとの調査所見を得た。

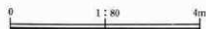


1. 橙色土 As-Bを含む。鉄分の沈着あり。
2. 黒褐色土 As-Bを含む。ガラついた土。
3. As-B
4. As-B下水田耕作土上層 鉄分の凝集層。
- 5a. 黒色土 As-B下水田耕作土。As-C軽石(φ1mm弱)をわずかに含む。粘性強い。シルト質。
- 5b. 黒色土 ローム細粒を含む。サク状遺構埋没土。
- 6a. 暗褐色土 As-C(φ1~3mm)を斑点状に含む。サク状遺構埋没土。
- 6b. 暗褐色土 6a層+ローム小ブロック。サク状遺構埋没土。

第51図 I-B区畠(1)



1. 近い黄褐色土 1層に似るが、ローム小ブロックを含む。
2. ロームブロック主体+1層ブロック。
3. 稀灰色粘質土 粘性強い。
- 4~5. 8号溝埋設土。



第222図 I-B区畝(2)

第5節 中世以降の遺構と遺物

1. 概説

本節では、西善尺司遺跡における中・近世以降の遺構について報告するが、中世あるいは近世に時期を特定できた遺構は少ない。その他の遺構については時期不明といわざるを得ないが、形態から見ると中世と判明したものと同様な遺構がほとんどであった。したがって本書では、時期の判明しなかったものも含めて遺構を形態分類し、記述していくこととする。

検出された遺構は、館址・掘立柱建物・竪穴状遺構・柱穴列・火葬墓・井戸・土坑・溝である。

遺構の分布は、古代までと比較し大きく変化する。まず、前代まで各遺構を規制していた南北に流れる二筋の低地が、奈良・平安時代の度重なる洪水によりAs-Bの降下時には、ほぼ完全に埋没している。As-B下では水田が造成されており、埋没谷を中心としたI～III区の大部分が、水田域になっていたようである。その後、As-B下水田を掘り込んで、各館

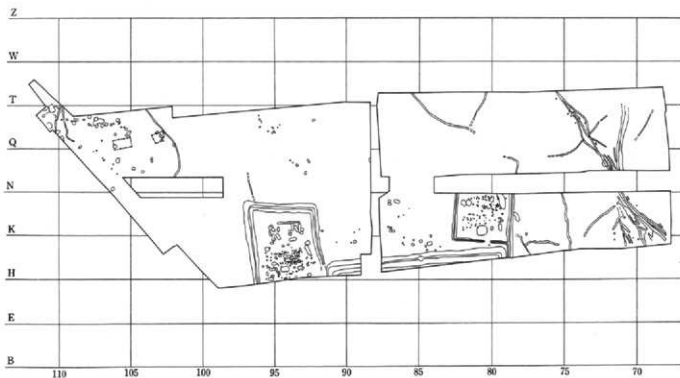
が埋没谷の上に造営されている。また、古代まで遺構が希薄だったIV区には、4号館を中心に中・近世遺構が集中している。

館はI・II区の南側・IV区に分布しており、4軒検出された。館を構成する主な遺構は、圍繞する堀・掘立柱建物・柱穴列・土塁等であるが、発掘調査では各遺構の新旧関係あるいは同時性について、明確に判断することができなかった。よって、ここでは遺構の配置や主軸方位・埋没土などから相関関係のみられる中・近世遺構全体を館とし報告する。

なお、前橋市南部地域は、県内でも環濠屋敷の集中している地域であり、西善尺司遺跡は旧西善環濠遺構群(須田屋敷)の範囲内に位置する。

掘立柱建物は、28軒検出された。分布は館内部に集中しており1号館では2軒、3号館では7軒、4号館では14軒が検出された。重複や柱間、主軸方位から3時期ほどの変遷が想定される。

柱穴列は、14本検出された。いずれも各館内部に



分布している。

井戸は26基検出された。分布はI区西側の台地上、2・4号館内に集中している。各井戸底面の標高は、72.05～74.00mである。IV-A区6号井戸は、長径5mを越え、石段上の施設が出土した。なお、井戸と館の関係については、新旧関係が判定できず不明である。

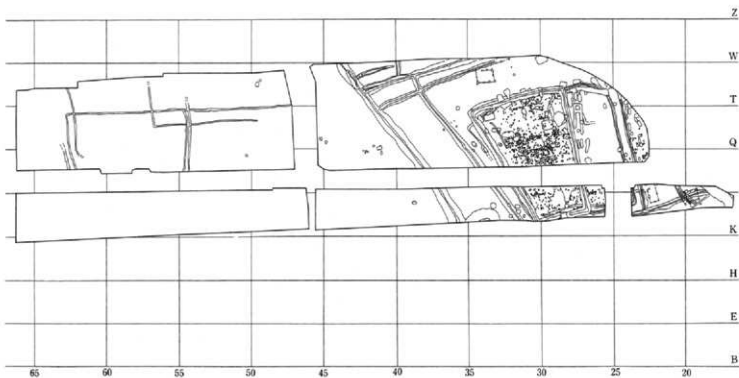
火葬墓は、3基検出された。掘り込みの中に炭化物や焼土粒が多量に含まれており、骨片が出土している。

竪穴状遺構は、住居と断定できないものを分類した。3軒検出しており、いずれも4号館内部に分布する。土間等の施設の可能性もある。

溝は13本検出された。溝は、各館を構成する堀のほか、II区東側・III区に集中している。III区1～5・7号溝は、As-Bの一次堆積層を掘り込み、ほぼ東西南北に走行する方溝地割りを示していることから、As-B降下後の水田開発に伴う溝と考えられる。

土坑は全体で261基検出された。そのうち、31基については時期が判明し、各時期の節で既に掲載した。ここでは、それ以外の231基について掲載する。土坑の形態を検討した結果、平面形により不整形・ビット状・円形・楕円形・隅丸正方形・隅丸長方形・地下式土坑に形態分類した。また調査の関係上、土坑の調査番号がI・II区とIII・IV区に分かれて通番されているため、I・II区とIII・IV区ごとに分け、各形態分類の順に掲載していくこととする。

その他、各遺構の詳細な計測値等については、巻末の遺構一覧表を参考にされたい。



第223図 西善尺司遺跡 中・近世遺構概念図

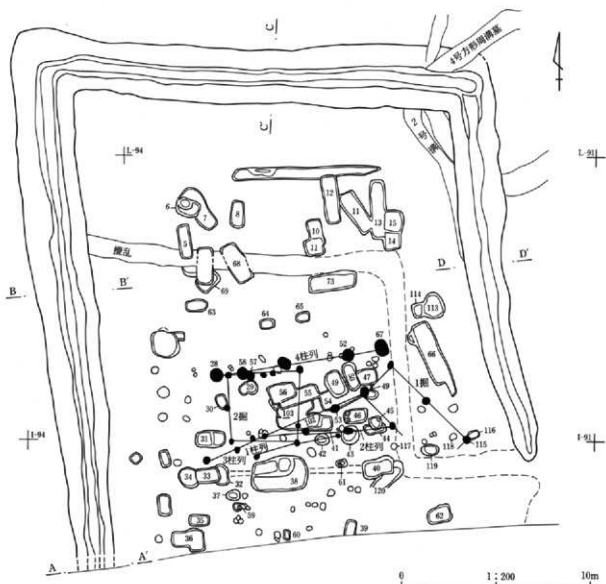
2. 館

西善尺司遺跡における中・近世遺構は、29軒の掘立柱建物と圍繞する堀を中心とする4軒の館址の他に、多数の柱穴・土坑群、竪穴状遺構、火葬墓などが検出されている。

なかでも、館址について、内部の主要施設となる掘立柱建物の重複が顕著にみられ、数時期の変遷が想定できる。しかし、新旧関係については各柱穴の規模が小さく、明確な重複関係を認識することができなかった。

このため、発掘調査時には各掘立柱建物間の新旧関係を抽出するには至らなかった。また、堀と内部の遺構群の同時性についても発掘調査からは明確にできなかった部分が多い。

よってここでは、発掘調査によって検出された中・近世遺構のうち、区画された堀内に存在し、且つ各遺構の配置や方位から、各遺構に相関関係が認められる主な掘立柱建物・竪穴状遺構・柱穴列といった遺構全体を館址と捉え、述べていくこととする。



第224図 I区1号館

1号館

位置 G-M-91~97

写真 PL85・86

重複 1-B区2号溝を掘り込んでいる。2号館との重複は、後世の溝により攪乱され不明である。

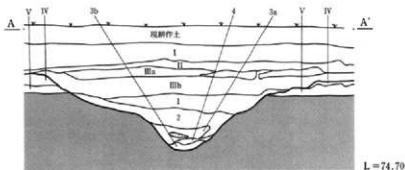
形状 一部調査区域外ではっきりしないが、概ね主軸を北にする四角形を呈する。東堀の中央部から南がやや東へ振れて走行しており、南側の調査区域外に何らかの関連する遺構が存在することを示唆していると考えられる。

面積 460m²(残存部分)

規模 残存する範囲では、南北28.7m、東西25.5mの規模を持つ。

堀 遺構確認面での堀の規模は、

	上幅	下幅	深さ	調査長(m)
北堀	2.88	0.44	0.88	25.5
西堀	3.42	0.36	0.92	28.7
東堀	1.92	0.62	0.38	22.3以上



1号館 A-A'

I. 褐色土 細砂軽石(φ1mm前後)・軽石粒(φ3mm前後)を含む。

上層に鉄分の凝集あり。

II. におい褐色土 鉄分の凝集層。φ7mm前後の軽石粒を含む。

IIIa. 灰褐色土 淡色のAs-Bを含む黒色土。As-B(φ1mm前後)を多量に含む。褐色土小塊を含む。砂質土。

IIIb. 灰褐色土 淡色のAs-Bを含む黒色土。黒泥塊・褐色土シルト塊・細砂塊を含む。ザラついた砂質土。

IV. 黒褐色土 As-Bを多く含む黒褐色土。As-B小塊を含む。罅あり。

V. As-B 一次堆積層。

VI. 黒色土 水田耕作土

VII. 灰褐色シルト質土 鉄分の凝集あり。白色軽石粒(φ2~3mm)を含む。(泥流起源?)

VIII. 灰黄色シルト

である。北・西堀は断面形状が逆三角形から逆台形を呈している。東堀は他の辺に比べ浅く、断面形状も掘り鉢形を呈する。埋没土はAs-Bを含む褐色土粘質土・多量のロームブロックで埋まっていた。

内部施設 内部からは掘立柱建物2軒、欄干2基、土坑58基、多数の柱穴等を確認した。土坑はある程度の群をなしており、長方形土坑は館内部の北半分に、その他の土坑や柱穴、掘立柱建物等は南半分に集中する傾向にある。堀内側の周辺部には基本的に遺構が存在せず、土塁等の施設の存在が想定される。

遺物 出土物はなかった。

所見 築造年代については、As-Bを掘り込んでいることからAs-B降下後であることは確実であるが、出土物がなく、下限については発掘調査からは不明であった。

なお、本遺構は旧西善環濠遺構群(須田屋敷)の範囲内にあたり、須田屋敷については16世紀に須田氏により築造されたとの記録がある。

1. 灰黄褐色土 淡色As-Bを含む黒色土。細砂+3b層塊+5層塊。

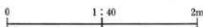
2. 黒褐色土 淡色As-Bを含む黒色土。細砂+VII層塊+5層塊を含む。

3a. 褐色土シルト ノロ状。ホクホクした土。

3b. 褐色土シルト 細砂をわずかに含む。

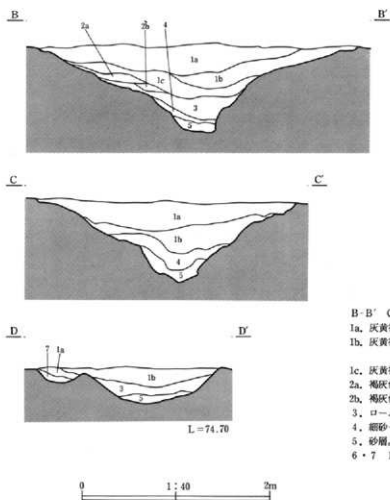
4. 細砂層。

5. 黒褐色土 細砂・黒泥塊・VIII層小塊が入り混じる。



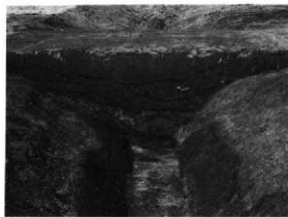
第225図 I区1号館掘土層断面(1)

第3章 調査の内容



- B-B' C-C' D-D'
- 1a, 灰黄褐色土 As-Bを含む黒色土。
 1b, 灰黄褐色土 As-Bを含む黒色土+ローム小塊+黒褐色小塊+小礫。
 1c, 灰黄褐色土 1aに似るが、細砂が多い。
 2a, 褐灰色土 As-Bを含む黒色土・灰色粘質土が混じる。
 2b, 褐灰色土 細砂+ローム小塊。
 3, ローム塊+褐灰色シルト塊+細砂。入り混じる。
 4, 細砂+褐灰色シルト塊。
 5, 砂層。ローム小塊・褐灰色シルト塊が混じる。
 6・7 II区2号溝埋没土。

第226図 I区1号館掘土層断面(2)



B-B'



C-C'

1号館1号掘立柱建物

位置 1-92・93

写真 PL 85

重複 2・3号柱穴と重複しているが、新旧関係は不明である。

形状 南隅が近代の擾乱により一部壊されており、全体の形状は不明であるが、基本的には2間×1間(4.95m×1.95m)の規模を持つ南北棟建物と考えられる。柱間寸法は、桁行寸法東列(P2～P4)が2.64～2.34mで、北間口がやや広い。西列は残存する範囲(P1～P5)で、2.40mである。梁行寸法北

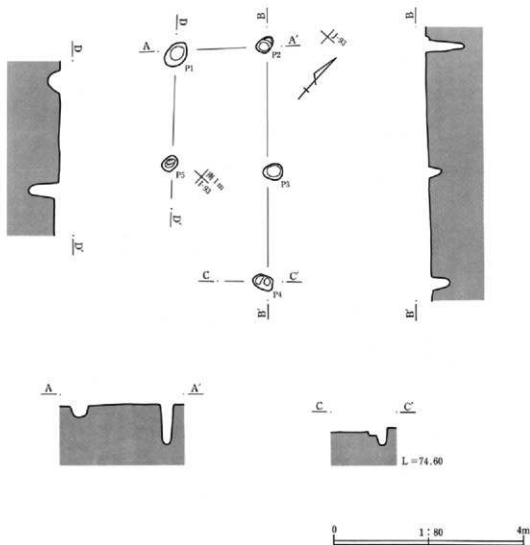
列(P1～P2)が1.95mである。

主軸方位 N-41°-W

面積 (96.5㎡)

柱穴 柱穴掘り方は、直径0.35～0.48mである。深さは、P1・3・4が0.26～0.37mであるが、P5が0.63m、P2が0.83mと深い。平面形状は、円形あるいは楕円形を呈する。柱根については検出できなかった。P5の埋没土中からは礎が出土している。

遺物 なし。



第227図 1区1号館1号掘立柱建物

第3章 調査の内容

1号館2号掘立柱建物

位置 I-94

写真 PL 85

重複 1・2・3・4号柱穴列と重複しているが新旧関係は不明である。

形状 やや変則な柱間であるが、基本的には4間×2間(3.87m×3.82m)の規模を持つ、東西棟建物と考えられる。柱間寸法は、桁行寸法北列(P1~P5)が1.20-0.70-0.55-1.45m、南列(P11・P10・P9・P8・P7)が1.10-0.66-1.00-0.84mである。P3・P9が内側にやや入り込んでいる。梁行寸法西列(P1~P11)は1.80-1.75mとほぼ等間である。

ある。

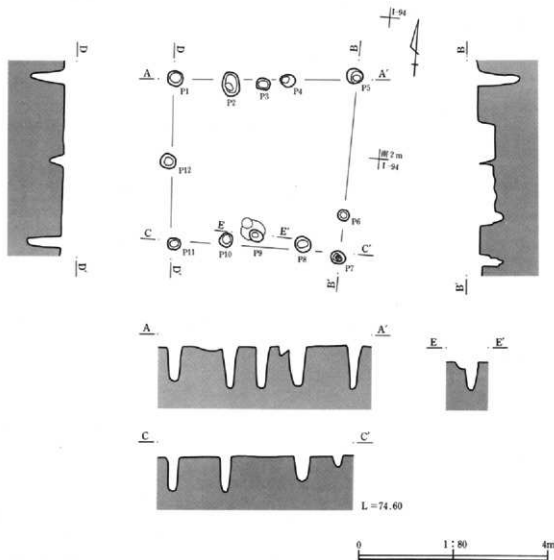
東列(P5~P7)は2.90-0.92mで北間口がやや広く、西列とはずれているが、土坑群との重複により柱穴が検出できなかった可能性もある。

主軸方位 N-87°-E

面積 11.0㎡

柱穴 柱穴掘り方は、直径0.24~0.32mである。深さは0.58~0.90mであるが、P7は0.24m・P12は0.30mとやや浅い。形状は、円形もしくは楕円形を呈する。柱根は検出できなかった。P2の埋没土中からは礫が出土した。

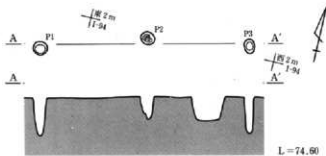
遺物 なし。



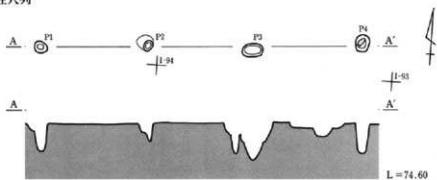
第228図 I区1号館2号掘立柱建物

柱 穴 列

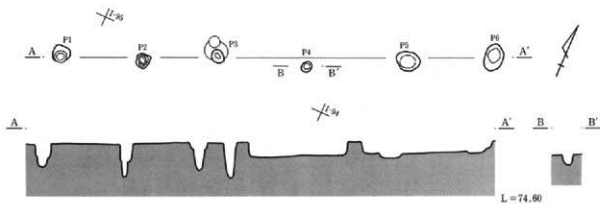
1号柱穴列



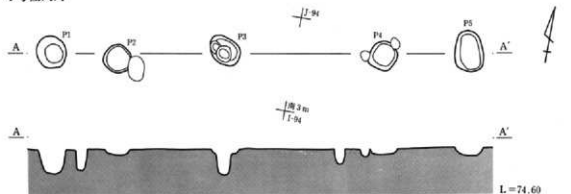
2号柱穴列



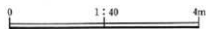
3号柱穴列



4号柱穴列



第229図 I区1号館1・2・3・4号柱穴列



第3章 調査の内容

2号館

位置 J-79~81 H-83~91 I-78~88

写真 PL86

重複 II-B区7号溝を掘り込んでいる。1号館との重複は、後世の溝により攪乱され不明である。

形状 堀の北辺と二隅を検出したのみであり、形状については不明である。

面積 不明

規模 検出した範囲では、北辺約53.6mの規模を持つ。

堀 遺構確認面での堀の規模は、

	上幅	下幅	深さ	調査長(m)
北堀	4.18	0.54	1.26	62.4

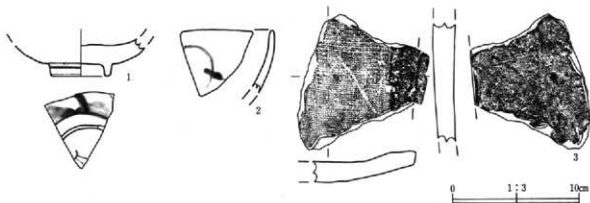
である。断面形状は薬研状を呈しており、壁面の所々に段をもつ。北辺中央部付近では掘り鉢状に掘り込まれており、多くの礫が出土した。埋没土はAs-Bを含む暗灰色・褐灰色土・ロームブロックで埋まっていた。また堀はAs-Bを掘り込んで構築されて

いたことを確認した。土層断面の観察から2~3回の堀の変遷があるとの調査所見を得た。

内部施設 内部・周辺部からも関連する遺構については確認できなかった。

遺物 堀の埋没土からは多量の須恵器・土師器・礫が出土したが、下層にある平安時代の集落から流入したものと考えられる。関連する遺物としては、波佐見系磁器碗(1)・(2)が堀埋没土中から出土した。年代については18C中~後半のものと考えられる。

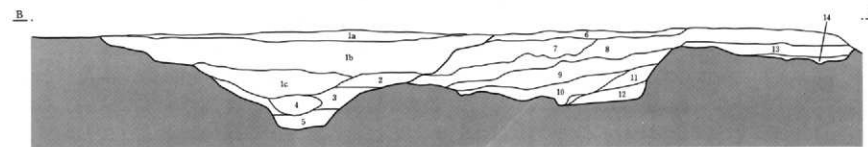
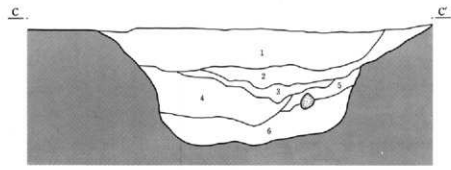
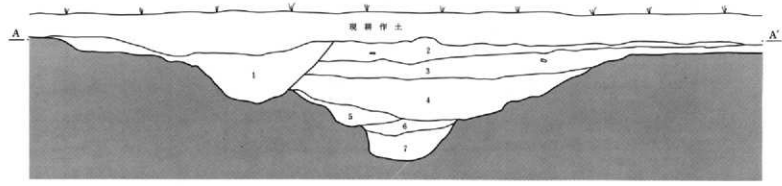
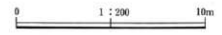
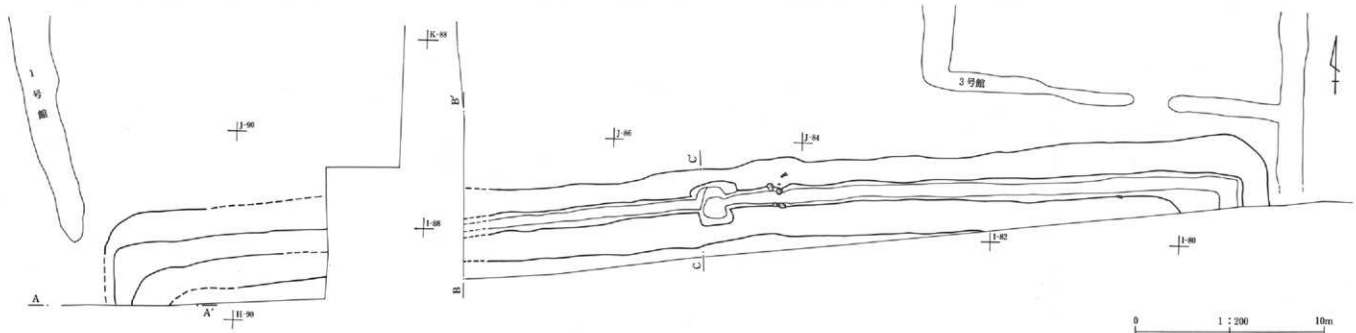
所見 北辺の一部が調査されたのみで、調査区域の南に主体となる館跡が存在すると想定される。築造年代については不明であるが、少なくとも18C後半頃までは数度の変遷を遂げながらも堀が機能していたと考えられる。築造者についても不明であるが、本遺構は旧西善環派遺構群(須田屋敷)の範囲内にあたり、須田屋敷については16世紀に須田氏により築造されたとの記録がある。



第230図 I・II区2号館出土遺物

2号館出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	肥前磁器碗	埋没土	口径 - 底径(4.8) 器高 -	① - ② - ③ -	外面 雪輪梅樹文か 内面 -	波佐見系 18C中~後半
2	肥前磁器碗	埋没土	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 梅折枝文。 内面 -	波佐見系 18C中~後半
3	瓦	埋没土	口径 - 底径 - 器高 -	①瀬元焼②鈍い橙 ③細砂を含む。	外面 ヘラナダ。 内面 布目痕。	破片



- 2号館 B-B'
(2号館埋設土)
- 1a. 暗褐色土 As-Bを含む黒色土。ローム小塊を含む。
 - 1b. 暗褐色土 As-Bを含む黒色土。ローム小塊を含む。
 - 1c. 暗褐色土 ローム小塊が入り混じる。
 2. 褐色土 As-Bを含む黒色土+As-YPパミス+ローム粒。(一括埋土)。
 3. As-YPパミス+As-YPアッシュ+褐色砂質土。入り混れて堆積。(一括埋土)。
 4. 褐色土 2層に似る。(一括埋土)。
 5. 褐色土 細砂・シルトが互層に堆積。(水成堆積) (II区7号埋設土)
 6. 黒褐色土 As-B下積作土。粘質土。
 7. 灰黄褐色土 As-Cと思われる軽石粒(φ1~3mm)+ローム粒。粘性強い。
 8. 暗褐色土 As-Cと思われる軽石粒(φ1~3mm)・炭化物粒・塊土粒を含む。ローム小塊混じる。粘性強い。
 9. 褐色土 As-YPアッシュ小塊+ローム小塊+2層堆。
 10. 褐色土 4層に似るが、As-YPが多い。砂質。
 11. 褐色土 5層に似る。シルトが互層に堆積。
 12. As-YPパミス+As-YPアッシュ塊+褐色土塊。
 13. 黒褐色土 As-Cを含む黒色土。粘性強い。
 14. ローム+黒褐色土。

- 2号館 A-A'
1. 圓形整備前水路埋設土
2. におい黄褐色土 As-Bを含む。鉄分の凝集あり。
 3. 褐色土 As-Bを含む黒色土。
 4. 灰黄褐色砂質土 As-Bを含む黒色土。
 5. 褐色土 シルト質土。
 6. 褐色土シルト
 7. 褐色土シルト+砂塊。
- 2号館 C-C'
1. 暗褐色土 As-Bを含む黒色土。
 2. 暗褐色土 As-Bを含む黒色土。ローム塊を斑状に含む。
 3. 黒色粘質土 ノコ状の塊積。(一括埋土)。
 4. 細砂層+ローム小塊+As-YPアッシュ小塊。部分的にAs-YPが互層に堆積。(一部埋土)。
 5. 細砂主体 ローム小塊+3層堆。(一括埋土)。
 6. 灰白シルト塊主体。細砂+3層堆。(一括埋土)。

第231図 I・II区2号館

3号館

位置 J・K・L-78~82 写真 PL86・87
重複 近・現代の溝に掘り込まれている。

形状 遺構の北側が道路下のため調査できなかつたが方形の区画を持つ館と考えられる。南辺中央や東寄りには出入り口を検出した。東辺は2号館と繋がっているが後世の溝による掘り込みである。

面積 313.3㎡(残存部分)

規模 検出した範囲では、東西南北とも約17.5mの規模を持つ。

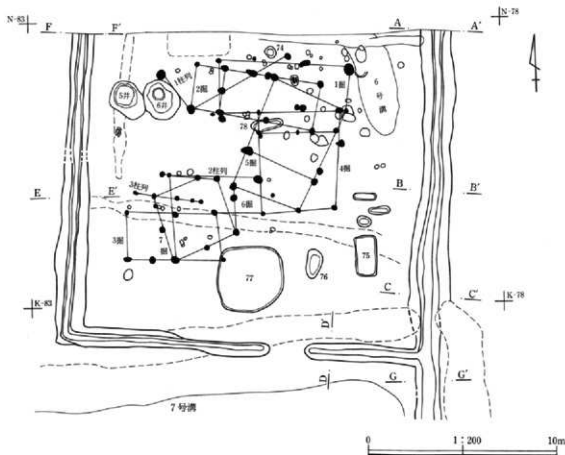
堀 遺構確認面での堀の規模は、

	上幅	下幅	深さ	調査長(m)
東堀	1.68	0.44	0.64	(17.8)
南堀	0.83	0.42	0.38	21.0
西堀	1.86	0.29	0.71	(16.6)

である。なお、南堀には入り口部分1.80mが掘り残されている。断面形状は葉研状~掘り鉢状を呈して

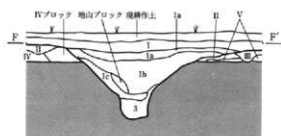
いる。西堀は比較的深く、断面もしっかりした葉研状を呈しているが、南・東堀は浅く、断面はやや崩れた掘り鉢状である。埋没土はAs-Bを含む黒褐色土・ロームブロックで埋まっていた。底面付近にはノロ状に細砂が堆積していた。また土層観察から堀はAs-Bを掘り込んで構築されていたことを確認し、また2~3回の堀の変遷があるとの調査所見を得た。内部施設 内部からは掘立柱建物7軒・井戸2基・多数の土坑・柱穴等を確認した。堀周辺には遺構が少ないことから土塁等の施設の存在も想定される。遺物 なし。

所見 築造年代については、As-Bを掘り込んでいることからAs-B降下後であることは確実であるが、出土遺物がなく下限については発掘調査からは不明である。なお、本遺構は旧西善環濠遺構群(須田屋敷)の範囲内にあたり、須田屋敷については16世紀に須田氏により築造されたとの記録がある。

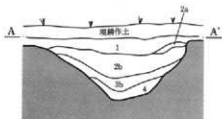
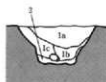


第232図 II区3号館

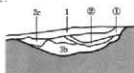
第3章 調査の内容



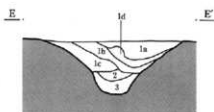
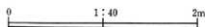
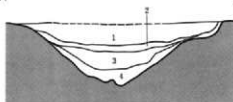
D. D'



G. G'

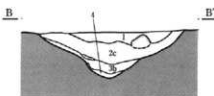


C. C'



D-D' E-E' F-F'

- I. 褐色土 As-B・As-Aを含む。鉄分の凝聚層。
 - II. 褐色土 As-Bを含む黒色土。
 - III. As-Bを多く含む黒色土。As-Bアッシュとバミスが混ざっている。ザラついた土。
 - IV. As-B 一次堆積層。
 - V. におい黄褐色粘土 As-B下水田耕作土。
- 1a. 黒褐色土 As-Bを含む黒色土。暗褐色土小塊を含む。
 - 1b. 黒褐色土 1aに似るが、暗褐色土が多い。
 - 1c. 黒褐色土 1aに似るが、細砂が強じる。
 - 1d. 1a塊+細砂塊。
 2. 褐色シルト シルト。湧水によるノロ。
 3. 暗褐色土 細砂+ローム塊+As-Bを含む黒色土塊+褐色粘土塊。



A-A' B-B' G-G'

1. 暗褐色土 As-Bを含む黒色土。鉄分の凝聚あり。
 - 2a. As-Bを含む黒色土+ローム塊。斑状に含む。
 - 2b. As-Bを含む黒色土+細砂+ローム塊+As-B下粘土。
 - 2c. 2b'、2b層に似るが、各塊が小さい。
 - 3a. As-Bに似た軽石粒主体。黒褐色シルトあり。
 - 3b. 3aに似るが、褐色塊(As-B下粘土)が多い。
 4. 黒褐色シルト 湧水によるノロ状の堆積。
- ①②. 近世溝埋没土

C-C'

1. におい黄褐色土 As-Bを含む黒色土。As-B下黄褐色土塊+ローム塊を含む。
2. 褐色シルトとにおい黄褐色シルトが互層に堆積。(湧水によるノロ)
3. 黄褐色土 ローム小塊・黄白色粘土小塊・細砂・ローム等の小塊が斑状に堆積。最下層にシルト質細砂が堆積。
4. 褐色シルト質土 細砂+ローム小塊が混じる。ノロ状のシルト質土が堆積。

第233図 II区3号産掘土層断面

3号館1号掘立柱建物

位置 M-79・80

写真 PL 87

重複 1号柱穴列、2・4・5号掘立柱建物と重複しているが、新旧関係は不明である。

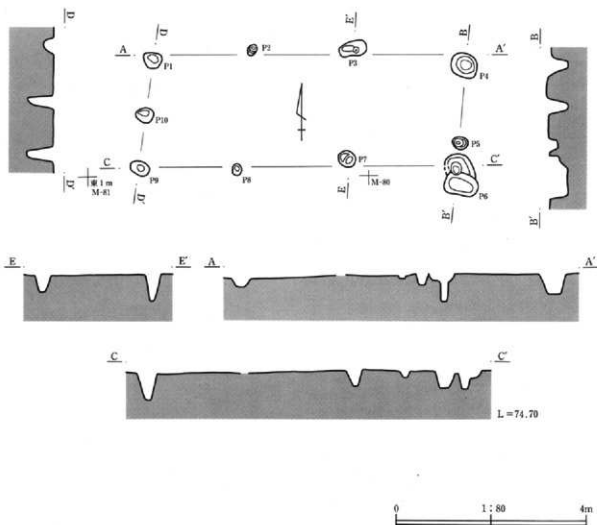
形状 P 9が西にやがずれているが、基本的には3間×2間(6.64m×2.32m)の規模をもつ、東西棟建物である。柱間寸法は、桁行寸法北列(P 1～P 4)が2.14-2.22-2.32m、南列(P 9～P 6)が2.03-2.36-2.34とほぼ同一寸法になっている。梁行寸法西列(P 1～P 9)は1.18-1.15mとほぼ等間であるが、東列(P 4～P 6)は1.68-0.56mで、P 5が極端に南に寄っているため、やや変則的な柱間になっている。

主軸方位 N-1'-E
面積 15.4m²

柱穴 柱穴掘り方は、直径0.23～0.40mである。

深さは、P 1・P 5は浅くとも0.20mであったが、他は0.34～0.57mの規模である。形状は、円形あるいは楕円形を呈する。柱根については検出されなかった。

遺物 なし。



第234図 II区3号館1号掘立柱建物

第3章 調査の内容

3号館 2号掘立柱建物

位置 L・M-79・80 M-81

写真 PL 87

重複 1号柱穴列、1・4・5号掘立柱建物と重複しているが、新旧関係は不明である。

形状 東西棟建物で、5間×1間(6.62m×2.58m)の規模をもつ。柱間寸法について、桁行寸法北列(P1～P6)は1.50-1.50-1.16-1.06-1.42m、南列(P11～P7)は1.60-1.46-1.06-2.46mである。P8・P7間に柱穴が検出できなかったため、

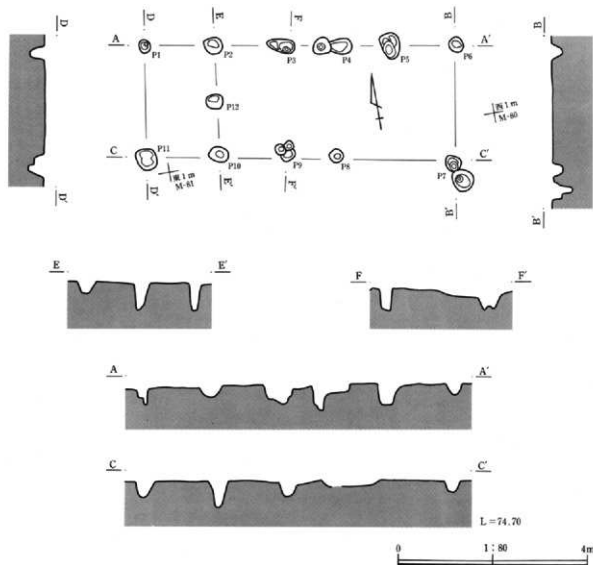
柱間が広いが、他の柱間はほぼ同一である。梁行寸法西列(P1～P11)は2.40m、東列(P6～P7)2.58mである。P2～P10は1.80mの等間であった。

主軸方位 N-79'-W

面積 17.08㎡

柱穴 柱穴掘り方は、直径0.35～0.48mである。深さは0.22～0.43mであるが、P12が0.55m・P10が0.54mとやや深い。形状は円形あるいは楕円形を呈する。柱根は検出されなかった。

遺物 なし。



第235図 II区3号館2号掘立柱建物

3号館3号掘立柱建物

位置 K-81

写真 PL87

重複 6・7号掘立柱建物と重複しているが、新旧関係は不明である。

形状 P4がやや東にずれ、全体の形状は歪んでいるが、基本的には2間×1間(4.67～5.16m×2.40～2.50m)の規模を持つ東西棟建物である。柱間寸法について、桁行寸法北列(P1～P3)は2.60～2.07m、南列(P7・P5・P4)は2.72～2.54mである。P5とP7の間にP6がそれぞれ1.26～1.36mの

距離にある。梁行寸法西列(P1～P7)は2.40m、東列(P3～P4)は2.50mである。

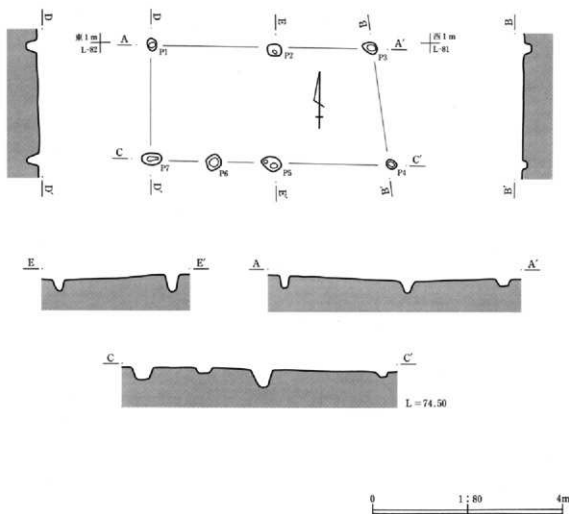
主軸方位 N-90°-E

面積 6.2m²

柱穴 柱穴掘り方は、直径0.26～0.34mである。深さはP3・4・6は0.11～0.16mと浅く、他は0.25～0.36mである。形状は円形あるいは楕円形を呈する。柱根は検出できなかった。

遺物 なし。

所見 本遺構の北側に、主軸をほぼ同じくして2・3号柱穴列が存在する。



第236図 II区3号館3号掘立柱建物

第3章 調査の内容

3号館4号掘立柱建物

位置 L・M-79・80 写真 PL 87

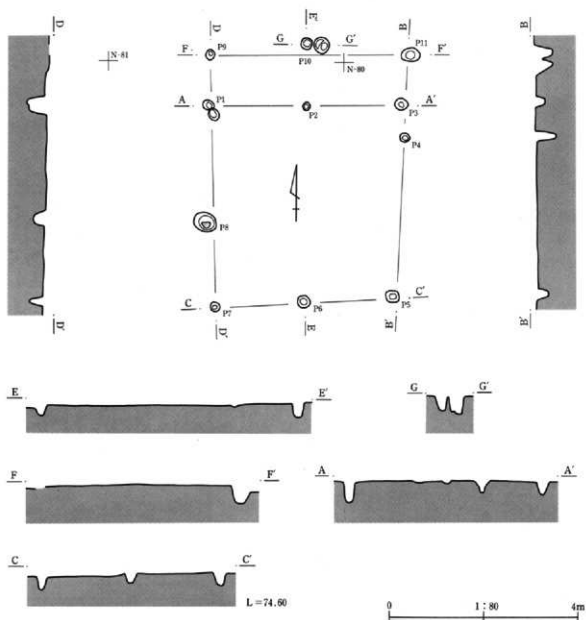
重複 1・2・5・6号掘立柱建物と重複しているが新旧関係は不明である。

形状 身舎は2間×2間(4.26m×4.10m)の規模を持つ南北棟建物である。北側に幅1.10mの幅で縁または庇が付く。全体の規模は5.36m×4.26mである。柱間寸法は桁行寸法西列(P9～P7)は1.10-2.46-1.80m、東列(P11～P5)は1.06-0.72-3.34とP4が北に寄っており一定しない。梁行寸法北列(P

1～P3)は2.08-2.02m、南列(P7～P5)は1.90-1.90mと柱間がやや狭い。底部分(P9～P11)は2.08-2.20mである。

主軸方位 N-1°-W 面積 17.50㎡
柱穴 柱穴掘り方は、直径0.20～0.48mである。深さは0.21～0.367mであるが、P2は非常に浅く0.06mである。形状は円形あるいは楕円形を呈する。柱根は検出できなかった。P8の埋没土中からは襷が出土した。

遺物 なし。



第237図 II区3号館4号掘立柱建物

3号館5号掘立柱建物

位置 L-80 M-79・80

写真 PL 87

重複 1・2・4・6号掘立柱建物、2・6号柱穴列と重複しているが、新旧関係については不明である。

形状 南北棟建物で、3間×2間(6.24m×4.26m)の規模をもつ。柱間寸法について、桁行寸法西列(P1~P9)は2.00-2.20-2.04mと一定しているが、東列(P3~P7)は1.16-2.28-0.64-1.78m

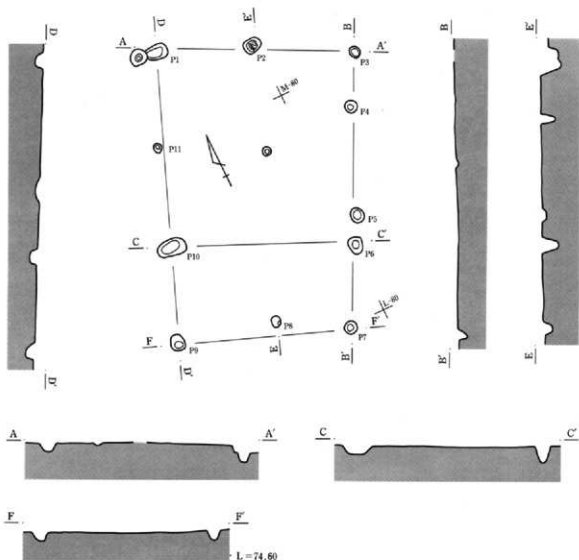
と変則的な柱間である。梁行寸法北列(P1~P3)は2.10-2.20m、南列は2.20-1.52mで、P8がやや内に寄っている。

主軸方位 N-24°-E

面積 26.60㎡

柱穴 柱穴掘り方は、直径0.20~0.38mである。深さはP6が0.35mとやや深いが、他は0.16~0.19m程である。形状は、円形あるいは楕円形を呈する。柱根については検出できなかった。

遺物 なし。



第238図 II区3号館5号掘立柱建物

第3章 調査の内容

3号館6号掘立柱建物

位置 K・L-80・81

写真 PL 87

重複 3・4・5・7号掘立柱建物、4・5・6号柱穴列と重複しているが、新旧関係については不明である。

形状 南東隅の柱穴が検出できなかったため、全体の形状ははっきりしないが、基本的には2間×2間(4.66m×4.26m)の規模をもつ、南北棟建物と考えられる。柱間寸法について、梁行寸法北列(P1～P3)は2.00～2.26m、南列はP6～P5が2.54m

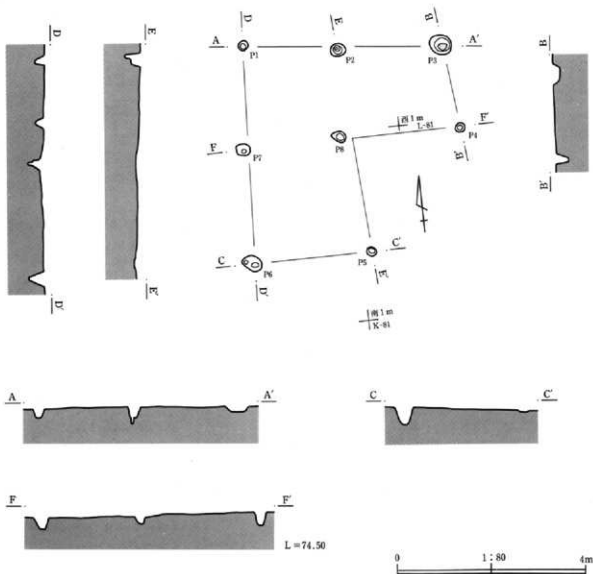
である。桁行寸法西列(P1～P7)は2.24～2.44m、東列はP3～P4間が1.80mである。

主軸方位 N-3°-E

面積 19.90㎡

柱穴 柱穴掘り方は、直径0.20～0.48mである。深さは、P5を除き0.18～0.38mである。P5は0.04mと浅い。形状は、円形あるいは楕円形を呈する。柱根は検出できなかった。P3の埋没土中からは鏝が出土した。

遺物 なし。



第239図 II区3号館6号掘立柱建物

3号館7号掘立柱建物

位置 K・L-80・81

写真 PL 87

重複 3・6号掘立柱建物、2・3・4号柱穴列と重複しているが、新旧関係については不明である。

形状 北側の柱穴について不明ではあるが、基本的には2間×2間(3.60m×3.58m)の規模をもつ、東西棟建物であると考えられる。柱間寸法は、桁行寸法南列(P6～P4)と梁行寸法西列(P1～P6)がそれぞれ1.80mと等間であった。桁行寸法北列(P

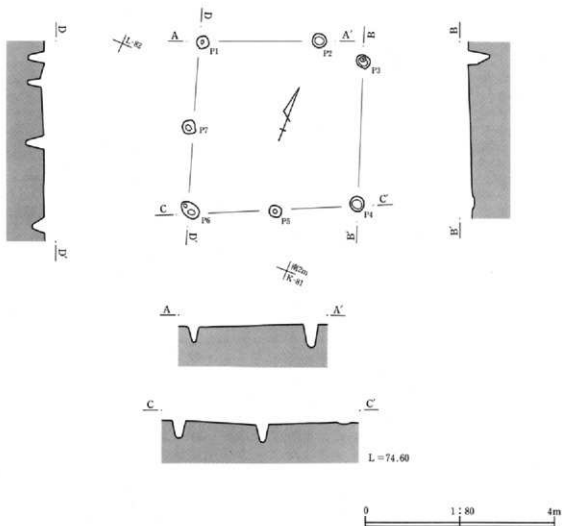
1～P2)が2.50m、梁行寸法東列(P3～P4)が、3.00mである。

主軸方位 N-77°-E

面積 3.24m²

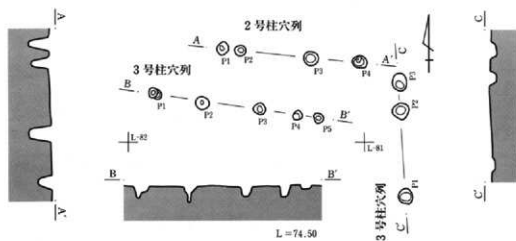
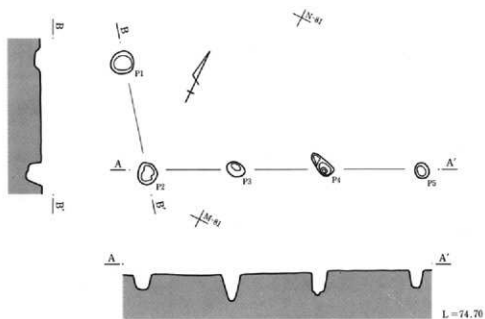
柱穴 柱穴掘り方は、直径0.25～0.30mとそろっている。深さは0.26～0.45mであるが、P4が0.05mと浅い。形状は円形あるいは楕円形を呈する。柱根は検出できなかった。

遺物 なし。



第240図 II区3号館7号掘立柱建物

1号柱穴列



第241図 II区3号館1・2・3号柱穴列

4号館

4号館は本遺跡最大の館址である。本遺構は内郭と外郭によって構成される。内郭はそれぞれ西郭・東郭に分かれる。外郭は主にIV区25号溝・14号溝によって囲まれる部分とした。

しかし前述したように、遺構の明確な同時性については不明であるため、ここでは堀の走行や遺構の分布などにある程度の相関関係が見られるIV区の中・近世遺構全体を4館と捉えて述べていくこととする。よって4館を構成する主要な遺構は、IV区15・17号溝(内郭)、14・25・31号溝(外郭)、9・10・11・12・13号溝、竪穴状遺構4軒、掘立柱建物14軒、多数の柱穴・土坑等である。

ここでは主に内郭について述べる。

位置 IV-A・B区

写真 PL88~92

重複 西郭ではIV区29号井戸、104・96・105号土坑(地下式土坑)、東郭では41・40・87号土坑(地下式土坑)を掘り込んでいる。

形状 西郭は南側に窄む逆台形を呈している。南辺中央部には入り口を検出した。また、北西隅は堀残しがあり入り口の可能性がある。東郭は、長方形を呈し、西郭北東隅と南東隅を連結する。

面積 西郭942.2㎡ 東郭625.0㎡

規模 検出した範囲での東・西郭の規模は、

	北辺	東辺	南辺	西辺(m)
西郭	29.4	40.5	15.9	42.5
東郭	14.4	39.7	15.5	—

である。内郭全体としては、南北約41m・東西約44mである。

堀 遺構確認面での西郭の堀の規模は、

	上幅	下幅	深さ	調査長(m)
北堀	2.52	0.72	1.20	34.7
東堀	2.30	0.52	1.00	45.5
南堀	2.52	0.68	1.00	(19.5)
西堀	3.18	0.54	0.98	(45.0)

である。南堀中央には入り口が検出され、1.80mの

規模で底面から50cmほど高く掘り残されている。また北西隅も同様に0.8mほどの規模で底面より高く掘り残されており、入り口の可能性がある。

東郭の堀の規模は、

	上幅	下幅	深さ	調査長(m)
北堀	1.36	0.30	0.60	15.0
東堀	1.22	0.48	0.34	41.8
南堀	1.00	0.30	—	17.0

である。東郭は、西郭の北東隅と南東隅に連結している。底面は西郭よりも浅く高低差は約70cmである。

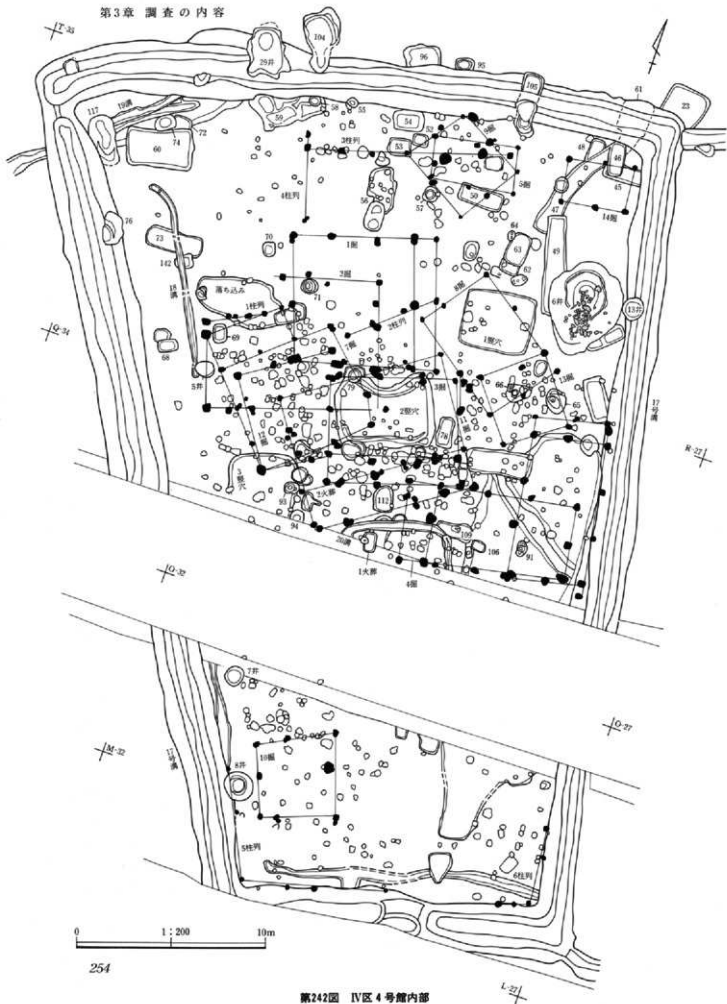
断面形状については、西郭は稜研状から逆台形、東郭は掘り鉢形を呈し、西郭と比べ少規模である。

埋没土は、As-Bを含む黒褐色土・暗褐色土等で埋まっていた。西郭では、中位に人為的埋土と考えられる多量のロームブロックが、内部から流入しているのが確認された。

また、西郭と東郭の連結部の土層観察(E-E')から、東郭から西郭にかけて土砂が底面付近まで流入しているのが確認でき、両遺構は同時に存在していたとの調査所見を得た。

内部施設 西郭内部には遺構が集中しており、掘立柱建物14軒・竪穴状遺構4軒・多数の土坑・柱穴列等を確認した。中央部東寄りから道路下にかけて、地業と考えられる人為的な埋土が確認された。内部から多量の土砂が流入していることから、土壘等が想定できるが、西堀では反対の外郭から土砂が流入していた。東郭は全体的に遺構が希薄であった。遺物 中・近世以降の出土遺物は少ない。西郭の堀(IV区17号溝)埋没土中からすり鉢片(1・2)が出土した程度である。内面には使用痕がみられる。時期は14C後半と考えられる。

所見 築造年代については、わずかな出土遺物から少なくとも14世紀末にその上限が求められるのみである。西郭内部の掘立柱建物の主軸方向などから3時期ほどの変遷が想定される。築造者については不明であるが、本遺構は旧西善環濠遺構群(須田屋敷)の範囲内にあたり、須田屋敷については16世紀に須田氏により築造されたとの記録がある。





第243图 IV区4号窟全体图

<内郭>

IV-A区17号溝(西郭)

位置 L-25~31 M-26・27・30・31
 N-27・31 O-27・32 P-27・32・33
 Q-27・28・32・33 R-27・28・33・34
 S-27・28・34 T-28~34 U-28~30

写真 PL88・89・90

重複 IV区15号溝と連結している。

規模 上幅 1.65~3.18m 下幅 0.24~0.62m
 深さ 0.88~1.30m 調査長 137m

形状 断面は菜研状から逆台形を呈する。

走行 南からみて逆台形に圍繞する。4号館内郭の西郭を構成する。

埋没土 As-Bを含む黒褐色土・暗褐色土・褐色土等で埋まっていた。中位には人為的埋土と考えられる多量のロームブロックが堆積していた。北・東・南辺では内部から流入しているのが確認されたが、西辺は外部から流入していた。

遺物 中・近世以降の出土遺物は少ない。埋没土中からすり鉢片(1・2)と砥石が(6)が出土した程度である。(1・2)の内面には、使用痕がみられる。時期は14C後半と考えられる。

所見 西郭と東郭の連結部の土層観察(E-E')か

ら、本遺構と15号溝は同時に存在していたとの調査所見を得た。

IV-A区15・中内村前I-B区32号溝(東郭)

位置 L-25・26 P・Q・R-24 S-24・25
 U-25~28 P-33・34

写真 PL88・89・90

重複 IV区17号溝と連結している。

規模 上幅 1.05~1.40m 下幅 0.30~0.14m
 深さ 0.29~0.61m 調査長 41m

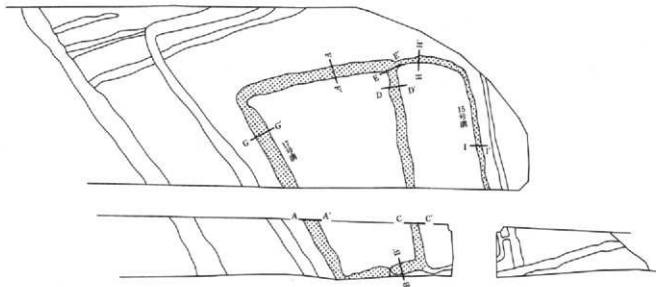
形状 断面は掘り鉢形を呈する。

走行 西郭北東隅と南東隅を連結し、東郭を構成する。逆「コ」の字状に走行する。

埋没土 As-Bを含む黒褐色土・褐灰色土・ロームブロック等で埋まっていた。

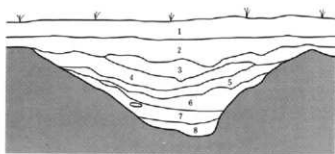
遺物 埋没土から多量の土器片が出土したが、破片が多く、ほとんどが古代の遺物であった。図化し得たのは石製品を中心とする5点である。

所見 西郭と東郭の連結部の土層観察(E-E')から、本遺構と17号溝は同時に存在していたとの調査所見を得た。



第3章 調査の内容

A



A'

A-A'

1. 褐灰色土 現代の耕作土。As-Aを含む。
2. 暗褐色土 As-Bを含む。ローム粒(φ1~5mm)を30%含む。炭化物を少量含む。
3. 明褐色土 2層に似るが、ローム塊(φ50~100mm)を斑状に含む。
4. 褐色土 ローム塊(φ10~30mm)を90%含む。黒色土塊(φ10~30mm)を10%含む。(船外部からの人為的埋土?)
5. 褐色土 4層に似るが、黒色土ブロックが多い。
6. 暗褐色土 シルト塊(φ10~30mm)を90%含む。ローム塊(φ10~30mm)を10%含む。
7. 褐色土 4層と同一か。
8. 暗褐色土 シルト・黒色土主体。(湖底部の水成堆積)

B

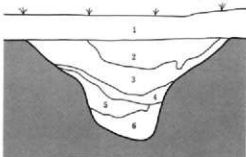


B'

B-B'

1. As-YPブロック主体。
2. 黒褐色土 褐灰色小ブロック・黒褐色土塊・ローム塊を含む。一部As-Bを含む黒色土に似た砂質塊を含む。
3. As-Bを含む黒色土塊+暗灰褐色土+ローム塊。人為的埋土。
4. 灰褐色土 ローム小塊を含む。粘性強い。
5. 灰褐色土+ローム塊。
6. 灰褐色粘質土 細砂・シルトを含む。As-YPアッシュ小塊を斑状に含む。(湧水による壁の崩落土などの凝じた土。ノロ状の堆積)
7. ローム塊
8. 暗褐色粘土ブロック
9. 6層に似るが、As-YPアッシュ小ブロックが中が多い。

C

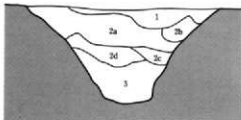


C'

C-C'

1. 褐灰色土 現代の耕作土。As-Aを含む。
2. 暗褐色土 As-Bを含む。ローム粒(φ1~50mm)を含む。炭化物を少量含む。
3. 明褐色土 ローム塊(φ10~70mm)を80%含む。黒色土塊(φ10~70mm)を10%含む。(人為的埋土? As-Bは確認できなかった。船内部からの埋土)
4. 暗褐色土 ローム粒(φ1~10mm)を10%含む。
5. 明褐色土 3層に似るが、ローム塊細かい(φ10~30mm)。
6. 黒褐色土 ローム塊(φ10mm)を10%含む。シルト・ローム主体。水成堆積。(湖底部の水成堆積。ノロか)

D



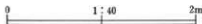
D'

D-D'

1. 灰黄褐色土 軽石を含む。ローム塊を斑状に含む。粘性あり。しりろくザラつく。(一括埋土)。
- 2a. ローム大塊(φ100mm以上)・中小塊・ローム層移層・灰黄褐色土が互れて堆積。一括埋土。(時間差は短い)
- 2b. ローム塊主体。
- 2c. ローム大塊+灰黄褐色土+ローム小塊。
- 2d. ローム塊+灰黄褐色土。
3. 暗褐色土 ローム小塊を斑状に含む。As-Bを含む黒色土。砂質。

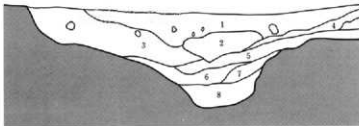
L = 75.20

第244図 IV区4号館17号溝土層断面



第5節 中世以降の遺構と遺物

E



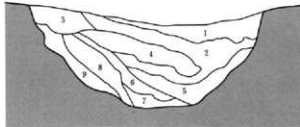
6. 褐灰色土 4・5層に似るが、ローム・黒色土塊多い。水成堆積？
 7. 灰黄褐色土 2層と同じ。
 8. 暗灰黄色土 ローム粒を非常に多く含む。水成堆積。砂質。

E'

E-E'

1. 黒褐色土 ローム塊(φ5~50mm)を20%程度含む。白色バミス・土器片を少量含む。やや砂質。
 2. 灰黄褐色土 1層に似るがローム塊(φ5~50mm)をやや多く含む。
 3. 黒褐色土 ローム塊(φ10~100mm)を60%程度含む。黒色土塊(φ~50mm)を20%程度含む。
 4. 褐灰色土 砂質土。(17号溝による水成堆積?)
 5. 暗褐色土 ローム塊(φ~10mm)を30%程度含む。黒色土塊を含む。

F

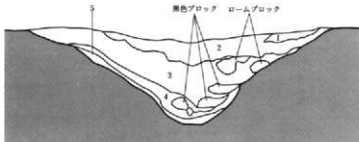


F'

F-F'

1. 黒褐色土 黒色土主体。
 2. 灰黄褐色土 ローム塊(φ5~50mm)を20%含む。セクションA-A'2層に対応。
 3. 灰黄褐色土 2層に似るが、ローム塊少ない。
 4. 暗褐色土 ロームブロック(φ10~30mm)少量含む。
 5. 暗褐色土 4層に似るが、粘性が高い。
 6. 黄褐色土 ローム粒(φ1~5mm)を多く含む。下層ほど多い。
 7. 黄褐色土 ローム粒(φ1~5mm)が主体。6層下層。
 8. 灰黄褐色土 2層に対応。
 9. 暗褐色土

G



G'

G-G'

1. 褐灰色土 現代の耕作土。As-Aを含む。
 2. 暗褐色土 As-Bを含む。ローム粒(φ1~mm)を30%含む。炭化物を少量含む。
 3. 褐色土 ローム塊(φ10~30mm)を90%含む。黒色土塊(φ10~30mm)を10%含む。(館外部からの人為的埋土か)
 4. 褐色土 4層に似るが、黒色土ブロックが多い。

15号溝

H

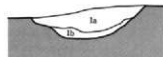


H'

H-H'

1. 黒褐色土 As-B・灰褐色土・黒褐色土・ローム粒を含む。やや砂質。
 2. 褐灰色土 細粒軽石を含む(As-Bを含む黒色土か?)・ローム塊含む。
 3. 注記なし。

I



I'

I-I'

- 1a. 褐灰色土 土質均質。粗粒軽石を含む。粒子細かい。
 1b. 褐灰色土 黒色土塊・ローム粒を含む。

L=75.20



第245図 IV区4号館15・17号溝土層断面

第3章 調査の内容

<外郭>

IV-A区14号溝(外郭)

位置 P-23 Q-23・24 S-24・25 T-24
 写真 P L90
 重複 IV-B区31号溝に掘り込まれている。
 規模 上幅 0.57~1.25m 下幅 0.12~0.25m
 深さ 0.18~0.21m 調査長 24m
 形状 掘り鉢形を呈する。
 走行 N-12°-W
 埋没土 粗粒軽石を含む褐灰色土で埋まっていた。
 土質は均質で細かい。
 遺物 なし。
 所見 外郭を構成し、西側を区画する。時期については不明である。

IV-A区25号溝(外郭)

位置 L-31・32 M-31~33 N-32・33
 O-33・34 P-34・35 Q-34~36
 R-35・36 S-36・37 T-37・38
 U-37・38 V-35~38 W-34~36
 写真 P L90・91
 重複 IV-A区10・11・12号溝を掘り込んでいる。

規模 上幅 1.65~3.65m 下幅 0.16~0.70m
 深さ 0.47~1.12m 調査長 82m

形状 断面形状は、葉研状を呈する。

走行 L字状に走行する。

北溝N-72°-E 西溝N-37°-W

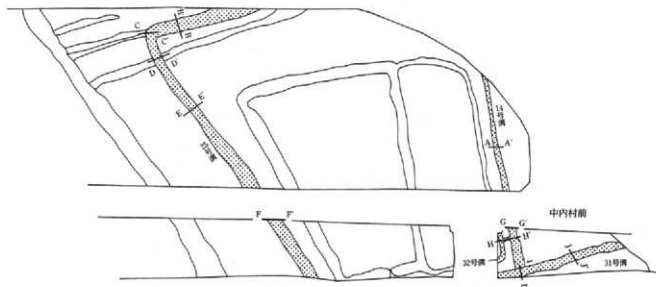
埋没土 As-Bを含む褐灰色土・黒褐色土・ロームブロックで埋まっていた。中位には、粒子の粗いロームブロックと基盤層の黒褐色土とが混じりあった土が互層に堆積していた。内郭側から流入しており人為的埋土と考えられる。

遺物 なし。

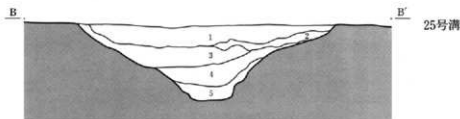
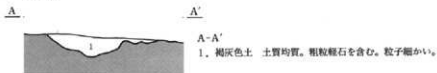
所見 外郭を構成し、北・西側を区画する。内郭からの土砂の流入から、IV-A区17号溝と25号溝の間に土塁等の施設が想定される。このことは17号溝の土層観察とも矛盾しない。遺構の時期については、不明である。

中内村前 I-B区31号溝(外郭)

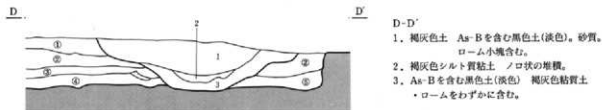
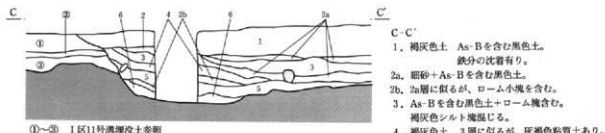
位置 L-21~23 M-18~23 N-18・19・22・23
 写真 P L99 重複 14号溝を掘り込んでいる。
 規模 上幅 1.14~2.30m 下幅 0.11~0.50m
 深さ 0.32~0.47m 調査長 27m
 形状 断面は掘り鉢形を呈する。
 走行 N-70°-E



14号溝

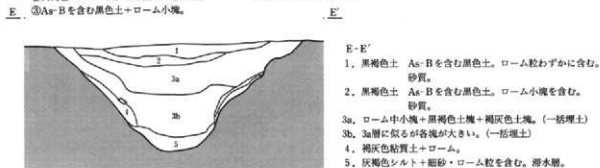


1. 黒褐色土 As-Bを多く含む。砂質。
 2. ローム大小塊+褐灰色粘質土。
 3. 褐灰色土 As-B・ロームブロックを含む。砂質。
 4. 細砂と褐灰色粘質土の互層。
 5. ロームブロック+褐灰色粘質土。(人為的埋土)



(11号溝)

- ①黒褐色土 As-Bを含む黒色土。褐灰色粘質土を含む。
 ②灰褐色シルト+As-Bを含む黒色土塊。
 ③As-Bを含む黒色土+ローム小塊。
 ④ローム塊+灰褐色シルト質粘土+As-Bを含む黒色土。
 ⑤灰褐色シルト質粘土。

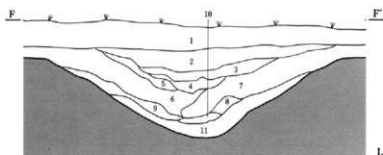


L=75.20

第246図 IV区4号館14・25号溝土層断面



第3章 調査の内容

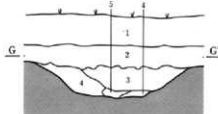


F-F'

1. 褐色土 現代の耕作土。
2. 暗褐色土 As-Bを含む。ローム粒(φ5~10mm)を10%含む。炭化物を少量含む。
3. 灰褐色土 ローム塊(φ10~20mm)を含む。As-Bを80%含む。
4. 明褐色土 ローム塊(φ10~30mm)主体(80%)。黒色土塊含む。
5. 灰褐色土 3層に似るが、As-Bを90%以上含む。
6. 暗褐色土 黒色土主体。ローム塊10%含む。As-Bを少量含む。

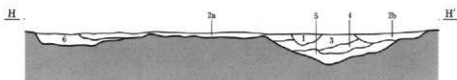
L=75.20

中内村前



G-G'

1. 暗褐色土 As-Bを含む。
2. 暗褐色土 ローム塊(φ30~100mm)含む。黒色土少量混じる。砂を極少量含む。もさとした感じの土。
3. 褐色土 ローム塊を2層と同様に含む。砂を少量含む。
4. 黄灰色土 砂質ローム(地山)が崩れて混入したもの。
5. 暗褐色土 砂を極少量含む。もさとした感じの土。



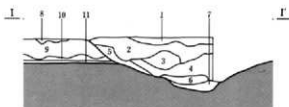
H-H'

(31号溝)

1. 暗灰褐色土+ローム塊(φ30mm)ローム塊30%含む。締まり有り。
- 2a. 暗灰褐色土 ローム粒を少量含む。As-Bを含む黒色土に似た土。
- 2b. 暗灰褐色土 ローム塊多い。
3. 黒褐色土 ロームブロック(φ20mm)・ローム粒を少量含む。黒褐色・暗灰褐色土がブロック状に混ざる。(A-A'2層に対応)
4. 暗灰褐色土 ローム粒・黒色土を極少量含む。As-Bを含む黒色土に似る。
5. 褐色土+ローム粒 締まり有。人為的埋土。(A-A'3層対応)

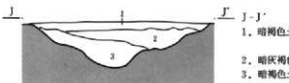
(32号溝)

6. 暗灰褐色土 As-Bを含む黒色土に似る。2b層よりもローム粒が少ない。黒色土を極少量含む。



I-I'

1. 暗灰色粘土 As-Bを含む。ローム粒少量含む。
2. 暗黒褐色土 ローム塊・黒色土を含む。
3. 暗灰褐色土 砂質。1層に似る。
4. 褐色土+ロームブロック 砂質。締まりあり。
5. 暗灰褐色土 3層に似る。
6. 黒褐色土 砂質。ローム粒を含む。
7. 灰色土 砂質。
8. 黒色土
- 9~11. 14号溝埋没土



J-J'

1. 暗褐色土 ローム粒・軽石を含む。黒色が強い。(As-Bを含む黒色土)
2. 暗灰褐色土 ローム塊(φ10~20mm)・砂を含む。
3. 暗褐色土+ローム塊(φ20~100mm) 1・2層よりロームが非常に多い。砂を多量に含む。締まりあり。

L=74.70

第247図 IV区4号館25号溝・中内村前31・32号溝土層断面

0 1:40 2m

埋没土 ロームブロックを含む暗黒褐色土・暗灰褐色土・褐色土で埋まっていた。

遺物 なし。

所見 外郭の南側を区画する。時期不明。

<その他の主な区画溝>

IV-A区10号溝

位置 U-39~42 V-38~40

写真 P L 90

重複 IV-A区11号溝を掘り込んでいる。13・25号溝に掘り込まれている。

規模 上幅 1.35~1.52m 下幅 0.40~1.10m
深さ 0.30~0.60m 調査長 18m

形状 断面は箱形を呈する。

走行 一部IV-A区25号溝の北辺と一致して走行している。N-70°-E

埋没土 As-Bを含む灰褐色土とロームブロックが入り混じって堆積していた。

遺物 なし。

所見 時期については不明である。

IV-A区12号溝

位置 S-40 T-38~40 U-35~39 V-33~36

写真 P L 90・91

重複 IV-A区25号溝に掘り込まれている。

規模 上幅 1.20~2.80m 下幅 0.23~0.88m
深さ 0.54~0.70m 調査長 46m

形状 断面は箱形から逆台形を呈する。

走行 N-70°-E

埋没土 As-Bを含む黒色土・灰色シルト・ロームブロック等が互層に堆積。

遺物 なし。 所見 時期不明。

IV-A区13号溝

位置 K-36 L-35・36 M-35~37 N-36・37
O-37・38 P-37~39 Q-38~40 R-39・40
S-40・41 T-41・42 U-42・43 V-42・44

写真 P L 90・91

重複 IV-A区10・11号溝を掘り込んでいる。9・26号溝に掘り込まれている。

規模 上幅 2.55~5.50m 下幅 0.23~0.90m
深さ 0.83~1.58m 調査長 68m

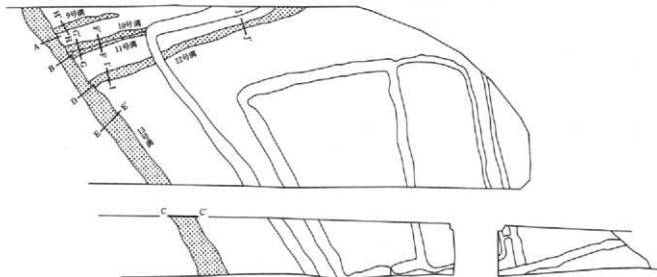
形状 断面形状は逆台形から掘り鉢状を呈する。

走行 N-40°-W

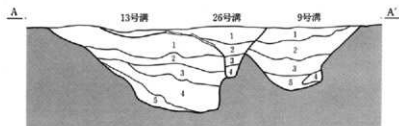
埋没土 As-Bを含む褐灰色土・暗褐色土・褐色土・ロームブロック等で埋まっていた。

遺物 図化したのは石製品1点である。

所見 土層観察から2時期の変遷が確認された。時期については不明である。



第3章 調査の内容



IV区9・13・26号溝 A-A'

9号溝

1. 暗赤灰色砂質土 白色パミス(As・B?)・砂主体。
2. 暗褐色土 白色パミス・ローム粒含む。
石($\phi \sim 50\text{mm}$)を少量含む。
3. 暗褐色土 2層に似るが、砂を主体に含む。
4. オリーブ褐色土 シルト塊主体。
5. 褐色土 シルトを塊状に多く含む。白色パミス含む。

ローム粒($\phi \sim 5\text{mm}$)を少量含む。

13号溝

1. 暗褐色土 白色パミス($\phi 1 \sim 5\text{mm}$)を40%含む。
2. 暗褐色土 1層に似るが、パミス・ローム粒が少ない。
3. 黒褐色土 白色パミス($\phi 1\text{mm}$)を20%含む。
ローム粒を少量含む。
4. 黒褐色土 3層に似るが、パミス・ローム粒が少ない。
5. 褐色土 ローム・シルト塊主体。



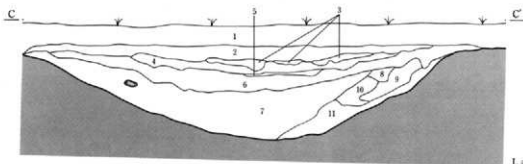
IV区11・13号溝 B-B'

13号溝

1. 褐灰色土 As・Bを含む黒色土。暗褐色シルト質粘土塊を含む。
2. 褐灰色土 1層に似るが、As・Bを含む黒色土塊・暗褐色シルト質粘土塊を縦状に多く含む。

11号溝

3. 褐灰色土 2層に似るが、ローム小塊を含む。
4. 灰黄褐色土 ローム・暗褐色土塊・As・Bを含む黒色土塊混じる。

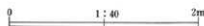


L=74.80

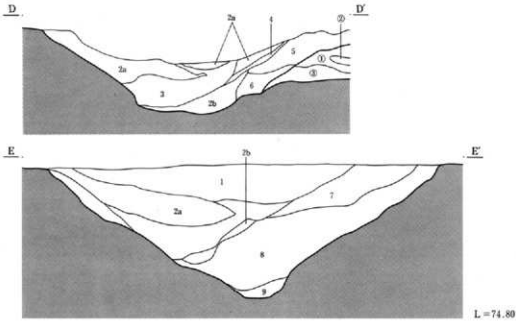
C-C'

1. 褐灰色土 現代の耕作土
2. 暗褐色土 As・Bを含む。ローム粒を少量含む。
3. 褐色土 As・B含む。ローム塊($\phi 30 \sim 50\text{mm}$)を多く含む。
4. 暗褐色土 As・Bを80%含む。ローム塊少量含む。
5. 褐色土 2層に同じ。
6. 暗褐色土 3層に同じ。

7. 黒褐色シルト 粘性が極めて高い。泥炭状(溝の水性堆積)。
8. 灰褐色土 As・Bを10%以上含む。
9. 褐色土 ローム塊主体。
10. 暗褐色土 白色パミス($\phi 1 \sim 3\text{mm}$)を30%含む。ローム粒($\phi 5 \sim 10\text{mm}$)を20%含む。
11. 暗褐色土 10層に似るが白色パミスが少く、粒子が細かい。



第248図 IV区4号館9・11・13号溝土層断面

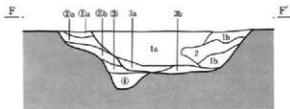


IVK13号溝 D-D' E-E'

- 13号溝
1. 褐灰色土 As-Bを含む黒色土+暗褐色シルト質粘土塊。
 - 2a. 黒褐色土 As-Bを含む黒色土(φ1mm)を多量に含む。砂質。
 - 2b. 2a層に似るが、細砂・シルトがラミナ状に堆積。
 3. 灰褐色シルト質土 As-Bを含む黒色土塊わずかに含む。土質均質。夾雑物少ない。
 4. As-Bを含む黒色土+ローム塊。
 5. As-Bを含む黒色土+暗褐色シルト質粘土塊+ローム小塊。
 6. 5層に似るが、ローム塊を多く含む。

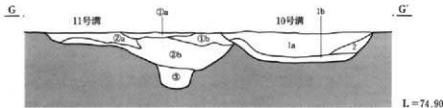
7. 細かいローム塊・細かいAs-Bを含む黒色土塊が堆積。(一括埋土)
8. ローム・As-Bを含む黒色土大ブロック+黒褐色粘質土大ブロックが埋め込まれる。(一括埋土)
9. 土層注記なし。

- 12号溝
- ①灰褐色シルト質土 As-Bを含む黒色土ブロックをわずかに含む。土質均質。夾雑物少ない。
 - ②As-Bを含む黒色土+暗褐色シルト質粘土塊+ローム小塊。
 - ③灰黄褐色土 ローム・暗褐色土塊・As-Bを含む黒色土入り混じる。



IVK10・11号溝 A-A' B-B' C-C'

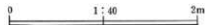
- 10号溝
- 1a. As-Bを含む灰褐色土塊とローム塊(φ10~50mm)混じる。
 - 1b. ローム塊主体。As-Bを含む灰褐色土を含む。(一括埋土)
 2. 地山ローム塊 壁の崩落土。(一括埋土)
 - 3a. As-Bを含む黒色土+黒褐色粘土塊+ローム塊。
 - 3b. As-B少ない。



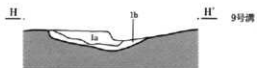
- 11号溝
- ①a. As-Bを含む灰褐色土
 - ①b. As-Bを含む灰褐色土 黒褐色土小塊(φ1cm前後)を斑状に含む。
 - ②a. As-Bを含む灰褐色土 ローム塊・黒褐色土塊を含む。

- ②b. As-Bを含む灰褐色土塊+ローム塊(φ5cm前後)+黒褐色土塊。(一括埋土)
- ③灰褐色シルト質土 細砂・ローム塊を含む。
- ④ローム塊+灰褐色粘土塊+As-Bを含む黒色土。

第249図 IV区4号館10・11・13号溝土層断面

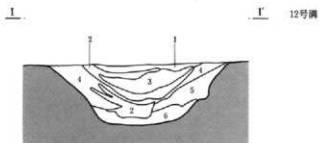


第3章 調査の内容



9号溝 H-H'

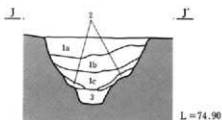
1a, 暗褐色土 As-Bを含む暗褐色土。土質均質。やや砂質。
1b, 暗褐色土 As-Bを含む黒色土。ローム小塊含む。



12号溝

12号溝 I-I'

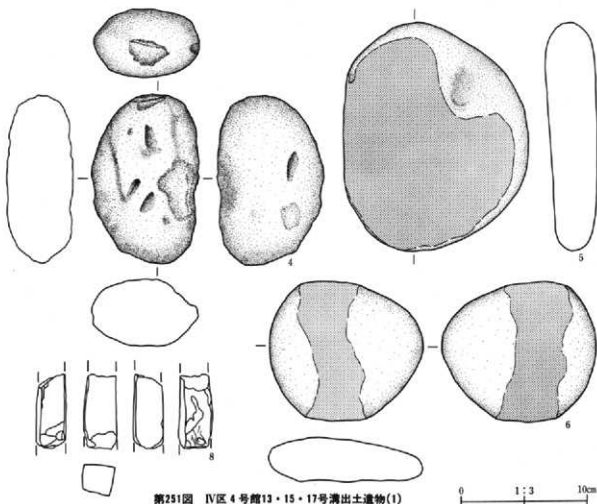
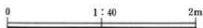
1, As-Bを含む黒色土 ローム小塊を含む。
2, 灰色シルト
3, As-Bを含む黒色土+細砂+ローム塊。(一括埋土か)。
4, 細砂・ローム小塊がラミナ状に堆積。
5, 黒色粘土塊+細砂塊+ローム小塊。
6, ローム塊+2層塊。



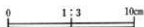
J-J'

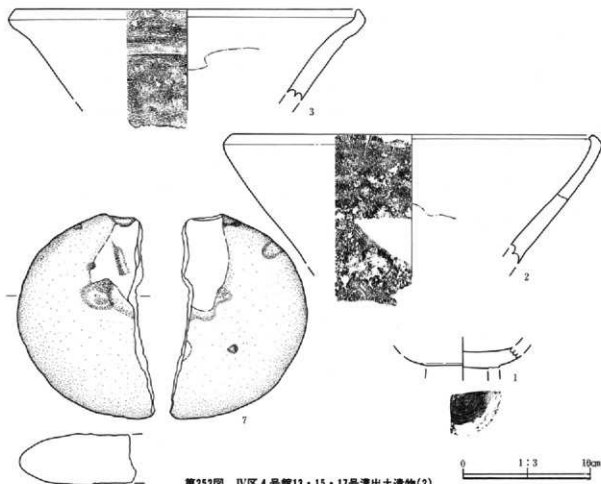
1a, 黒褐色土 As-Bのような細粒軽石(φ1~2mm)を多量に含む。砂質。
1b, 黒褐色土 ローム小塊含む。
1c, 黒褐色土 ローム小塊・細砂を多く含む。
2, 砂層 流水堆積。
3, ローム塊主体。灰黄褐色シルトが混じる。

第250図 IV区4号館9・12号溝土層断面



第251図 IV区4号館13・15・17号溝出土遺物(1)





第252図 IV区4号館13・15・17号溝出土遺物(2)

IV-A区13・15・17号溝出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	磁器	15号溝 埋没土	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	底部破片のため、調整不明瞭。	破片
2	軟質陶器 すり鉢	17号溝 埋没土	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 - 内面 下位使用により摩滅。	14C後半
3	軟質陶器 すり鉢	17号溝 埋没土	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 - 内面 下位使用により摩滅。	14C後半

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm・g)	石材	形状・調整加工の特徴	残存状態 備考
4	石製品 不明石製品	13号溝 埋没土	長 13.40 幅 8.60 厚 5.20 重 700.0	粗粒輝石 安山岩	盤状の円盤。表面に盤状の工具による加工痕有り。	完形
5	石製品 磨石	15号溝 埋没土	長 18.20 幅 14.80 厚 4.00 重 1670.0	石英閃緑岩	円盤状の円盤。表面に摩耗見られる。	完形
6	石製品 磨石	15号溝 埋没土	長 11.20 幅 12.20 厚 3.40 重 710.0	ひん岩	円盤状の円盤。 表面中央、帯状に弱い摩耗が見られる。	完形
7	石製品 不明石製品	15号溝 埋没土	長 16.40 幅 9.40 厚 3.80 重 822.0	粗粒輝石 安山岩	円盤状の円盤。表面中央上部に成形痕。中央でほぼ半分に割れている。	1/2残存
8	石製品 砥石	17号溝 埋没土	長 5.80 幅 2.40 厚 2.20 重 55.0	砥沢石	断面ほぼ正方形で、表面、両側に使用面。一部成形痕と縁状の使用痕見られる。下半欠損。	1/2残存

第3章 調査の内容

4号館1号掘立柱建物

位置 Q-29~31 R・S-30・31

写真 PL88

重複 2・7・8・11・12号掘立柱建物、2号柱穴列と重複しているが、新旧関係は不明である。

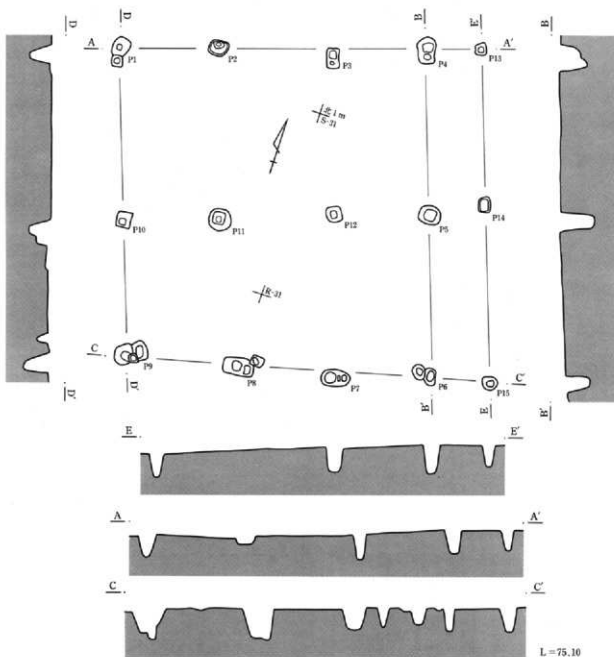
形状 身舎は3×2間(6.58m×6.52m)の規模を持つ東西棟建物である。東側に1.28mの幅で縁または庇が付く。全体の規模は6.52m×7.78mである。柱

間寸法について、桁寸法北列(P1~P4)は2.11-2.44-2.15m、南列(P9~P6)は2.36-2.04-2.12mである。梁寸法西列(P1~P10)は3.68-2.84m、東列(P4~P6)は3.50-3.44mである。底部分(P13~P15)は3.30-3.76mである。

主軸方位 N-74°-E

面積 53.50㎡

柱穴 柱穴掘り方は、直径0.33~0.53mであるが、



第253図 IV区4号館1号掘立柱建物

0 1:80 4m

底部分はやや規模が小さい。深さは0.44~0.71mである。形状は隅丸長方形を呈する。柱根については検出できなかった。

遺物 なし。

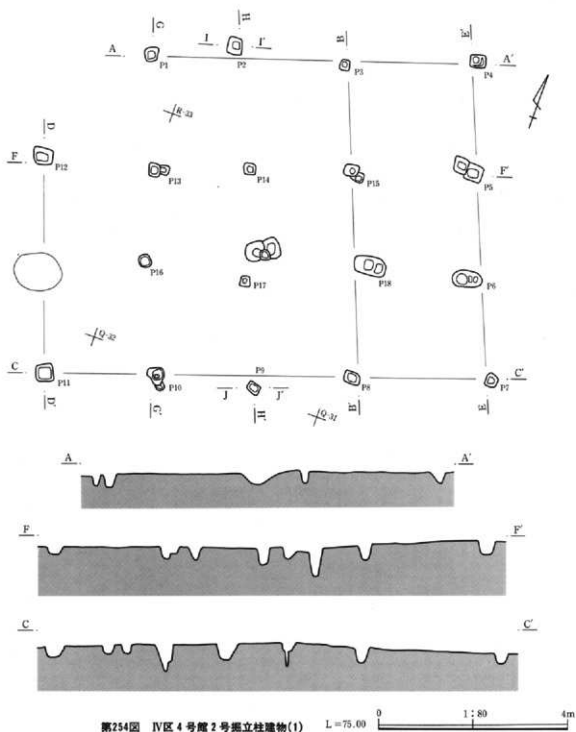
4号館2号掘立柱建物

位置 P-31・32 Q・R-30~32

写真 PL88

重複 1・3・7・11・12号掘立柱建物、1・2号柱穴列と重複しているが、新旧関係は不明である。

形状 東側の柱穴が検出できず、全体の形状はつ



第254図 IV区4号館2号掘立柱建物(1)

L=75.00 0 1:80 4m

第3章 調査の内容

きりしないが、基本的には4間×3間(9.45m×6.85m)の規模を持つ東西棟建物と考えられる。柱間寸法は桁行寸法北列(P1~P4)は、(2.30)-1.82-2.40-2.80m、南列(P11~P7)は、2.35-2.10-2.10-2.90mである。対応するP2・P9がやや外にずれている。梁行寸法西列については柱穴が検出されずはっきりしない。東列(P4~P7)は、2.40-2.25-2.20mである。

主軸方位 N-73°-E

面積 64.73㎡

柱穴 柱穴掘り方は、直径0.22~0.67mである。

深さは0.26~0.37mであるが、P5が0.63m、P2

が0.83mとやや深い。形状は隅丸方形もしくは隅丸正方形を呈する。柱根は検出できなかった。

遺物 なし。

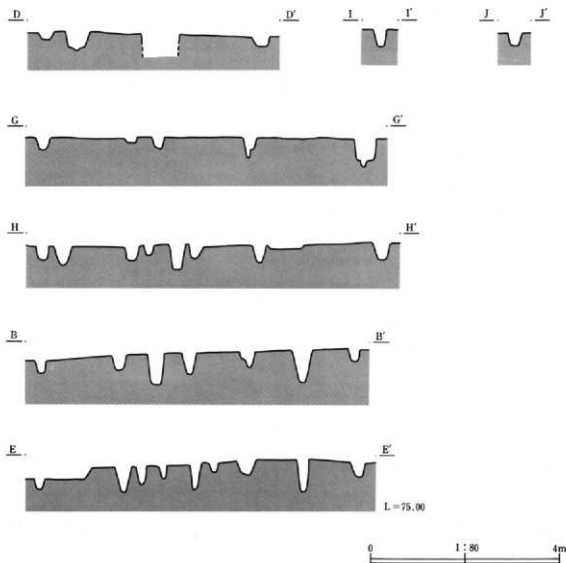
4号館3号掘立柱建物

位置 P・Q-29~31 R-29

写真 PL88

重複 2・4・7・11・12号掘立柱建物と重複しているが、新旧関係は不明である。

形状 身舎は3間×2間(6.90m×4.50m)の規模を持つ東西棟建物である。南側に幅1.44~1.66mの幅で縁または庇がつく。全体の規模は、5.95m×7.10



第255図 IV区4号館2号掘立柱建物(2)

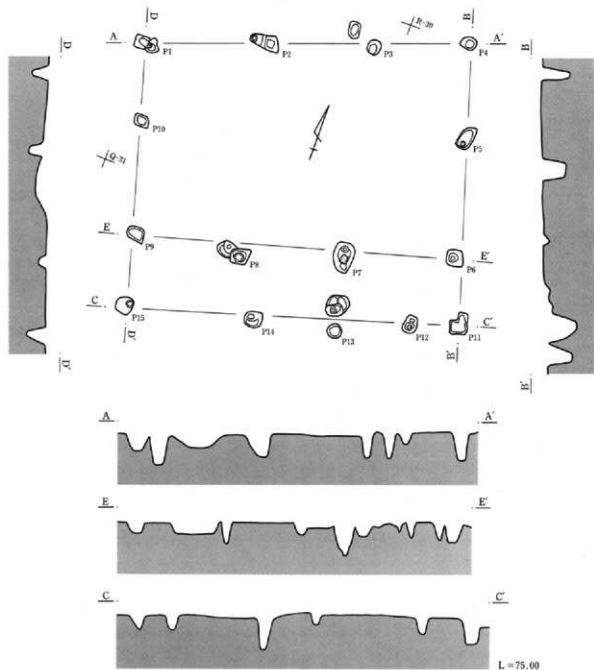
mである。柱間寸法は、桁行寸法北列(P1~P4)が2.66~2.20~2.05m、南列(P9~P6)が、2.05~2.45~2.30mである。梁行寸法西列(P9~P1)は2.35~1.62m、東列(P6~P4)は2.54~2.00mで北間口が狭くなっている。庇部分(P11~P15)は1.08~1.60~1.80~2.70mである。

主軸方位 N-70°-E

面積 42.25㎡

柱穴 柱穴掘り方は、直径0.30~0.48mである。深さは、0.27~0.51mであるが、P4が0.61m、P14が0.70mとやや深い。形状は、隅丸方形あるいは楕円形を呈する。柱根は検出できなかった。P7の埋没土中からは礎が出土した。

遺物 なし。



第256図 IV区4号館3号独立柱建物

0 1:80 4m

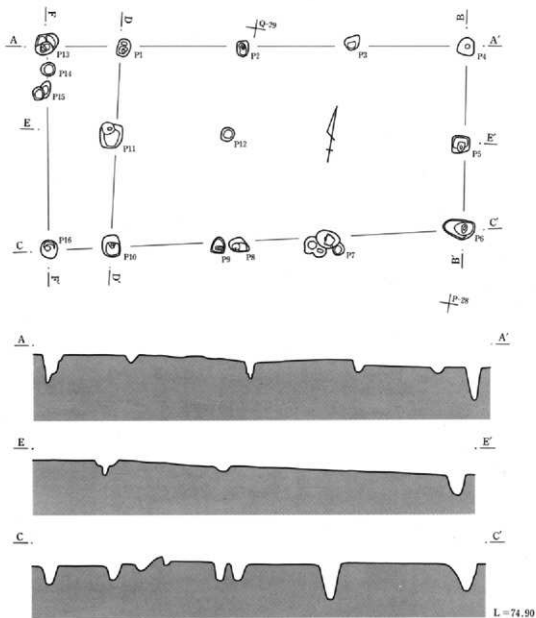
4号館4号獨立柱建物

位置 O-29 P-28・29 Q-28 写真 PL88
重複 3・6・11号獨立柱建物と重複しているが、
新旧関係は不明である。

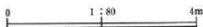
形状 南側が道路下のため、全体の形状ははっきりしない。検出した範囲では、身舎が3間×2間
(7.50m×4.24m)の規模を持つ東西棟建物である。
西側に幅1.36~1.58mで、縁または庇がつく。庇を
含めた全体の規模は8.94m×4.2mである。柱間寸

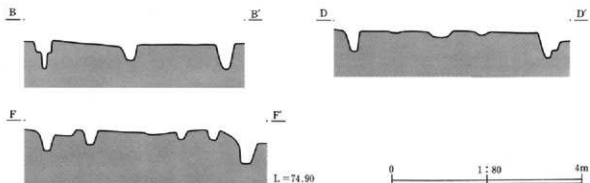
法は、桁行寸法北列(P1~P4)が2.56~2.30~
2.46m、南列(P10~P6)が2.70~1.90~2.90mで
ある。梁行寸法西列(P10~P1)は2.32~1.92m、
東列(P6~P4)は3.85~2.08mである。

主軸方位 N-79°-E 面積 37.74m²
柱穴 柱穴掘り方は、直径0.32~0.68mである。
深さは0.26~0.69mである。形状は、円形あるいは
隅丸方形を呈する。柱根は検出できなかった。
遺物 なし。



第257図 IV区4号館4号獨立柱建物(1)





第258図 IV区4号館4号掘立柱建物(2)

4号館5号掘立柱建物

位置 S・T-29・30

写真 PL88

重複 9号掘立柱建物、3号柱穴と重複しているが、新旧関係は不明である。

形状 東西棟建物で、2間×2間(4.38m×2.44m)の規模をもつ。柱間寸法は、桁行寸法北列(P1～P3)が共に2.20mと等間である。南列(P5～P7)は、2.42～1.92mである。梁行寸法西列(P7～

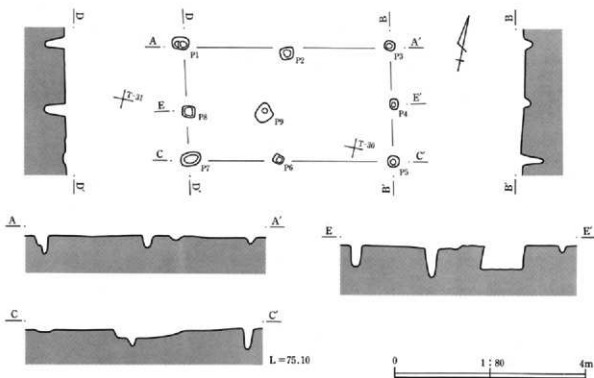
P1)は1.04～1.40m、東列(P5～P3)が1.19～1.24mである。

主軸方位 N-78'-E

面積 10.69㎡

柱穴 柱穴掘り方は、直径0.21～0.37mとそろっている。深さは0.16～0.43mである。P4・7が極端に浅い。形状は、円形あるいは楕円形を呈する。柱根は検出できなかった。

遺物 なし。



第259図 IV区4号館5号掘立柱建物

第3章 調査の内容

4号館6号掘立柱建物

位置 P・Q-27・28 R-28 写真 PL88
重複 4・13号掘立柱建物と重複しているが、新旧関係は不明である。

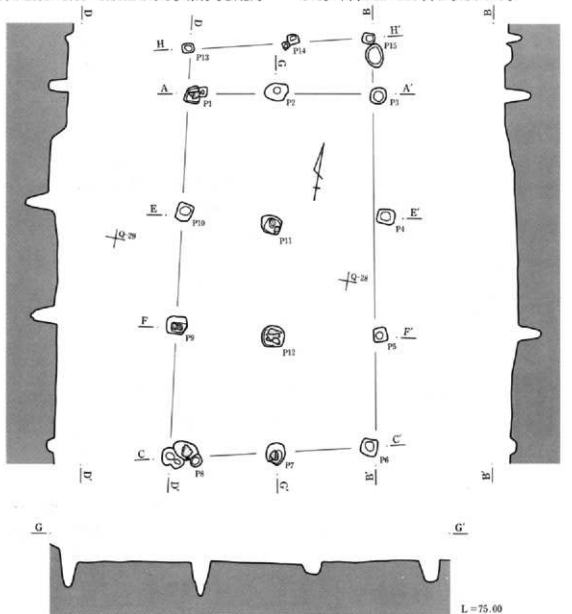
形状 身舎は3間×2間(7.40m×4.22m)の規模を持つ南北棟建物である。北側に幅0.98~1.22mの縁または庇がつく。此部分を含めた全体の規模は、8.62m×4.22mである。柱間寸法は、桁行寸法西列(P8~P1)が2.75-2.45-2.43m、東列(P6~P3)が2.34-2.51-2.54mである。梁行寸法北列

(P1~P3)は1.80-2.14m、南列(P8~P6)は、2.28-1.95mで北列が全体的に狭い。底部分(P13~P15)は2.34-1.62mである。

主軸方位 N-8°-W 面積 34.70㎡

柱穴 柱穴掘り方は、直径0.35~0.46mである。深さは0.40~0.63mである。形状は、隅丸方形あるいは円形を呈する。柱根は検出できなかった。埋没土中からは礎が出土するものが多い。

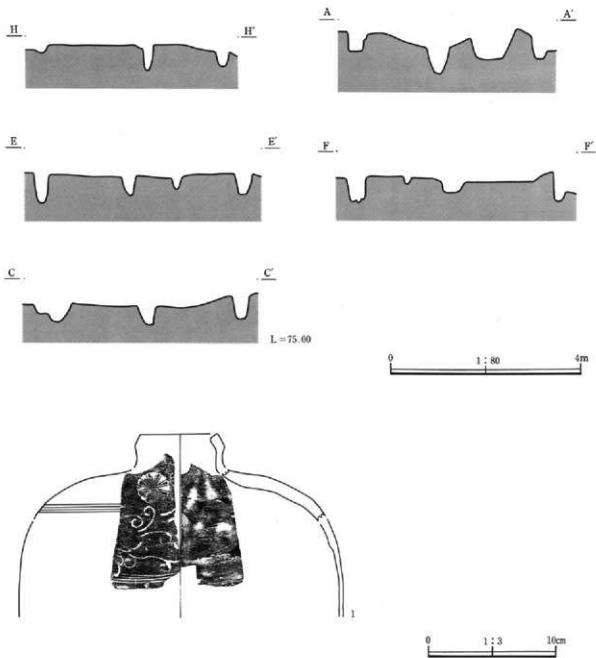
遺物 P8の埋没土中から古瀬戸梅瓶(1)が出土した。年代は13~14C代と考えられる。



第260図 IV区4号館6号掘立柱建物(1)

0 1:80 4m

第5節 中世以降の遺構と遺物



第261図 IV区4号館6号掘立柱建物(2)と出土遺物

IV-A区4号館6号掘立柱建物出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	古瀬戸 陶瓶	P8柱穴 埋没土	口径 - 高径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 灰胎。菊花状スタンプ文とヘラ描文。 内面 紙作り痕。	13~14C

第3章 調査の内容

4号館7号掘立柱建物

位置 P-30・31 Q-30～32 R-31

写真 PL 88

重複 1・2・3・11・12号掘立柱建物、1号柱穴列と重複しているが、新旧関係については不明である。

形状 北隅の柱穴について不明ではあるが、基本的には4間×3間(7.82m×6.34m)の規模をもつ、南北棟建物であると考えられる。柱間寸法は、桁行寸法西列(P10～P18)が、1.46-2.08-2.20-2.10

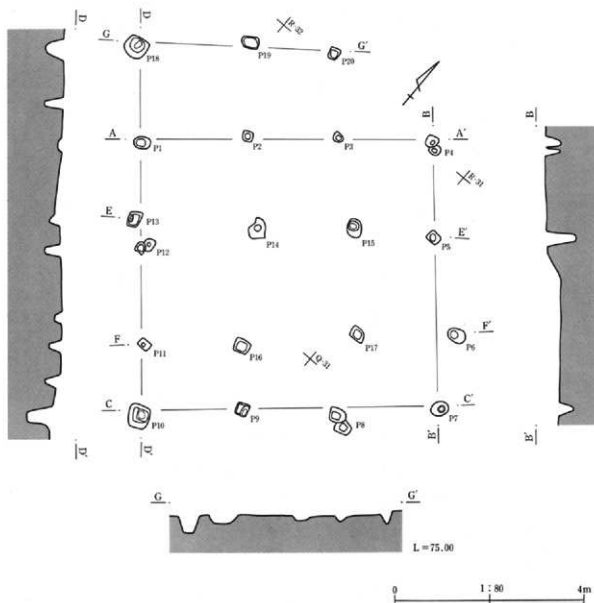
m、東列(P7～P4)が、1.56-2.12-2.02mである。梁行寸法北列(P1～P4)が2.25-1.94-1.96m、南列(P10～P7)が2.16-1.95-2.24mである。P18～P20は2.36-1.78mである。

主軸方位 N-40°-W

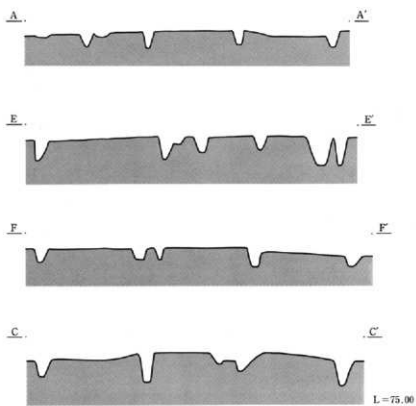
面積 49.58㎡

柱穴 柱穴掘り方は、直径0.22～0.49mである。深さは0.26～0.61mである。形状は、円形あるいは隅丸方形を呈する。柱根は検出できなかった。

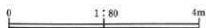
遺物 なし。



第262図 IV区4号館7号掘立柱建物(1)



第263図 IV区4号館7号掘立柱建物(2)



第3章 調査の内容

4号館8号獨立柱建物

位置 Q-29 R-28~30 S-29・30

写真 PL88

重複 13号獨立柱建物と重複しているが、新旧関係は不明である。

形状 南北棟建物で、3間×2間(6.36m×4.26m)の規模をもつ。柱間寸法は、桁行寸法西列(P11~P7)が2.10-2.29-1.85m、東列(P1~P4)が2.34-2.20-1.85mである。梁行寸法北列(P1~P

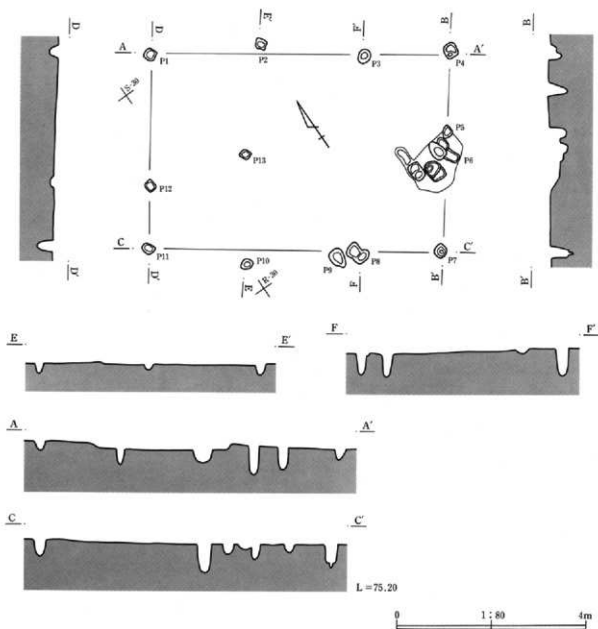
16)は2.73-1.32m、南列(P4・P6・P7)は2.18-2.06mである。

主軸方位 N-54'-E

面積 27.09㎡

柱穴 柱穴掘り方は直径0.22~0.30m、深さは0.08~0.47mと全体的に小規模である。形状は、円形あるいは隅丸方形を呈する。柱根は検出できなかった。

遺物 なし。



第264図 IV区4号館8号獨立柱建物

4号館9号獨立柱建物

位置 S-30 T-29~31

写真 PL88

重複 5号獨立柱建物、3号柱穴列と重複しているが、新旧関係は不明である。

形状 やや変形ではあるが基本的には2間×2間(1.95m×4.95m)の規模をもつ、東西棟建物と考えられる。柱間法は、桁行寸法北列(P1~P4)が1.45-0.60-1.60m、南列(P9~P6)が1.80-0.35-2.25mである。梁行寸法西列(P9~P11)は、2.30-

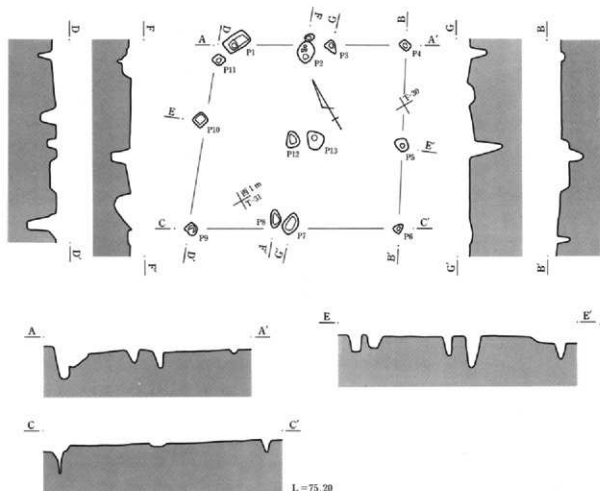
1.30m、東列(P6~P4)は1.25-2.10mである。

主軸方位 N-60°-W

面積 15.40m²

柱穴 柱穴掘り方は、直径0.19~0.52mと全体的に小規模である。深さは、P4が0.09mと浅いが、他は0.31~0.58mとしっかりとした掘り込みをもつ。形状は、円形あるいは隅丸方形を呈する。柱根は検出できなかった。

遺物 なし。



第265図 IV区4号館9号獨立柱建物

第3章 調査の内容

4号館10号孤立柱建物

位置 L・M-29・30

写真 PL88

重複 なし。4号館西郭の南西隅に、単独で立地する。

形状 全体的にやや歪んでいるが、基本的には2間×2間(4.36m×4.20m)の規模をもつ、東西棟建物である。柱間寸法は、桁間寸法北列(P1・P2・P4)が1.67-2.53m、南列(P8・P7・P6)が0.83-3.18mである。南列が変則的な柱間になって

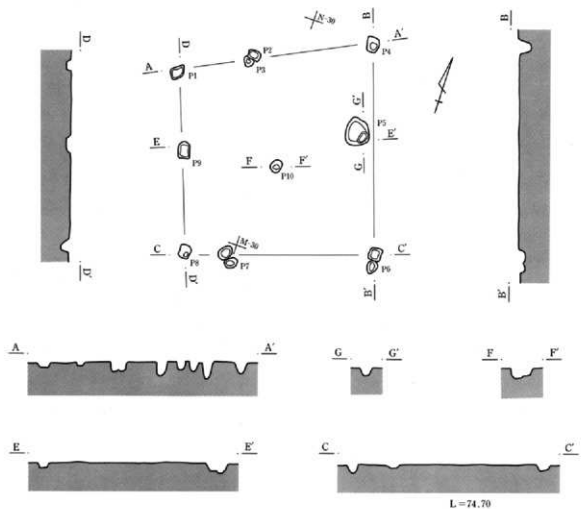
おり、入り口の可能性が考えられる。梁行寸法西列(P8~P1)は2.16-1.67m、東列(P6~P4)は2.47-1.92mであり、東列が長い。

主軸方位 N-64'-E

面積 18.31㎡

柱穴 柱穴掘り方は、直径0.24~0.32mである。深さは、0.09~0.26mと全体的に小規模である。形状は、円形あるいは隅丸方形を呈する。柱根は検出できなかった。

遺物 なし。



第266図 IV区4号館10号孤立柱建物

4号館11号掘立柱建物

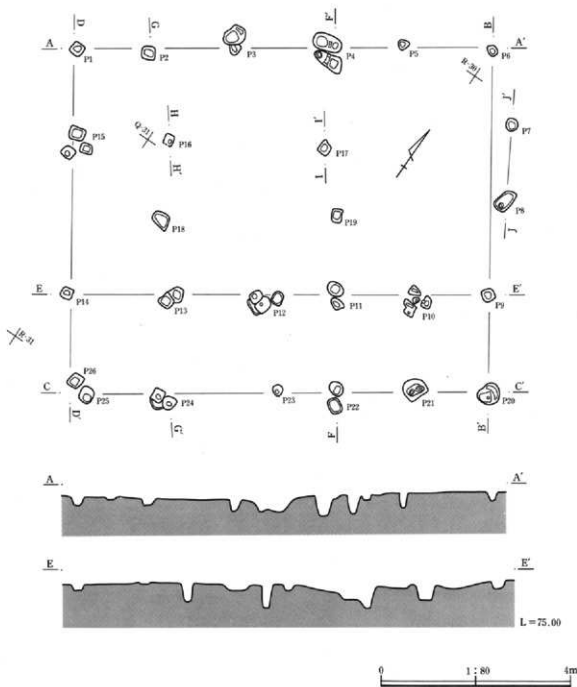
位置 O-30 P・Q-29~31 R-29・30

写真 PL88

重複 1・2・3・4・7・12号掘立柱建物と重複しているが、新旧関係は不明である。

形状 東西棟建物で、5間×4間(9.56m×7.23

m)の規模をもつ。柱間寸法は、桁行寸法北列(P1~P6)が1.52-1.81-2.02-1.58-1.90m、南列(P25~P20)が1.54-2.54-1.28-1.67-1.62mである。梁行寸法西列(P26~P1)は1.87-3.36-1.77mで、P14・15間で柱穴が抜ける。東列(P20~P6)は2.08-1.90-1.60-1.62mである。P8・



第267図 IV区4号館11号掘立柱建物(1)

第3章 調査の内容

9がやや外側によっている。

主軸方位 N-56°-E

面積 65.34㎡

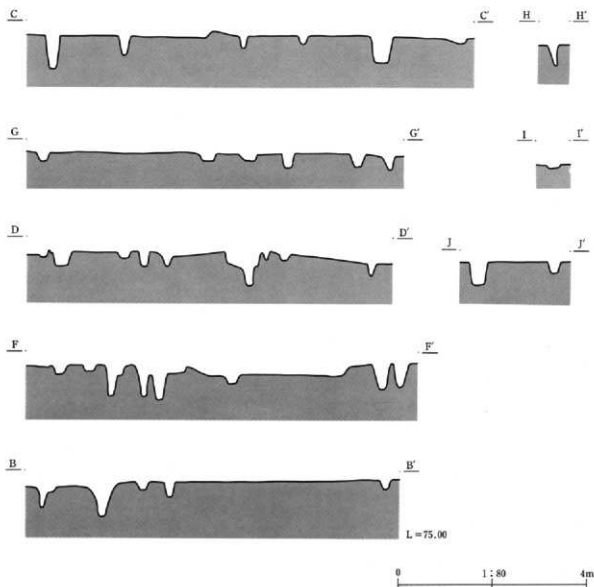
柱穴 柱穴掘り方は、直径0.25~0.62mである。

深さは、0.11~0.43mであるが、P25は0.71m、P21は0.56mと深い。形状は、隅丸方形あるいは隅丸長方形を呈する。柱根は検出できなかった。

遺物 なし。

所見 4号館内最大の掘立柱建物である。各柱穴は、柱間寸法も割とそろっており、掘り込みもしつ

かりしている。掘立柱建物群のなかでも、中心的な遺構と考えられる。



第200図 IV区4号館11号掘立柱建物(2)

4号館12号掘立柱建物

位置 P・Q-30・31

写真 PL88

重複 1・2・3・7・11号掘立柱建物と重複しているが、新旧関係は不明である。

形状 東隅の柱穴を一部欠くが、基本的には3間×3間(5.20m×5.12m)の規模をもつ、東西棟建物と考えられる。柱間寸法は、桁行寸法北列(P8~P1)が1.95-1.30-1.90m、南列(P5~P3)が1.40-2.35mで東隅の柱穴を欠く。梁行寸法西列(P8~P5)は1.60-2.10-1.50mである。東列(P1

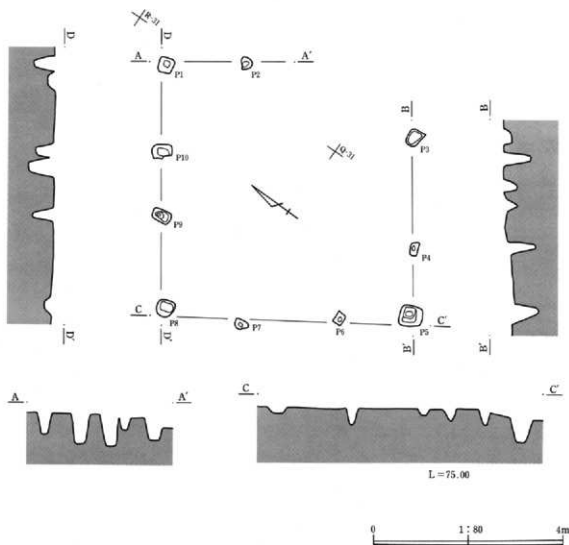
~P2)は1.20mである。南列・西列とも中央の柱間が他と比べて広くになっているが、北列は逆にやや狭くなっている。

主軸方位 N-53°-E

面積 26.62㎡

柱穴 柱穴掘り方は、直径0.24~0.50mである。深さは、P3が0.14m、P8が0.13mと浅いが、他は0.24~0.61mである。掘り込みは全体的にしっかりしている。形状は、隅丸正方形あるいは不整円形を呈する。柱根は検出されなかった。

遺物 なし。



第269図 IV区4号館12号掘立柱建物

第3章 調査の内容

4号館13号掘立柱建物

位置 Q・R-28・29

写真 PL88

重複 6・8号掘立柱建物と重複しているが、新旧関係は不明である。

形状 P2が内に寄っているが、基本的には2間×2間(3.80m×3.70m)の規模をもつ、南北棟建物と考えられる。柱間寸法は、桁行寸法西列(P1~P7)が2.10~1.70m、東列(P3~P5)が1.50~2.58mで一定しない。東列中央に柱穴が予想されるが、IV区65号土坑と重複のためはっきりしなかった。梁

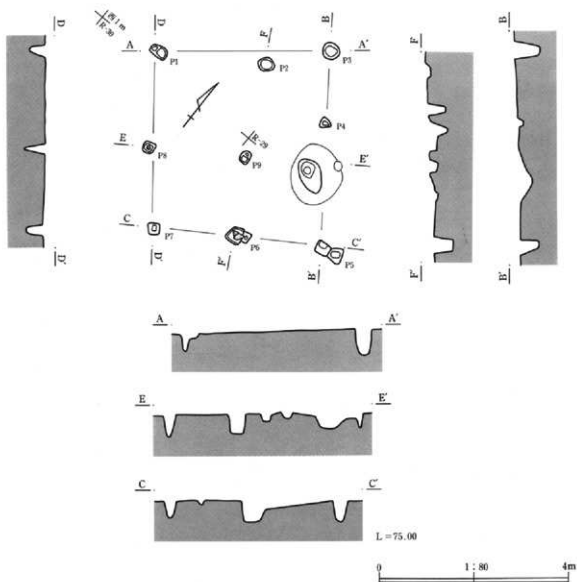
行寸法北列(P1~P3)は2.48~1.40m、南列(P7~P5)は1.78~1.82mである。

主軸方位 N-39°-W

面積 14.06㎡

柱穴 柱穴掘り方は、直径0.24~0.36mとそろっている。深さは、P2が0.09m、P11が0.17mと浅いが、他は0.36~0.51mである。形状は、楕円形あるいは隅丸正方形を呈する。柱根については検出されなかった。

遺物 なし。



第270図 IV区4号館13号掘立柱建物

4号館14号据立柱建物

位置 T-28・29

写真 PL88

重複 なし。4号館西郭の北東隅に、単独で立地する。

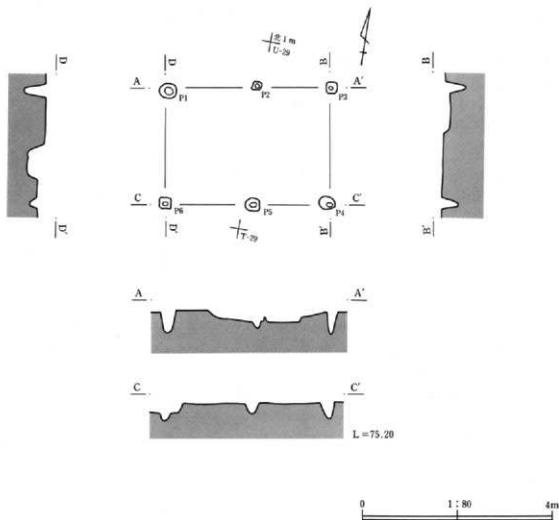
形状 東西棟建物で、2間×1間(3.48m×2.40m)の規模をもつ。柱間寸法は、桁行寸法北列(P1～P3)は1.90-1.60m、南列(P6～P4)は1.88-1.58mとほぼ対応している。梁行寸法西列(P1～P6)と東列(P3～P4)は2.40mと等間である。

面積 83.5m²

主軸方位 N-80°-E

柱穴 柱穴掘り方は、直径0.24～0.30mとそろっているが、P2が0.13mとやや小さい。深さは、0.19～0.45mである。柱穴は全体的に小規模であることから、簡易な建物が想定される。形状は、隅丸長方形あるいは楕円形を呈する。柱根については検出されなかった。

遺物 なし。



第271図 IV区4号館14号据立柱建物

第3章 調査の内容

4号館1号竪穴状遺構

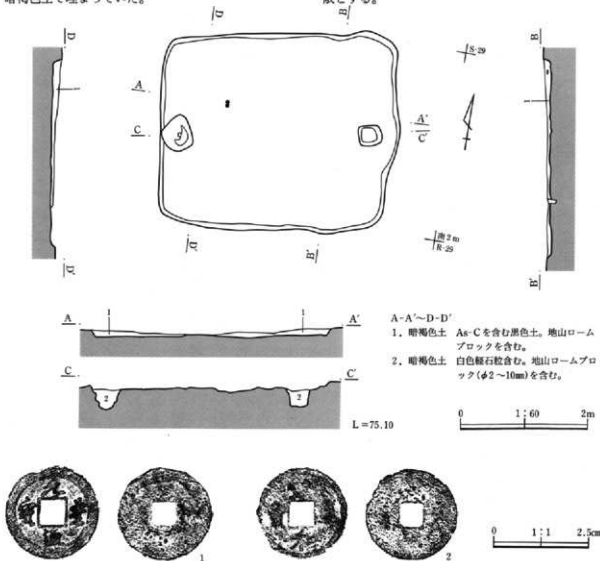
位置 R-29 写真 PL92
 形状 長軸を東西にする小形長方形を呈する。周壁は直線的に掘られている。四隅は丸い。規模は、長軸3.84m・短軸2.13mである。面積 10.58㎡
 方位 N-80°-E 重複なし。
 埋没土 As-C・白色軽石粒・ロームブロックを含む暗褐色土で埋まっていた。

柱穴 2本の主柱穴を検出した。各柱穴は住居の長軸上に位置する。

床面 遺構確認面から14cm掘り込んでそのまま床面とする。床面は平坦である。

遺物 出土遺物は2点ある。床面直上から古銭(1・2)が出土した。

所見 出土遺物から、本遺構の年代は1078年を上限とする。



第272図 IV区4号館1号竪穴状遺構と出土遺物

IV区4号館1号竪穴状遺構出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm・g)	材質	形状・調整加工の特徴	残存状態 備考
1	鉄製品 古銭	床面直上	直径 2.30 厚 - 重 -	銅	元豊通宝(1078~1085年) 北宋銭。	完形
2	鉄製品 古銭	床面直上	直径 2.30 厚 - 重 -	銅	至和通宝(1054~1055年) 北宋銭。	完形

4号館2号竪穴状遺構

位置 P-30 Q-29・30

写真 PL92

形状 長軸を東西にする中形不整形長方形を呈する。

周壁は、北壁が極端に内側に入り込んでいる。四隅は丸い。規模は長軸5.24m・短軸3.23~4.0mである。

面積 10.85㎡

方位 N-68°-E

重複 なし。

埋没土 As-B・ロームブロックを含む暗褐色土で

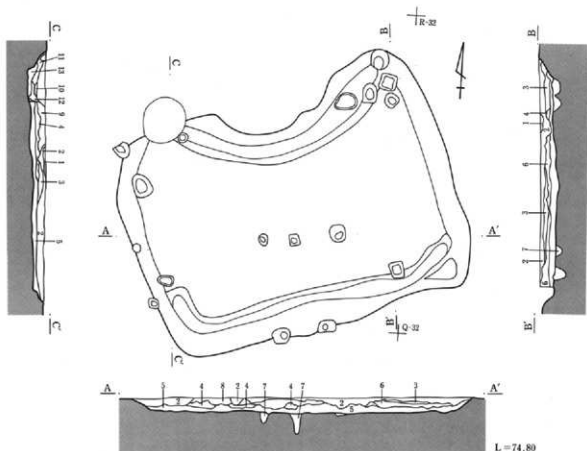
埋まっていた。

柱穴 遺構の上場や底面付近で数本の柱穴を検出したが、本遺構との関係は分からなかった。

床面 遺構確認面から34cm掘り込んでそのまま床面とする。床面は平坦である。

遺物 なし。

所見 埋没土から、本遺構はAs-B降下後に築造されたと考えられる。また1・11号掘立柱建物等とも方位を同じくしており、掘立柱建物群と付随する施設の可能性がある。



1. 暗褐色土 白色軽石粒(As-B)含む。跡残り良。
2. 暗褐色土 地山ロームを多量に含む。
3. 暗褐色土 白色軽石粒・ロームブロックを少量に含む。
4. 黄褐色土 地山ロームブロック主体。
5. におい黄褐色粘質土 地山ロームを多く含む。跡まわりやや弱い。
6. 暗褐色土 2層に似るがロームが2層より少なく3層より多い。
7. 暗褐色土 黒色灰味。地山ロームを含む。(他ビット埋没土)
8. 暗褐色土 3層+ロームブロック(φ20~100mm)。
- 9・10・11・12・13 79号土坑埋没土。

0 1:60 2m

第273図 IV区4号館2号竪穴状遺構

第3章 調査の内容

4号館3号竪穴状遺構

位置 P-31

写真 PL92

形状 遺構の南半分が調査区域外のため、全体の形状ははっきりしないが、長軸を南北にする小形不整形四角形を呈すると考えられる。周壁は東壁が内側に入り込んでいる。隅は丸い。検出した範囲での規模は、短軸3.70mである。

面積 (8.98)㎡

方位 N-18°-W

重複 IV-A区93号土坑・14号掘立柱建物を掘り込んでいる。

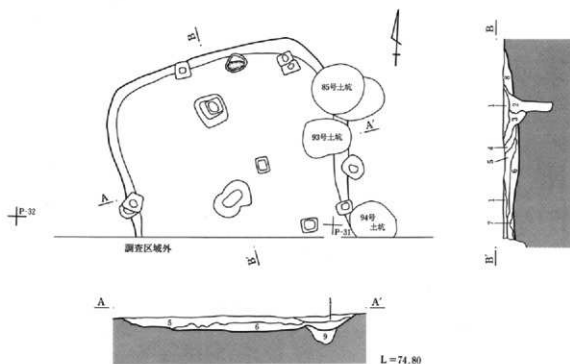
埋没土 As-B・ロームブロックを含む暗褐色土・黒褐色土で埋まっていた。

柱穴 遺構の上場や底面付近で数本の柱穴を検出したが、本遺構との関係は分からなかった。

床面 遺構確認面から26cm掘り込んでそのまま床面とする。床面は平坦である。

遺物 なし。

所見 埋没土から、本遺構はAs-B降下後に築造されたと考えられる。

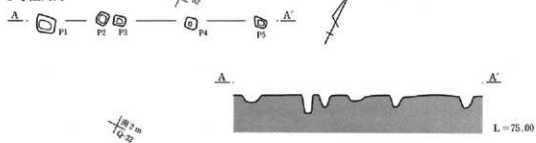


1. 暗褐色土 白色軽石(As-B)を少量含む。
2. 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。締まりやや弱い。
3. 暗褐色土 2層に似るが、ロームが多い。
4. 暗褐色土 ローム粒・白色軽石粒をわずかに含む。
(1~4他ピット埋没土)
5. 暗褐色土 白色軽石(As-B)・ロームブロックを斑状に含む。
6. 黒褐色土 ローム粒・軽石粒をわずかに含む。4層より黒色気味。
7. 黄褐色粘質土 地山ロームブロック主体。
8. 暗褐色土 白色軽石(As-B)・ローム粒を含む。
9. 暗褐色土 ロームブロック+暗褐色土。

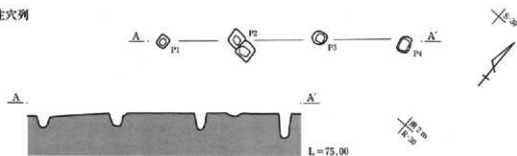
第274図 IV区4号館3号竪穴状遺構

柱 穴 列

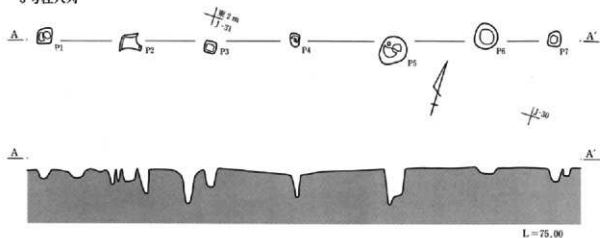
1号柱穴列



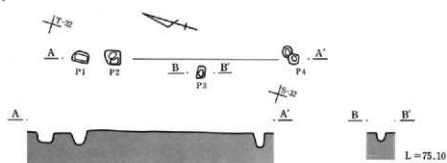
2号柱穴列



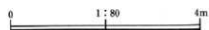
3号柱穴列



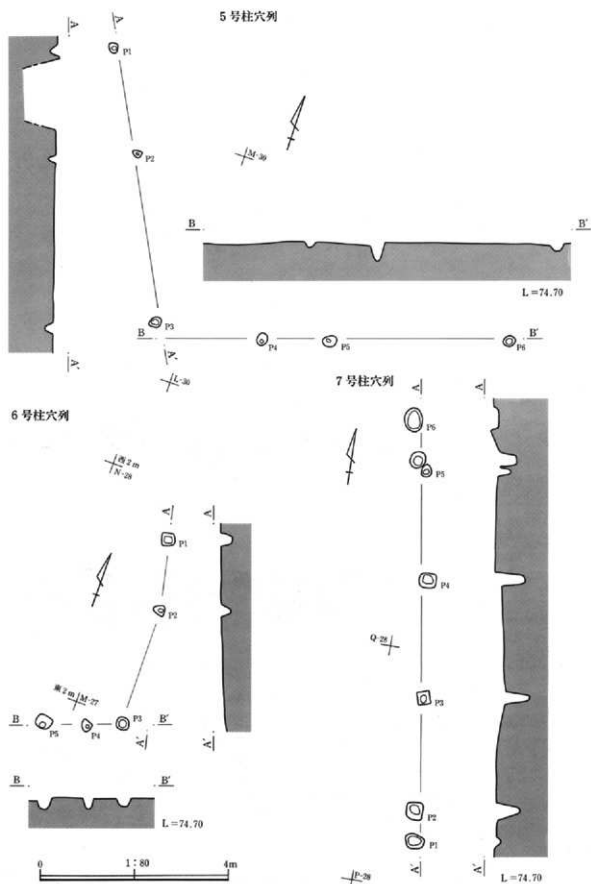
4号柱穴列



第275図 IV区4号館1・2・3・4号柱穴列



第3章 調査の内容



第276図 IV区4号線5・6・7柱穴列

3. 掘立柱建物(館外)

中内村前I-B区1号掘立柱建物

位置 M-19・20 N-20

写真 PL99

重複 86号土坑・28号溝と重複しているが、新旧関係については不明である。

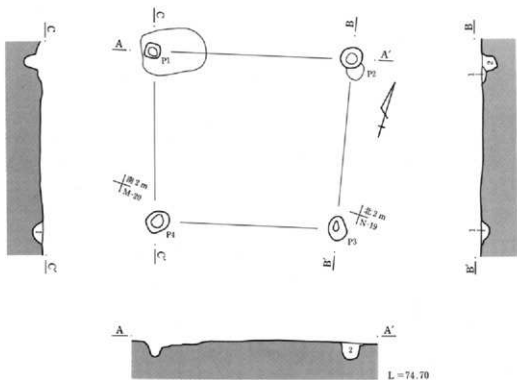
形状 基本的には東西棟建物で、1間×1間(3.80m×3.64m)の規模をもつ。柱間寸法は、桁行寸法北列(P1~P2)が5.02m、南列(P4~P3)が3.80mと北列の柱間が広い。梁行寸法西列(P1~P4)は3.64m、東列(P2~P3)は3.56mで、柱間がほ

ぼ等しい。

面積 15.27㎡ 主軸方位 N-77-E
柱穴 柱穴掘り方は、P1が直径0.26m・深さ0.36m、P2が直径0.42m・深さ0.34m、P3が直径0.48×0.38m・深さ0.18m、P4が0.50m・深さ0.38mである。形状は、P1が隅丸方形であるが、他は円形を呈している。柱根については検出されなかった。柱穴はAs-B・ロームを含む暗褐色土・暗灰褐色土で埋まっていた。

遺物 なし。

所見 埋没土から、As-B降下後の掘立柱建物と考えられる。



1. 暗灰褐色土 As-Bを含む黒色土。多量のローム粒を含む。
2. 暗褐色土 As-Bを含む黒色土。下部にロームブロックを多く混入。

0 1:80 4m

第277図 中内村前1号掘立柱建物

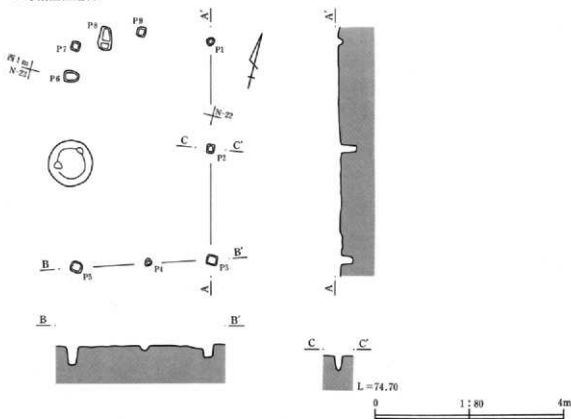
第3章 調査の内容

中内村前1-B区2号掘立柱建物

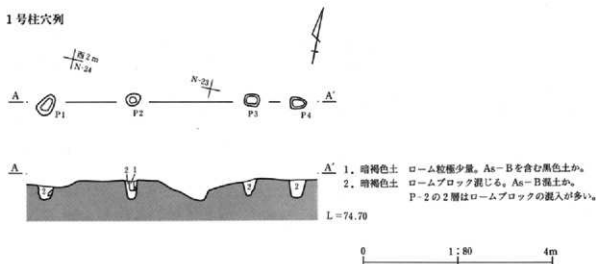
位置 T-28・29 写真 PL99
 重複 中内村前1-B区1号柱穴列と重複しているが、新旧関係については不明である。
 形状 南北棟建物で、2間×1間(4.64m×2.96m)の規模をもつ。柱間寸法は、桁行寸法東列(P1～P3)が2.24～2.32mである。西列(P7～P1)

は0.68～4.04mで北間口が狭い。梁行寸法北列(P1～P7)1.48～0.76～0.76m、南列(P3～P5)は1.36～1.56mである。
 面積 13.73m²
 主軸方位 N-14°-W
 柱穴 柱穴掘り方は、直径0.16～0.22mである。深さは、0.16～0.38mである。柱穴は全体的に小規

2号掘立柱建物



1号柱穴列



模であることから、簡易な建物が想定される。形状は、隅丸方形あるいは円形を呈する。柱根については検出されなかった。

遺物 なし。

I-A区1号掘立柱建物

位置 P-105・106 Q-104~106

写真 PL92

重複 1号住居と重複しているが、新旧関係は不明である。

形状 東西棟建物で、3間×1間(6.16m×3.10m)の規模をもつ。柱間寸法は、桁行寸法北列(P1~P4)が2.08-2.00-2.10m、南列(P8~P5)が

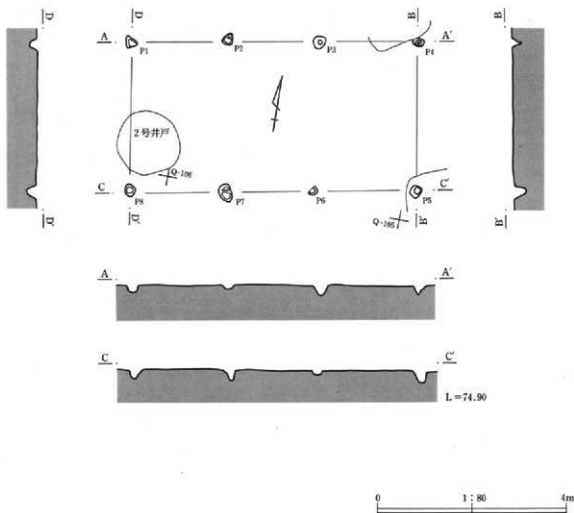
2.08-1.90-2.24mである。梁行寸法西列(P1~P8)、東列(P4~P5)ともに3.10mと等間である。柱間は比較的そろっている。

面積 19.10㎡

主軸方位 N-80°-E

柱穴 柱穴掘り方は、直径0.22~0.30mである。形状は、不整円形あるいは楕円形を呈する。深さは0.08~0.24mと浅い。四隅の柱穴は比較的深く、しっかりした掘り込みをもつ。全体的に柱穴が小規模であることから、簡易な建物が想定される。柱根については検出されなかった。

遺物 なし。



第279図 I-A区1号掘立柱建物

第3章 調査の内容

I-A区2号掘立柱建物

位置 T-28・29

写真 P L92

重複 I-A区26・29号土坑と重複しているが、新旧関係については不明である。

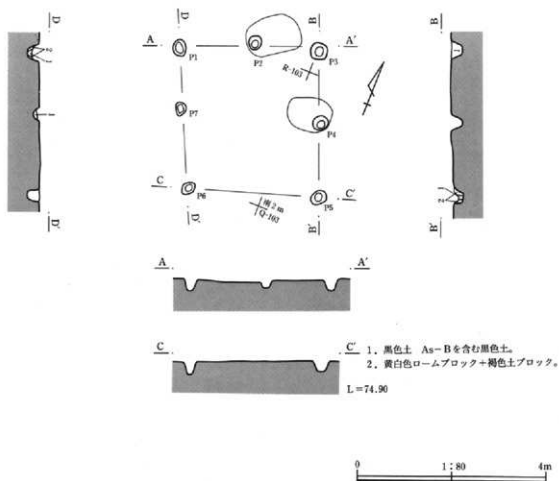
形状 南北棟建物で、基本的には2間×2間(3.00m×2.80m)の規模をもつ。柱間寸法は、桁行寸法西列(P1~P6)が1.36~1.72mで、北間口が狭い。東列(P3~P5)が1.54~1.56とほぼ等間である。梁行寸法北列(P1~P3)は1.64~1.40mである。南列(P5~P6)は2.80mで中間に柱穴を欠く。

面積 84.0㎡

主軸方位 N-24'-W

柱穴 柱穴掘り方は、P1が直径0.36m・深さ0.28m、P2が直径0.28m・深さ0.16m、P3が直径0.36m・深さ0.26m、P4が直径0.32m・深さ0.26m、P5が直径0.32m・深さ0.22m、P6が直径0.28m・深さ0.28m、P7が直径0.21m・深さ0.18mである。比較的四隅の柱穴がしっかりと掘り込まれている。形状は、円形あるいは楕円形を呈する。柱根についてはP1・5で検出され、その規模は約0.08m程であった。柱穴が全体的に小規模であることから、簡易な建物が想定される。

遺物 なし。



第280図 I-A区2号掘立柱建物

IV-A区15号掘立柱建物

位置 U・V-33・34

写真 PL92

重複 IV-A区4・5号住居と重複しているが、新旧関係については不明である。また、遺構の北西半分が現代の攪乱によって壊されていた。

形状 北西側の柱穴が北に寄っているが、基本的には3間×2間(5.90m×3.90m)の規模をもつ、東西棟建物である。柱間寸法は、桁行寸法北列(P11～P3)が2.05-1.80-1.80m、南列(P8～P5)が2.10-2.00-1.80mである。梁行寸法西列(P8～P11)は1.95-2.70mとP11が北に寄っている。東

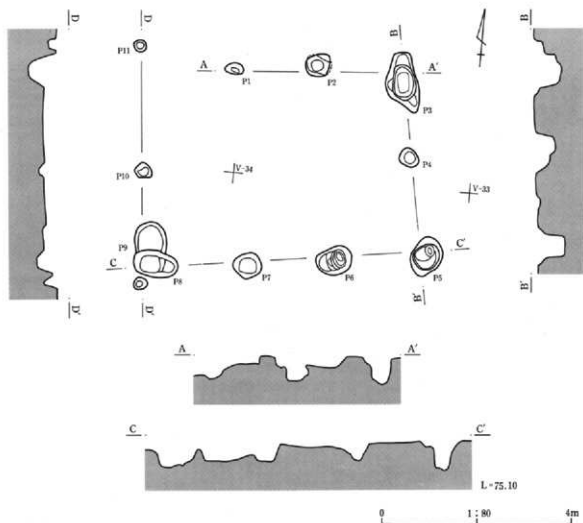
列(P5～P3)は2.10-1.80mである。

面積 23.01㎡

主軸方位 N-83°-E

柱穴 柱穴掘り方は、特に隅の柱穴の規模が大きい。P3が直径1.05×0.65m・深さ0.57m、P5が直径0.85×0.67m・深さ0.62m、P8が直径0.95×0.55m・深さ0.34mである。他は直径0.35～0.60m、深さ0.28～0.34m程である。形状は、上記の隅の柱穴が不整形円形を呈している。他の柱穴については円形あるいは楕円形を呈している。柱根は検出されなかった。

遺物 なし。



第281図 IV-A区15号掘立柱建物

第3章 調査の内容

4. 火葬跡

I-A区1号火葬跡

位置 P-92 写真 PL92

重複 なし。

形状 一部トレンチと上層からの攪乱を受け、全体の形状ははっきりしないが、平面形は不定型な長方形、断面形は箱形を呈していたと考えられる。

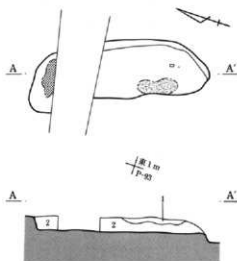
規模 長径1.39m 短径 0.47m

底面 遺構確認面から0.12m掘り込んで底面となる。底面は平坦である。底面は良く焼け一部焼土化しており、また灰層が広がっていた。

埋没土 焼土・炭化物粒・焼骨片を多く含む黒褐色土によって埋まっていた。

遺物 埋没土中から多量の炭化物・焼骨片は出土したが、土器などの時期の特定できる遺物は出土しなかった。

所見 時期については断定し得ないが、遺構の形態から中世の火葬跡と考えられる。



1. 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒・焼骨片が混在。
2. ぶい黄褐色土 Hr-FA上の漸移層。

L = 74.70 0 1:30 1m

第282図 I-A区1号火葬跡

IV-A区1号火葬跡

位置 Q-29・30 P-30 写真 PL93

重複 なし。

形状 南側を現代の攪乱によって壊されはっきりしないが、平面形は長方形、断面形は楕円形である。東辺中央部に煙道があったと考えられる。

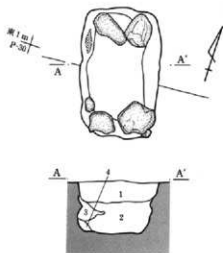
規模 長径 0.97m 短径0.94m

底面 遺構確認面から0.22m掘り込んで底面となる。底面は平坦で、四隅に直径約20cmの竈が4個設置されていた。底面は良く焼け一部焼土化していた。

埋没土 上層はロームを含む暗褐色土、下層は炭化物を多く含む黒色土・焼土ブロック・骨片で埋まっていた。

遺物 埋没土中から多量の炭化物・竈は出土したが、土器などの時期の特定できる遺物は出土しなかった。

所見 時期については断定し得ないが、遺構の形態から中世の火葬跡と考えられる。



1. 暗褐色土 ロームブロックを斑状に含む。
2. 黒色土 炭化物層。焼土を若干含む。
3. 焼土ブロック
4. 暗褐色土 地山ロームブロック含む。締まりやや弱い。

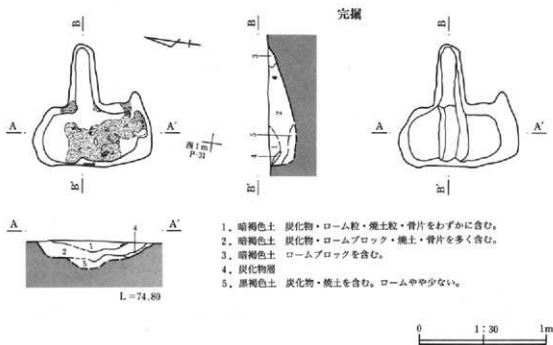
L = 74.70 0 1:30 1m

第283図 IV-A区1号火葬跡

IV-A区2号火葬跡

位置 P-30 写真 PL93
 重複 なし。 方位 N-76°-E
 形状 平面形は長方形・断面形は楕円形の土坑の東辺に煙道がつく。
 規模 長径0.97m 短径0.49m 煙道部0.52m
 底面 遺構確認面から0.22m掘り込んで底面となる。中央部が楕円状にやや窪む。底面には灰層が広がっていた。底面・壁面は良く焼けており、一部焼土化していた。

埋没土 上層は暗褐色土、下層は暗褐色土で埋まっていた。いずれの層にも骨片・炭化物・焼土・ロームブロックを含んおり、下層ほどその量が多い。
 遺物 埋没土中から多量の炭化物・骨片は出土したが、土器などの時期の特定できる遺物は出土しなかった。
 所見 時期については断定し得ないが、遺構の形態から中世の火葬跡と考えられる。



第284図 VI-A区2号火葬跡

第3章 調査の内容

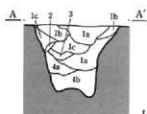
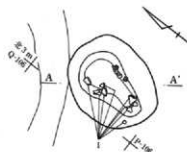
5. 井戸

I-A区1号井戸

位置 P-105・106 写真 PL93

重複 2号方形周溝墓を掘り込んでいる。

形状 平面形は南側に伸びる不定形な楕円形、断面形は朝顔形を呈する。



L=74.80

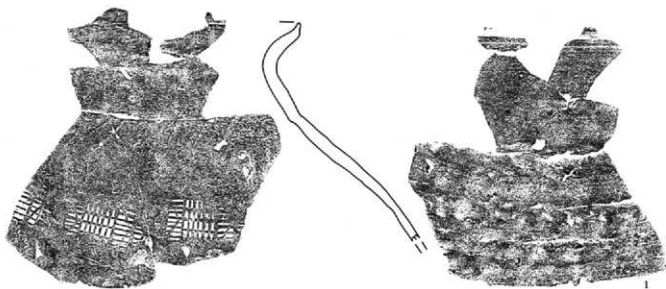
規模 長径1.51m・短径1.24m

底面 遺構確認面から1.11m掘り込んで底面となる。底面の標高は73.59mである。

埋没土 上層は黒褐色土、下層は褐灰色土で埋まっていた。いずれの層にもAs-Bを含んでいる。

遺物 出土遺物は17点である。遺物は底面付近から出土した。陶器甕(1)は口縁部の形態から古い特徴をもつ。所見 時期については断定し得ないが、埋没土と出土遺物から中世の井戸と考えたい。

- 1a. 黒褐色土 As-Bを含む黒色土。ローム殻を含む。
- 1b. 黒褐色土 As-Bを含む黒色土+ローム小ブロック+As-Cを含む黒色土小ブロック。
- 1c. 黒褐色土 1aに似る。
- 2. 攪乱
- 3. ローム大小ブロック・暗褐色粘質土ブロックがラミナ状に堆積。
- 4a. 褐灰色土 黄色ロームブロック+灰色ブロック。灰白色粘土ブロック・As-Bを含む黒色土を含む。
- 4b. 褐灰色土 4aに似るが粘性あり。土器片を含む。



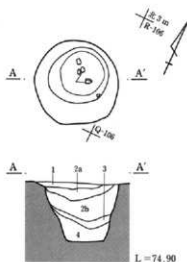
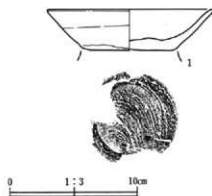
第205図 I-A区1号井戸と出土遺物

I-A区1号井戸出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	寸法 (cm)	①焼成 ③輪土	②色調	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	知多宮 陶器 甕	底面直上	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -		外面 肩部形状印き目。 内面 紐作り残れる。	13C前半

I-A区2号井戸

位置 Q-105・106 写真 PL93 重複なし。
 形状 平面形は円形・断面形は楕円形を呈する。
 規模 直径1.32m 底面 遺構確認面から0.93m
 掘り込んで底面となる。底面の標高は73.81mである。
 埋没土 上層はAs-Bを含む黒褐色土、下層はロー
 ムブロックと暗褐色粘質土がラミナ状に堆積してい
 た。遺物 出土遺物は16点である。
 所見 As-B降下後の掘削であると考えられるが、
 時期については不明である。



1. 上層からの擾乱
- 2a. 黒褐色土 As-Bを含む黒色土。ローム粒を含む。
- 2b. 黒褐色土 As-Bを含む黒色土+ローム小ブロック+As-Cを含
む黒色土小ブロック。
3. 黒褐色土 As-Bを含む黒色土ブロック+黒褐色粘質土ブロック。
粘性あり。
4. ローム大小ブロック・暗褐色粘質土ブロックがラミナ状に堆積。

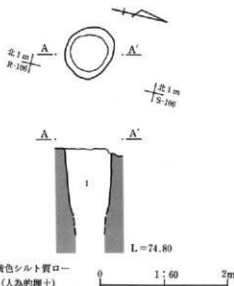
第286図 I-A区2号井戸と出土遺物

I-A区2号井戸出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (m)	①焼成 ②色調 ③粘土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵系 高台付椀	埋没土	口径(13.0) 底径 - 器高 -	①酸化焙②鈍い褐 ③粗細砂・赤色鉱物 粒・角閃石を含む	外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。 無調整。付高台。高台部欠損。 内面 口縁部横ナデ。体へ底部回転ナデ。	口へ底部2/3 残存

I-A区3号井戸

位置 Q・R-106 写真 PL93 重複なし。
 形状 底面まで発掘できなかったが、平面形は円
 形・断面形は朝顔形を呈すると考えられる。
 規模 長径0.83m・短径0.72m
 底面 遺構確認面から1.04mまで調査したが、湧
 水のため底面を確認できなかった。
 埋没土 地山ローム層とAs-Bを含む黒色土が乱れ
 て堆積していた。遺物 出土遺物はなかった。
 所見 As-B降下後の掘削であると考えられるが、
 時期については不明である。



1. As-Bを含む黒色土+As-Cを含む黒色土+灰黄色シルト質ロー
ム・As-YF等大小ブロックが入り乱れて堆積。(人為的埋土)

第287図 I-A区3号井戸

第3章 調査の内容

II-B区5号井戸

位置 L-81 M-81・82 写真 P L93

重複 6号井戸を掘り込んでいる。

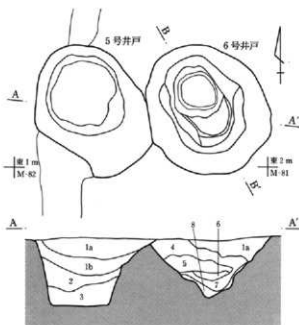
形状 平面形は楕円形・断面形は朝顔形を呈する。

規模 長径2.17m・短径1.60m

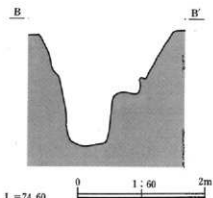
底面 遺構確認面から1.05m掘り込んで底面となる。底面は平坦で、標高は73.37mである。

埋没土 上層はAs-Bを含む暗褐色土、下層は水成堆積でうまっていた。遺物 なし。

所見 埋没土から、6号井戸の廃棄を契機に5号井戸が掘削されたといえる。As-B降下後の掘削であるが、詳細な時期については不明である。



- 1a. 暗褐色土 As-Bを含む黒色土。土質均質。
- 1b. 暗褐色土 As-Bを含む黒色土。ローム小ブロック+褐色土ブロック(As-B下層)を斑状に含む。
2. 黒褐色砂質土
3. 黒褐色シルト(黒泥)+互層に堆積した細砂+褐色ブロック。水性堆積。
4. 黒色粘土(Hr-FA下)+褐色粘質(Hr-FA上)+Hr-FA。(5号井戸掘り下げ時の構土)
5. 褐色粘質土 Hr-FA上層(泥流起源の土か?)主体。(5号井戸掘り下げ時の構土)
6. によい黄褐色細砂
7. 黒褐色細砂
8. 黄灰色細砂+灰褐色粘質土(地山?)



第288図 II-B区5号・6号井戸

II-B区6号井戸

位置 L・M-81・82 写真 P L94

重複 5号井戸に掘り込まれている。

形状 平面形は楕円形・断面形は朝顔形であるが南側に一段をもつ。

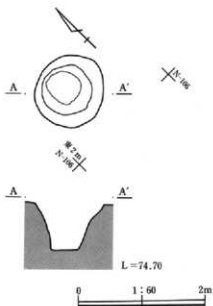
規模 長径2.16m・短径1.88m

底面 遺構確認面から1.76m掘り込んで底面となる。底面は平坦で、標高は72.59mである。

埋没土 隣接する5号井戸の掘削土が、人為的に東側から投げ込まれる様相で堆積していた。

遺物 なし。

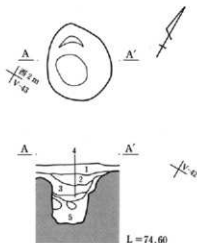
所見 埋没土から、5号井戸の掘削を契機に6号井戸が廃棄されたといえる。両遺構の時期は近接している。As-B降下後の掘削であるが、詳細な時期については不明である。



第289図 I-A区6号井戸

I-A区8号井戸

位置 N-106 写真 PL94
 重複 なし。
 形状 平面形は円形・断面形は朝顔形を呈する。
 規模 直径1.16m
 底面 遺構確認面から0.73m掘り込んで底面となる。底面は平坦である。底面の標高は73.87mである。
 埋没土 埋没土の記載なし。
 遺物 なし。
 所見 時期については不明である。



IV-A区1号井戸

位置 V-42 写真 PL94
 重複 IV区9号溝と重複しているが、新旧関係については判断できなかった。
 形状 平面形は楕円形・断面形は朝顔形を呈する。
 規模 長径1.23m・短径1.01m
 底面 遺構確認面から0.80m掘り込んで底面となる。底面は平坦である。底面の標高は73.70mである。
 埋没土 上層はAs-Bを多く含む暗灰色砂質土、下層は多量のロームブロック・砂を含む褐色粘質土で埋まっていた。遺物 なし。
 所見 As-B降下後の掘削であるが、詳細な時期については不明である。

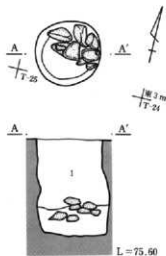
1. 暗灰色砂質土 白色軽石粒(As-B)含む。鉄分の凝集が斑に有り。
2. 暗灰色砂質土 1に似るが白色軽石粒(As-B)が少なく砂質。しまりやや弱い。
3. 暗灰色砂質土 地山黄褐色土・灰色粘質土を含む。
4. 暗灰色粘質土 砂を多く含む。
5. 褐色粘質土 砂を含む。不均質。地山ブロックを多量に含む。

IV-A区2号井戸

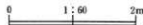
位置 S・T-24 写真 PL94
 重複 なし。
 形状 平面形は円形・断面形は円筒形を呈する。
 規模 直径1.04m
 底面 遺構確認面から1.50m掘り込んで底面となる。底面は平坦である。底面の標高は74.00mである。
 埋没土 上～中層はAs-Bを含む黒褐色土で埋まっていた。中層にはロームブロックを部分的に含む。最下層については記録できなかった。底面から20cmほど上位で直径約10cmの礫がまとまって出土した。
 遺物 出土遺物は2点であるが、いずれも混入と考えられる遺物である。
 所見 As-B降下後の掘削であるが、詳細な時期については不明である。



第290図 IV-A区1号井戸



1. 黒褐色土 As-Bを含む黒褐色土。中にローム小ブロックを含む。締まり全体に弱い。ザラついた層。

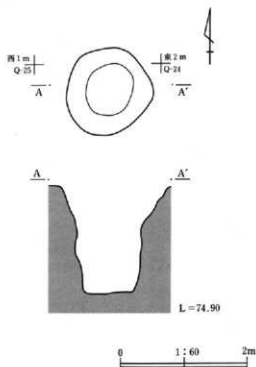


第291図 IV-A区2号井戸

第3章 調査の内容

IV-A区3号井戸

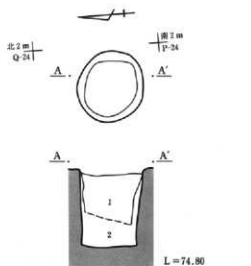
位置 P・Q-24
 写真 PL94
 重複 IV区15溝に掘り込まれている。
 形状 平面形は楕円形・断面形は朝顔形を呈する。
 規模 長径1.36m・短径1.30m
 底面 遺構確認面から1.70m掘り込んで底面となる。底面はほぼ平坦である。底面の標高は73.10mである。
 埋没土 埋没土の記録なし。
 遺物 なし。
 所見 時期については不明である。



第292図 IV-A区3号井戸

IV-A区4号井戸

位置 P-24 写真 PL95
 重複 なし。
 形状 平面形は円形・断面形は円筒形を呈する。
 規模 長径1.12m・短径1.04m
 底面 遺構確認面から1.24m掘り込んで底面となる。底面は平坦である。底面の標高は73.45mである。
 埋没土 上層は多量ロームブロック・As-Bを含む黒色土、下層は鈍い黄褐色土で埋まっていた。土層観察から木枠が存在した可能性が指摘されている。
 遺物 なし。
 所見 時期については不明である。



1. 大小ロームブロック主体。As-Bを含む黒色土を含む。(人為的埋土)
2. 鈍い黄褐色土 やや砂質。締まり弱い。木枠が存在?



第293図 IV-A区4号井戸

IV-A区6号井戸

位置 R・S-28・29 写真 PL94・95

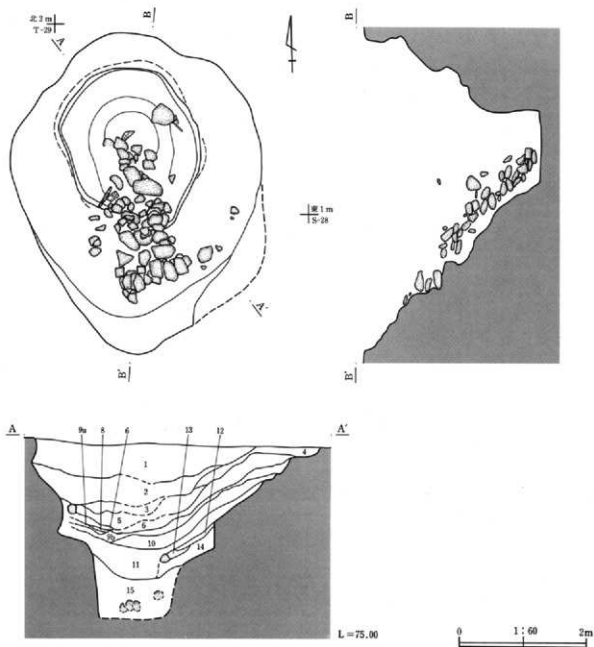
重複 IV区49号土坑・IV区13号井戸に掘り込まれている。

形状 平面形は楕円形・断面形は朝顔形を呈する。南側には石段状の自然礫の配列が確認された。石段状の配列にはロームと黒色土による裏込めが施してあった。

規模 長径5.05m・短径3.96m

底面 遺構確認面から2.81m掘り込んで底面となる。底面は平坦である。底面の標高は72.10mである。

埋設土 上層はAs-B・多量のロームブロックを含むにふい黄褐色土、中層は黒色土とロームブロックの互層、下層は砂質土が互層に堆積していた。



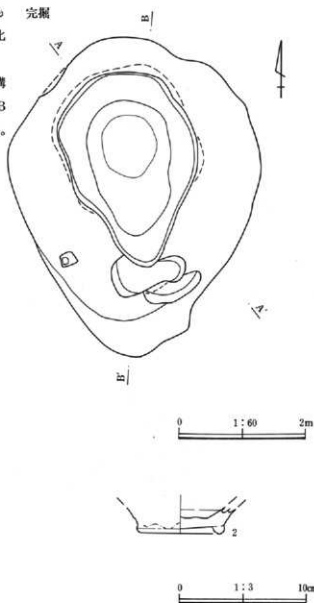
第294図 IV-A区6号井戸(1)

第3章 調査の内容

遺物 遺物は60点あまり出土している。いずれも小破片で、また混入と考えられるものが多く、図化した2点も遺物の上限を示すにすぎない。

所見 調査時は井戸と判断して調査したが、遺構の性格については不明である。時期についてもAs-B降下後の掘削であるが、詳細については不明である。

1. にぶい黄褐色土 As-Bを含む黒色土。ロームブロック(φ1~10mm)を多量に含む。
2. にぶい黄褐色土 ロームブロック+黄褐色面位層+As-Bを含む黒色土。フカボカした土。
3. ロームブロック主体。土質粗い。
4. にぶい黄褐色土+ローム大ブロック。
5. 上層のローム(天井?)が落ちた状態。
6. 黒色土 As-Cを含む黒色土・ローム小ブロックを含む。
7. 黒色粘質土 細砂ブロック・ローム粒を含む。
8. 黒褐色粘土
- 9a. ロームブロック主体。7層ブロックを含む。
- 9b. ロームブロック+7層ブロック。
10. 黒褐色土 ローム粒・As-Cをわずかに含む。
11. 黒褐色土 細砂を含む。植物遺体・黒色粘質土等を含む。
12. ローム小ブロック・黒褐色土・細砂をラミナ状に堆積。壁の崩落土。
13. 青灰色砂質土 14に似るが変色している。植物遺体あり。
14. 13に似るがラミナ状の堆積が細かい。
15. As-YPを含む砂質土。灰白色細砂+灰褐色シルト・粘質土がラミナ状に堆積。大礫を含む。



第285図 IV-A区6号井戸(2)と出土遺物

IV-A区6号井戸出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③粘土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 杯	埋没土	口径(13.0) 底径 — 器高 2.7	①酸化焰急焼 ③明細砂・白色鉱物 粒を含む	外面 口縁部横ナデ。底部蹴削り。 内面 口~底部ナデ。	口~底部破片 混入?
2	須恵系 高台付碗	埋没土	口径 — 底径 — 器高 3.0	①還元焰 ② — ③ —	外面 体部回転ナデ。底部調整不明。付高台。 内面 体~底部回転ナデ。	底部破片 混入?

IV-B区9号井戸

位置 L-31 写真 PL95

重複 なし。

形状 平面形は円形・断面形は円筒形を呈する。

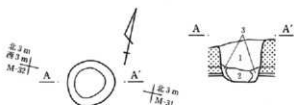
規模 直径0.75m

底面 遺構確認面から0.67m掘り込んで底面となる。底面の標高は73.76mである。

埋没土 上層は暗褐色砂質土とロームブロック、下層はロームブロック主体で埋まっていた。

遺物 なし。

所見 時期については不明である。



1. 暗褐色砂質土+多量のロームブロック。
2. ロームブロックの密集。
3. 暗灰色砂質土+ロームブロック。

L=74.50 0 1:60 2m

第296図 IV-B区9号井戸

IV-A区10号井戸

位置 L-31 写真 PL95

重複 IV区17号溝に掘り込まれている。

形状 平面形は楕円形・断面形は円筒形を呈する。

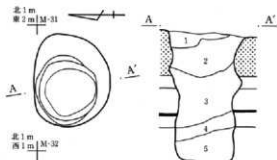
規模 長径1.47m・短径1.21m

底面 遺構確認面から2.04m掘り込んで底面となる。底面はほぼ平坦である。底面の標高は72.32mである。

埋没土 上層はAs-Bを含む暗褐色砂質土、中層はロームブロックと礫、下層は黒褐色土で埋まっていた。

遺物 なし。

所見 As-B降下後の掘削であるが、時期については不明である。



1. 擾乱
2. 暗褐色土 ローム粒・As-Bアッシュ(ピンク色)・炭化物(φ1cm)を少量含む。砂質。
3. 暗褐色土+ロームブロック。下層には植物の枝・葉あり。砂質。
4. 黄褐色粘質ロームブロック主体。石出土。
5. 黒褐色土 きめ細かい土。炭物の沈着あり。夾雑物がない。

L=74.50 0 1:60 2m

第297図 IV-B区10号井戸

IV区11号井戸

位置 L-32 写真 PL95

重複 IV区17号溝に掘り込まれている。

形状 平面形は円形・断面形はやや不整形な朝顔形を呈する。

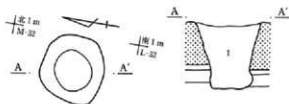
規模 直径1.10m

底面 遺構確認面から1.05m掘り込んで底面となる。底面は平坦であるが壁際がややオーバーハングしている。底面の標高は73.35mである。

埋没土 As-B・ローム・炭化物を含む暗褐色土で埋まっていた。

遺物 なし。

所見 掘削はAs-B降下後と考えられるが、詳細な時期については不明である。



1. 暗褐色土 As-B・ローム粒(φ10mm)を含む。黒色土粒(炭化物)を少量含む。砂質。

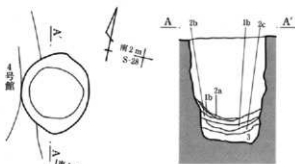
L=74.50 0 1:60 2m

第298図 IV-B区11号井戸

第3章 調査の内容

IV区13号井戸

位置 S-28 写真 PL96
 重複 IV区17号溝に掘り込まれていた。IV区6号井戸と接しているが、新旧関係は判断できなかった。
 形状 平面形は円形・断面形は円筒形を呈する。
 規模 長径1.26m・短径1.06m
 底面 遺構確認面から1.69m掘り込んで底面となる。底面は平坦である。底面の標高は73.17mである。
 埋没土 As-B・ローム小ブロックを含む黒褐色土で大半が埋まっていた。下層は黒褐色土・細かいローム・シルトがラミナ状に堆積していた。
 遺物 なし。
 所見 掘削はAs-B降下後と考えられるが、詳細な時期については不明である。



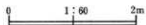
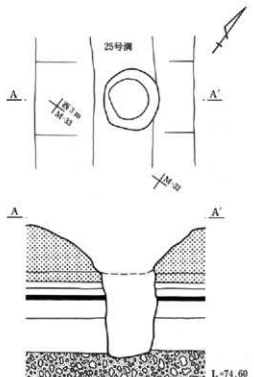
- 1a. 黒褐色土 As-Bを含む黒色土。ローム小ブロック・褐灰色ブロック等が入り混じる。ザクザクした土。(一括埋土)
- 1b. 黒褐色土 細砂+As-Bを含む黒色土。
- 2a. 粉砕されたローム小ブロック・黒色砂質(1b)小ブロックを含む。
- 2b. 2aに似るが、白灰色シルトがラミナ状に堆積。
- 2c. 1b・2aが互層に堆積。
3. 灰褐色粘質土。黒色砂質土・ローム小ブロックを含む。



第299図 IV-A区13号井戸

IV区14号井戸

位置 M-32 写真 PL96
 重複 IV区17号溝に掘り込まれていた。
 形状 平面形は円形・断面形は円筒形を呈する。
 規模 長径0.96m・短径0.86m
 底面 遺構確認面から1.32m、IV区17号溝底面から65cm掘り込んで底面となる。底面は東側がやや高い。底面の標高は72.38mである。
 埋没土 埋没土の記載なし。
 遺物 出土遺物は40点余り出土しているが、いずれも小破片で図化し得なかった。土師器壺の小破片、須恵器坏の小破片が出土している。
 所見 出土遺物から平安時代以降に使用された遺構と考えられるが、埋没土の記載がなく、詳細な時期については不明である。



第300図 IV-B区14号井戸

IV区15号井戸

位置 Q・R-23 写真 PL96

重複 なし。

形状 平面形は楕円形・断面形は円筒形であるが、確認面から0.28m付近にアグリがみられ、北西方向に大きくえぐれている。

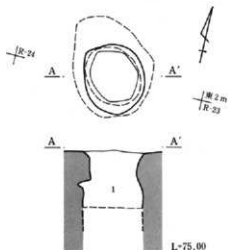
規模 長径1.09m・短径0.95m

底面 遺構確認面から0.89mまで調査したが、安全上の理由により底面まで確認できなかった。

埋没土 確認した範囲では、白色軽石・炭化物粒を含む黒褐色土で埋まっていた。

遺物 出土遺物は2点であるが、小破片のため図化し得なかった。

所見 時期については不明である。



1. 黒褐色土 白色軽石粒(As-B?)炭化物粒を含む。やや砂質。



第301図 IV-A区15号井戸

IV区18号井戸

位置 L・M-30 写真 PL96

重複 中世の土坑に掘り込まれている。

形状 平面形は楕円形・断面形は不定形な朝顔形を呈する。遺構確認面から0.18m・0.60m付近にアグリがみられる。

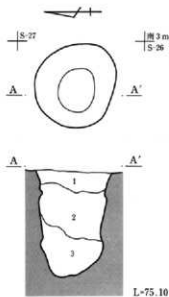
規模 長径1.67m・短径1.37m

底面 遺構確認面から1.97m掘り込んで底面となる。底面は楕円状に窪んでいる。底面の標高は72.55mである。

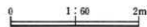
埋没土 上・中層はAs-B・ローム小ブロック・暗褐色粘質土ブロック、下層は細砂主体の褐灰色土で埋まっていた。

遺物 なし。

所見 掘削はAs-B降下後であるが、詳細な時期については不明である。



1. 褐灰色土 As-Bを含む黒色土。ローム小ブロック・暗褐色粘質土小ブロックを含む。
2. 褐灰色土 As-Bを含む黒色土。ローム中小ブロックを多く含む。細砂を含む。(一括埋土)
3. 褐灰色土 細砂主体。ローム小ブロック含む。締まり弱い。



第302図 IV-A区18号井戸

第3章 調査の内容

IV-A区16号井戸

位置 V-36 写真 PL97

重複 IV区25号溝に掘り込まれていた。

形状 平面形は楕円形・断面形は円筒形を呈する。

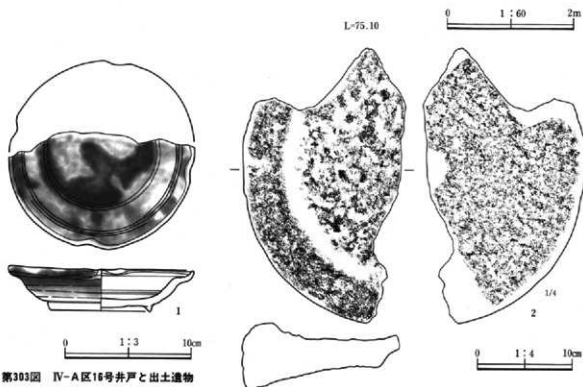
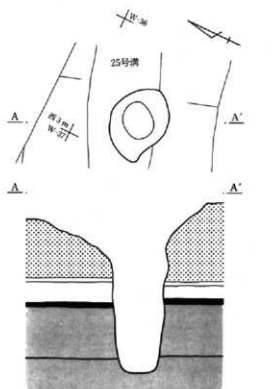
規模 長径1.17m・短径0.88m

底面 遺構確認面から2.57m、IV区25号溝底面から1.85m掘り込んで底面となる。底面はほぼ平坦である。底面の標高は72.27mである。

埋没土 埋没土の記載なし。

遺物 出土遺物は4点である。陶器皿(1)は輪花皿である。内面灰釉の後に刷鉛釉を流す。瀬戸・美濃系と考えられる。他に石臼(2)の破片が1点出土した。いずれも埋没土からの出土である。

所見 出土遺物から江戸時代(17世紀)以降の井戸と考えたい。



第303図 IV-A区16号井戸出土遺物観察表

IV-A区16号井戸出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	瀬戸・美濃 系陶器 皿	埋没土	口径 10.0 底径 5.4 器高 2.2	① - ② - ③ -	外面 高台盤以下無釉。 内面 灰釉の後に刷鉛釉を流す。口径部四方を輪花状にする。	17C

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (m・g)	石材	形状・調整加工の特徴	残存状態 備考
2	石製品 石臼	埋没土	長(29.00)幅(16.60) 厚 7.00 重 -	牛伏砂岩	上臼。中央部がかなり薄いが、使用による摩耗は弱く、あまり使われないうちに廃棄されたものか。	1/3残存

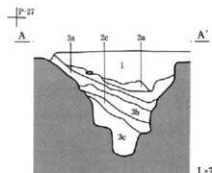
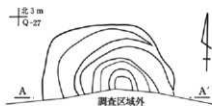
IV-A区22号井戸

位置 P-26 写真 PL97 重複なし。
 形状 一部調査範囲外のため全体の形状ははっきりしないが、平面形は円形・断面形は段をもつ楕円形を呈すると考えられる。規模 直径2.09m
 底面 遺構確認面から1.52m掘り込んで底面となる。底面は中央付近が著しく窪み、段をもつ。底面の標高は73.19mである。

埋没土 上層はAs-Bを含む褐灰色土、中・下層はロームを含む黒色土で埋まっていた。

遺物 なし。

所見 時期については不明である。



IV-A区23号井戸

位置 S-35 写真 PL97

重複 IV区33・34号溝を掘り込んでいる。

形状 平面形は楕円形・断面形は円筒形を呈する。

規模 長径1.16m・短径1.15m

底面 遺構確認面から2.50m掘り込んで底面となる。底面は平坦である。底面の標高は72.40mである。

埋没土 上層の褐色土・灰白色シルトは、やや不自然な堆積をしており、非常に硬くしまっていた。人為的な埋没土と考えられる。中・下層はローム粒を含む暗褐色土で一様に埋まっていた。

遺物 なし。

所見 時期については不明である。

IV-A区26号井戸

位置 P-24 写真なし

重複 IV区15号溝と重複しているが、新旧関係については不明である。

形状 一部調査区域外のため、全体の形状ははっきりしないが、平面形は楕円形、断面形は朝顔形を呈すると考えられる。

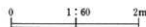
規模 長径1.10m・短径0.80m以上

底面 検出した範囲では、遺構確認面から1.49m掘り込んで底面となる。底面の標高は73.24mである。

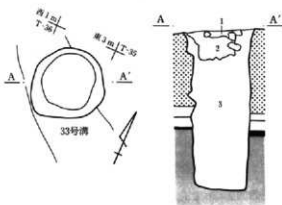
埋没土 埋没土の記録なし。

遺物 出土遺物は20点あまりであるが小破片で図化し得なかった。

1. 褐灰色土 As-Bを含む黒色土。黒褐色土小ブロック・焼土粒を含む。
- 2a. 黒色土 土質均質。ローム粒わずかに含む。
- 2b. 黒色土 土質均質。薄位層を含む。
- 2c. 黒色土 ロームブロックを含む。
- 3a. 2bに似るが、ローム中小ブロックを含む。
- 3b. 3a似るが、ロームブロックを多く含む。
- 3c. ローム大ブロックを含む。



第304図 IV-A区22号井戸



1. 褐色土 ローム・シルト・黒色土ブロック(φ10mm)を斑状に含む。硬く締まる。
2. 灰白色シルトブロック シルトブロック(φ50~100mm)を斑状に含む。硬く締まる。
3. 暗褐色土 ローム粒(φ10~20mm)を20%含む。締まり弱い。



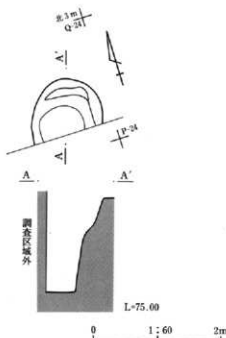
第305図 IV-A区23号井戸

第3章 調査の内容

所見 出土遺物から平安時代以降の以降と考えられるが、詳細な時期については不明である。

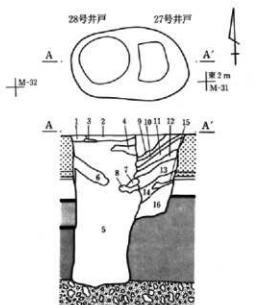
IV区29号井戸

位置 L・M-31 写真 PL98
 重複 IV区28号井戸に掘り込まれている。
 形状 重複のため全体の形状ははっきりしないが、平面形は楕円形・断面形は円筒形を呈する。
 規模 直径1.10m
 底面 遺構確認面から1.27m掘り込んで底面となる。底面は西側がやや低い。底面の標高は72.05mである。火山灰については不明である。
 埋没土 上層から下層にかけてロームブロック・黒褐色土などが互層に堆積していた。
 遺物 IV区28号井戸遺物の項参照。
 所見 時期については不明である。



第306図 IV-A区26号井戸

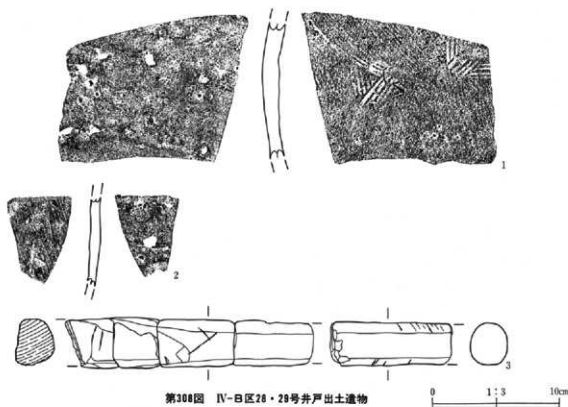
位置 L・M-31 写真 PL98
 重複 IV区27号井戸を掘り込んでいる。
 形状 平面形は円形・断面形はやや不定形な円筒形を呈する。
 規模 長径1.04m・短径1.03m
 底面 遺構確認面から2.59m掘り込んで底面となる。底面は中央部がやや窪む。底面の標高は73.15mである。
 埋没土 暗灰褐色土で埋まっていた。
 遺物 出土遺物は3点である。陶器壺(1・2)破片、木器(3)が出土した。調査時にIV区27号井戸と同一と考えたため、遺物の所属が不明である。
 所見 詳細な時期ははっきりしないが、出土遺物から中世以降(14世紀)の井戸と考えたい。



第307図 IV-B区28・29号井戸

1. 攪乱。
2. 褐色土 ローム粒・白色軽石(主にAs-A)を含む。現代の耕作土に似る。
3. 暗灰褐色土+ローム粒 2+多量のローム。
4. 暗灰褐色土 ローム粒を少し含む。
5. 黒褐色土 ローム粒を少量含む。上層に白色軽石(主にAs-A)を含む。下層には軽石を含まない。変化は漸移的。
6. 白色ロームブロック 暗褐色土を含む。7に似る。
7. 黒褐色土ロームブロックを含む。
8. 暗灰褐色土 12が崩れたような層。
9. 黄褐色ローム+白色ロームブロック。土質は密。崩落土か。

10. 暗褐色砂+白色粘質ロームブロック。
11. 黒褐色土 砂質。
12. 暗灰褐色土 白色ロームブロックを少量含む。砂質。
13. 白色ローム主体。暗灰褐色砂を少量含む。
14. 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。砂質。
15. 13に似る。
16. 黒褐色土+ロームブロック 14に似るがロームが多い。砂質。火山灰については不明。



第308図 IV-B区28・29号井戸出土遺物

IV-B区27・28号井戸出土遺物観察表

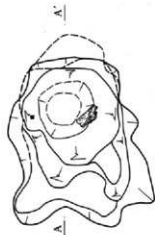
番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	知多窯 陶器 壺	埋没土	口徑 - 底徑 - 壺高 -	① - ② - ③ -	外面 上半自然釉。帯状の叩き目。 内面 縞作り痕。	14Cのみ。 胴部下位片
2	知多窯 陶器 壺	埋没土	口徑 - 底徑 - 壺高 -	① - ② - ③ -	外面 上半自然釉。帯状の叩き目。 内面 縞作り痕。	中世 体部下位片

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm・g)	樹種	形状・調整加工の特徴	残存状態 備考
3	木製品 柄?	埋没土	長 - 幅 (4.0) 厚 (3.0)	不明	表面に加工痕。端部面取り。柄の一部か?	破片

IV区29号井戸

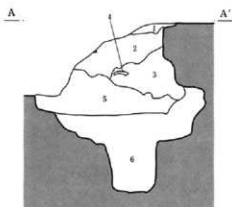
位置 S-32 写真 P.L.98
重複 IV区17号溝に掘り込まれていた。
形状 重複により壊されているが、平面形は不定形、断面形は円筒形の中央部がオーバーハングしていた。規模 長径2.65m・短径1.80m
底面 遺構確認面から2.68m掘り込んで底面となる。底面の標高は72.35mである。
埋没土 上層はAs-Bを含む暗褐色砂質土で埋まっていた。最下層については安全上記録できなかった。
遺物 出土遺物は2点である。所見出土遺物から中世以降(14世紀)の井戸と考えたい。

完掘



第309図 IV-A区29号井戸(1)

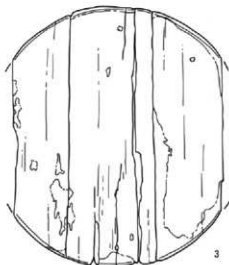
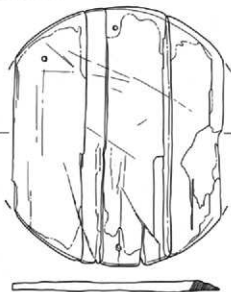
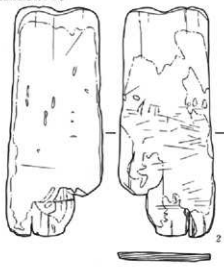
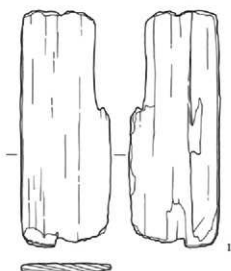
第3章 調査の内容



1. 暗褐色砂質土 As-Bを少量含む。
2. 暗褐色砂質土 As-Bをわずかに含む。ローム粒を極少量含む。
3. 暗褐色砂質土 地山砂を一部層状に含む。粘性弱い。
4. 灰褐色砂 地山砂ブロックを層状に含む。
5. 地山砂礫ブロックと3層が互層に堆積。
6. 土層註記記載なし。

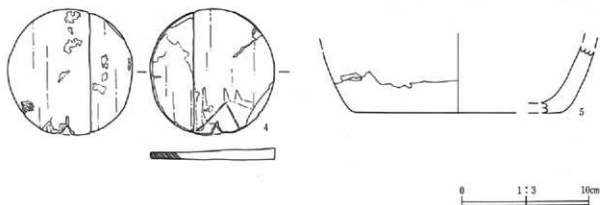
L:75.10

0 1:60 2m



0 1:3 10cm

第310図 IV-A区29号井戸遺物出土状況と出土遺物(1)



第311図 IV-A区29号井戸出土遺物(2)

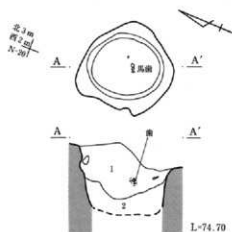
IV-A区29号井戸出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm・g)	樹種	形状・調整加工の特徴	残存状態 備考
1	木製品 不明木製品	埋没土	長(18.90) 幅 6.60 厚 0.60	不明	板材の表面に加工痕あり。	破片
2	木製品 不明木製品	埋没土	長 18.00 幅 7.00 厚 0.60	不明	板材の表面に加工痕あり。	破片
3	木製品 桶?	埋没土	長 29.60 幅 20.60 厚 0.60	不明	一枚の板を円形に加工し、底板にしている。表面に加工痕あり。桶等の一部か?	破片
4	木製品 不明木製品	埋没土	長 29.60 幅 20.60 厚 0.60	不明	一枚の板を円形に加工し、底板にしている。表面に加工痕あり。桶等の一部か?	破片

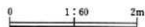
番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
5	軟質陶器 内耳鍋	埋没土	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	内外面 丸底。砂付着。	14C後半~15 C前半

中内村前4号井戸

- 位置 L・M-19 写真なし。
- 重複 なし。
- 形状 平面形は楕円形・断面形は朝顔形を呈する。
- 規模 長径1.48m・短径1.45m
- 底面 遺構確認面から1.16mまで調査したが安全上、底面まで確認できなかった。
- 埋没土 上層は暗褐色砂質土で埋まっていた。下層は調査できなかったため不明である。
- 遺物 埋没土中に馬歯が出土した。
- 所見 時期については不明である。



- 暗褐色土 As-Bを含む黒色土主体。褐色土ブロック・ローム殻を少量含む。砂質。上層から馬骨出土。下層から礫出土。
- 黄灰砂質土・黒灰色土がラミナ状に堆積。砂質。



第312図 中内村前4号井戸

6. 土 坑

西善尺司遺跡では、総数500基以上の土坑を検出した。そのうち31基については、主に出土遺物などから時期が判明し、既に各項で報告してきた。しかし中世あるいは近世については、出土遺物が少なく、正確な時期を確定できた土坑は少ない。その他のものについては詳細な時期は不明といわざるを得ないが、形態分類や埋没土などから中世以降と判断したものと同様であった。

したがった本項では、時期の判明しなかったものも含め、遺構を平面形により不整形・ビット状・円形・楕円形・隅丸正方形・隅丸長方形・地下式土坑に形態分類した。また調査の関係上、土坑の調査番号がⅠ・Ⅱ区とⅢ・Ⅳ区に分かれて通番されているため、Ⅰ・Ⅱ区とⅢ・Ⅳ区ごとに分け、形態分類の順に掲載していくこととする。

以下、特徴的な土坑について述べていくが、その他については、巻末の遺構一覧表を参照されたい。土坑の分布は、遺跡内の台地上に広く展開している。特に1～4号館の内郭やⅣ区東部に集中する傾向にある。

土坑の平面形態別にみると、ビット状・円形の土坑は規模も小さく、掘立柱建物の柱穴と考えられるものも含まれている。時期は遺物が出土せず不明であるが、重複などから土坑群の中では比較的古いものが多い傾向にある。

Ⅱ-B区77号土坑は、3号館内に位置する隅丸正方形の土坑である。規模は、長径3.50m・短径3.40m・深さは0.08mである。掘り込みは浅いが、As-Bを含む褐色土で埋まっていた。底面から掘り鉢(3)が出土しており、時期は13～14Cと考えられ土層観察の所見とも矛盾しない。

Ⅳ-A区32・40・41・42・61・87・104・105号土坑は地下式土坑といわれるタイプの遺構である。なかでも41号土坑は検出状況が良く、連結部の天井が残っていた。規模は、長軸4.86m・短軸2.30m・深さ0.50～0.79mである。平面長方形土坑の側面に入り

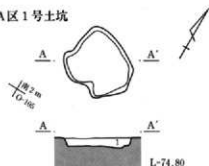
口としてトンネルをもつ。断面形状は箱形である。埋没土は粗い砂質の黒色土が堆積していた。内部からは礫が出土することが多い。このタイプの土坑は、Ⅳ区北東部に集中して分布している。時期については不明であるが、大半が4号館内郭に掘り込まれており、4号館より古い遺構と考えられる。

Ⅰ-B区11号土坑は、平面形態が隅丸長方形の土坑である。規模は、長径2.45m・短径0.85m・深さ0.40mである。埋没土は、ロームブロックを多量に含み、人為的で且つ短時間の埋没が想定できる。比較的群を成し、重複する傾向にある。本遺跡では、1号館・Ⅳ区4号館西郭付近にまとまって検出された。特に1号館では、掘立柱建物の存在しない空間に、このタイプの土坑が掘られている傾向がある。また土坑の主軸方位が、掘立柱建物群や館の主軸と概ね一致していることから、両遺構は同時期に存在していた可能性が指摘できる。遺構の性格としては、芋類を備えておくいわゆる「芋穴」と考えられる。重複などからみて、土坑の中でも比較的新しい部類に入る。

Ⅳ-B区143土坑は、遺構のほとんどが調査区域外であり不明な点が多く、ここでは土坑として掲載した。検出した範囲では、直径11.50m・深さ0.67mと大規模である。平面形状は円形、断面形状は掘り鉢形を呈している。埋没土は、シルト質の灰褐色土と水田耕作土にも似た黒褐色土が互層に堆積していた。また、As-Aが集中して堆積している部分も確認した。出土遺物は、少破片であり図化し得なかったが、陶磁器が数点出している。時期は、As-Aの降下前後であることから近世後期の遺構と考えられる。土坑と言うには規模が大きく、遺構の性格については不明と言わざるを得ないが、2号館の検出状況と併せて調査区域の南側に何らかの近世遺構が存在することを示唆している。

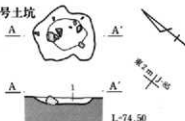
I・II区土坑

I-A区1号土坑



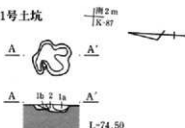
1. 黒褐色土 As-Bを含む黒色土・ローム小ブロックを含む。

II-B区80号土坑



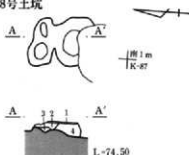
1. 褐色土 As-A?・ローム小ブロックを含む。

II-B区101号土坑



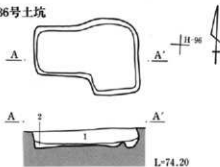
- 1a. におい黄褐色土 ローム小ブロック・炭土粒をわずかに含む。
1b. におい黄褐色土 1aに似るが微土・ロームが多い。
2. ローム小ブロック+暗褐色小ブロック。

II-B区108号土坑



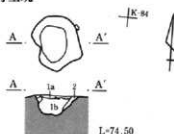
1. におい黄褐色土 ローム小ブロック強じる。硬く踏み締まる。
炭土粒・灰・炭化物粒を含む。住居跡床。
2. 褐色土 As-C細粒・ロームブロックを含む。
3. 黒褐色土 ロームブロック+黒褐色土。
4. 褐色土 ロームブロックを含む。

I-B区36号土坑



1. 暗黒褐色土 As-B主体(90%以上)。土器を含む。締まり強く、土質粗。炭化物(φ5~10mm)を少量含む。
2. 暗黄褐色土 ロームブロック主体(φ10~50mm)。As-B少量含む。

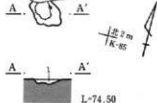
II-B区91号土坑



- 1a. 黒色土 As-Cを含む黒色土。粘性強い。鉄分の凝集・土器片を多く含む。
1b. 黒色土 As-Cを含む黒色土。粘性強い。
2. ローム小ブロック+1bブロック。

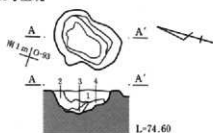
I-A区

92号土坑

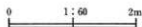


1. 黒褐色土 ローム塊をやや多く含む。As-C軽石をわずかに含む。

I-A区121号土坑



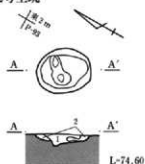
1. 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。白色軽石粒を含む。
2. 黒褐色土 1に似るがロームブロック少なく、締まりやや弱い。
3. 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。締まりやや弱い。
4. 暗褐色土 ロームブロック主体。



第313図 I・II区の土坑(1)

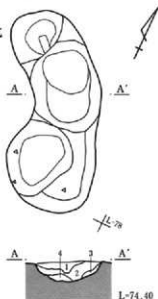
第3章 調査の内容

I-A区122号土坑



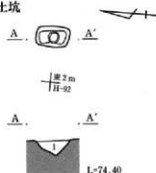
1. 暗褐色土 ローム粒・白色輝石粒(As-C)を若干含む。締まり良。
2. 暗黄褐色土 ロームブロックを多く含む。締まり良。

II-B区 143号土坑



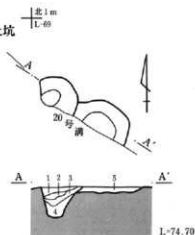
1. 灰色土 白色輝石粒(Hr-FP?)・ローム粒を含む。
2. 灰色土 地山ロームブロックを少量含む。
3. 黄灰褐色土 地山ローム主体。黒色土を若干含む。
4. 黄灰褐色土 地山ローム主体。

I-B区60号土坑



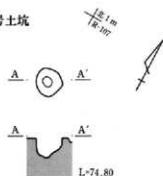
1. 暗黒褐色土 As-Bを90%以上含む。締まり弱く、土質は粗い。

II-B区 134号土坑

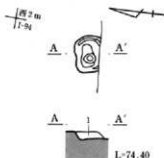


1. 灰褐色土 細砂(As-B?)を少量含む。やや砂質。締まり良。
2. 暗灰褐色土 地山褐色粘質土ブロックを含む。粘性弱い。
3. 灰褐色土 1に似るが、砂が少ない。
4. 暗灰褐色土 地山褐色粘質土ブロックを含む。2より色調暗い。
5. 135土坑埋設土

I-A区23号土坑

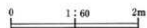


I-B区61号土坑

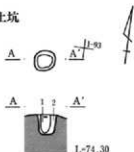


1. 暗黒褐色土 As-Bを60%以上・ロームブロックを30%含む。
φ15×20×10cmの石あり。

第314図 I・II区の土坑(2)

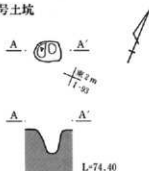


I-B区117号土坑

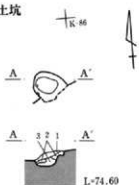


1. 褐色土 As-Bを少量含む。
2. にぶい黄褐色 粘性強い。締まりあり。

I-B区118号土坑

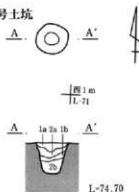


II-B区141号土坑



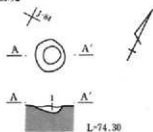
1. 暗褐色土 ローム粒・白色土粒・焼土粒を含む。
2. 黄褐色土 ローム主体。褐色土を少量含む。締まりあり。
3. 褐色土 焼土粒・ローム粒を多量に含む。

II-B区142号土坑



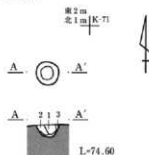
- 1a. 褐色土 ローム粒・褐色小ブロック含む。やや人為的。
- 1b. 褐色土 ロームブロックと褐色ブロック。
- 2a. 暗褐色粘質土 As-Cを含む黒色土をわずかに含む。
- 2b. 暗褐色粘質土 As-Cを含む黒色土をわずかに含む。

II-B区150号土坑



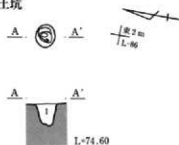
1. 灰褐色土+黄褐色土 砂を含む。締まりほとんどなし。

II-B区151号土坑

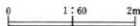


1. 黒褐色土 As-Cブロックを若干含む。
2. 黒褐色土 粘質土ブロック・ローム粒をわずかに含む。
3. 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。

II-B区156号土坑



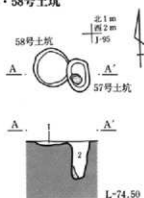
1. 黒褐色土 φ1~2mmのAs-Cを含む。土質均一。わずかにロームブロックあり。



第315図 I・II区の土坑(3)

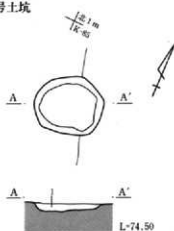
第3章 調査の内容

I-B区57号・58号土坑



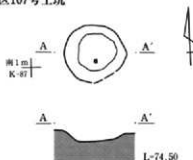
1. 暗黒褐色土 As-Bを60%以上・ロームブロックを30%含む。
(I-B区58号土坑埋没土)
2. 暗褐色土 As-B・ローム・シルト・黒色土を含む。
底部に石あり(I-B区57号土坑埋没土)

II-B区81号土坑

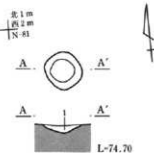


1. ロームブロック+黒褐色土+褐灰色土ブロック。

II-B区107号土坑

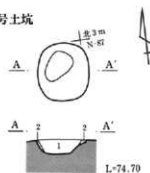


II-B区 79号土坑



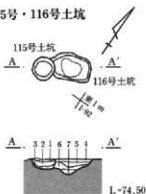
1. 暗褐色土 As-Bを含む黒色土。粘土小ブロックが混じる。

II-B区85号土坑

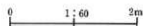


1. As-Cを含む黒色土。ロームブロックが混じる。
2. 大小ロームブロック。黒色土をわずかに含む。張り込まれた土。

I-B区115号・116号土坑

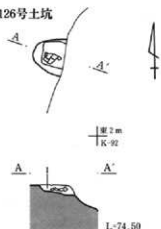


1. 暗褐色土 As-B・黄褐色土ブロック(3%)を含む。粘性少ない。
2. 暗褐色土 As-B含む。黄褐色土ブロック(φ10mm)を5%含む。
3. 暗褐色土 As-B含む。黄褐色土を極少量含む。
4. 暗褐色土 As-Bを含む。黄褐色土ブロックを極少量含む。粘性少ない。
5. 暗褐色土 As-B含む。黄褐色土粒を極少量含む。
6. 暗褐色土 As-B含む。褐色土ブロック(φ10mm)を3%含む。粘性少しあり。
7. 暗褐色土 As-B含む。5に似るが褐色土が多く粘性強い。



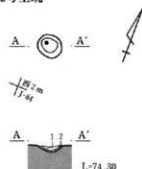
第316図 I・II区の土坑(4)

I-B区126号土坑



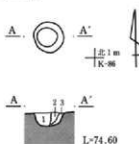
1. 暗褐色土 白色バミス(φ5mm)を少量含む。ローム粒(φ3mm)を少量含む。焼けた粘土(土器?)出土。締まり良。土質密。

II-B区152号土坑



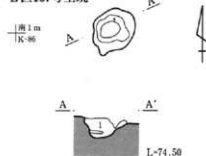
1. 灰色土 砂。締まりなし。
2. 灰褐色土+黄褐色土粒。

II-B区153号土坑



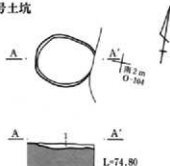
1. 黒褐色土 As-Cをわずかに含む。ローム小ブロックを環状に含む。
2. 黒褐色土 ブロック+ロームブロック。
3. ローム主体 黒褐色土ブロックを含む。

II-B区157号土坑



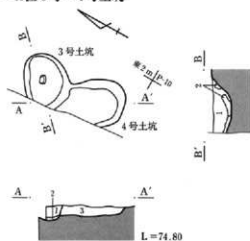
1. 暗褐色土 白色紅石粒・ロームブロックを多く含む。炭化物粒・焼土粒を少し含む。

I-A区2号土坑

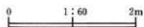


1. 黒褐色土 As-B・黒色土・ローム小ブロックを含む。

I-A区3号・4号土坑



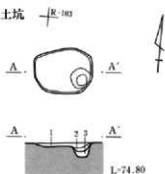
1. 黒褐色土 As-Bが混じる黒色土ブロック・ローム中小ブロックを含む。
2. ロームブロック 張り込まれたか。
3. 黒褐色土 As-Bを含む黒色土。ロームブロックを環状に含む。



第317図 I・II区の土坑(5)

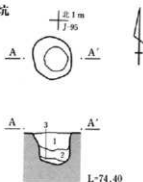
第3章 調査の内容

I-A区27号土坑



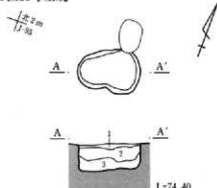
1. 黒褐色土 As-Bを含む黒褐色土。
2. 黒色土 As-Bを含む黒色土。
3. 柱穴埋設土。

I-B区28号土坑



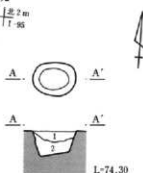
1. 暗黒褐色土 As-B主体(90%以上)。締まり弱く土質粗い。
2. 暗黒褐色土 As-Bを60%、ロームブロックを30%含む。
3. 黄褐色土 ロームを多く含む。

I-B区29号土坑



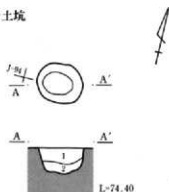
1. 暗黒褐色土 As-Bを60%、ロームブロックを30%含む。
2. 暗黄褐色土 1に似るが、As-Bが多い(60%)。
3. 黄褐色土 ロームを多く含む。

I-B区37号土坑



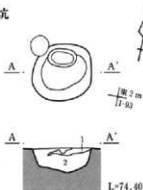
1. 暗黒褐色土 As-B主体(90%以上)。締まり弱く、土質粗い。
2. 暗黄褐色土 ロームブロック(φ10~50mm)主体。As-Bを少量含む。

I-B区42号土坑

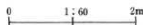


1. 暗褐色土 As-Bを60%、ロームブロックを30%含む。
2. 黄褐色土 ロームを多く含む。

I-B区43号土坑

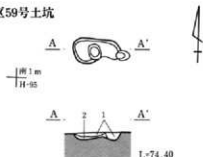


1. 暗黄褐色土 ロームブロック(φ10~50mm)主体。As-Bを少量含む。
2. 暗黒褐色土 As-Bを60%、ロームブロックを30%含む。



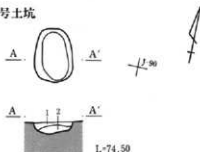
第318図 I・II区の土坑(6)

I-B区59号土坑



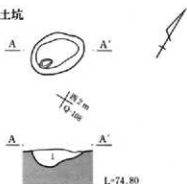
1. 暗黒褐色土 As-Bを60%、ロームブロックを30%含む。
2. 黄褐色土 ロームを多く含む。

I-B区67号土坑



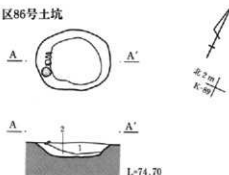
1. 暗黒褐色土 As-B主体(90%)。炭化物・ローム粒を含む。粘り弱く、土質粗い。
2. 暗黄褐色土 ロームブロック(φ10~50mm)主体。As-Bを60%程含む。

I-A区72号土坑



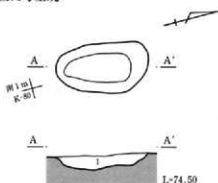
1. 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒をわずかに含む。土質均質。

I-B区86号土坑



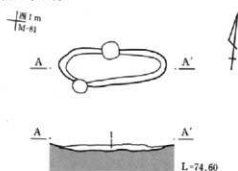
1. におい黄褐色土 As-Cを含む黒色土のくすんだブロック+ローム小ブロック+ローム層位別。
2. 黒色土+ローム小ブロック+As-Cを含む黒色土のくすんだブロック。

II-B区76号土坑

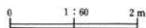


1. 褐灰色土 As-Bを含む黒色土。

II-B区78号土坑

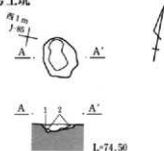


1. 暗褐色土 As-Bを含む黒色土。粘土小ブロックが混じる。



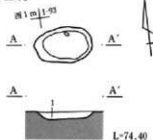
第3章 調査の内容

II-B区95号土坑



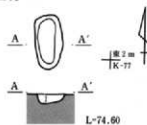
1. As-Cを含む黒色土 ローム粒を少量含む。
2. ロームブロック主体。

I-B区119号土坑



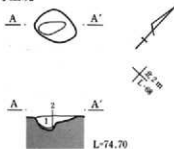
1. 泥炭+地山(As-YPアッシュ)ブロック

II-B区131号土坑



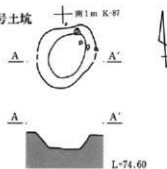
1. As-Bを含む黒色土。ザクザクした土。

II-B区135号土坑

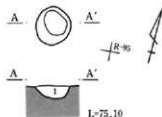


1. 暗灰褐色土 As-Bブロックを含む。締まりややあり。
2. 黄褐色土 地山ブロック主体。

II-B区100号土坑

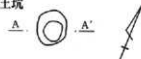


I-A区123号土坑

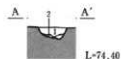


1. 黒褐色土 白色パミス(φ2~5mm)・ロームシルトブロックを含む。ローム粒(φ~3mm)を少量含む。粘性強い。

II-A区133号土坑

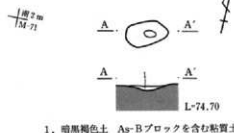


直径1m
1.07m

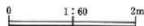


1. 暗灰褐色土 ローム粒・白色軽石粒を含む。締まり良。
2. 灰褐色土 細粒均質。粘性あり。締まり良。底部小礫あり。

II-B区136号土坑

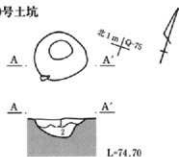


1. 暗黒褐色土 As-Bブロックを含む粘質土。



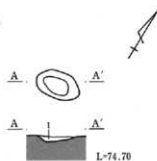
第320図 I・II区の土坑(8)

II-A区139号土坑



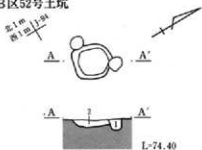
1. 暗灰褐色土 ローム粒を若干含む。やや砂質。
2. 暗灰褐色粘質土 炭化物粒をわずかに含む。1より灰色。

II-B区
137号土坑



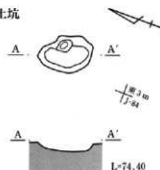
1. 暗黒褐色土 As-Bブロックを含む粘質土。

I-B区52号土坑

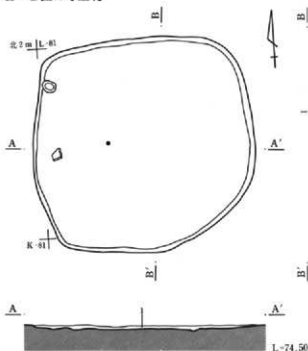


1. 暗黒褐色土 As-Bを60%、ロームブロックを30%含む。
2. 暗黄褐色土 ロームブロック(φ10~50mm)主体。As-Bを少量含む。柱穴埋没土か。

II-B区140号土坑

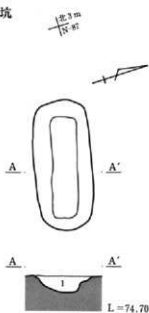


II-B区77号土坑

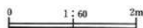


1. 褐灰色土 As-Bを含む黒色土。掘り跡出土。

II-B区84号土坑



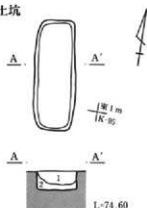
1. As-Cを含まない黒色土ブロック・ローム小ブロックを凝に含む。



第321図 I・II区の土坑(9)

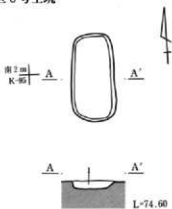
第3章 調査の内容

I-B区5号土坑



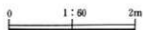
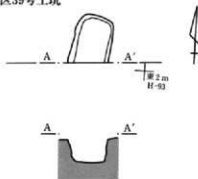
1. ロームブロックを多量に含む。As-Bを含む黒色土が混じる。
2. 黒褐色土 As-Bを含む黒色土。黄褐色ロームブロック(φ10~30mm)を断状に含む。(一括埋土)。

I-B区8号土坑

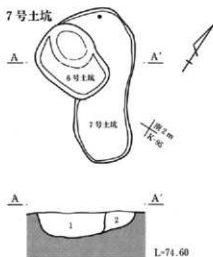


1. 黒褐色土 As-Bを含む黒色土。黄褐色ローム小ブロック(φ10mm弱)を含む。(一括埋土)。

I-B区39号土坑

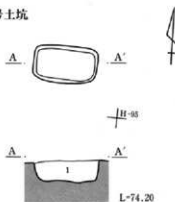


I-B区6号・7号土坑



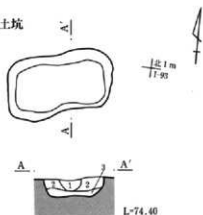
1. 黒褐色土 As-Bを含む黒色土。黄褐色土ローム小ブロック(φ10mm弱)を含む。(一括埋土)。(6土坑埋没土)。
2. 黒褐色土 As-Bを含む黒色土。黄褐色ロームブロック(φ10~30mm)を断状に含む。(一括埋土)。(7土坑埋没土)。

I-B区35号土坑



1. ローム・シルトブロック(φ5~30mm)を含む。炭化物(φ5~10mm)を少量含む。

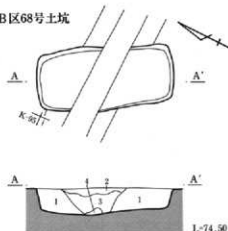
I-B区40号土坑



1. 18埋没土
2. 暗黄褐色土 ロームブロック(φ10~50mm)主体。As-Bを少量含む。
3. 暗黒褐色土 As-B主体(90%)。綿まり弱く、土質粗い。

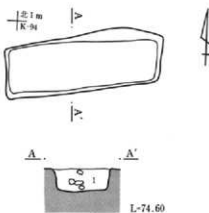
第322図 I・II区の土坑(10)

I-B区68号土坑



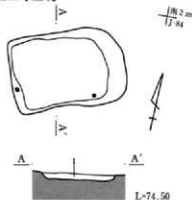
1. 暗黒褐色土 As-Bを60%、ロームブロックを30%含む。
2・3・4 近世溝埋没土

I-B区73号土坑



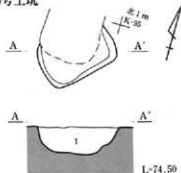
1. 暗黄褐色土 ロームブロック(φ10~50mm)を多く含む。As-Bを少量含む。

II-B区82号土坑



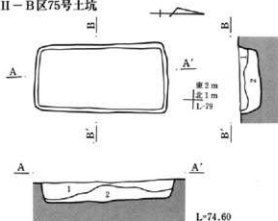
1. ロームブロック+黒褐色土+褐灰色土ブロック。

I-B区69号土坑



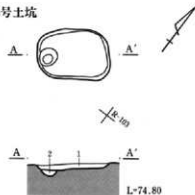
1. 暗黒褐色土 As-B主体(90%)。ロームブロック(φ5~80mm)を多く含む。締まり弱く、土質粗い。

II-B区75号土坑

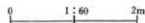


1. 褐灰色土 As-Bを含む黒色土。
2. 褐灰色土 As-Bを含む黒色土。地山ブロックを散状に含む。(As-B下層暗褐色粘土)

I-A区26号土坑

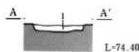
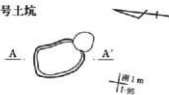


1. 黒褐色土 As-Bを含む黒褐色土。
2. 黒色土 As-Bを含む黒色土。2 獨立柱建物柱穴埋没土。



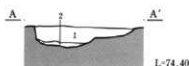
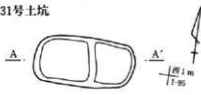
第3章 調査の内容

I-B区30号土坑



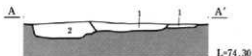
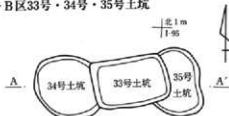
1. 暗黒褐色土 As-Bが主体(90%以上)。締まり弱く、土質粗い。

I-B区31号土坑



1. 暗黒褐色土 As-Bを60%、ロームブロックを30%含む。
2. 暗黄褐色土 ロームブロック主体(φ10~50mm)。As-Bを少量含む。

II-B区33号・34号・35号土坑



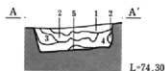
1. 暗黒褐色土 As-B主体(90%)。締まり弱く、土質粗い。
32・33土坑埋没土はあまり差がなかった。
2. 暗黒褐色土 As-Bを60%、ロームブロックを30%含む。

I-B区44号 ・45号土坑



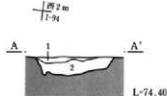
1. 暗黄褐色土 ロームブロック(φ10~50mm)主体。
As-Bを少量含む。
2. 暗黒色粘質土 ローム・シルト主体。As-Bを含む。
粘質土が多い。

I-B区62号土坑

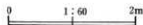


1. 暗褐色土 As-B主体。As-Aも含んでいるか？
2. 暗黄褐色土 As-A?を少量含む。ローム粒(φ5~10mm)・シルトを斑状に含む。粘性高い。土器片出土。
3. 暗黒褐色土 As-B主体(90%)。締まり弱く、土質粗い。
4. 暗黄褐色土 As-Bを多く含む。ローム・シルトを斑に含む。土器片(須恵器)出土。
5. 暗黄褐色土 4に似るがシルトが多い。粘質。

I-B区46号土坑

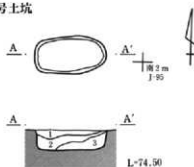


1. 暗黒褐色土 As-Bを60%、ロームブロックを30%含む。
2. 暗黄褐色土 ロームブロック(φ10~50mm)主体。
As-Bを少量含む。



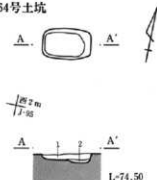
第324図 I・II区の土坑(12)

I-B区63号土坑



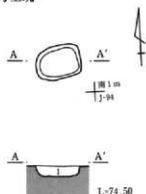
1. 暗黄褐色土 ロームブロック(φ10~50mm)主体。As-Bを少量含む。
2. 暗黒褐色土 As-Bを60%、ロームブロックを30%含む。
3. ロームブロック含む。As-Bを少量含む。

I-B区64号土坑



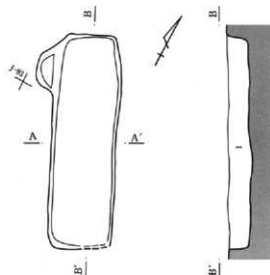
1. 暗黒褐色土 As-Bを60%、ロームブロックを30%含む。
2. 暗褐色粘質土 ローム・シルト主体。As-Bを含む。粘性強い。

I-B区65号土坑

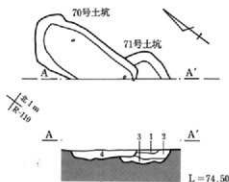


1. 暗黒褐色土 As-Bを60%、ロームブロックを30%含む。

I-B区66号土坑

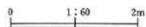


I-A区70号・71号土坑



1. 暗褐色土 ローム小ブロック・灰・炭化物・鉄分の凝集を含む。
2. 暗褐色土 ローム小ブロックをやや多く含む。鉄分の凝集を含む。
3. 暗褐色土+ローム小ブロック。
4. 暗褐色土 As-Cに似た細粒軽石が混じる。焼土・炭化物粒・土器片をわずかに混じる。

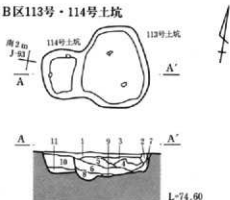
1. 暗褐色土 黒色土を多く含む。As-B・ロームブロック(φ10~50mm)含む。複数の土坑の重複の可能性もあるが、埋没土は分層できず短時間に埋められたものと考えられる。



第325図 I・II区の土坑(11)

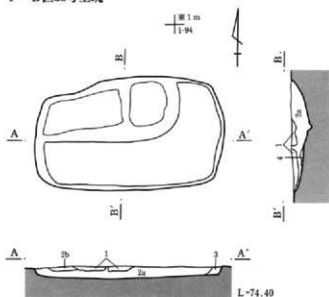
第3章 調査の内容

I-B区113号・114号土坑



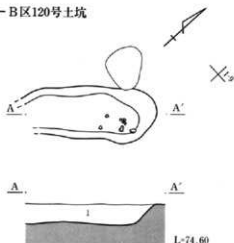
1. 暗褐色土 白色軽石粒・As-B?を含む。粘性なく、もろい。
2. 暗褐色土 締まりなし。粘性なし。
3. 暗褐色土 As-B主体。褐色土ブロック(φ10mm)を3%含む。締まりなし。
4. 暗褐色土 暗褐色土主体。As-Bを少量含む。
5. 暗褐色土 4に似るが、As-Bが少なく、締まりがない。
6. 暗褐色土 11に似るが、黄褐色土が少ない(3%程度)。
7. 暗褐色土 粘性強い。しまり強い。
8. 暗褐色土 11に似るが、黄褐色土少なく5%程度。締まりあり。粘性なし。
9. 褐色土 黄褐色土ブロック(φ10mm)を少量含む。締まりあり。粘性強い。
10. 暗褐色土 As-B主体+褐色土。黄褐色土ブロック(φ10mm)を7%含む。粘性少しあり。
11. 暗褐色土 10に似るがAs-Bが少なく、粘性強い。黄褐色土ブロックを2%程度含む。

I-B区38号土坑



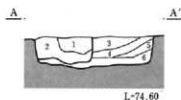
1. 黄褐色土 ローム(φ10~50mm)を泥に多く含む。As-Bを含む。
- 2a. 暗黄褐色土 ローム(φ5~10mm)を含む。As-Bを多く含む。
- 2b. 暗黄褐色土 2aに似るがAs-Bが多い。
3. 黒褐色土 2aに似るがロームが少なく、As-Bが多い。
4. 暗黄褐色土 2aに似るがロームが多い。

I-B区120号土坑

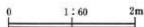


1. 泥炭+堆山(As-YPアッシュ)ブロック

I-B区9号・10号土坑

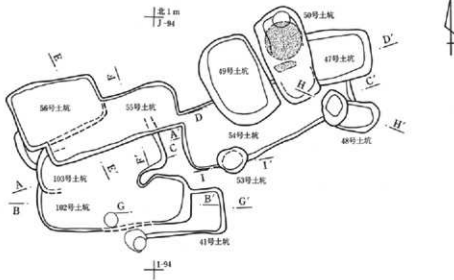


1. 黒褐色土 As-Bを含む黒色土。黄褐色ローム小ブロック(φ10mm弱)含む。(一括埋土)。
2. 黒褐色土 1に似るが黄褐色ロームブロック(φ10~30mm)を断状に含む。(一括埋土)。
3. 灰黄色粘土ブロック+黄褐色ロームブロック(φ10~30mm大)。As-Bを含む黒色土。
4. ロームブロックを多量に含む。As-Bが強じる。
5. 4に似るが、各ブロック大きい(φ10~50mm)。
6. 不明



第326図 I・II区の土坑(14)

I-B区



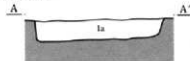
54号土坑



102号土坑



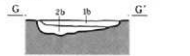
103号土坑



53号土坑



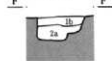
41号土坑



48号土坑



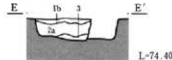
55号土坑



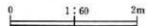
49号土坑 50号土坑 47号土坑



56号土坑



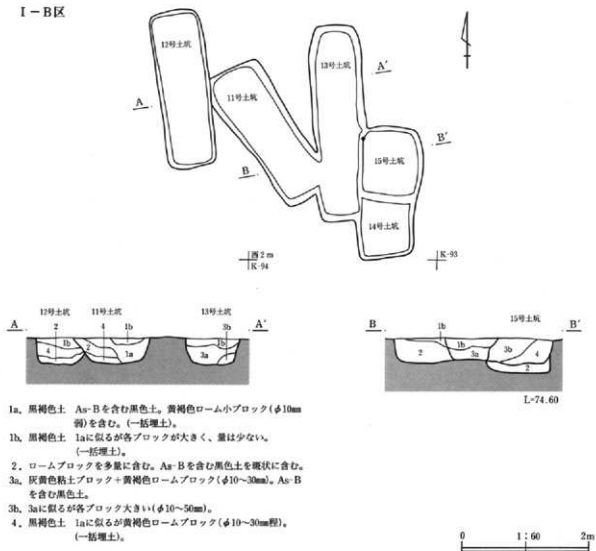
- 1a. 黒褐色土 As-B・ロームブロック・シルトブロックを多く含む。
 1b. 暗黒褐色土 As-Bを60%、ロームブロックを30%含む。
 2a. 暗黄褐色土 ロームブロック(φ10~50mm)主体。As-Bを少量含む。
 2b. 暗黄褐色土 2aに似るがAs-Bが多い。埋没土ほど差がなく、As-Bの振じり具合、ローム粒の大きさ・量によって判断した。
 3. 黄褐色土 ロームを多く含む。



第327図 I・II区の土坑(15)

第3章 調査の内容

I-B区

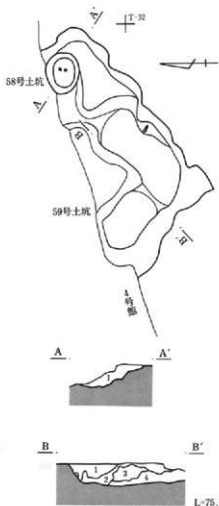


- 1a. 黒褐色土 As-Bを含む黒色土。黄褐色ローム小ブロック(φ10mm程)を含む。(一括埋土)。
- 1b. 黒褐色土 1aに似るが各ブロックが大きく、量は少ない。(一括埋土)。
2. ロームブロックを多量に含む。As-Bを含む黒色土を塊状に含む。
- 3a. 灰黄色粘土ブロック+黄褐色ロームブロック(φ10~30mm)。As-Bを含む黒色土。
- 3b. 3aに似るが各ブロック大きい(φ10~50mm)。
4. 黒褐色土 1aに似るが黄褐色ロームブロック(φ10~30mm程)。(一括埋土)。

第328図 I・II区の土坑(15)

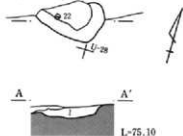
III・IV区土坑

IV-A区58号・59号土坑



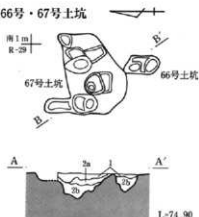
1. 黒褐色土 地山黄褐色砂ブロックを少し含む。
2. 暗褐色土 地山黄褐色砂ブロックを多く含む。
3. 暗褐色土 地山黄褐色砂ブロックを主体、2を含む。
4. 黄褐色砂 地山黄褐色砂ブロックの再堆積。

IV-A区114号土坑



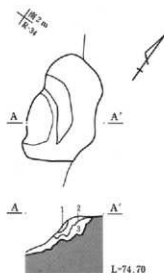
1. によい黄褐色土 As-Bを含む黒色土。砂質ロームブロックが混じる。

IV-A区66号・67号土坑



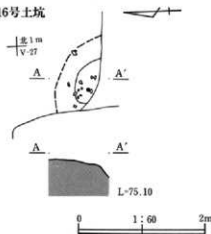
1. 褐灰色土 As-Bを含む黒色土。ローム粒をわずかに含む。締まり良。
- 2b. 褐灰色土 As-Bを含む黒色土。ローム大ブロックが点在する。2a、1bに似るがロームブロックが多い。

IV-A区 76号土坑



1. 黒灰色粘質土 灰色粘質シルトブロック含む。締まり良。
2. 黒褐色土 白色粒石粒(As-C)・地山ローム粒を若干含む。
3. 黒褐色土 2に似るが軽石・ロームが多い。

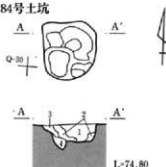
IV-A区116号土坑



第329図 III・IV区の土坑(1)

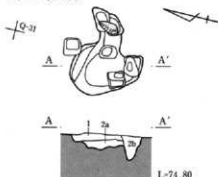
第3章 調査の内容

IV-A区84号土坑



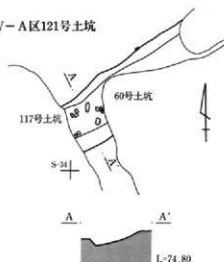
1. 暗褐色土 白色軽石粒(As-B?)を若干含む。ロームブロックを少量含む。
2. 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
3. 暗褐色土 1に似るがロームが多く、軽石少ない。
4. 黄褐色土 ロームブロック主体。

IV-A区92号土坑

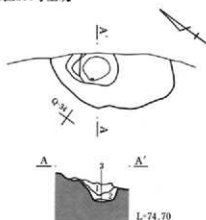


1. 褐灰色土 As-Bを含む黒色土。ローム小ブロックを含む。
- 2a. As-Bを含む黒色土。ローム中小ブロックを多く含む。
- 2b. 粉砕されたローム中小ブロック。黒褐色土ブロックを含む。

IV-A区121号土坑

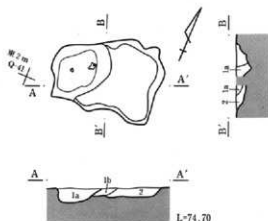


IV-A区130号土坑



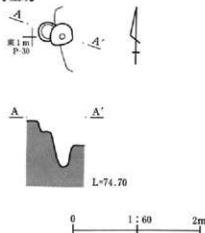
1. 暗褐色砂質土 多量の砂を含む。白色軽石・ローム粒を若干含む。127号土坑埋没土より黒色。
2. 暗褐色粘質土 ロームブロックをわずかに含む。締まり良。粘性強い。
3. 黄褐色粘質土 ロームブロックを少量含む。締まり良。粘性強い。

IV-A区126号土坑



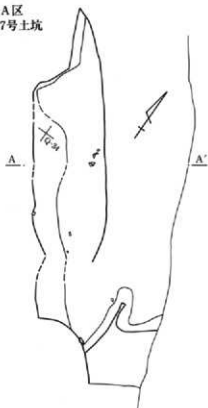
- 1a. 灰褐色土 Hr-FP泥流起源の白色軽石粒(φ10~30mm)を斑点状に含む。粘性強い。硬質。自然埋没土。
- 1b. 灰褐色土 1aに似るが、地山ローム小ブロックを含む。
2. にぶい黄褐色土 地山ロームブロック+1aブロック。

IV-A区77号土坑



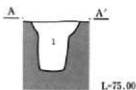
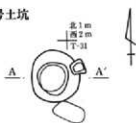
第330図 III・IV区の土坑(2)

IV-A区
127号土坑

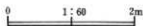


1. 暗褐色砂質土 砂を多量に含む。白色軽石を少量含む。

IV-A区57号土坑



1. 黒色土 As-Bを含む黒色土。ローブロックをわずかに含む。細粒軽石粒(As-B風)混じりややザラつく。



IV-A区119号土坑

北1m
西2m
T-32



1. 黒褐色土 As-Cを含む黒色土。焼土・炭化物粒・土器片を含む。締まり弱い。

IV-A区
120号土坑



北1m
西2m
T-32

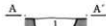


1. 黒褐色土 As-Cを含む黒色土。焼土・炭化物粒・土器片を含む。締まり弱い。
2. にぶい褐色土 締まり弱い。漸位層。

III-A区4号土坑



北2m
西2m
T-29



1. 灰褐色砂質土 白色軽石粒(Hr-PP?)を少量含む。

IV-A区6号土坑



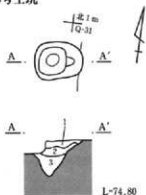
北2m
西2m
T-29



第331図 III・IV区の土坑(1)

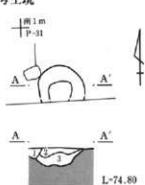
第3章 調査の内容

IV-A区93号土坑



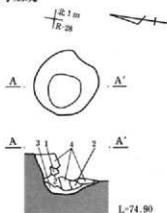
- 1・2. 3号型穴状遺構埋没土。
3. 粉砕されたローム中小ブロック。黒褐色土ブロックを含む。

IV-A区94号土坑



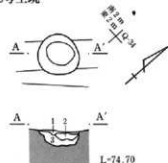
1. 3号型穴状遺構埋没土。
2. 黒褐色砂質土 ローム粒・白色軽石粒(As-B)を若干含む。
3. 黒褐色砂質土 ロームが多く、粒が大きい。

IV-A区108号土坑



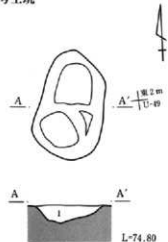
1. 地山砂礫ブロック主体。暗褐色土を含む。
2. 暗褐色土 地山砂礫ブロックを少量含む。
3. 暗褐色土 地山ブロックが少ない。粘性弱い。
4. 地山ブロック。

IV-A区128号土坑



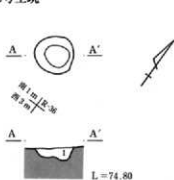
1. 暗褐色土 白色軽石(As-C)を少量含む。粘質土ブロック含む。
2. 暗褐色土 白色軽石(As-C)をわずかに含む。粘性あり。
3. 黒褐色土 白色軽石(As-C)をわずかに含む。粘性強い。

III-A区3号土坑

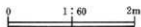


1. 灰褐色砂質土 As-Cを含む黒色土ブロック含む(地山)。白色軽石粒(Hr-FP?)を少量含む。

IV-A区129号土坑

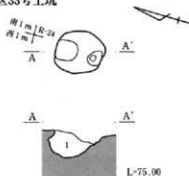


1. 暗褐色土 白色軽石(Hr-FP?)をわずかに含む。黒褐色粘質土ブロック・ローム・灰色シルトを含む。



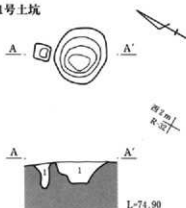
第332図 III・IV区の土坑(4)

IV-A区33号土坑



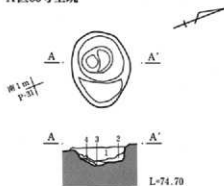
1. 灰黄褐色土+ローム大小ブロック+褐灰色土ブロック。
(一括埋土)。

IV-A区71号土坑



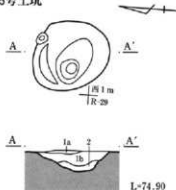
1. 暗褐色土 As-Cを含む黒色土。地山ロームブロック(φ10~40mm)多く含む。

IV-A区85号土坑



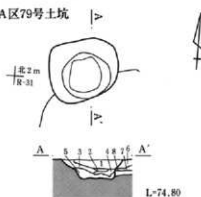
1. 暗褐色土 白色軽石粒(As-B?)・ロームブロックを多く含む。
2. 暗褐色土 1に似るがロームが少ない。
3. 黒褐色土 ロームをわずかに含む。粘性弱い。
4. 暗褐色土 1に似るがロームが多い。

IV-A区65号土坑



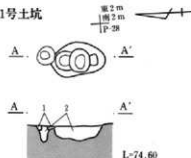
- 1a. 褐灰色土 As-Bを含む黒色土。ローム粒をわずかに含む。
締まり良。
1b. 褐灰色土 As-Bを含む黒色土。ローム大ブロックが点在する。
2. ロームブロック+地山砂質土。掘削時の掘り残し又は壁の崩落。

IV-A区79号土坑

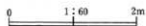


1. 暗褐色土 白色軽石粒(As-C)・ローム粒を若干含む。
2. 暗褐色土 軽石が少ない。ロームブロックを含む。
3. 暗褐色土 軽石を若干含む。ロームブロックを多く含む。
4. 暗褐色土 3層に似るが、ロームが少ない。
5. 暗褐色土 ロームブロック主体。
6・7・8. 2号窓穴状遺構埋没土。

IV-A区91号土坑



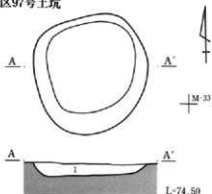
1. 褐灰色土 炭化物を含む。ローム粒・ローム小ブロックをわずかに含む。
2. ロームブロック主体。As-Bを含む黒色土ブロックを含む。



第333図 III・IV区の土坑(5)

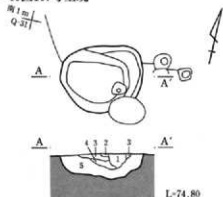
第3章 調査の内容

IV-B区97号土坑



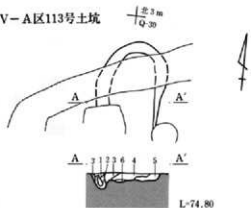
1. 暗褐色粘質土 白色バミスを含む。ローム・シルトブロックを斑状に多く含む。

IV-A区107号土坑



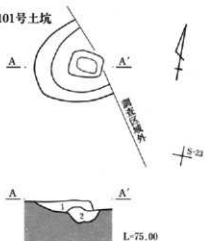
1. 暗褐色土 As-B・ローム粒を含む。(ビット埋設土)
2. 黒色土 白色軽石(As-C)を含む。
3. 黒褐色土 白色軽石(As-C)・ローム粒を含む。
4. 黒褐色土 白色軽石・ローム粒をわずかに含む。粘性弱い。
5. 黒褐色土 ローム粒を含む。白色軽石(As-C)を少量含む。粘質土ブロックをわずかに含む。下層に粘質土あり。

IV-A区113号土坑



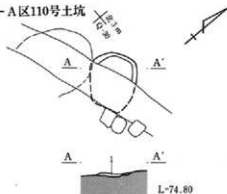
1. 暗褐色土 ローム粒を少量含む(ビット埋設土)
2. 濃い黄褐色土 ローム+灰色粘質土(ビット埋設土)
3. 暗褐色土 ローム粒・焼土をわずかに含む(ビット埋設土)
4. 黒褐色土 ローム粒を少量含む。
5. 未註記
6. 暗褐色土 ロームブロック斑状に含む。

IV-A区101号土坑



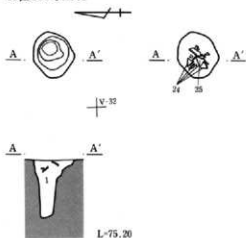
1. 黒褐色土 白色軽石・ロームブロックをわずかに含む。
2. 暗褐色土 白色軽石を少量含む。ロームブロックを多く含む。

IV-A区110号土坑



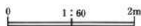
1. 暗褐色土 灰が層状に堆積。ロームを若干含む。

IV-A区118号土坑

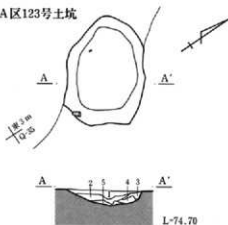


1. 暗褐色砂質土 As-Bを少量含む。ローム粒をわずかに含む。

第344図 III・IV区の土坑(6)

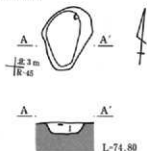


IV-A区123号土坑



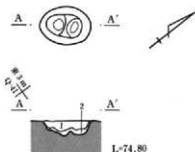
1. 暗褐色土 砂・白色輝石(Hr-FP?)を少量含む。
2. 暗灰色粘質土 白色輝石・ロームわずかに含む。締まり良。土質均質。
3. 暗褐色土 砂・白色輝石・ロームを少量含む。
4. 暗褐色土 白色輝石・砂を若干含む。ローム混入。粘性あり。
5. 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。粘性あり。

IV-A区132号土坑



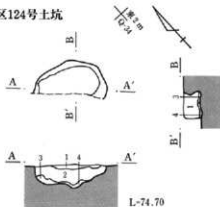
1. 灰褐色粘質土 白色輝石(As-C+Hr-FP)をわずかに含む。硬くしまる。

IV-A区138号土坑



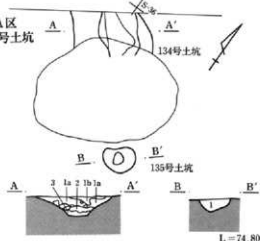
1. 灰褐色粘質土 Hr-FP程度起源の洪水砂か?
2. 灰褐色土 ロームブロック+1層ブロック・As-Cを含む黒褐色土ブロック。

IV-A区124号土坑



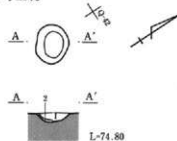
1. 4層埋没土。
2. 暗褐色土 白色輝石(Hr-FP+As-C)を多く含む。
3. 暗灰色土 ロームブロックを若干含む。粘性弱い。
4. 暗灰色土 ロームブロックを少量含む。粘性弱い。

IV-A区
135号土坑

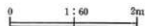


- 1a. 暗黒褐色土 白色パミス(As-BorHr-FP?)を含む。ローム粒・ロームブロック(φ10~50mm)を含む。
- 1b. 暗黒褐色土 1に似るが白色パミスが多い。上層から攪乱か。
2. 暗黒色土 細砂・黒色土を層位的に含む。水成堆積か。
3. 明黄褐色土 ロームブロック主体。黒色土ブロックを少量含む。

IV-A区137号土坑



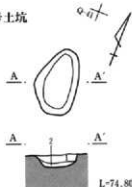
1. 暗灰褐色粘質土 白色輝石(Hr-FP?)を含む。締まり良。
2. 暗褐色粘質土 As-Cを含む黒色土ブロックを含む。締まり良。



第335図 III・IV区の土坑(7)

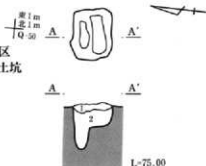
第3章 調査の内容

IV-A区139号土坑



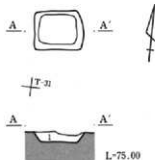
1. 灰褐色粘質土 Hr-FP泥流起源の洪水層か?
2. 灰褐色土 ロームブロック+1層ブロック・As-Cを含む黒褐色土ブロック。

III-A区
1号土坑



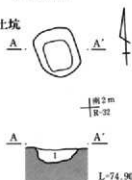
1. 暗灰色砂質土 地山粘質土ブロックを少量含む。綿まり良。
2. 暗灰色砂質土 地山粘質土ブロック+As-B。綿まりやや良。

IV-A区
52号土坑



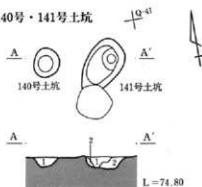
1. におい黄褐色土 ロームブロック(φ10~30mm)を多量に含む。(一括埋土)。

IV-A区70号土坑



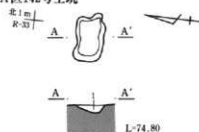
1. 暗褐色土 As-Cを含む黒色土。地山ロームブロック(φ20~80mm)を多く含む。

IV-A区140号・141号土坑



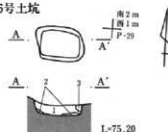
1. 灰褐色粘質土 Hr-FP泥流起源の洪水層か?
2. 灰褐色土 ロームブロック+1層ブロック・As-Cを含む黒褐色土ブロック。

IV-A区142号土坑



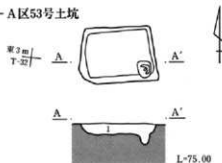
1. 暗褐色土 As-Cわずかに含む。土質均質。やや砂質。

IV-A区106号土坑

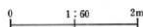


1. 黒褐色土 ロームブロックを若干含む。粘性弱い。
2. 暗褐色土 ロームブロック・灰色粘土を含む。
3. ロームブロック

IV-A区53号土坑

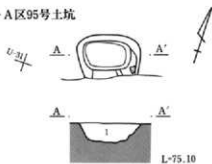


1. におい黄褐色土 ロームブロック(φ10~30mm)を多量に含む。(一括埋土)。



第336図 III・IV区の土坑(8)

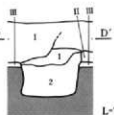
IV-A区95号土坑



1. 黒褐色砂質土 白色軽石(As-B)・地山黄褐色砂礫ブロックを含む。

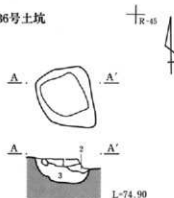


IV-A区
35号土坑



1. 褐色土 As-Bに似た細粒軽石を含む。ローム小ブロック・黒色土小ブロックを含む。
2. 褐色土・ローム大小ブロックを混れて含む。(一括埋土)。
I 現代の耕作土
II 暗黒褐色土
III ローム漸移層

IV-A区136号土坑



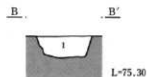
1. 暗灰褐色土 白色軽石(Hr-FP?)を少量含む。上層に鉄分の凝集層あり。
2. 暗灰褐色土 白色軽石(Hr-FP?)若干含む。
3. 暗灰褐色土 軽石をわずかに含む。締まり良。粘性弱。攪乱あり。

IV-A区11号土坑



1. 暗黒褐色土 黒色土主体。ロームブロック(φ5~30mm)を含む。

IV-A区
12号土坑

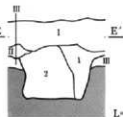


1. 暗黒褐色土 黒色土主体。ローム粒を含む。ロームブロック(φ5~30mm)を少量含む。

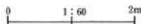


1. 暗黒黄褐色土 ロームブロック(φ5~50mm)・ローム粒を多く含む。
2. 不明

IV-A区
36号土坑



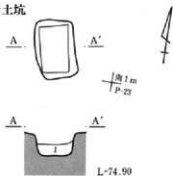
1. 灰黄褐色土。ローム小ブロックが入り混じる。(柱状)
2. ローム大小ブロック主体。灰褐色土・田層を含む。(一括埋土)。
I・II・III IV区35号土坑参照。



第337図 III・IV区の土坑(9)

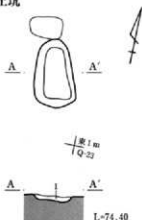
第3章 調査の内容

IV-A区30号土坑



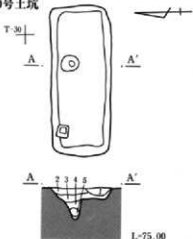
1. 黒褐色土 細粒白色軽石(φ1mm弱)・ローム小ブロックを斑状に含む。一括埋土と考えられるが短期間ではなく、時間差があると思われる。

IV-A区34号土坑



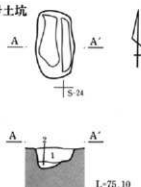
1. 黒褐色土 細粒白色軽石(φ1mm弱)・ローム小ブロックを斑状に含む。一括埋土と考えられるが短期間ではなく、時間差があると思われる。

IV-A区50号土坑



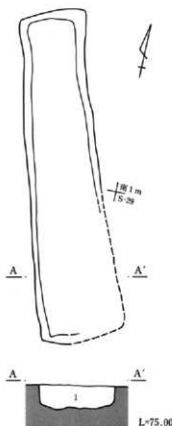
1. ぶい黄褐色土 ロームブロック(φ10~30mm)を多量に含む。
2. 褐色土 細粒軽石・ローム小ブロックを含む。
3. ぶい黄褐色土 1層に似るが、ローム粒がやや小さい。
(1・3一括埋土)
4. 細かいロームブロック主体。(柱穴埋没土)
5. 黒褐色土 ローム粒含む。締まり弱い。(柱穴埋没土)

IV-A区31号土坑

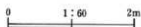


1. 黒褐色土 細粒白色軽石(φ1mm弱)・ローム小ブロックを斑状に含む。一括埋土と考えられるが短期間ではなく、時間差があると思われる。
2. 未注記

IV-A区49号土坑

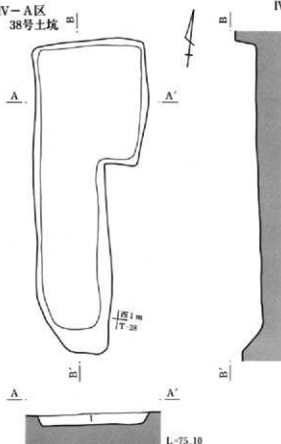


1. ぶい黄褐色土 ローム中小ブロック(φ1~3mm)を斑状含む。褐色土・細粒軽石(Aa-B)を含む。砂質。(一括埋土)。



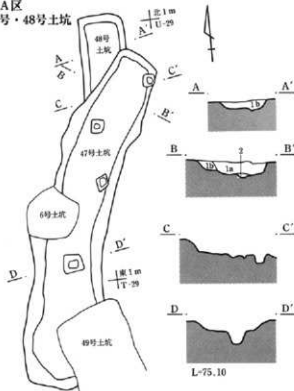
第330図 III・IV区の土坑(10)

IV-A区
38号土坑



1. 灰黄褐色土 ローム大ブロックを頂状に多く含む。軽石については不明。粘性あり。締まり弱い。ザラついた土。(一括埋土)。

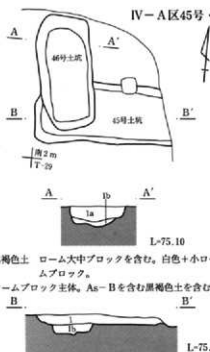
IV-A区
47号・48号土坑



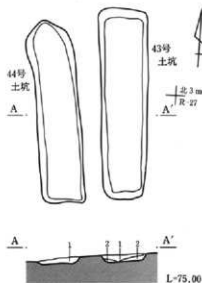
- 1a. 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。
1b. 黒褐色土 1aに似るが、ロームブロックが少ない。
2. 暗黄褐色土 ローム粒を含む。

IV-A区43号・44号土坑

IV-A区45号・46号土坑



- 1a. 黒褐色土 ローム大中ブロックを含む。白色+小ロームブロック。
1b. ロームブロック主体。As-Bを含む黒褐色土を含む。



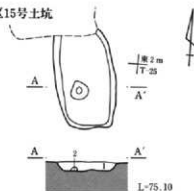
1. 黒褐色土 ローム大中ブロックを含む。白色軽石細粒+ロームブロック。
2. ロームブロック主体。As-Bを含む黒褐色土を含む。

0 1:60 2m

第339図 III・IV区の土坑(11)

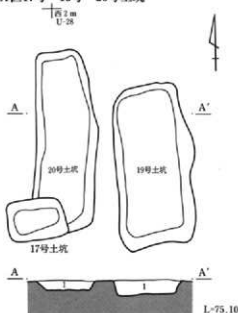
第3章 調査の内容

IV-A区15号土坑



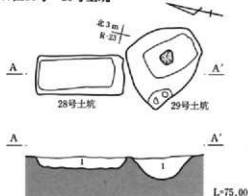
1. 暗黒褐色土 ローム(茶藨屑)を含む。焼土・炭化物を少量含む。
2. 暗黄褐色土 ローム粒を多く含む。焼土を少量含む。

IV-A区17号・19号・20号土坑



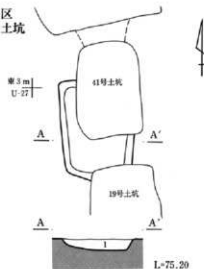
1. 暗黒褐色土 ロームブロック(φ5~50mm)を含む。

IV-A区28号・29号土坑



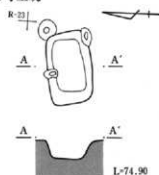
1. 黒褐色土 細粒白色礫石(φ1mm弱)・ローム小ブロックを斑状に含む。一括埋土と考えられるが短期間ではなく、時間差があると思われる。

IV-A区
18号土坑

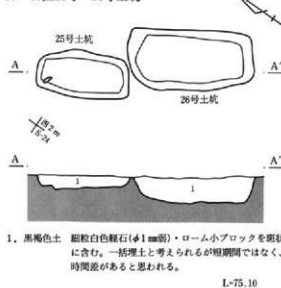


1. 暗褐色土 ロームブロック(φ5~50mm)を多く含む。

IV-A区27号土坑



IV-A区25号・26号土坑

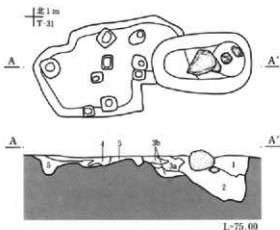


1. 黒褐色土 細粒白色礫石(φ1mm弱)・ローム小ブロックを斑状に含む。一括埋土と考えられるが短期間ではなく、時間差があると思われる。

0 1:60 2m

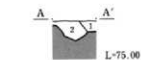
第340図 III・IV区の土坑(12)

IV-A区56号土坑



1. 黒褐色土 As-Bを含む黒色土。ローム小ブロックを含む。
2. 黒色土 As-Cを含む黒色土。ローム小ブロックを含む。
- 3a. ロームブロック+As-Bを含む黒色土。(一括埋土)。
- 3b. ロームブロック主体。As-Bを含む黒色土・細砂が混じる。
4. 黒褐色土 As-C・As-Bを含む黒色土ブロック、ローム小ブロックを含む。
5. 黒褐色土 4層に似るが、ローム小ブロックを多く含む。

IV-A区62号・63号
・64号土坑

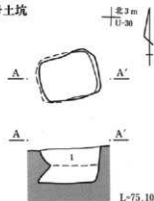


1. 4区63号土坑埋没土。
2. 黒褐色土 As-Bをわずかに含む。



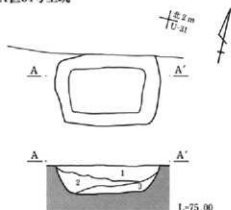
1. ぶい黄褐色土 As-Bを含む黒色土。ローム大小ブロックを含む。
2. 黒褐色土 As-Bを含む黒色土。ロームブロックを含む。

IV-A区51号土坑



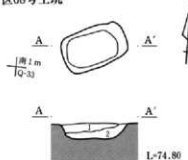
1. ぶい黄褐色土 ローム小ブロックを多量に含む。分層できなかったが上下に2つの土坑が重複していると考ええる。

IV-A区54号土坑

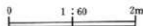


1. ぶい黄褐色土 ロームブロック(φ10~30mm)を多量に含む。
2. 細かいロームブロック主体。(一括埋土)。
3. ローム大ブロック(φ1~10cm)主体。

IV-A区68号土坑



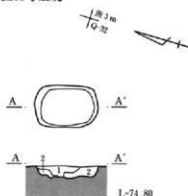
1. 暗褐色土 As-Cを含む黒色土。地山ロームを少量含む。
2. 暗褐色土 As-Cを含む黒色土。地山ロームブロック(φ10~20mm)を多く含む。



第341図 III・IV区の土坑(13)

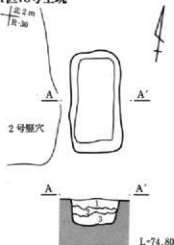
第3章 調査の内容

IV-A区69号土坑



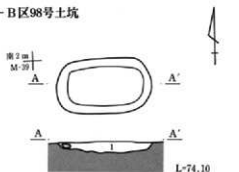
1. 暗褐色土 褐色土+As-C+地山ロームブロック。
2. 暗褐色土 1に似るが、ロームブロックが多い。

IV-A区78号土坑

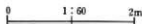


1. 暗褐色土 白色軽石を含む。ロームブロックを多く含む。
2. 暗褐色土 白色軽石を含む。ロームブロックを少し含む。
3. 暗褐色土 ロームブロック主体。白色軽石を含む。

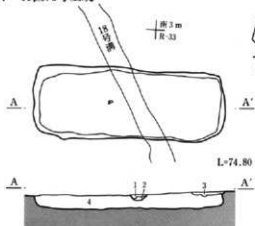
IV-B区98号土坑



1. 暗褐色土 As-Bを多く含む。ロームブロック(φ5~30mm)を含む。石あり。

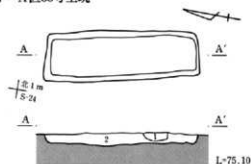


IV-A区73号土坑



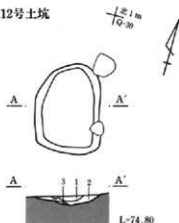
- 1・2 18溝埋設土。
3. 暗褐色土 白色軽石粒(As-B)・地山ロームブロックを含む。
4. 暗褐色土 白色軽石粒(Hr-FA?)・地山ロームブロックを多量に含む。

IV-A区88号土坑



1. 灰褐色砂質土 As-A・炭化物を含む。締まり良。
2. 暗褐色砂質土 As-A・ロームブロックを含む。締まり良。

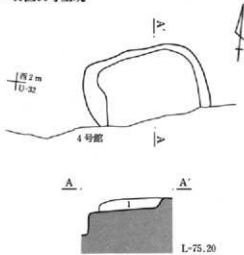
IV-A区112号土坑



1. 黒褐色土 ロームを若干含む。
2. 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。
3. 灰褐色粘質土 ロームブロックを少量含む。粘性あり。

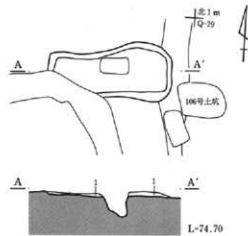
第342図 III・IV区の土坑(14)

IV-A区96号土坑



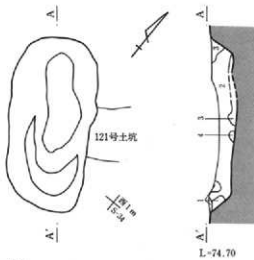
1. 暗褐色砂質土 白色軽石(As-B?)を含む。締まり良。

IV-A区109号土坑



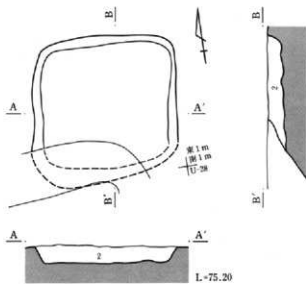
1. 暗褐色土 白色軽石(As-B)をわずかに含む。ローム粒を少量含む。

IV-A区117号土坑

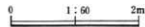


1. 擾乱。
2. 暗褐色土 As-C・ローム粒を少量含む。
3. 暗褐色土 As-Cをごくわずかに含む。ロームブロックを含む。
4. ロームブロック

IV-A区23号土坑

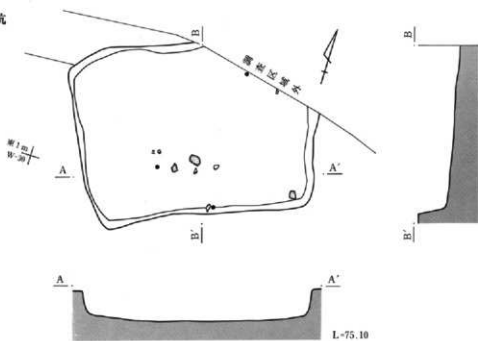


1. 4館埋没状土(IV区17号溝覆土)
2. 暗褐色土 黒色土主体。ローム粒・土師器・須恵陶片を少量含む。砂質。締まり弱い。

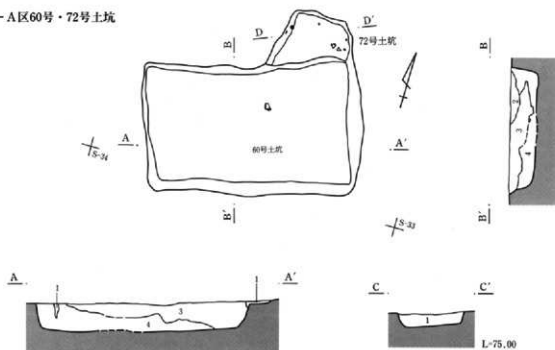


第3章 調査の内容

IV-A区21号土坑



IV-A区60号・72号土坑

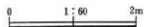


1. 攪乱

2. 暗褐色土 4に似るがロームブロックが少なく色調が明るい。

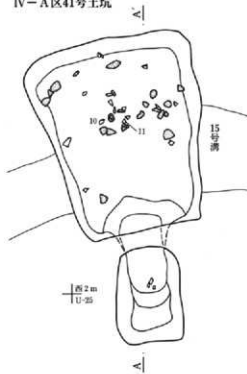
3. 暗褐色土 地山ロームブロックを多量に含む。白色軽石粒 (As-C?)を含む。

4. 暗褐色土 2に似るがロームブロックが大きく(φ30~50mm)、多い。



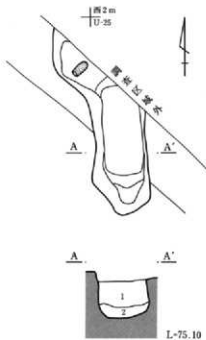
第344図 III・IV区の土坑(18)

IV-A区41号土坑



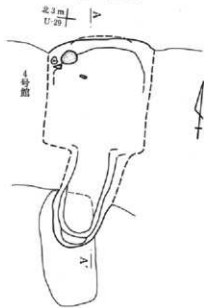
- 1・2・3・4, 15 溝埋設土。
 5, 黒褐色土 ローム粒・不揃いの軽石粒・小砂利を含む。やや砂質。
 6, 黒褐色土 ロームブロックを含む。

IV-A区32号土坑



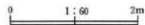
- 1, 灰黄褐色土 ローム大小ブロックを含む。(一括埋土)。
 2, ロームブロック主体。灰黄褐色土を含む。

IV-A区61号土坑



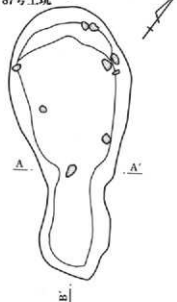
- 1, 黒色土 As-Bを含む。砂質。土質均一。
 2, にぶい黄褐色土 As-Bを含むローム塊を斑状に含む。

第345図 III・IV区の土坑(17)



第3章 調査の内容

IV-A区
87号土坑

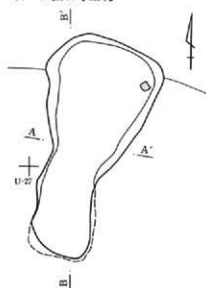


1/20



L-75.10

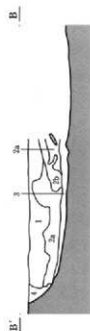
IV-A区40号土坑



1/20

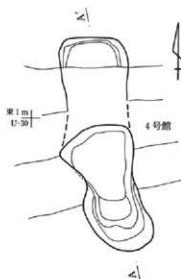


L-75.20



1/20

IV-A区105号土坑



東1m
U-30

4号館

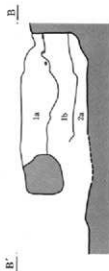
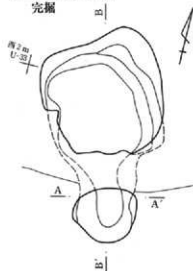
1. 黒色砂質土 白色軽石(As-B?)を含む。
- 2a. 黒褐色砂質土 白色軽石(As-B?)・ローム粒をわずかに含む。
- 2b. 暗褐色土 細砂・As-Bを含む黒色土。黒色土ブロック含む。
3. 黒褐色砂質土 2aに似るが、ロームが多い。
4. 黒褐色土

1. 黒褐色土 白色軽石粒・ロームブロックを含む。
2. 黒褐色土 白色軽石粒・ロームブロックを含む。1より黒色。
3. 黒泥土 白色軽石粒を含む。
4. 暗褐色土 ロームの再堆積。粘性あり。
5. 黒褐色土 ローム小ブロックを塊状に含む。小砂利を含む。軽石粒(As-C?・φ1~3mm)あり。
6. 黒褐色土 ローム中小ブロック。綿まりややあり。
7. 黒褐色土 ローム小ブロックをやや多く含む。ザラついた土。
8. 黒褐色土 5に似る。

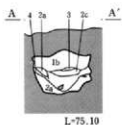
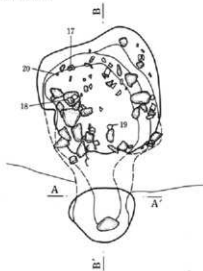
0 1:60 2m

第346図 III・IV区の土坑(18)

IV-A区104号土坑
完掘



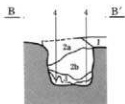
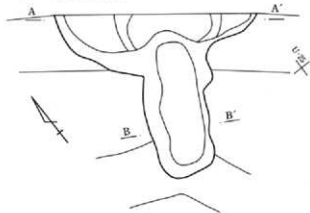
遺物出土状況



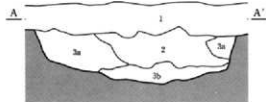
L-75.10

- 1a. 黒色土 As-Bを含む黒色土。土質均質。土器片を多く含む。ローム含まない。やや砂質。
- 1b. 黒色土 1aに似るが、As-B少なく土質は密。土器片・礫が混じる。
- 2a. 河堆積した地山黄褐色砂礫と黒色粘質土が互層に堆積。
- 2b. 河堆積した地山黄褐色砂礫・黒色粘質土・灰色シルトが互層に堆積。
- 2c. 2bに似るが、砂礫の粒子が粗い。
3. 黒色土 As-Bを含む黒色土。ロームブロックを少量含む。
4. 黒褐色土 地山砂を若干含む。

IV-A区42号土坑

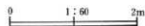


- B-B'
1. 褐灰色土 土質均質。ホクホクした土。
 - 2a. 暗灰黄褐色土 漸位層+ローム小ブロック。
 - 2b. 暗灰黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。褐灰色土含む。
 3. ロームブロック主体。
 4. 黒褐色土 細砂を含む。ローム粒を含む。



L-75.30

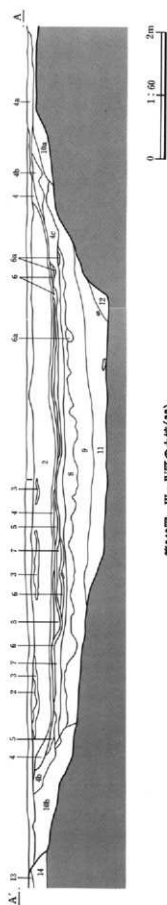
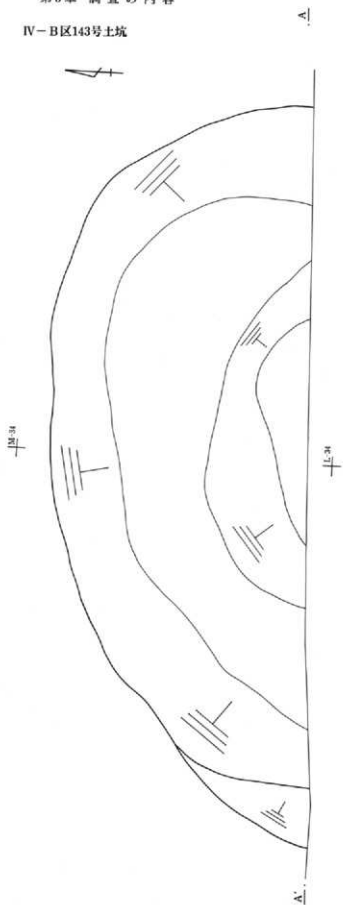
- A-A'
1. 現代の表土
 2. 黒褐色土 As-Bを含む黒色土・土器片・ローム粒を含む。締まり弱い。ややザラついた土。
 - 3a. 黒褐色土 礫石粒・ローム粒をわずかに含む。土質均質。ややベタついた土。
 - 3b. 黒褐色土 3a層褐色土ブロックを含む。粘性ややあり。



第347図 III・IV区の土坑(19)

第3章 調査の内容

IV-B区143号土坑

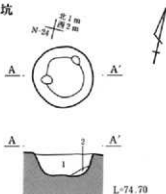


第348図 III - IV区の土坑(14)

1. 黄灰色土 As-Aを含む(現在の耕作土)
2. 黄灰色土 As-Aを10%含む。ローム・シルトブロック(φ10~30mm)を含む。やや砂質。(人為的な埋土or耕作土)
3. 暗灰色土 As-Aを層位的にやや集中して含む。
4. 暗灰色土 As-Aを20%程度層位的に集中して含む。ローム粒・炭化物を少量含む。部分的に上層に黒色土が薄く堆積。粘性強い。遺物(陶磁器)を含む。
- 4a. 暗灰色土 4に似るが、As-Aがやや多い(30%)。
- 4b. 暗灰色土 4に似るが、As-Aがやや多い(40~60%)。
- 4c. 暗灰色土 4に似るが、As-Aを非常に多く含む(80%)。
5. 黄褐色土 As-Aを少量(10%以下)含む。水成堆積もしくは自然堆積か(間層)。
6. 暗灰色土 4に同じ。
- 6a. 暗灰色土 4に似るが、As-Aをほとんど含まない。
7. 黄褐色土 5と同じ。(間層)。
8. 暗灰色土 4層+9層(断位層)。4と9を斑状に含む。(上部からの擾乱によるものか)
9. 暗褐色粘質土 As-Aをあまり含まない。(水成堆積か)
- 10a. 黄褐色土 10bに似るが、ロームシルトブロックを80%含む。(人為的な攪乱)
- 10b. 黒褐色土 白色バミス(As-A?)を少量含む。ロームブロックを含む。砂をブロック状に含む。
11. 暗灰色粘質土 ローム・シルトブロックを少量含む。As-Aを含まない(水成堆積)。石(φ150mm)を数個含む。粘性が強い。泥炭もしくはシルト質。
12. 暗褐色粘質土
- 13・14 IV区13溝埋込土。

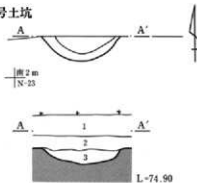
中内村前

I区83号土坑



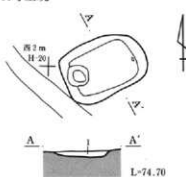
1. 黒褐色土 砂質。As-B+黒色土ブロック+褐色土ブロック。
2. 黒褐色土 砂質。ロームブロックを含む。

I区88号土坑



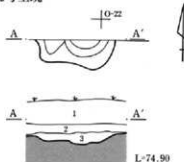
1. 現代の耕作土。
2. 灰黄色土 鉄分の凝集あり。
3. 褐色土+ロームブロック。As-Bを含む黒色土を少し含む。

I区86号土坑

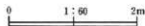


1. 暗褐色土+ロームブロック。As-Bを含む。

I区89号土坑

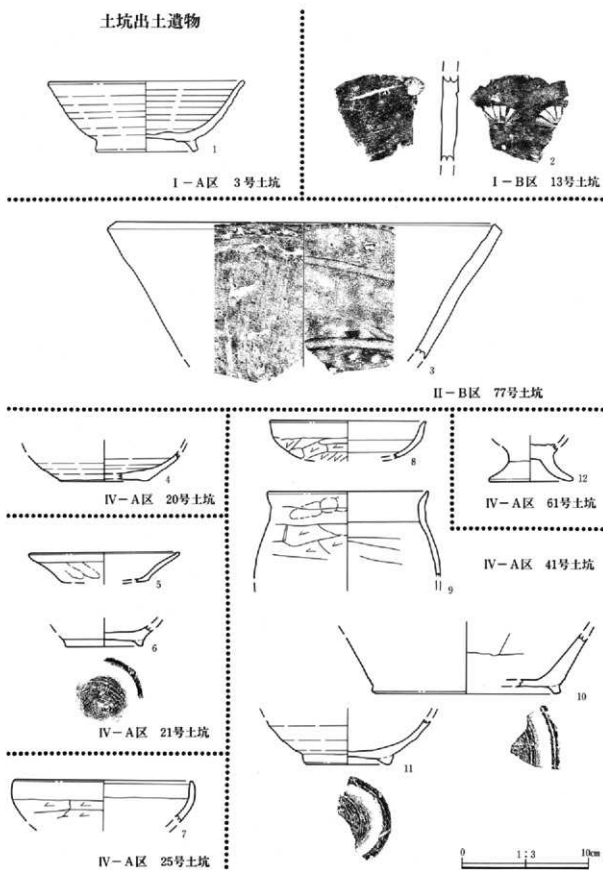


1. 現代の耕作土。
2. 灰黄色土 鉄分の凝集あり。
3. 黒色土+褐色土+ロームブロック。褐色土は砂質。

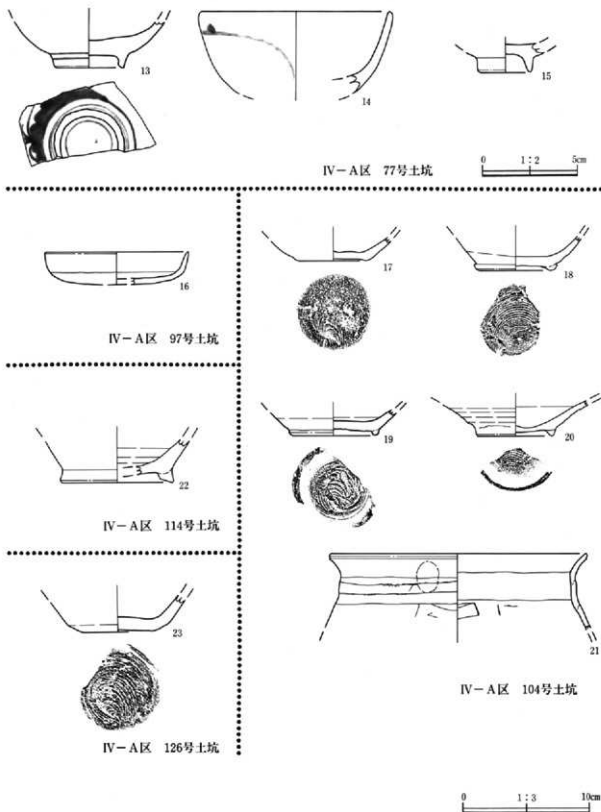


第348図 中内村前地区の土坑

土坑出土遺物

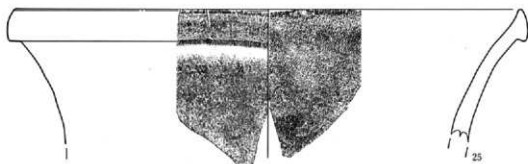
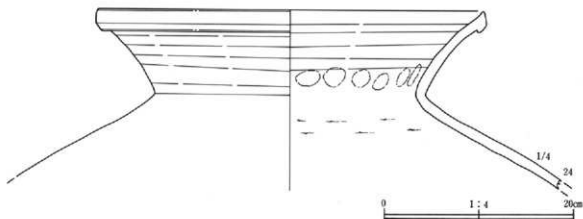


第350図 I～IV区の土坑出土遺物(1)

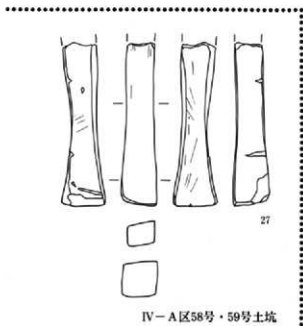


第351図 I～IV区の土坑出土遺物(2)

第3章 調査の内容



IV-A区 118号土坑



IV-A区58号・59号土坑

第352図 1~IV区の土坑出土遺物(3)

中世以降土坑出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (mm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 高台付椀	I-A区 3号土坑 埋没土	口径 15.4 底径 7.1 器高 5.6	①還元焰 ②黒灰 ③角閃石を含む	外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1/2 残存
2	知多窯 陶器	I-B区 13号土坑 埋没土	口径 — 底径 — 器高 —	① — ② — ③ —	外面 菊花状印目。 内面 自然釉付着。	体部下位片 14Cか
3	製作地不詳 陶器	II-B区 7号土坑 埋没土	口径 — 底径 — 器高 —	① — ② — ③ —	外面 麻方向ハケ状工具痕残る。 内面 体部下位と口縁部内面使用による厚減。	地方の横縁陶 器であろう 13～14Cか
4	須恵器 坏	IV-A区 20号土坑 埋没土	口径 — 底径 (7.0) 器高 —	①還元焰②灰白 ③粗砂・白色鉱物粒 ・角閃石を含む	外面 体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面 体～底部回転ナデ。	底部破片
5	土師器 坏	IV-A区 21号土坑 埋没土	口径(11.8) 底径 (6.8) 器高 (2.3)	①酸化焰②明赤褐 ③粗細砂・角閃石・ 白色鉱物粒を含む	外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部灰削り。 内面 口縁部横ナデ。体～底部ナデ。	口～体部破片
6	須恵器 高台付椀	IV-A区 21号土坑 埋没土	口径 — 底径 (6.0) 器高 —	①還元焰②灰白 ③粗細砂・白色鉱物 粒を含む	外面 体部回転ナデ。底部右?回転糸切り。無調整。 内面 体～底部回転ナデ。	底部破片
7	土師器 坏	IV-A区 25号土坑 埋没土	口径 — 底径 — 器高 —	①酸化焰②橙 ③粗細砂・白色鉱物 粒を含む	外面 口縁部横ナデ。体部横方向削り。 内面 口縁部横ナデ。体部ナデ。	口～体部破片
8	土師器 坏	IV-A区 41号土坑 埋没土	口径(12.4) 底径(11.8) 器高 —	①酸化焰②橙 ③粗細砂・白色鉱物 粒を含む	外面 口縁部横ナデ。坏部横方向削り。 内面 口縁部横ナデ。坏部ナデ。	口～体部破片
9	土師器 壺	IV-A区 41号土坑 埋没土	口径(12.7) 底径 — 器高 —	①酸化焰②褐～灰褐 ③細砂・角閃石を含 む	外面 口縁部横ナデ・指頭による調整。体部上位横方向 削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向削りナデ。	口～体部破片
10	須恵器 器種不明	IV-A区 41号土坑 埋没土	口径 — 底径(14.2) 器高 —	①還元焰②灰 ③粗細砂・赤・白色 藍を含む	外面 体部下平回転ナデ。底部削り。付高台。高台部 ナデ。 内面 体部下平～底部回転ナデ・指頭による調整。	底部破片
11	須恵器 高台付椀	IV-A区 41号土坑 埋没土	口径 — 底径 (6.4) 器高 —	①還元焰②灰白 ③粗細砂・赤色鉱物 粒・角閃石を含む	外面 体部回転ナデ。底部右?回転糸切り。無調整。 付高台。 内面 体～底部回転ナデ。	体～底部破片
12	土師器 台付壺	IV-A区 61号土坑 埋没土	口径 — 底径 6.6 器高 —	①酸化焰②鈍い橙 ③細砂・角閃石を含 む	内外面 横ナデ。	台部破片
13	肥前 磁器	IV-A区 77号土坑 埋没土	口径 — 底径 (3.8) 器高 —	① — ② — ③ —	外面 花卉文。 内面 無文。	底部破片 底付見系 18C中～後半
14	肥前 磁器	IV-A区 77号土坑 埋没土	口径 — 底径 — 器高 —	① — ② — ③ —	外面 梅折枝文。 内面 無文。	口縁部破片
15	肥前 陶器	IV-A区 77号土坑 埋没土	口径 — 底径 — 器高 —	① — ② — ③ —	内外面 透明釉。高台端部無釉。	貝御手轆 17C末～18C 前半
16	土師器 坏	IV-B区 97号土坑 埋没土	口径(11.4) 底径 — 器高 —	①還元焰②黄褐色～ 鈍い橙③角閃石・赤 色鉱物粒を含む	外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部削り。 内面 口縁部横ナデ。体部ナデ。	口～体部破片
17	須恵器 坏	IV-A区 104土坑 埋没土	口径 — 底径 6.0 器高 —	①還元焰②灰黄褐～ 褐③粗細砂・角閃 石を含む	外面 体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面 体～底部回転ナデ。	底部破片
18	須恵器 高台付椀	IV-A区 104土坑 埋没土	口径 — 底径 — 器高 —	①還元焰②灰褐 ③粗細砂・赤色鉱物 粒を含む	外面 体部回転ナデ。底部左回転糸切り。無調整。付高 台。 内面 体～底部回転ナデ。	底部破片
19	須恵器 高台付椀	IV-A区 104土坑 埋没土	口径 — 底径 6.7 器高 —	①還元焰②灰白～灰 黄③細砂・角閃石・ 赤色鉱物粒を含む	外面 体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高 台。 内面 体～底部回転ナデ。	底部破片

第3章 調査の内容

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
20	須恵器 皿	IV-A区 104土坑 埋没土	口径 - 底径 5.7 器高 -	①還元焰急焼い黄 ③細砂・角閃石を 含む。	外面 体部回転ナデ。底部左回転糸切り。無調整。付高 台。 内面 体～底部回転ナデ。	底部破片
21	土師器 壺	IV-A区 104土坑 埋没土	口径 - 底径 - 器高 -	①酸化焰急焼～鈍い 他②細砂・角閃石・ 赤色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向広削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向広ナデ。	口縁部破片
22	須恵器 台付長頸甕	IV-A区 114土坑 埋没土	口径 - 底径 8.8 器高 -	①還元焰急焼灰白 ③黒色鉱物粒を少量 含む。	外面 体部回転ナデ。底部回転寛削り。付高台。 内面 体～底部回転ナデ。軸付着。	体～底部破片
23	須恵器 坏	IV-A区 126土坑 埋没土	口径 - 底径 - 器高 -	①還元焰急焼灰白 ③角閃石・赤色鉱物 粒を含む。	外面 体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面 体～底部回転ナデ。	底部破片
24	須恵器 壺	IV-A区 118土坑 埋没土	口径 - 底径 - 器高 -	①還元焰急焼い橙 ③粗細砂・白・黒色 鉱物粒を含む。	内外面 口縁～体部回転ナデ。	口～体部上位 残存。25と同 一か？
25	須恵器 壺	IV-A区 118土坑 埋没土	口径 - 底径 - 器高 -	①還元焰急焼い橙 ③粗細砂・白・黒色 鉱物粒を含む。	内外面 口縁～体部回転ナデ。	口縁部破片 24と同一か？
26	土師器 坏	IV-A区 118土坑 埋没土	口径(14.1) 底径 - 器高 -	①酸化焰急焼い橙 ③粗細砂・角閃石を 含む。	外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押しえ。底部寛削 り。 内面 口～底部ナデ。	口縁部破片

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm・g)	石材	形状・調整加工の特徴	残存状態 備考
27	石製品 砥石	IV-A区 58・59土 坑埋没土	長 13.00 幅 2.80 厚 2.80 重 144.0	砥沢石	断面形状はほぼ正方形で、両面に使用面。 一部線状の使用痕見られる。上端欠損。	一部欠損

7. 溝

西善尺司遺跡では、総数57本の溝を検出した。そのうち14本については、出土遺物や層位から時期が判明し、既に各項で報告してきた。しかし中世あるいは近世については、正確な時期を確定できた溝は少なく、その他のものについては詳細な時期については不明といわざるを得ない。したがって本項では中・近世と判断されたものと時期不明のものも含め中世以降の遺構として掲載する。以下、特徴的な溝について述べていくが、その他については、巻末の遺構一覧表を参照されたい。

I-A区を南流するI-A区1号溝は、弧状に湾曲した走行を示す水路である。規模は、上幅0.62～0.16m・下幅0.34～0.06m・深さ0.10～0.04mである。埋没土については記載がなく、詳細は不明であるが、調査担当者によると層位的にはAs-Bより下層であるとの調査所見であった。時期については3号住居に掘り込まれていることから、平安時代以前であると考えられるが上限については不明である。本遺構は台地縁辺を走行していることから、農業用水路としての性格が想定される。

III-A区I～5・7号溝は、III-A区を方形に区画する溝である。1号溝の規模は、上幅0.56～0.25m・下幅0.45～0.08m・深さ0.10～0.06mである。各溝ともAs-Bを掘り込み、埋没土はAs-Bを多く含む砂質土によって埋まっている。1号溝によって区画された範囲は東西約42mである。溝の方位は東西南北をほぼ正確に向いて走行しており、条里制の区画を残す。下層からはAs-B下水田が検出されているが、2面の水田区画は大きく異なっている。詳細な時期については不明であるが、As-B降後の水田耕作に伴う溝と考えられる。

II区6号溝は、一部調査区域外のため全体の形状は不明である。規模は、幅2.04～1.80m・深さ0.10mである。埋没土は、As-Bを含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は底面から古銭(1・2)が2枚出土している。(1)は宋元通宝(初鋳960年)、(2)は元豊通

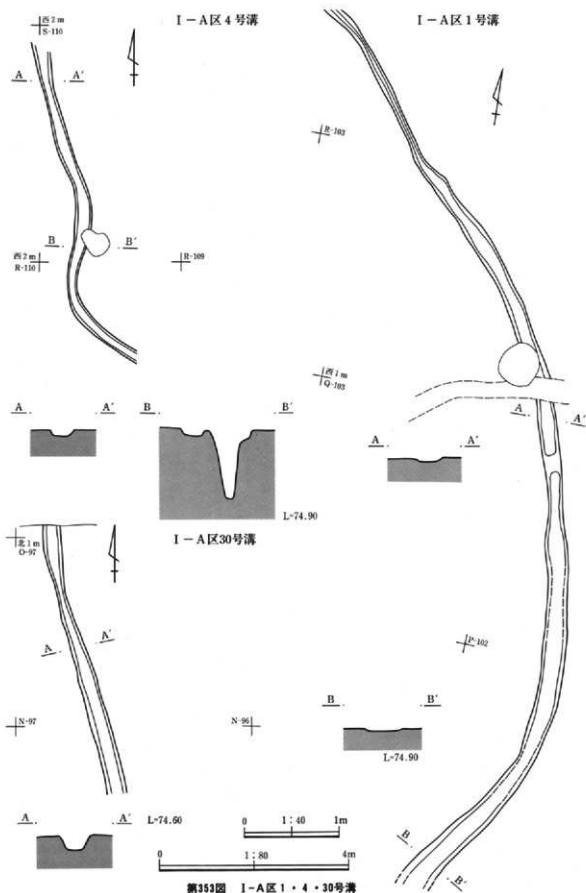
宝(初鋳1078年)である。時期についてはAs-B降後の遺構と考えられる。

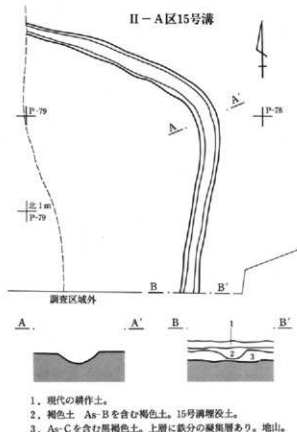
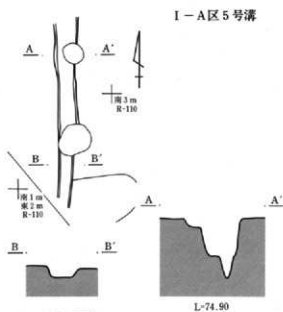
II区東側では弧状に湾曲する溝群が検出された。II-A区20・21号溝は弧状に南流する。規模は、20号溝が上幅0.92～0.40m・下幅0.60～0.17m・深さ0.70～0.17m・調査長52.5m、21号溝が上幅0.85～0.33m・下幅0.42～0.15m・深さ0.70～0.53m・調査長50mである。両遺構とも断面形状は掘り鉢状で、ロームブロック・黒色土ブロック・As-Bを含んでいる。20溝が古く、21号溝の方が新しい。溝群の中でも比較的新しい時期の遺構と考えられる。

II-A区33号溝は、全体の形状がはっきりしない溝群である。規模は、上幅0.80～0.30m・下幅0.40～0.10m・深さ0.04mである。埋没土は、直径1mm程の粗細粒軽石により埋まっていた。出土遺物はなかった。発掘時には、溝として調査を行ったが、その後隣接するIII区で溝状遺構が検出され、平面形状や埋没土の記載から判断して、26号溝も含め一連の遺構と考えられる。

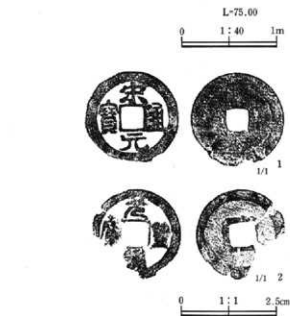
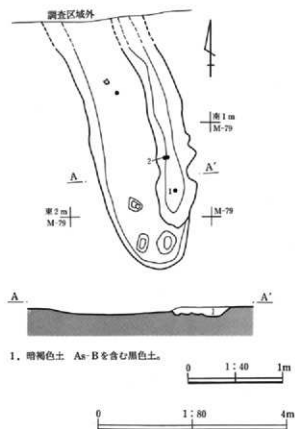
IV-A区26号溝はIV-A区13号溝に重複している。規模は、上幅1.82～1.00m・下幅0.22～0.06m・深さ0.52m・調査長は7.8mである。断面形状は葉研状である。埋没土は非常に砂質で、ロームを含む暗赤灰色土で埋まっていた。出土遺物は、板磚の破片(1～4)礫が出土した。また埋没土中からは馬歯も出土している。

第3章 調査の内容





II-B区6号溝

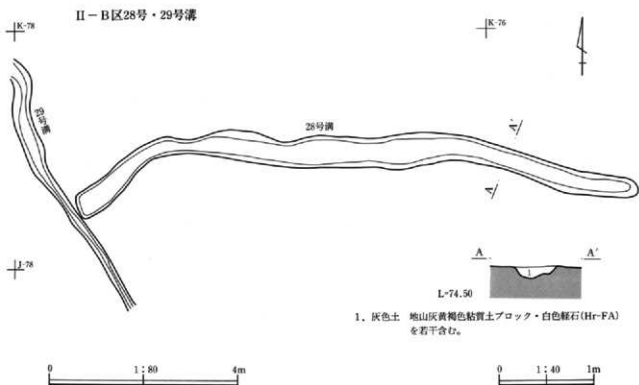
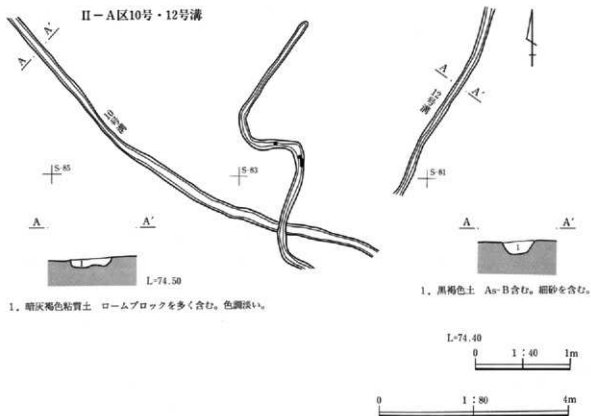


第354図 I-A区5号・II-B区15号溝・6号溝と出土遺物

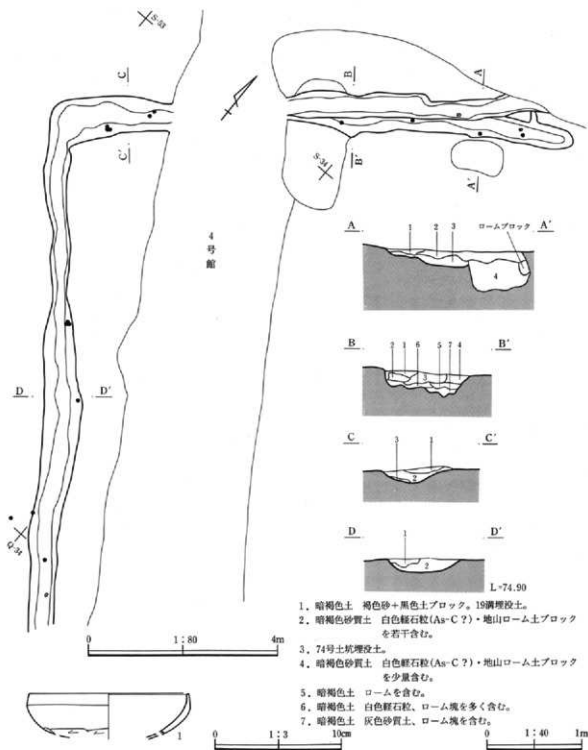
II-B区6号溝出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm・g)	材質	形状・調整加工の特徴	残存状態 備考
1	鉄製品 古銭	埋没土	直径 2.30 厚 - 重 -	鉄	宋通元宝(960~975年) 北宋銭。	完形
2	鉄製品 古銭	埋没土	直径 2.30 厚 - 重 -	鉄	元豊通宝(1078~1085年) 北宋銭。	2/3残存

第3章 調査の内容



第355図 II区10・12・28・29号溝



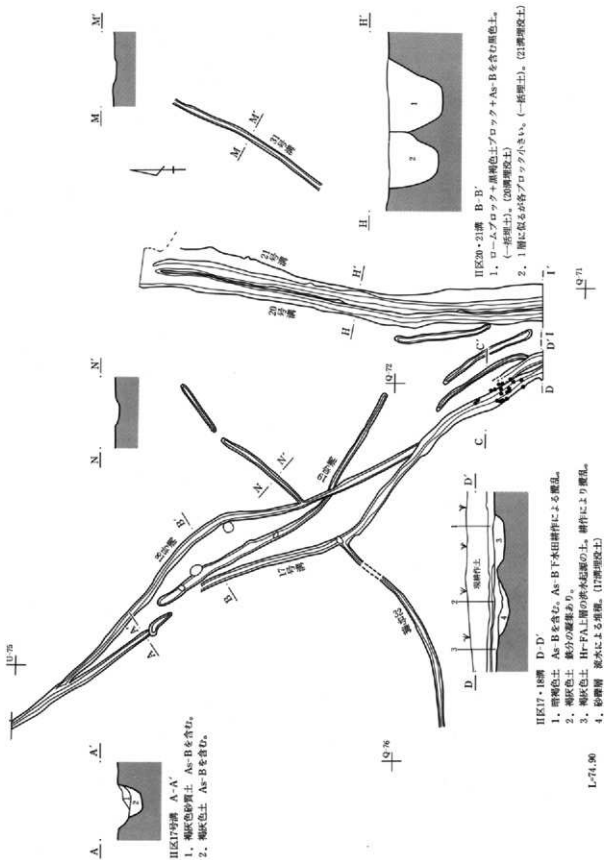
1. 暗褐色土 褐色砂+黒色土ブロック。19溝埋設土。
2. 暗褐色砂質土 白色軽石粒(As-C?)・地山ローム土ブロックを若干含む。
3. 74号土坑埋設土。
4. 暗褐色砂質土 白色軽石粒(As-C?)・地山ローム土ブロックを少量含む。
5. 暗褐色土 ロームを含む。
6. 暗褐色土 白色軽石粒、ローム塊を多く含む。
7. 暗褐色土 灰色砂質土、ローム塊を含む。

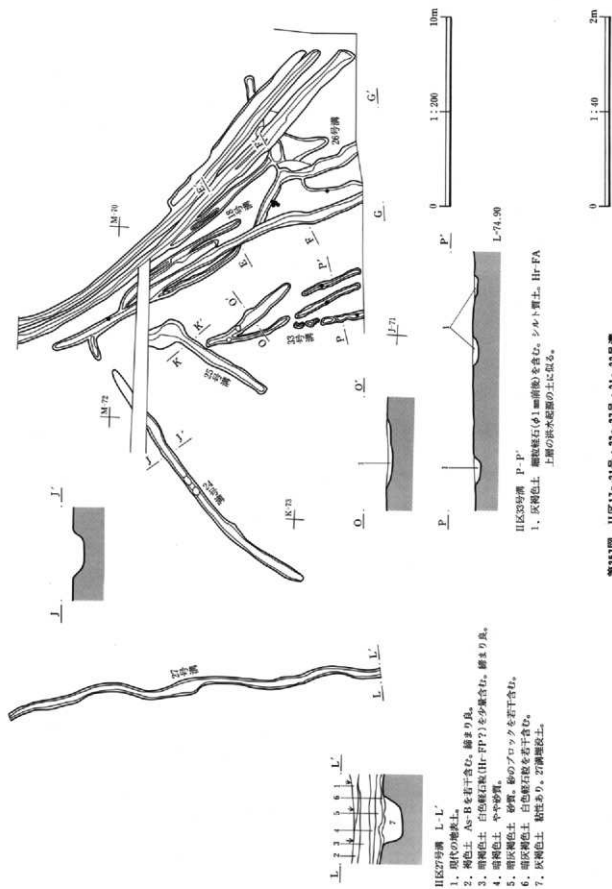
第356図 IV-A区19号溝と出土遺物

IV-A区19号溝出土遺物観察表

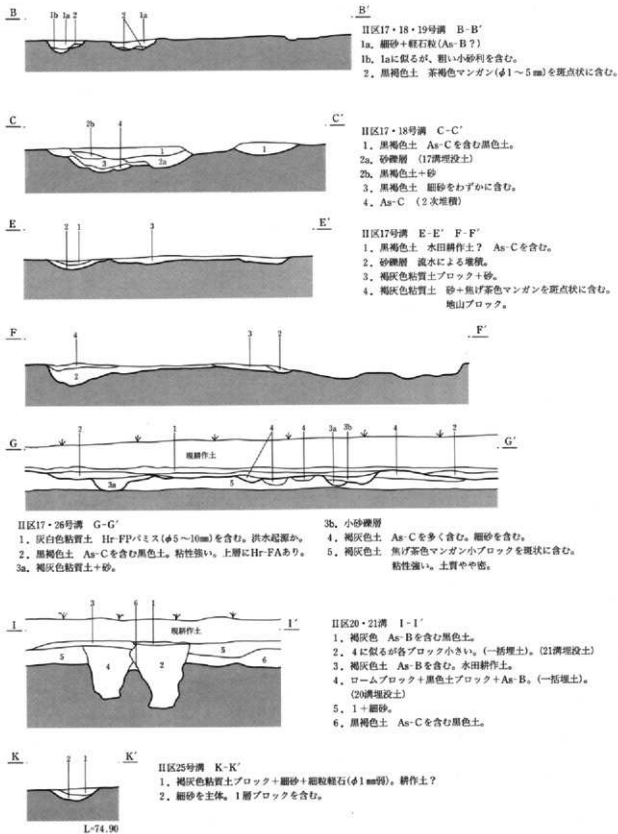
番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①地成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	埋設土	口径(12.5) 高径 - 器高 -	①酸化短・強い橙 ②粗細砂・角閃石・ 白色鉱物粒を含む	外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部荒削り。 内面 口縁部横ナデ。体~底部ナデ。	口~体部破片

第3章 調査の内容

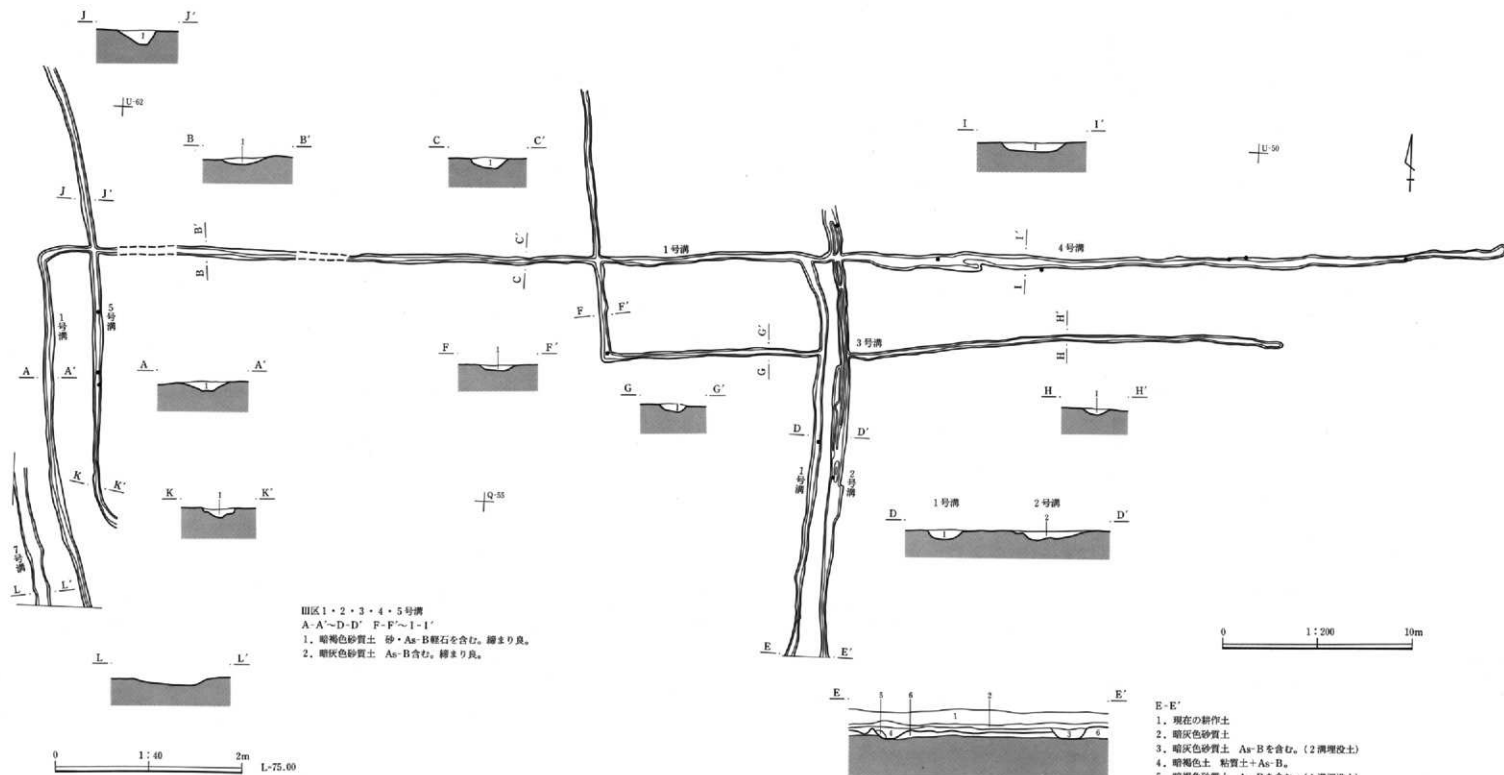




第3章 調査の内容



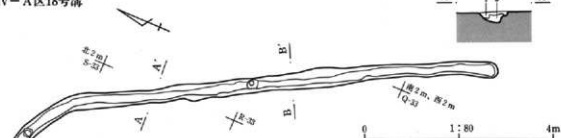
第358図 II区17~21号・25・26号溝土層断面



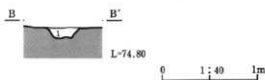
第359図 III区1号~5号溝・7号溝

第5節 中世以降の遺構と遺物

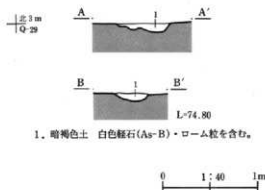
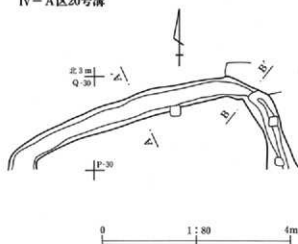
IV-A区18号溝



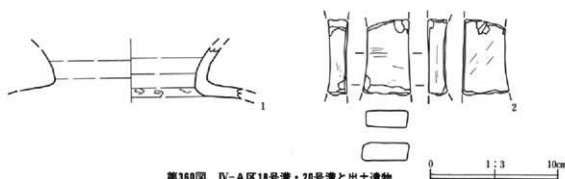
1. 暗褐色砂質土 白色軽石粒(A-B)を含む。炭化物をわずかに含む。締まり良。
2. 暗褐色土 地山黄色ローム土を少量含む。



IV-A区20号溝



1. 暗褐色土 白色軽石(A-B)・ローム粒を含む。

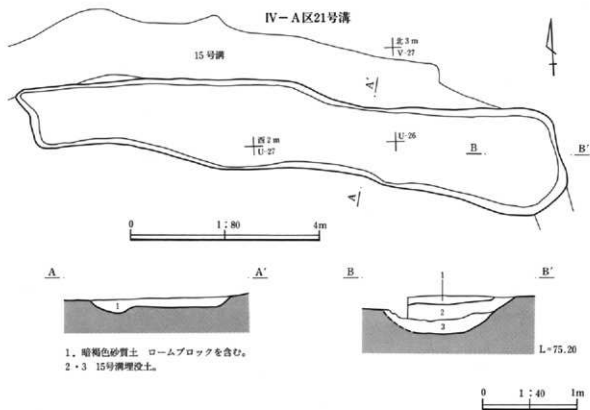


第360図 IV-A区18号溝・20号溝と出土遺物

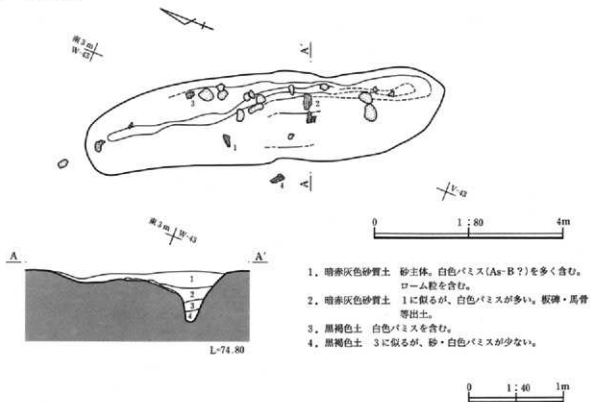
IV-A区20号溝出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②胎土 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	酒器 壺	埋没土	口径 - 底径 - 器高 -	①還元焼 ②灰 ③白色軽石粒を含む。	外面 肩部回転ナデ。体部タタキ。 内面 体部回転ナデ。	肩部破片
番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm・g)	石材	形状・調整加工の特徴	残存状態 備考
2	石製品 砥石	埋没土	長 6.00 幅 3.40 厚 1.30 重 -	磁沢石	断面形状は長方形で、使用によってかなり厚さを減じている。表面、両側に使用面。縁状の使用痕有り。 両端欠損。	1/3残存

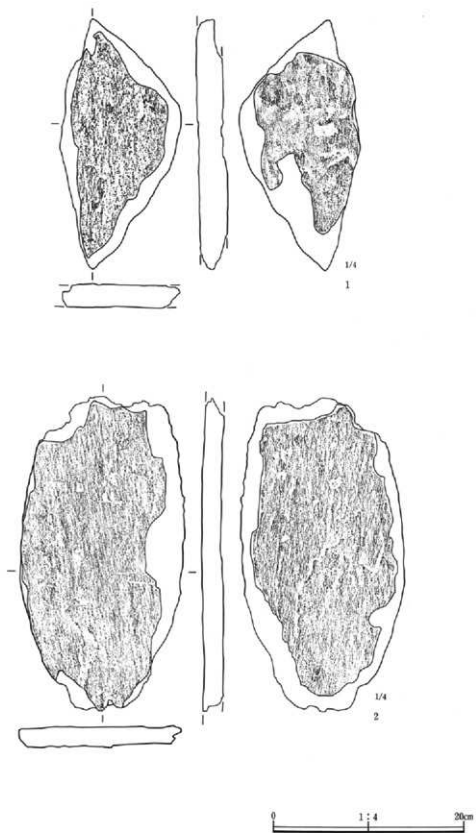
第3章 調査の内容



IV-A区26号溝

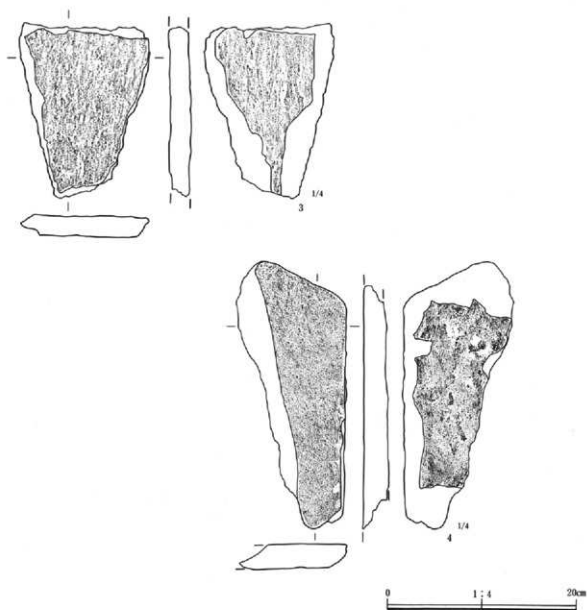


第361図 IV-A区21・26号溝



第382図 IV-A区26号溝出土遺物(1)

第3章 調査の内容

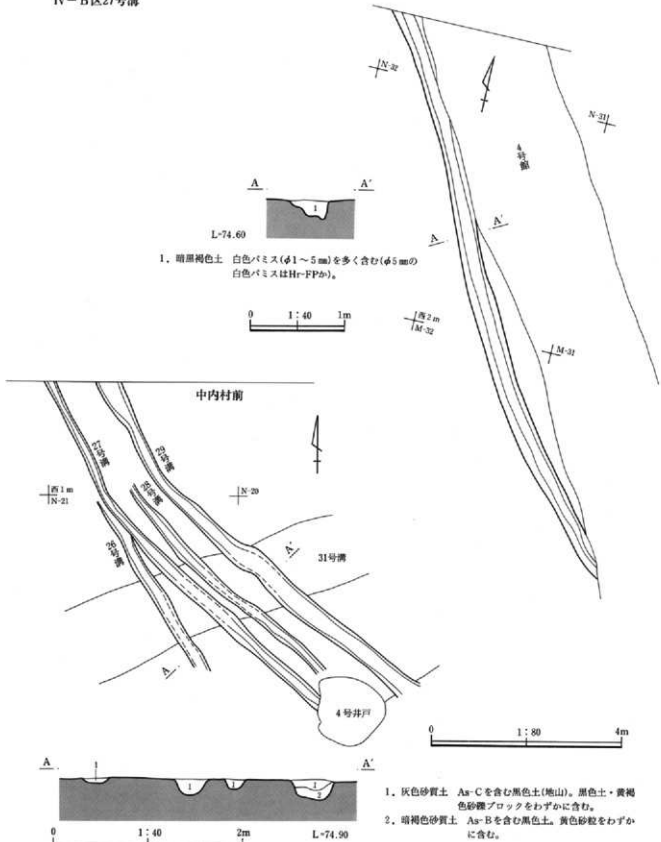


第363図 IV-A区26号溝出土遺物(2)

IV-A区26号溝出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	寸法 (cm・g)	石材	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	石製品 板碑	埋没土	長 - 幅 - 厚 - 重 1303.0	緑泥片岩	側面に剝離による成形痕。裏面には整状の工具によるは つり痕有り。	破片
2	石製品 板碑	埋没土	長 - 幅 - 厚 - 重 2103.0	緑泥片岩	器体左側に剝離による成形痕。断面形は台形状に成形し てある。	破片
3	石製品 板碑	埋没土	長 - 幅 - 厚 - 重 900.0	緑泥片岩	周辺に欠き、形状不明。	破片
4	石製品 板碑	埋没土	長 - 幅 - 厚 - 重 1323.0	緑泥片岩	器体右側に剝離による成形痕。断面形は台形状。左側お よび下部欠損。	破片

IV-B区27号溝



第384図 中内村前地区の溝

第6節 低地部の遺構と遺物

1. 概要

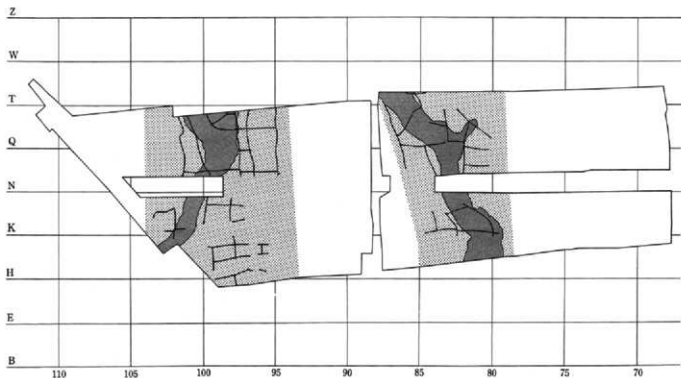
西善尺司遺跡では低地を検出し、旧河道・As-C下谷・Hr-FA下水田・As-B下水田の計4面の調査を行った。遺跡周辺の地形は、北から南に緩やかに傾斜しており、微高地上には集落が点在する平坦な水田地域であるが、平安時代頃までは複数の小谷が網流する起伏の激しい地形であったことが、調査の結果明らかになった。

I・II区では2本の小谷を検出し、堆積土中からAs-C・Hr-FA・As-Bのそれぞれ一次堆積層を確認した。III区ではAs-Bの一次堆積層を確認した。IV区では鍵層となる火山灰は確認できなかった。よって旧地表である各一次堆積層直下と小谷の基盤層を遺構確認面として認識し、発掘調査を行った。

I・II区で検出された小谷(西谷・東谷)は、浸食により旧河道を形成した後、堆積へと転じていく。旧河道の形成からAs-C降下までは黒泥が堆積していることから、比較的静かな流れの湿地であった。

黒泥中からは縄文時代中期と古墳時代初頭の遺物が少量出土している。

低地部における開田時期については、As-C層直下では水田は検出されておらず、Hr-FA層直下では極小区画水田を検出していることから、3世紀後半から6世紀初頭の間といえる。この間台地上では、As-C降下後の4世紀中葉頃に突如方形周溝墓群が造営される。それに対応する集落は本遺跡内では確認できないが、藤川を挟んで西側に隣接する徳丸仲田遺跡ではほぼ同時期の集落を確認している。また、西谷の土層観察からAs-C上層に、As-Cを多く含む黒色土(VII層：プラント・オパール資料④No.4・5)の堆積が確認されており、この黒色土は基本的には耕作によって形成されると考えられる。また、プラント・オパールも少量ながら検出されている(図366・第4章第1節参照)。以上のことから開田時期はAs-C降下後の4世紀前半～中葉頃と考えられよう。この現象は、西善尺司遺跡だけにとどまらず、前橋台



地東部地域に見られる現象であり、本遺跡北方1.5 kmに位置する県内最古の定型化した前方後円墳である前橋市天神山古墳や、それに先行する前方後方墳である前橋市八幡山古墳の造墓と密接な関係があると考えられる。詳しくは考察を参照にされたい。

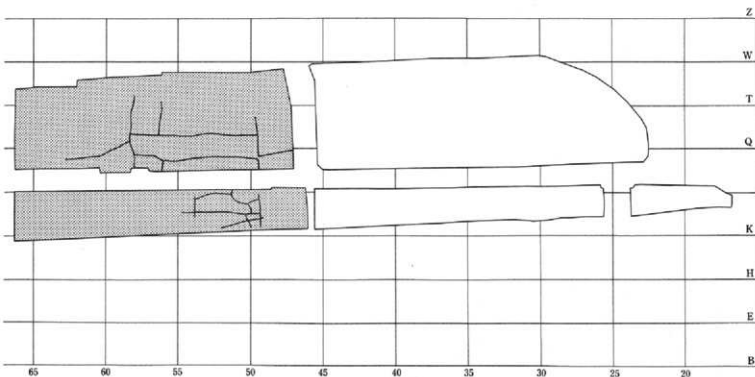
開田後からHr-FA降下前までは、バックする火山灰等がないため水田遺構は検出されず詳細は不明であるが、稲のプラント・オパールが少量検出されている。

Hr-FA層直下では小区画水田を検出している。西谷ではこの時期に特徴的な極小区画水田であったが、東谷では8～10倍の面積をもつ大きなものであった。

Hr-FA降下後からAs-B降下前までは、前述同様に水田遺構そのものは検出できないが、II区では13号溝が6世紀後半、さらに台地上の9号溝が8世紀末～9世紀の遺構であり、水田域の拡大に伴い、水路を漸次台地上に掘削していく様子が遺構から確認できる。

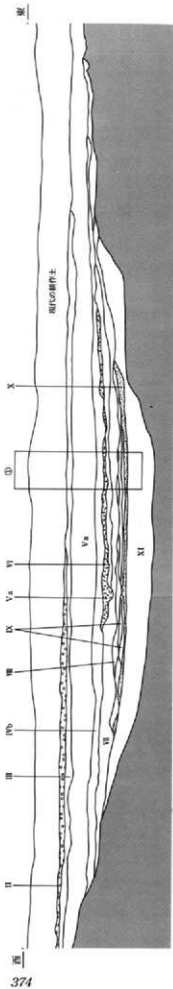
As-B降下時には、小谷がほぼ埋まりI・II区全面にAs-B下水田が展開する。また新たにIII区台地上にも拡大している。区画は埋設した谷の細かな起伏に規制され、やや変則ではあるが概ね方形を基本とし、畦は東西南北を指向していることから、条里水田の様相を呈している。

これらのことから低地部は開田以後、基本的には継続し、台地部へと拡大を続けてきたといえる。



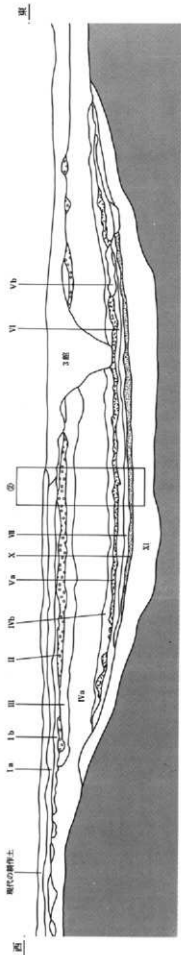
第365図 西巻尺司遺跡 低地概念図

I-A区 低地部南壁



374

II-B区 低地部北壁



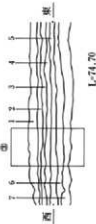
- I-A区低地部南壁・II-B区低地部北壁セクション
 Ia. 褐色粘土 As-Bを含む黒色土、砂質。
 Ib. 黒褐色土 As-Bを含む黒色土、As-Bが多い。
 II. As-B(一次堆積層)
 III. 黒色粘土 As-B下木田耕作土。
 IVa. 褐色色粘質土 埋蔵起源?土質的層、面積あり。
 IVb. 褐色色粘質土 Hr-FAのブロック・Hr-PP?を含む。
 沼原とHr-FAを勘定込んだ、耕作による変見。

- Va. Hr-FA(一次堆積層)
 Vb. Hr-FA+黒色土ブロック+褐色色土ブロック。耕作に伴う層状。
 VI. 黒色粘土 木田耕作土、土質的層。
 VII. 黒色粘土 VI層+As-C+細砂。
 VIII. 黒色粘土 VI層に似る、黒砂層。
 IX. 褐色色粘土 シルト質粘土、洪水堆積物?
 X. As-C(一次堆積層)
 XI. 埋蔵層

L:75.00

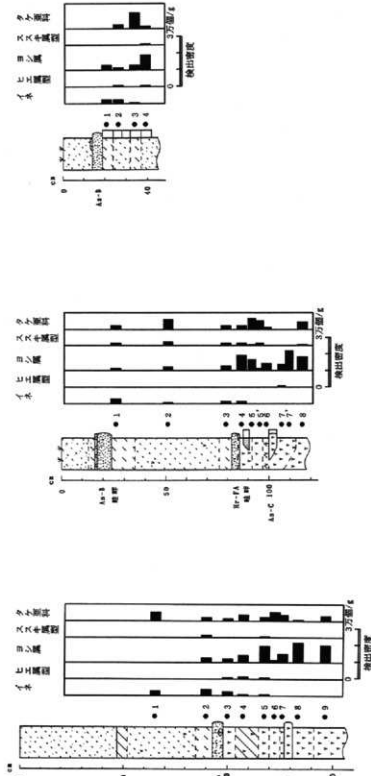
0 1:50 2.5m

III-A区 南壁



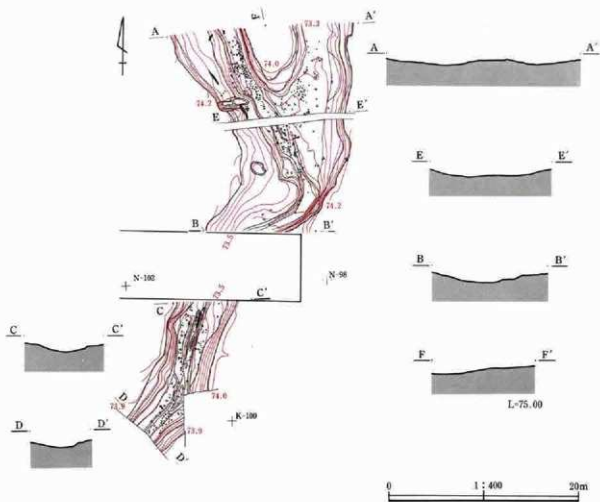
III-A区南壁セクション

1. 現代の耕作土
2. 褐色砂 As-B
3. 黒褐色粘質土 上部に数分の沈砂層あり, As-B下木田耕作土, 緑まり貝。
4. 灰褐色粘質土 白色層(白-F?)を含む, 緑まり貝。
5. 暗赤褐色砂質土 As-Cを含む。
6. 灰褐色粘質土 ローレン層上層。



第366図 I・II・III区低地土層断面

2. 旧河道



第387図 I区旧河道

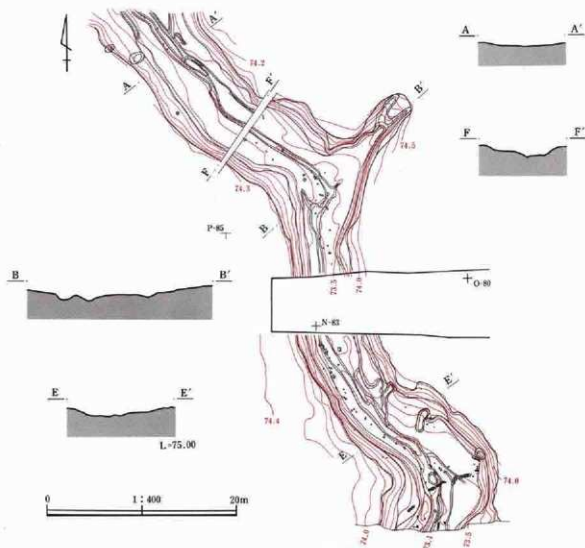
旧河道とは、低地を基盤層まで掘り下げた確認面を指す。低地が浸食によって形成された最終段階を示している。

旧河道が形成された年代については、As-YPを切っていることから、約1.5万年前より新しいことは確実であるが、詳細な年代については断定し得ない。浸食は、礫を多く含む硬い褐灰色砂礫層のレベルで止まっており、深い谷を形成することはなかった。旧河道はその後、浸食から堆積へと転じていく。

旧河道の規模については以下の通りである。

西谷は、幅19.4～5.2m、調査長50mの規模をもつ。二本の谷筋が合流し、やや蛇行しながら北から西に流れる。底面の標高は73.2mで、台地部との標高差は約1.2mである。

東谷は幅6.0～9.3m、調査長68mの規模を持つ。西谷に比しやや大きな谷筋で、数度蛇行を繰り返しながら調査区を北西から南東に流れる。左岸中央付近で小さな支流と合流する。底面の標高は73.1mで



第366図 II区旧河道

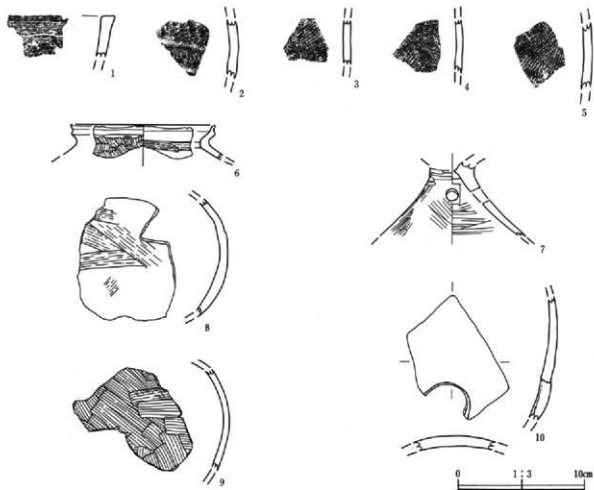
台地との標高差は1.2mある。

出土遺物は非常に少なく、12点を図化し得たのみであった。なお遺物については、旧河道が形成された段階からAs-C降下前までに堆積した厚さ約40cmの黒泥層から出土した遺物を掲載した。当然、遺物にはかなりの年代差(浸食終了～As-C降下直前)を含むことになる。しかし遺構の性格上、長期間オープンになっており、且つ周囲や上流からの流れ込みも当然考えられるにもかかわらず、出土遺物は非常

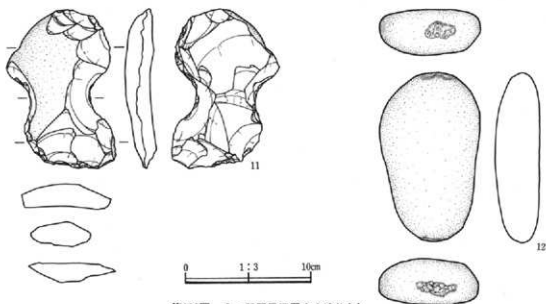
に少なく、年代についても縄文時代中期頃と古墳時代初頭の概ね二時期にまとまる。このことは、台地上での遺構の検出状況とも一致しており、As-C降下以前の本遺跡周辺における遺跡分布の画期がある程度示唆しているといえるであろう。

遺物 (1・2)は縄文土器である。(1)は口縁部と考えられる面を持つ。(2)は2条の沈線が認められる。共に小破片で摩滅が激しいが、縄文時代中期

の遺物と考えられる。(3)~(5)も小破片で摩滅しているが器壁が薄く、外面に然り糸文が認められる。弥生土器の範疇と考えられる。(6)はS字状口縁台付甕である。小さく鋭く外反する口縁部と頸部内面にハケメを持つ特徴から、B類古相の特徴をもつ。(7)は器台である。脚部が直線的に開き、外面はハケメ後細かいヘラミガキが施されている。(8・9)は甕の体部破片と考えられる。ハケメの特徴から単口縁系甕と考えられる。(10)は器種不明である。赤色で軟質であり、直径3.4cmの穿孔が焼成前に施されている。(11)は打製石斧である。分銅形で、くびれ部に摩耗が認められる。(13)は敲石である。両端に敲打痕が認められる。



第369図 I・II区黒泥層出土遺物(1)

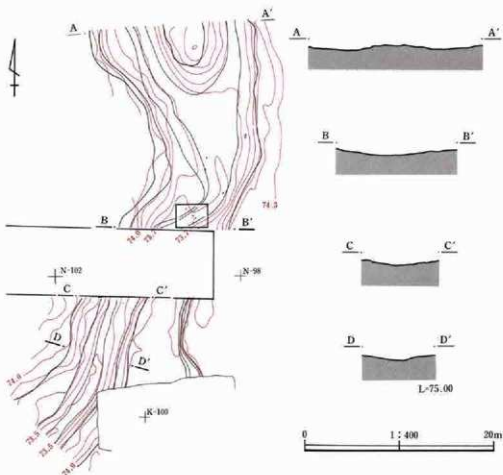


第370図 I・II区黒泥層出土遺物(2)

黒泥層中出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	縄文土器	黒泥層中	口径— 底径— 器高—	①酸化焙②鈍い褐 ③粗細砂・角閃石・ 輝石を含む。	外面 端部に平坦な面を持つ。2条の沈線あり。 内面 ナデか?	破片
2	縄文土器	黒泥層中	口径— 底径— 器高—	①酸化焙②明赤褐 ③粗細砂・白色胎物 粒・角閃石を含む。	外面 沈線あり。 内面 ナデか?	破片
3	弥生土器	黒泥層中	口径— 底径— 器高—	①酸化焙②浅黄緑 ③粗細砂・赤色胎物 粒・角閃石を含む。	外面 横方向の燃赤文。 内面 ナデか?	破片
4	弥生土器	黒泥層中	口径— 底径— 器高—	①酸化焙②浅黄緑 ③粗細砂・赤色胎物 粒・角閃石を含む。	外面 横方向の燃赤文。 内面 ナデか?	破片
5	弥生土器	黒泥層中	口径— 底径— 器高—	①酸化焙②黒褐 ③粗細砂・角閃石を 含む。	外面 燃赤文。 内面 ナデ。	破片
5	土師器 S字状口縁 台付甕	黒泥層中	口径— 底径— 器高—	①酸化焙②褐③細砂 ・角閃石を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部斜縦方向ハケメ。 内面 口縁部横ナデ。頸部横方向ハケメ。体部指ナデ。	口縁部破片
7	土師器 器台	黒泥層中	口径— 底径— 器高—	①酸化焙②鈍い橙 ③粗細砂・白色胎物 粒・角閃石を含む。	外面 脚部ハケメ後、裏磨き。残存部分で3カ所の透孔 あり。 内面 ハケメ。	脚部破片
8	土師器? 器種不明	黒泥層中	口径— 底径— 器高—	①酸化焙②鈍い赤褐 ③粗細砂・角閃石・ 赤色胎物粒を含む。	外面 ハケメ。 内面 ナデ。	体部破片
9	土師器 甕?	黒泥層中	口径— 底径— 器高—	①酸化焙②鈍い黄褐 ③粗細砂を含む。	外面 ハケメ。 内面 ナデ。	体部破片
10	土師器 器種不明	黒泥層中	口径— 底径— 器高—	①酸化焙②橙 ③細砂・赤色胎物粒 を含む。	内外面 調整不明。直径約3.4cm孔(焼成前穿孔)あり。	破片
番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm・g)	石材	形状・調整加工の特徴	残存状態 備考
11	石製品 打製石斧	黒泥層中	長 12.6 幅 8.1 厚 2.1 重 —	細粒輝石 安山岩	分割線素材と思われる。分割形。刃部再生により、刃部 が斜めになっている。くびれ部に摩耗認められる。	完形
12	石製品 敲石	黒泥層中	長 13.4 幅 8.2 厚 4.6 重 572.0	黒色頁岩	盤状の内縁の、両端に敲打認められる。	完形

3. As-C下谷



第371図 I区As-C下谷

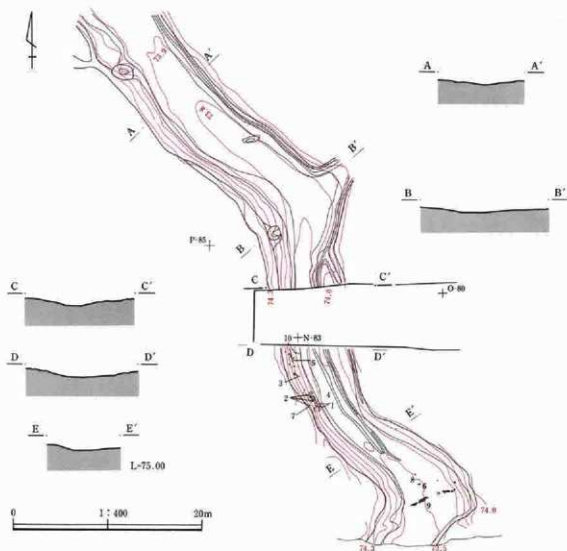
As-C下谷とは、As-C降下時（3世紀後半）における低地の確認面である。

低地は浸食が最も進んだ旧河道形成後、堆積へと転じ、徐々に埋まっていく。底面付近の標高は、西谷が73.7m、東谷が73.5mであり、旧河道から40～50cmほど浅くなっている。

As-C下谷は、黒泥の堆積により形成されており、またプラント・オパール分析（第4章参照）の結果、ヨシ属のプラント・オパールが多く検出されている。

以上のことから、本遺跡の低地は、比較的水流が穏やかで、ヨシ属などが多く生育する湿地の環境であったと考えられる。

As-C層直下では水田跡は行われておらず、明確な遺構も検出されなかった。プラント・オパール分析でも稲のプラント・オパールは検出されていない。このことは、台地上の遺構検出状況とも一致しており、少量の出土遺物は確認されるものの、本遺跡周辺において低地部が生産域として本格的に開発



第372図 II区As-C下谷

される時期は、古墳時代初頭でもAs-C降下後であると考えられる。

なお、西低地のほぼ中央で杭列を検出した。しかし杭列という遺構の性格上、上層から打ち込まれているため検出面を特定することができなかった。よって、ここでは本遺構を検出したAs-C下谷に掲載することとするが、As-C下谷に伴う遺構か否かについては判断できなかった。

遺物 出土遺物は少なく、図化し得たのは8点のみであった。(1)はS字状口縁台付甕である。口縁部のみの小破片でやや摩滅しているが、小さく鋭く外反する口縁部と頸部内面にハケメを持つ特徴から、B類古相の特徴をもつ。(2～6)は単口縁甕である。(2)は頸部内面に輪積み痕が明瞭に残る。外面は斜縦方向ハケメで調整されている。(4・5)は同一個体の甕と考えられる。(6)は器壁がやや厚く、外面は横方向に不連続なハケメで調整されている。

第3章 調査の内容

(7)は小型台付寛の脚部である。

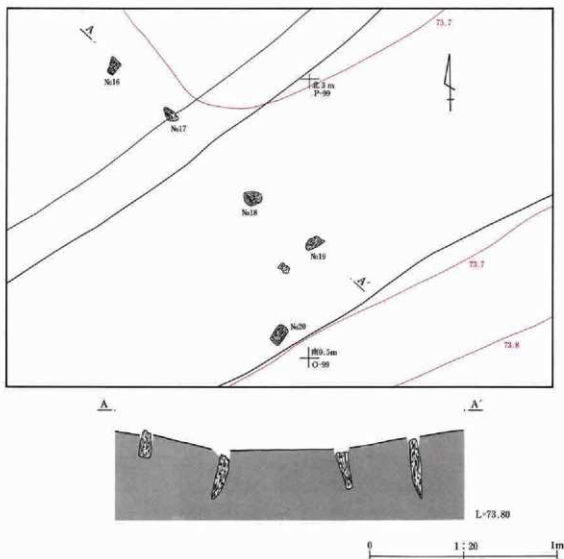
またAs-C層直下では、多くの流木・自然木を検出した。樹種同定分析の結果、クスギ節がほとんどであった。

杭 列 検出した杭列は、長さ1.45mで、低地を横断しながらほぼ直線上に並んでいる。各杭の規模は、長さ15~32cm・幅5~7cm・厚さ5cmである。各杭の間隔は約40~65cmである。先端部分は、円錐状に加工されていた。各杭は上層から打ち込まれており、検出面から最大30cmほどの深さであった。

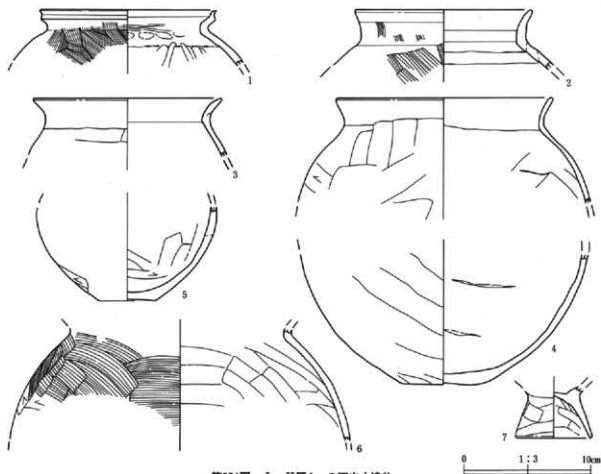
各杭列は樹種同定の結果、すべてムクロジであっ

た(414頁参照)。As-C下では、多くの流木が出土したが、クリ・クスギ節が多数を占め、流木とは樹種が大きく異なる。出土状況・樹種からも人為的影響が強いことが分かる。

遺構の規模から簡易な施設が想定される。



第373図 I区As-C下谷杭列

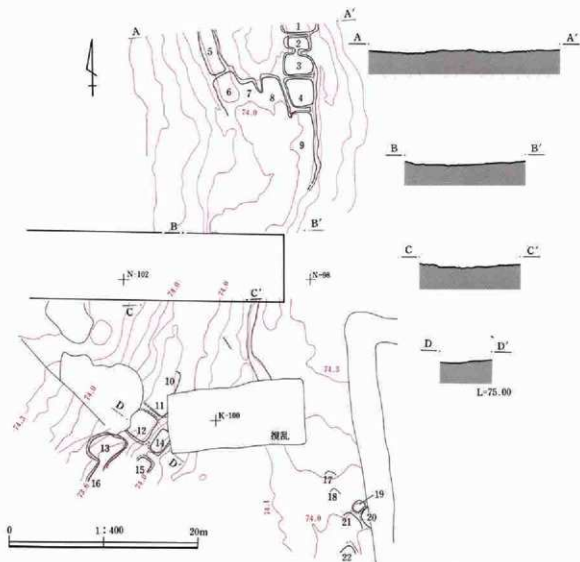


第374図 I・II区As-C下出土遺物

As-C下谷出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 S字状口縁 臺台付壺	埋没土中	口径(14.0) 底径— 器高—	①酸化焙②鈍い褐〜 梅③粗細砂・白色 鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部斜縦方向ハケメ。 内面 口縁部横ナデ。頸部横方向ハケメ。体部ナデ後縦 方向指ナデ・指面による調整。	口縁部破片
2	土師器 壺	埋没土中	口径(14.0) 底径— 器高—	①酸化焙②鈍い黄橙 ③粗細砂・長石・白 色鉱物粒を含む。	外面 口縁部縦方向ハケメ後横ナデ。体部上位斜縦ハケ メ。 内面 口縁部横方向ハケメ後横ナデ。体部ナデ。	口縁部破片
3	土師器 壺	埋没土中	口径(15.0) 底径— 器高—	①酸化焙②鈍い橙③ 粗細砂・赤色鉱物粒 ・チャートを含む。	内外面 口縁部横ナデ。	口縁部破片
4	土師器 壺	埋没土中	口径 17.0 底径— 器高—	①酸化焙②鈍い黄橙 ③粗細砂・角閃石を 含む。	外面 口縁部横ナデ。体部寛削り。 内面 口縁部横ナデ。体部寛ナデ。	口〜体部上半 破片
5	土師器 壺	埋没土中	口径— 底径(5.5) 器高—	①酸化焙②鈍い橙 ③粗細砂・角閃石・ 赤色鉱物粒を含む。	外面 体部寛削り。底部寛ナデ。 内面 体〜底部寛ナデ。	体〜底部破片 破片
6	土師器 壺	埋没土中	口径— 底径 4.0 器高—	①酸化焙②鈍い黄橙 ③粗細砂が目立つ。	外面 体部下半寛ナデか。底部寛ナデ。 内面 体〜底部寛ナデ。	体〜底部破片
7	土師器 壺	埋没土中	口径— 底径— 器高—	①酸化焙②橙③粗細 砂・チャート・角閃 石を含む。	外面 体部ハケメ。 内面 体部ナデか。	体部上位破片
8	土師器 台付壺	埋没土中	口径— 底径 6.0 器高—	①酸化焙②明褐 ③粗細砂・赤色鉱物 粒・角閃石を含む。	内外面 台部寛ナデ。	台部破片

4. Hr-FA下水田



第375図 1区Hr-FA下水田

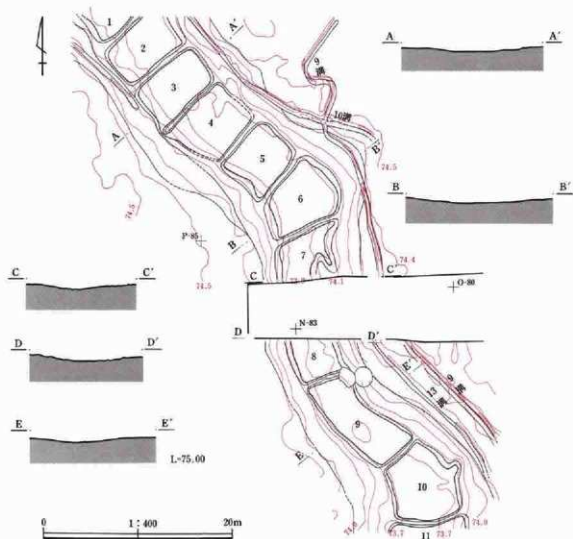
Hr-FA降下時(6世紀初期)には、低地はさらに埋没が進んでいた。底面付近の標高は西谷が74.0m、東谷が73.9mであり、As-C下谷から30~40cm程浅くなっていた。

Hr-FA層直下では水田が検出されている。しかし、西谷と東谷とでは区画に大きな違いがみられる。

西谷では、22枚の区画を検出した。区画はHr-FA層直下の水田として特徴的な極小区画水田である。上層からの耕作により中央付近では検出できなかった

が、低地全面に拡がっていたと考えられる。1区画の規模は、縦1.2~3.3m・横2.5~2.8m・面積2.47~7.68m²である。形状は縦長の長方形が基本であるが、低地の微妙な起伏に応じ区画を変えて対応している。南畦中央部に水口を持つ区画もみられた。また、南東部台地上には数枚の区画が確認され、台地部への水田の拡大が見取れる。

東谷では11枚の区画を検出した。各区画は、この時期に特徴的な極小区画水田ではなく、通常の区画



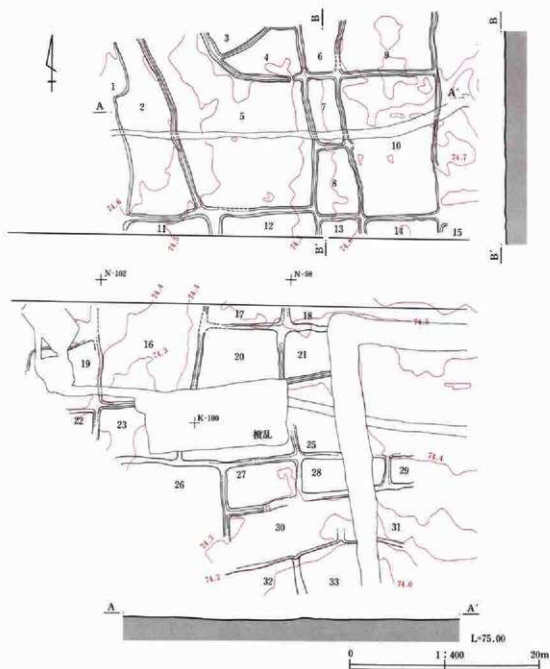
第376図 II区Hr-FAT水田

の8～10倍の大きさをもつものであった。1区画あたりの規模は、縦5.65～8.5m・横4.65～6.3m・面積31.7～41.88㎡である。形状は横長の長方形のものが多く、地形によりやや歪んでいる。水口等は確認できなかった。近接するほぼ同規模の低地において、その区画が異なるということについては、小谷という地形的制約によるものと考えられるが、発掘調査からは不明であった。

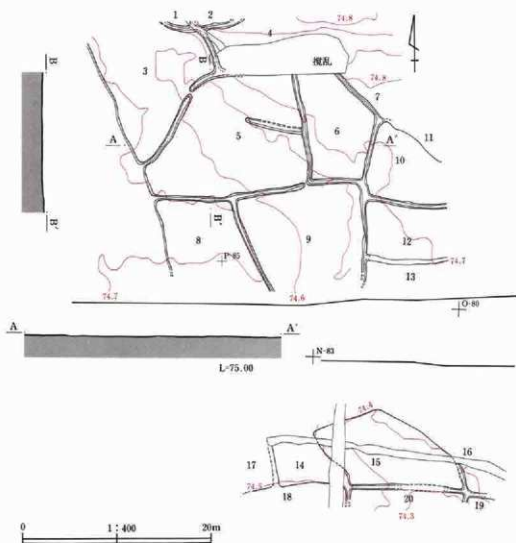
Hr-FA下水田からの出土遺物はなかった。なお、各水田区画の基本データは、遺構一覧表に掲載した。

第3章 調査の内容

5. As-B下水田



第377図 I区As-B下水田



第378図 II区As-B下水田

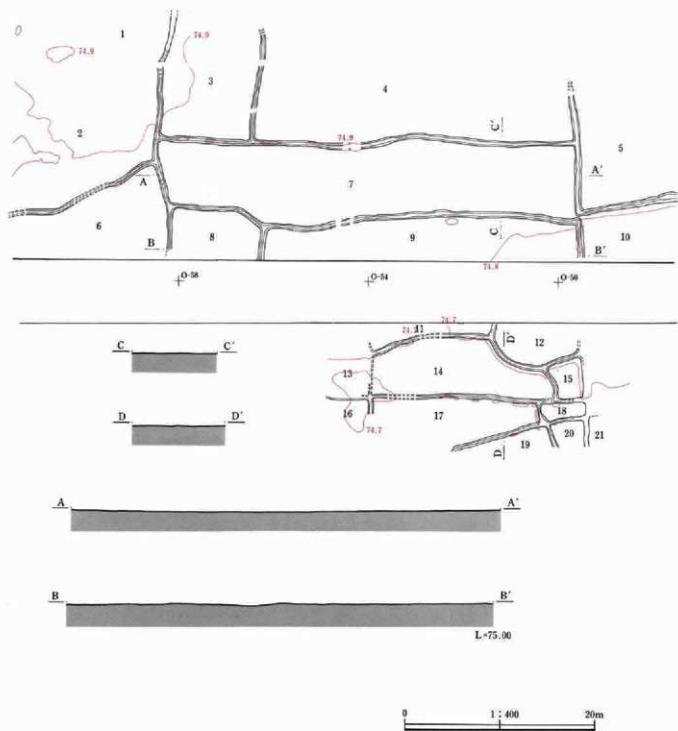
As-B降下時(天仁元年:1108年)には、奈良・平安時代の洪水堆積物により、低地は台地部とほぼ同レベルまで埋まっていた。底面付近の標高は西谷が74.5m、東谷が74.6mであり、台地と10cm程の標高差しかない。

As-B層直下では水田が検出された。水田は古墳時代からの生産域であったI・II区の低地だけでなく、新たにIII区でも検出され、水田域がさらに台地上へと拡大している様子が見て取れる。

As-B下水田の区画は、確認したもので21面である。各区画の規模は様々で、微妙な土地の起伏を克服し出来るだけ広い平坦面を得るために、細かく区画を変形させて対応している。結果として、埋没した低地をトレースした区画になっている。しかし、基本的には各畦畔は東西南北を指向しており、条里制の名残をとどめている。

As-B下水田からの出土遺物はなかった。なお、各水田区画の基本データは、遺構一覧表に掲載した。

第3章 調査の内容



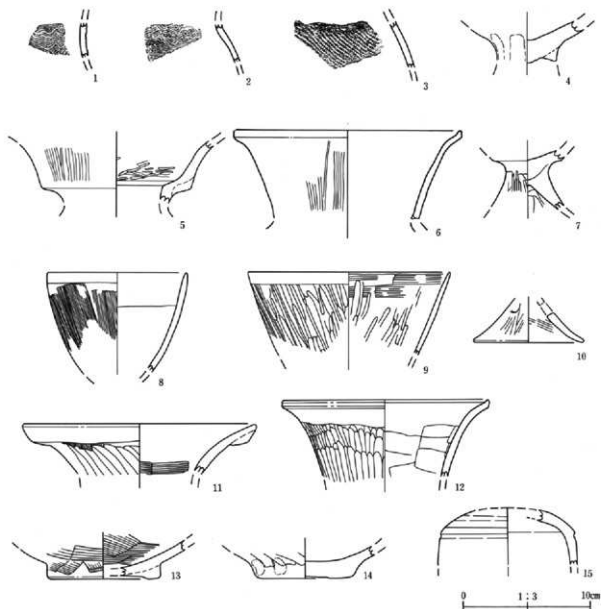
第379図 III区A₀-B₀下水田

第7節 遺構外の出土遺物

ここでは、各区の遺構確認作業中に出土した遺物や、時期の異なる遺構の埋没土から出土した遺物の中から特徴的なものを掲載した。

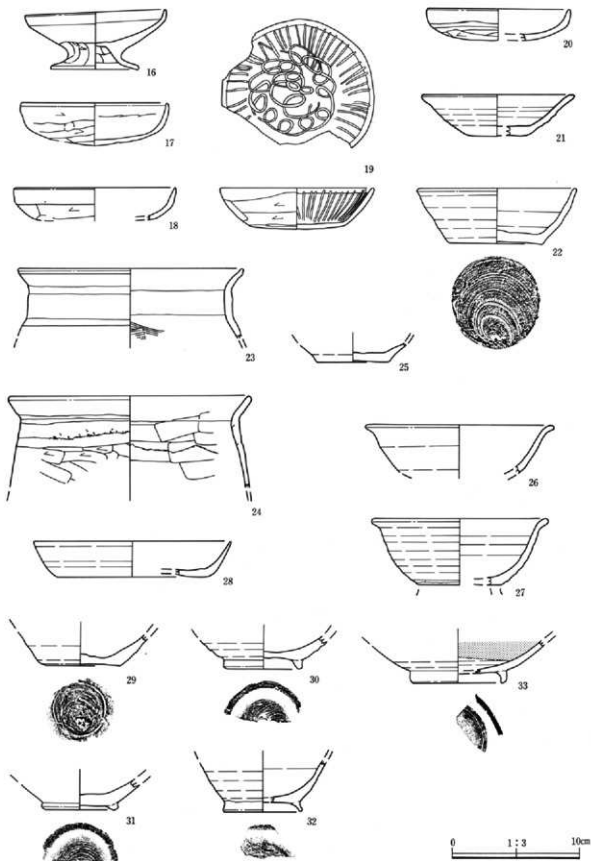
(1)～(2)は樽式土器の破片資料である。本遺跡では、古墳時代前期の方形周溝墓群に先行する弥生時代の遺構は検出されておらず、その存在を示唆するものである。(15)は須恵器坏蓋で、TK-47に比定

される資料である。本遺跡では同時期の遺構が検出されていない。(16)は内湾する小型坏であるが、脚が付いている。(100)は石製模造品である。平安時代の住居埋没土中から出土した。陶磁器類は、主に表面採集や非掲載の近現代溝からの出土である。年代は概ね18世紀以降から明治までのものが多い。

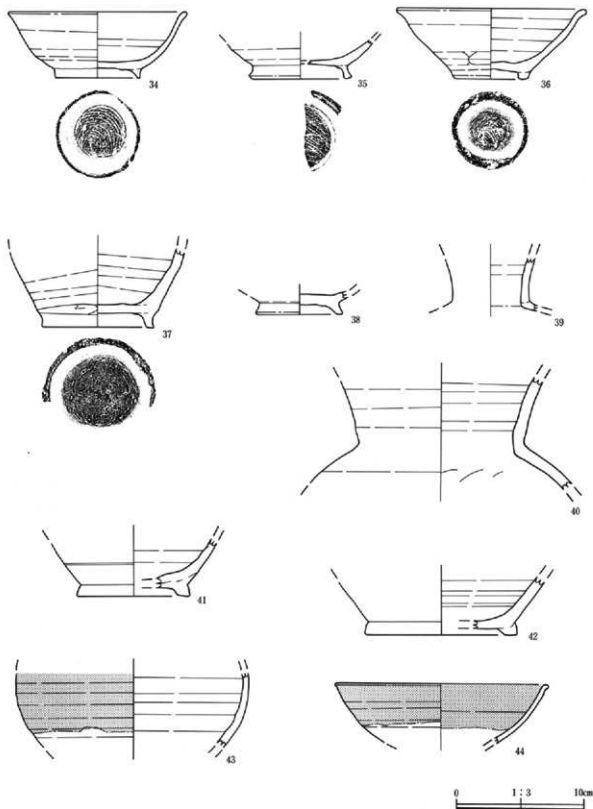


第300図 遺構外の遺物(1)弥生・古墳時代の土師器・須恵器

第3章 調査の内容

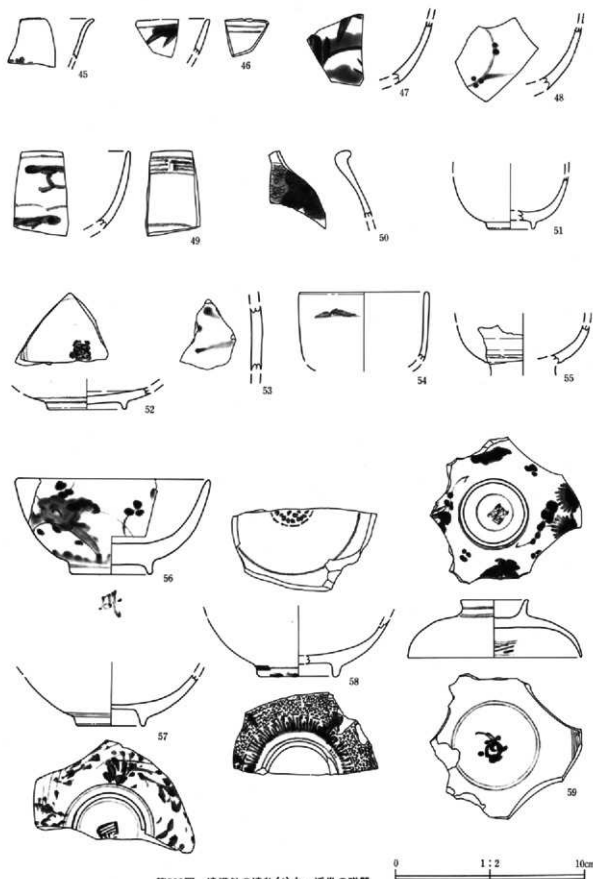


第381図 遺構外の遺物(2)奈良・平安時代

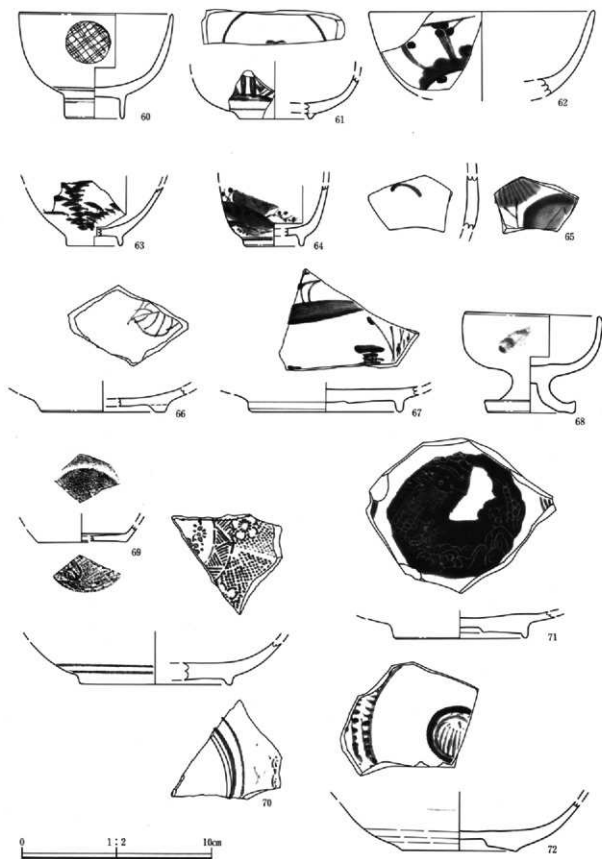


第382図 遺構外の遺物(3)奈良・平安時代

第3章 調査の内容

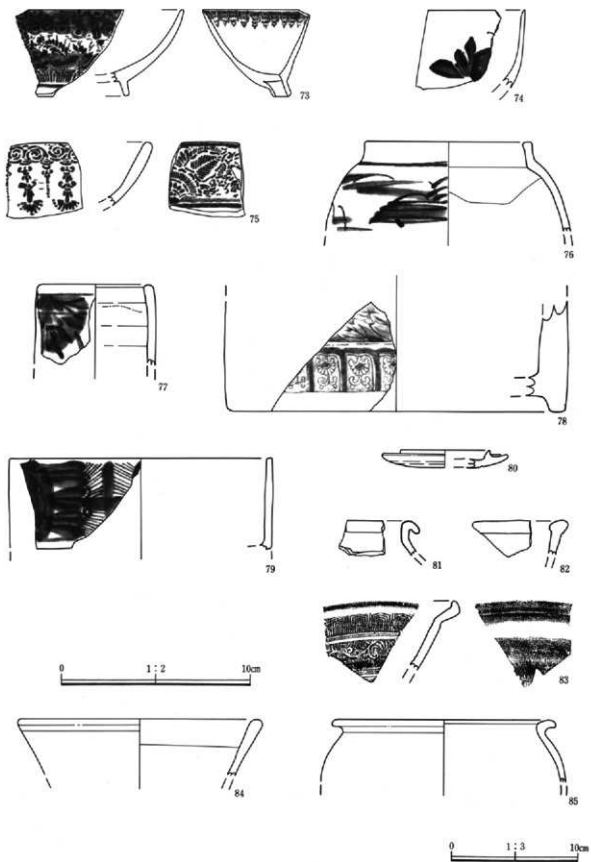


第313図 遺構外の遺物(4)中・近世の磁器

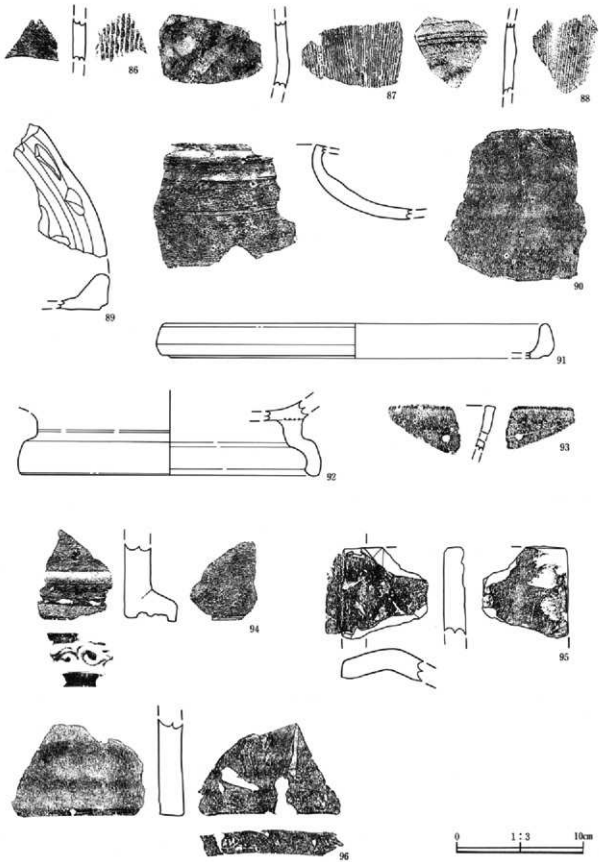


第384図 遺構外の遺物(5)中・近世の磁器

第3章 調査の内容

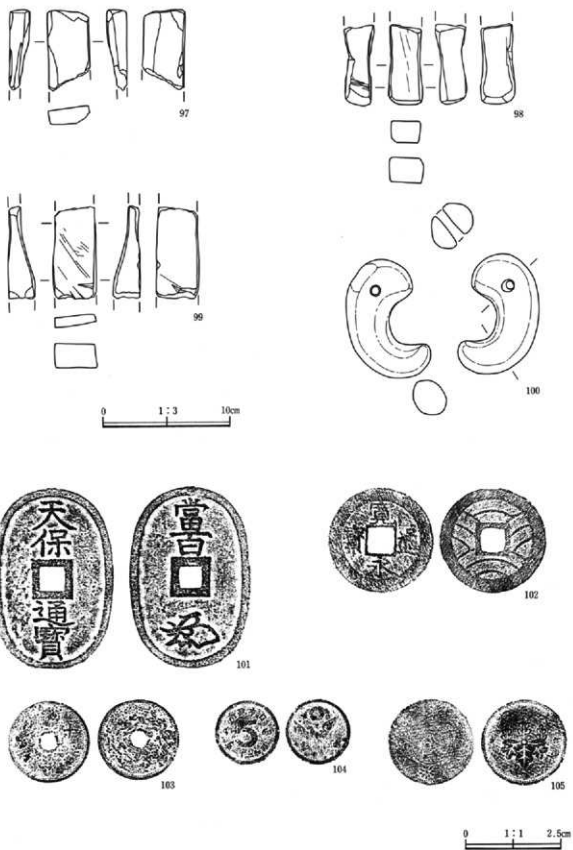


第385図 遺構外の遺物(8)中・近世の磁器



第386図 遺構外の遺物(7)中・近世の陶器・瓦等

第3章 調査の内容



第317図 遺構外の遺物(石製品・金属製品等)

遺構外出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	弥生土器 甕?	II-B区 22号住居 埋没土	口径— 底径— 器高—	①酸化焰②暗褐色 ③細砂・角閃石を含む。	外面 磨き後、横方向縦摺文(7本/単位)。 内面 磨き。	破片
2	弥生土器 甕?	I-A区 39号住居 埋没土	口径— 底径— 器高—	①酸化焰②暗褐色 ③粗細砂を含む。	外面 磨き後、横方向細かい摺摺文(単位不明)。 内面 磨き。	破片
3	弥生土器 甕?	K-83 グリッド	口径— 底径— 器高—	①酸化焰②暗黄褐色 ③細砂・赤色鉱物粒 角閃石を含む。	外面 磨き後。 内面 ナデか?	破片
4	土師器 台付甕?	I-A区 22号土坑 埋没土	口径— 底径— 器高—	①酸化焰②鈍い橙 ③粗細砂・赤色鉱物 粒・角閃石を含む。	内外面 寛ナデ。	脚部破片
5	土師器 二重口鉢	I-B区 近世溝 埋没土	口径— 底径— 器高—	①酸化焰②橙 ③粗細砂・細織を含む。	外面 口縁部縦方向磨き。頸部横方向磨き。 内面 口縁部横方向磨き。内外面赤色塗彩。	口縁部欠損 口縁部破片
6	土師器 甕	I-B区 2号溝 埋没土	口径— 底径— 器高—	①酸化焰②淡黄③細 砂・角閃石を含む。	外面 口唇部受け口状。口縁部横ナデ。 内面 調整不明瞭。	口縁部破片
7	土師器 高坏	II-A B 7号溝 埋没土	口径— 底径— 器高—	①酸化焰②橙③粗細 砂・白色鉱物粒・角 閃石を含む。	外面 脚部縦方向細かい磨き。 内面 脚部指ナデ。	脚部破片
8	土師器 用	II-B区 26号住居 埋没土	口径— 底径— 器高—	①酸化焰②暗赤褐 ③細砂・角閃石・赤 を含む。	外面 口縁部ハケメ。横ナデ・縦方向磨き。 内面 口縁部ハケメ後、ナデ・磨き。	口縁部破片
9	土師器 大型丸底用	IV-A区 15号溝 埋没土	口径(16.0) 底径— 器高—	①酸化焰②淡黄褐色 ③角閃石を含む。	外面 口縁部細かい縦方向磨き後、口縁部横ナデ・指 頭に磨る調整。 内面 口縁部細かい縦方向磨き。	口縁部破片
10	土師器 器台	II-B区 28号住居 埋没土	口径— 底径— 器高—	①酸化焰②橙 ③細砂・白色鉱物粒 ・角閃石を含む。	外面 脚部縦方向磨きか? 透孔1カ所あり。 内面 脚部横ナデ。	脚部破片
11	土師器 折返口鉢	I-B区 7号住居 埋没土	口径— 底径— 器高—	①酸化焰②橙 ③粗細砂・角閃石・ 白色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。頸部ハケメ後、縦方向磨き。 内面 口縁部横ナデ。頸部横方向ハケメ。	口縁部破片
12	土師器 甕 埋没土	II-B区 23号住居	口径— 底径— 器高—	①酸化焰②淡黄 ③粗細砂・赤色鉱物 粒を含む。	外面 口唇部受け口状。口縁部横ナデ。縦方向細かい磨 きか? 内面 口縁部横ナデ。	口縁部破片
13	土師器 甕?	II区表探 -2	口径— 底径(4.5) 器高—	①酸化焰②灰白 ③角閃石が目立つ。	外面 体部下位ハケメ。底部横ナデ。 内面 体~底部下位ハケメ	底部破片
14	土師器 甕?	IV-A区 2号住居 埋没土	口径— 底径7.8 器高—	①酸化焰②明黄褐 ③細砂・角閃石を含 む。	外面 体部横ナデ。底部無調整か? 内面 底部ハケメ。	底部破片
15	須恵器 坏蓋	表面探集	口径— 底径— 器高—	①還元焰②灰 ③白色鉱物粒を含む。	外面 回転面有り。 内面 回転ナデ。	TK-47
16	土師器 高坏	I-90 グリッド	口径(11.0) 底径7.0 器高4.1	①酸化焰②橙 ③細砂・角閃石を含 む。	外面 口縁部横ナデ。体部横方向磨ナデ。頸部横ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体~底部ナデ。	完形
17	土師器 坏	S-27 グリッド	口径(11.6) 底径— 器高(3.4)	①酸化焰②橙 ③粗細砂・角閃石を 含む。	外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部磨削 有り。 内面 口縁部横ナデ。体~底部ナデ。	口~底部1/3 残存
18	土師器 坏	IV-A区 15号溝 埋没土	口径(12.8) 底径— 器高—	①酸化焰②橙 ③細砂・角閃石を含 む。	外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部磨削 有り。 内面 口縁部横ナデ。体~底部ナデ。	口縁部破片 残存
19	土師器 坏	R-27 グリッド	口径12.0 底径7.5 器高3.2	①酸化焰②明赤褐 ③細砂・角閃石を含 む。	外面 口縁部横ナデ。体部弱い磨削。底部磨削有り。 内面 口縁部横ナデ。体~底部丁寧ナデ後、体部放 射状の磨文、底部螺旋状の磨文を施す。	口~底部3/4

第3章 調査の内容

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
20	土師器 坏	IV-B区 44号ピット	口径(11.2) 底径 - 器高 -	①酸化焙②灰褐 ③細砂を含む。	外面 口縁部横ナゲ。体~底部寛削り。 内面 口縁部横ナゲ。体~底部ナゲ。	口~底部破片
21	須恵器 坏	II-B区 館溝	口径(11.7) 底径(4.3) 器高(3.3)	①還元焙②褐灰③粗 細砂・白色鉱物粒を 含む。	外面 口縁部横ナゲ。体部回転ナゲ。底部右回転余切り。 内面 口縁部横ナゲ。体~底部回転ナゲ。	口~体部破片 り。無調整。
22	須恵器 坏	U-28 グリッド	口径 12.3 底径 7.4 器高 4.3	①還元焙②灰 ③細砂を少量含む。	外面 口縁部横ナゲ。体部回転ナゲ。底部右回転余切り。 内面 口縁部横ナゲ。体~底部回転ナゲ。	ほぼ完形
23	土師器 甕	IV-A区 15号溝 埋没土	口径(17.7) 底径 - 器高 -	①酸化焙②鈍い橙 ③細砂・赤色鉱物粒 を含む。	外面 口縁部横ナゲ。体部上位横方向寛削り。 内面 口縁部横ナゲ。体部横方向寛ナゲ。	口縁部破片
24	土師器 甕	IV-A区 15号溝 埋没土	口径(19.0) 底径 - 器高 -	①酸化焙②灰褐 ③細砂・角閃石を含 む。	外面 口縁部横ナゲ。体部上位横方向寛削り。 内面 口縁部横ナゲ。体部横方向寛ナゲ。	口縁部破片
25	須恵器 坏	IV-A区 15号溝 埋没土	口径 - 底径(5.6) 器高 -	①還元焙②黒褐~灰 白③細砂・白色鉱物 粒を含む。	外面 体部回転ナゲ。底部回転余切り。無調整。 内面 体~底部回転ナゲ。	底部破片
26	須恵器 高台付椀	IV-A区 15号溝 埋没土	口径(14.4) 底径 - 器高 -	①還元焙②鈍い褐 ③細砂・赤色鉱物粒 を含む。	外面 口縁部横ナゲ。体部回転ナゲ。 内面 口縁部横ナゲ。体部回転ナゲ。	口~体部1/3
27	須恵器 坏	IV-A区 15号溝 埋没土	口径(14.0) 底径 - 器高 -	①還元焙②灰褐~褐 灰③細砂・赤色鉱物 粒を含む。	外面 口縁部横ナゲ。体部回転ナゲ。 内面 口縁部横ナゲ。体部回転ナゲ。	口~体部破片
28	須恵器 坏	IV-A区 133号土 坑埋没土	口径(15.6) 底径(11.6) 器高(2.8)	①還元焙②灰 ③細砂を少し含む。	外面 口縁部横ナゲ。体部回転ナゲ。底部寛削り。 内面 口縁部横ナゲ。体~底部回転ナゲ。	口~底部破片
29	須恵器 (高台付)椀	II区 館北溝 埋没土	口径 - 底径(6.2) 器高 -	①還元焙②灰白 ③粗細砂・赤色鉱物 粒を含む。	外面 体部回転ナゲ。底部右回転余切り。無調整。 付高台(高台部欠損)。 内面 体~底部回転ナゲ。	底部破片
30	須恵器 高台付椀	IV-A区 103号土 坑埋没土	口径 - 底径 - 器高 -	①還元焙②鈍③粗細 砂・白色鉱物粒・角 閃を含む。	外面 体部回転ナゲ。底部回転余切り(回転方向不明)。 内面 体~底部回転ナゲ。	底部破片
31	須恵器 高台付椀	IV-A区 103号土 坑埋没土	口径 - 底径 - 器高 -	①還元焙②鈍③粗細 砂・白色鉱物粒を含 む。	外面 体部回転ナゲ。底部回転余切り(回転方向不明)。 内面 体~底部回転ナゲ。	底部破片
32	須恵器 高台付椀?	IV-A区 103号土 坑埋没土	口径 - 底径 - 器高 -	①還元焙②灰白 ③細砂・角閃石を含 む。	外面 体部回転ナゲ。底部回転余切り(回転方向不明)。 付高台。 内面 体~底部回転ナゲ。	底部破片
33	灰輪陶器 高台付椀	IV-A区 17号溝 埋没土	口径 - 底径 - 器高 -	①酸化焙②灰白 ③黒色鉱物粒を少量 含む。	外面 体部回転ナゲ。付高台。 内面 体~底部回転ナゲ。軸付着。	底部破片
34	須恵器 高台付椀	IV-B区 88号ピット	口径(13.8) 底径 6.4 器高 4.7	①還元焙②灰~黄灰 ③粗細砂・赤色鉱物 粒を含む。	外面 口縁部横ナゲ。体部回転ナゲ。底部右回転余切り。 内面 口縁部横ナゲ。体~底部回転ナゲ。	口~体部1/3 残存
35	須恵器 高台付椀	IV-A区 17号溝 埋没土	口径 - 底径 7.4 器高 -	①還元焙②灰白 ③細砂・角閃石・赤 色鉱物粒を含む。	外面 体部回転ナゲ。底部右回転余切り。無調整。付 高台。 内面 体~底部回転ナゲ。	底部破片
36	須恵器 高台付椀	J-85 グリッド	口径(14.6) 底径 5.5 器高 5.7	①還元焙②鈍い橙 ③細砂・赤色鉱物粒 を含む。	外面 口縁部横ナゲ。体部回転ナゲ。底部右回転余切り。 内面 口縁部横ナゲ。体~底部回転ナゲ。	口~底部1/2 残存
37	須恵器 甕?	I-A区 谷西	口径 - 底径 8.4 器高 -	①還元焙②灰 ③粗細砂・白色鉱物 粒を含む。	外面 体部回転ナゲ。底部寛削り後付高台。高台横ナ ゲ。 内面 体~底部回転ナゲ。	体~底部破片
38	須恵器 高台付椀	I-A区 谷西	口径 - 底径 6.6 器高 -	①酸化焙②鈍③灰白 ~淡橙④粗細砂・赤 色鉱物粒を含む。	外面 体部回転ナゲ。底部回転余切り(回転方向不明)。 無調整。付高台。 内面 体~底部回転ナゲ。	底部破片

第7節 遺構外の出土遺物

番号	種類	出土位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
39	須恵器 其期壺?	船堀 埋没土	口径 - 底径 - 器高 -	①還元焰②灰黄～ 灰黄③白色鉱物粒を 少量含む。	内外面 回転ナデ。軸付着。	頸部破片
40	須恵器 壺	IV区 表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	①還元焰②灰 ③細砂・白・赤・黒 色鉱物粒を含む。	内外面 回転ナデ。	頸部破片
41	須恵器 壺?	船堀	口径 - 底径 - 器高 -	①還元焰②灰灰 ③白色鉱物粒を少量 含む。	外面 回転ナデ。付高台。	底部破片
42	須恵器 壺?	船堀	口径 - 底径(12.0) 器高 -	①還元焰②灰 ③白色鉱物粒を少量 含む。	外面 回転ナデ。付高台。 内面 回転ナデ。	底部破片
43	須恵器 壺?	K・L-8 5～87 グリッド	口径 - 底径 - 器高 -	①還元焰②鈍い黄緑 底径 - ③白色鉱物粒を含む。	外面 回転ナデ。自然軸付着。 内面 回転ナデ。	体部破片
44	灰釉陶器 椀?	IV-A区 15号溝 埋没土	口径(16.5) 底径 - 器高 -	①還元焰②灰白 ③白色鉱物粒を少量 含む。	外面 口縁部横ナデ。小さく外反。体部回転ナデ。内 外面軸受け掛け。 内面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ	口～体部破片
45	肥前 磁器 碗	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 不明文様。 内面 無文。	江戸時代
46	肥前 磁器 碗	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 雲持笹文。 内面	18C中～後半
47	肥前 磁器 碗	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 雲輪文 内面 無文。	波佐見系 17C後半～18 C中
48	肥前 磁器 碗	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 梅折枝文。 内面	波佐見系 18C中～後半
49	瀬戸・美濃 磁器 碗	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	内外面 染付。	19C中
50	瀬戸・美濃 磁器 碗	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 染付。 内面 無文。	19C中
51	製作地不詳 碗	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	内外面 残存部無文。焼成不良。	18C後半～19 C前半
52	肥前 磁器 碗	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 - 内面 底部五弁花。	18C後半
53	肥前 陶器 碗	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 染付。 内面 無文。	江戸時代 陶胎染付
54	肥前 磁器 碗	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 山水文か 内面 -	江戸時代
55	瀬戸・美濃 陶器 碗	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 灰釉。 内面 高台脇まで灰釉。	江戸時代
56	肥前 磁器 碗	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 雲輪花梅樹文。高台内「明」崩れ跡。 内面 -	波佐見系 18C中～後半
57	瀬戸・美濃 磁器 碗	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 不明文様。高台内不明跡。 内面	19C中以降

第3章 調査の内容

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
58	瀬戸・美濃 磁器 碗	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	内外面 型紙摺り。焼成不良により胎土灰白色。	明治以降
59	瀬戸・美濃 陶器 碗蓋	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 花卉に燦文。 内面 不明文様。	19C中
60	製作地不詳 磁器 碗	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 丸文。 内面 - 高台高い。焼成不良により胎は白色。	18C後半 ～19C前半か
61	肥前 磁器 碗	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 孟宗譚か 内面 五花弁と界線	18C中～後半
60	肥前 磁器 碗	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 雷輪梅樹文。 内面 -	波佐見系 18C中～後半
62	肥前 磁器 小杯	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 花卉文。 内面 -	18～19C
64	瀬戸・美濃 陶器 湯飲み	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 梅樹文。 内面	19C中
65	肥前 磁器 皿	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 唐草文か。 内面 不明文様。	18～19C中
66	製作地不詳 陶器 皿	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 全面灰胎。高台端部のみ無軸。 内面 鉄絵具で木葉文。	時期不詳
67	瀬戸・美濃 ? 磁器 皿	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 蛇ノ目凹形高台 内面 海浜風景。やや焼成不良。	19C中
68	瀬戸・美濃 陶器 仏飯碗	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 脚部を除き灰胎。1カ所脚部による文様。 内面 灰胎。	18～19C
69	電泉系 青磁 皿	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 底部の一部無軸。 内面 両辺に片形りの界線。	13C
70	瀬戸・美濃 ? 磁器 皿	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	内外面 型紙摺り。	明治以降
71	瀬戸・美濃 ? 磁器 皿	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 蛇ノ目凹形高台。 内面 形押しにより竜文を施し、透みを入れる。	19C中
72	瀬戸・美濃 磁器 皿	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 小さい蛇ノ目凹形高台。 内面 不明文様。	19C中以降
73	瀬戸・美濃 磁器 碗	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	内外面 型紙摺り。	明治以降
74	製作地不詳 碗	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 不明文様。 内面 - やや焼成不良で胎白く濁る。	19C中
75	瀬戸・美濃 磁器 鉢	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	内外面 型紙摺り。	明治
76	益子 陶器 土版	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 白土がけの後、山水文。 内面 無軸。	19C中以降 山水土版

第7節 遺構外の出土遺物

番号	種類	出土位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
77	肥前磁器 火入れ?	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 不明文様。 内面 口縁部以下無釉。口徑小さい。	江戸時代
78	製作地不詳 磁器 火入れ?	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 刷板プリント。 内面 無釉。	明治以降
79	製作地不詳 磁器 重箱	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 人造苔面による文様。 内面 口縁部無釉。	明治以降
80	瀬戸・美濃 陶器 灯明受皿	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	内外面 鉄釉。底部釉を拭い取る。	18~19C
81	瀬戸・美濃 陶器	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	内外面 緑色の鉄釉。	江戸時代
82	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	内外面 鉄釉。	江戸時代
83	肥前 陶器 鉢	表面採集 1区	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 文様を押しした後、白土がけ。 内面 白土がけ。	三島手 18C
84	瀬戸・美濃 陶器? 植木鉢	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 灰釉。白斑有り。 内面 口縁部以下無釉。	19C中以降
85	製作地不詳 陶器 壺	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	内外面 緑色の鉄釉。	明治以降
86	堺・明石 陶器 すり鉢	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	焼結陶器。	体部小片
87	丹羽 陶器 すり鉢	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 指押さえ状の圧痕。 内面 開縁の狭いすり目。	18~19C
88	丹羽 陶器 すり鉢	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 指状圧痕。 内面 -	江戸時代
89	在地系土器 焙烙	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 丸味をもって底部に至る。 内面 平底。	19C中~後半
90	知多窯 陶器 壺	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 - 内面 -	頸部破片
91	在地系土器 焙烙	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 - 内面 丸底。	19C中以降
92	中世陶器 火鉢	1-B区 近世調 埋出土	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 - 内面 -	底部破片
93	軟質陶器 内耳鍋	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	内外面 補修孔1ヵ所有り。	時期不詳 中世か
94	軒瓦	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 唐草文。 内面 -	明治以降か
95	棧瓦	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	内外面 胎土均質。	近代以降か

第3章 調査の内容

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②胎土	成・整形技法の特徴 (彫形・文様の特徴)	残存状態 備考
96	枕瓦	表面採集	口径 - 底径 - 器高 -	① - ② - ③ -	外面 小口に肩形の押し印。印銘は不詳。 内面 -	明治以降
番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm・g)	石材	形状・調整加工の特徴	残存状態 備考
97	石製品 砥石	遺構外-4	長 6.3 幅 3.2 厚 0.9 重 35.0	珪質粘板岩	断面形状は長方形で、使用により厚さを減じている。 表裏、両側に使用面。上端に工具による成形痕有り。 下半欠損。	1/3残存。
98	石製品 砥石	遺構外-1	長 6.3 幅 2.2 厚 1.0 重 54.0	不明	断面形状はほぼ正方形で、表裏、両側に使用面。上端 欠損。	2/3残存。
99	石製品 砥石	II-B区 近世調-1	長 7.4 幅 3.3 厚 1.0 重 -	砥沢石	断面形状は長方形で、使用により厚さを減じており、 特に中央部は非常に薄くなっている。上半欠損。	1/2残存。
100	石製品 石製模造品	13号住居 埋没土	長 3.4 幅 1.1 厚 0.9 重 2.0	滑石	全面をよく研磨してある。孔は両面から穿孔。使用に よる擦れなどは見られない。	完形。
番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm・g)	材質	形状・調整加工の特徴	残存状態 備考
101	銅製品 古銭	表面採集	直径 4.80×3.30 厚 - 重 -	銅	天保通宝(1835年初鋳)。	完形。
102	銅製品 古銭	表面採集	直径 2.80 厚 - 重 -	銅	寛永通宝(1636年初鋳)。	完形。
103	金属製品 古銭	表面採集	直径 1.9 厚 - 重 2.40	銅	十銭銅貨(1944年)。	完形。
104	金属製品 古銭	表面採集	直径 1.7 厚 - 重 2.00	銅	鳩5銭銅(1945～1946年)。	完形。
105	金属製品 古銭	表面採集	直径 2.30 厚 - 重 3.75	銅	例1銭青銅貨(1916～1924・1927・1930～1938)。	完形。

第4章 関連調査と結果

第1節 西善尺司I遺跡の土層とテフラ

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

西善尺司I遺跡の位置する前橋台地上には、浅間火山や榛名火山をはじめとする北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、南九州地方の鬼界カルデラなど遠方の火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、土層の形成年代のほか、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになってきている。

そこで、年代の不明な土層や畦畔遺構が認められた西善尺司I遺跡において、地質調査により土層層序を記載するとともに、テフラ検出分析を合わせて行って、示標テフラの層位を把握し土層の年代に関する資料を収集することになった。調査の対象となった地点は、2区B谷土層断面、1区A谷土層断面、1区B谷土層断面、3区A南壁の4地点である。

2. 土層の層序

(1) 2区B谷土層断面

2区B谷土層断面では、下位より暗褐色泥炭層（層厚5cm以上）、黒灰色泥層（層厚9m）、黄灰色軽石層（層厚4cm、軽石の最大径6mm、石質岩片の最大径2mm）、下位の黄灰色軽石層に由来する黄灰色軽石を多く含む暗灰色土（層厚3cm）、黒灰色泥層（層厚2cm以上）、暗灰褐色泥層（層厚5cm）、黒泥層（層厚6cm）、黄灰色砂層（層厚3cm）、暗灰色土（層厚2cm）、成層したテフラ層（層厚3.6cm）、暗灰色土（層厚6cm）、褐灰色土（層厚41cm）、暗灰褐色土（層厚11cm）、成層したテフラ層（層厚8cm）、暗灰色砂質土（層厚3cm）、灰色砂質土（層厚13cm）の連続が認められる（図1）。

この地点の発掘調査では、2層の成層したテフラ層の直下から畦畔遺構が検出されている。下位の成層したテフラ層は、下部の褐色細粒火山灰層（層厚0.6cm）と上部の白色細粒軽石混じり黄白色砂質細粒火山灰層（層厚3cm、軽石の最大径8mm）から構成されている。このテフラ層は、その層相から6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳波川テフラ（Hr-FA、新井, 1979、坂口, 1986、早田, 1989、町田・新井, 1992）に同定される。また上位の成層したテフラ層は、下部の黄灰色粗粒火山灰層（層厚7cm）と上部の桃色細粒火山灰層（層厚1cm）からなる。このテフラ層は、その層相から1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ（As-B、新井, 1979）に同定される。

(2) 1区A谷土層断面

1区A谷土層断面では、下位より黒褐色泥炭層（層厚15cm以上）、黒褐色泥炭層（層厚10cm）、灰色軽石層（層厚4cm、軽石の最大径8mm、石質岩片の最大径2mm）、黒灰色泥層（層厚2cm）、暗灰褐色泥層（層厚5cm）、黒泥層（層厚5cm）、灰色軽石混じり黒灰色土（層厚11cm、軽石の最大径4mm）、黒泥層（層厚6cm）、白色軽石を含む黄色細粒火山灰層（層厚5cm、軽石の最大径12mm）、暗灰色土（層厚8cm）、白色軽石を含む褐灰色土（層

第4章 関連調査と結果

厚33cm、軽石の最大径4mm)、黒灰色土(層厚5cm)、灰色砂質土(層厚47cm)が認められた(図2)。

発掘調査では、白色軽石を含む黄色細粒火山灰層の直下から畦畔遺構が検出されている。このテフラ層は層相からHr-FAに同定される。

(3) 1区B谷土層断面

1区B谷土層断面では、下位より暗灰色土(層厚3cm以上)、灰色軽石混じり暗灰色土(層厚2cm、軽石の最大径3mm)、黒色土(層厚2cm)、橙色土(層厚0.8cm)、黒色土(層厚6cm)、暗灰褐色土(層厚7cm)、黒泥層(層厚2cm)、白色軽石を含む黄色細粒火山灰層(層厚7cm、軽石の最大径4mm)、暗灰色土(層厚13cm)、灰褐色土(層厚14cm)、灰色土(層厚6cm)、暗灰褐色土(層厚8cm)、成層したテフラ層(層厚5.6cm)、灰色土(層厚11cm)、灰色砂質土(層厚14cm)が認められた(図3)。

これらのうち、白色軽石を含む黄色細粒火山灰層は、層相からHr-FAに同定される。また成層したテフラ層は、下位より灰色細粒火山灰層(層厚0.2cm)、黄色粗粒火山灰層(層厚0.4cm)、灰色細粒火山灰層(層厚0.2cm)、黄灰色粗粒火山灰層(層厚1cm)、橙褐色粗粒火山灰層(層厚1cm)、黄灰色粗粒火山灰層(層厚3cm)からなる。このテフラ層は、その層相からAs-Bに同定される。本地点で多くのユニットが観察されることは、とくにAs-Bの保存状態が良好なことに由来している。

(4) 3区A南壁

3区A南壁では、下位より灰色砂質土(層厚8cm)、暗灰色土(層厚5cm)、灰色土(層厚8cm)、灰色土(層厚8cm)、暗灰色土(層厚5cm)、灰色粗粒火山灰層(層厚5cm)、黒褐色砂質土(層厚1cm)、灰色砂質土(層厚13cm)が認められる(図4)。これらのうち、灰色粗粒火山灰層はその層相からAs-Bに同定される。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

Hr-FAの下位に認められる軽石層や軽石粒子さらに洪水砂の起源などを明らかにするため、また3区A南壁におけるAs-Bの下位のテフラの降灰層準を求めるために、テフラ検出分析を行った。分析の対象となった試料は、2区B谷土層断面および3区A南壁において採取された5点である。分析の手順は、次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の特徴を観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。2区B谷土層断面の試料番号2には、スポンジ状に比較的良く発泡した灰白色軽石がとくに多く含まれている。軽石の最大径は5.9mmである。班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。この軽石は、その岩相から4世紀中葉に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C、新井、1979)に由来すると考えられる。したがって、試料番号2のテフラは、As-Cに同定される。このことから、1区A谷土層断面や1区B谷土層断面において、Hr-FAの下位に認められた灰色軽石層はAs-Cに、また灰色軽石の粒子はAs-Cに由来すると考えられる。

試料番号1の洪水砂層中には、細かく発泡した白色軽石（最大径1.2mm）が比較的多く含まれている。軽石は水流により円磨を受けている。洪水砂層の重鉱物としては、斜方輝石や角閃石が認められる。この軽石については、岩相や粒径などの特徴から、榛名火山に由来すると考えられる。この砂層は、ブロック状にごく局地的にしか認められないことから、耕作を含めた何らかの攪乱作用により、上位のHr-FA火山泥流層が混じり込んだ可能性も完全に否定することはできない。しかし、その一方で、5世紀に榛名火山から噴出した榛名有馬火山灰（Hr-AA、町田ほか、1984）の再堆積層である可能性も考えられる。そこで、今後はHr-AAとこの洪水層の層位関係を明らかにする必要がある。なお、この軽石粒子については、さらに屈折率測定などを行って特徴の把握を行いたい。

3区A南壁では、試料番号3および1に比較的良好く発泡した灰白色軽石（最大径2.8mm）とあまり発泡の良くない白色軽石（最大径1.3mm）が含まれている。これらの軽石は、岩相から前者がAs-Cに、後者がHr-FAに各々由来していると考えられる。層相を合わせて考慮すると、試料番号3はHr-FA堆積以降でAs-B降灰前に堆積した洪水層に由来していると思われる。

4. 小結

西善尺司1遺跡において、地質調査とテフラ検出分析を行った。その結果、下位より、浅間C軽石（As-C、4世紀中葉）、榛名二ツ岳洗川テフラ（Hr-FA、6世紀初頭）、浅間Bテフラ（As-B、1108年）のテフラ層およびテフラ粒子が検出された。発掘調査で検出された畦畔遺構の層位は、Hr-FAとAs-Bの直下の2層準にある。

文献

- 新井房夫（1962）関東盆地北西部地域の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編，10，p.1-79。
 新井房夫（1979）関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層。考古学ジャーナル，no.53，p.41-52。
 町田 洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス。東京大学出版会，276p。
 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫（1984）テフラと日本考古学—考古学研究に關係するテフラのカタログ。古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」，p.865-928。
 坂口 一（1986）榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器。群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」，p.103-119。
 早田 勉（1989）6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害。第四紀研究，27，p.297-312。

表1 西善尺司I遺跡のテフラ検出分析結果

地点	試料	軽石の量	軽石の色調	軽石の最大径
2区B谷	1	++	白	1.2
	2	++++	灰白	5.9
3区A南壁	1	++	灰白>白	2.8,1.3
	3	+	灰白>白	1.4,1.0
	5	-	-	-

++++:とくに多い, +++:多い, ++:中程度, +:少ない, -:認められない。最大径の単位は, mm。

第2節 西善尺司I遺跡におけるプラント・オパール分析

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸(SiO₂)が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石(プラント・オパール)となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する分析であり、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査が可能である(藤原・杉山, 1984)。

西善尺司I遺跡の発掘調査では、Hr-F A直下とAs-B直下の2層準から畦畔遺構が検出された。ここでは、これらの遺構における稲作の検証を主目的として分析を行った。

2. 試料

試料は、2区B谷土層断面、1区A谷土層断面、1区B谷土層断面、3区A南壁の4地点から採取された27点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

3. 分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法(藤原, 1976)をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105°Cで24時間乾燥(絶乾)
- 2) 試料約1gに対して直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加
(電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法(550°C・6時間)による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射(300W・42kHz・10分間)による分散
- 5) 沈底法による20μm以下の微粒子除去
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数。

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールをおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:10⁻⁵g)をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ(赤米)の換算係数は2.94、ヒエ属(ヒエ)は8.40、ヨシ属(ヨシ)は6.31、ススキ属(ススキ)は1.24、タケ亜科(ネザサ節)は0.48である。

4. 分析結果

水田跡(稲作跡)の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科(おもにネザサ節)の主要な5分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1~図4に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

5. 考察

(1) 水田跡の検討

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。ただし、関東周辺では密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出されていることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

1) 2区B谷土層断面（図1）

As-B直下層（試料1）からAs-Cの下層（試料8）までの層準について分析を行った。その結果、As-B直下層（試料1）からHr-FA直下層（試料4）までの各層準からイネが検出された。このうち、畦畔が確認されたAs-B直下層（試料1）では、密度が3,000個/gと比較的高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。同じく畦畔が確認されたHr-FA直下層（試料4）では、密度が1,500個/gと低い値である。ただし、同層は直上をテフラ層で覆われていることから、上層から後代のものが混入した可能性は考えにくい。したがって、同層の時期に調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。

その他の層準では、密度が1,000個/g前後と低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、洪水などによって耕作土が流出したこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

2) 1区A谷土層断面（図2）

As-Bの下層（試料1）からAs-Cの下層（試料9）までの層準について分析を行った。その結果、As-Bの下層（試料1）からHr-FAの下層（試料5）までの各層準からイネが検出された。このうち、As-Bの下層（試料1）では密度が3,000個/g、Hr-FA直上層（試料2）でも3,700個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。畦畔が確認されたHr-FA直下層（試料3）では、密度が2,300個/gと比較的低い値である。ただし、同層は直上をテフラ層で覆われていることから、上層から後代のものが混入した可能性は考えにくい。したがって、同層の時期に調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。

3) 1区B谷土層断面（図3）

As-B直下層（試料1）およびAs-Cの上層（試料2～4）について分析を行った。その結果、As-B直下層（試料1）とAs-C直上層（試料3）からイネが検出された。このうち、As-B直下層（試料1）では密度が2,300個/gと比較的低い値であるが、同層は直上をテフラ層で覆われていることから、上層から後代のものが混入した可能性は考えにくい。したがって、同層の時期に調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。As-C直上層（試料3）では、密度が1,500個/gと低い値である。

4) 3区A南壁（図4）

As-B直下層（試料1、2）とその下層（試料3、4）について分析を行った。その結果、試料4を除く各試料からイネが検出された。このうち、As-B直下層（試料1、2）では密度が2,300個/gと比較的低い値である

が、同層は直上をテフラ層で覆われていることから、上層から後代のものが混入した可能性は考えにくい。したがって、同層の時期に調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。As-Bの下層(試料3)では、密度が700個/gと低い値である。

(2) ヒエ属型について

2区B谷土層断面のAs-C直下層(試料7)、1区A谷土層断面のHr-FA直下層(試料3)とその下層(試料4、5)、1区B谷土層断面のAs-C直上層(試料3)、3区A南壁のAs-Bの下層(試料2、4)からは、ヒエ属型が検出された。ヒエ属型には栽培種のヒエの他にイヌビエなどの野生種が含まれるが、現時点ではこれらを完全に識別するには至っていない(杉山ほか, 1988)。また、密度も1,000個/g前後と低い値であることから、これらの層準でヒエが栽培されていた可能性は考えられるものの、イヌビエなどの野・雑草である可能性も否定できない。

(3) 堆積環境の推定

ヨシ属は比較的湿ったところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境(乾燥・湿潤)を推定することができる。イネ以外の分類群では、下位層準を中心にヨシ属が比較的多く検出され、ススキ属やタケ亜科は比較的少量である。おもな分類群の推定生産量によると、Hr-FAより下位ではヨシ属が圧倒的に卓越していることが分かる。

以上のことから、稲作が開始される以前の遺跡周辺は、ヨシ属などが多く生育する湿地の環境であったと考えられ、Hr-FAの堆積以前にそこを利用して水田稲作が開始されたものと推定される。なお、稲作の開始以降もヨシ属が多く見られることから、水田雑草などとしてヨシ属が生育していたことが考えられる。

6. まとめ

プラント・オパール分析の結果、畦畔遺構が検出された浅間Bテフラ(As-B, 1108年)直下層および榛名二ツ岳沢川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)直下層からは、イネが比較的多量に検出され、各遺構で稲作が行われていたことが分析的に検証された。また、As-C直上層などでもイネが検出され、稲作が行われていた可能性が認められた。

本遺跡周辺は、稲作が開始される以前はヨシ属などが多く生育する湿地の環境であったと考えられ、Hr-FAの堆積以前にそこを利用して水田稲作が開始されたものと推定される。

文献

杉山真二・松田隆二・藤原宏志(1988)機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用—古代農耕追究のための基礎資料として—, 考古学と自然科学, 20, p.81-92.

藤原宏志(1976)プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—, 考古学と自然科学, 9, p.15-29.

藤原宏志・杉山真二(1984)プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)—プラント・オパール分析による水田址の探査—, 考古学と自然科学, 17, p.73-85.

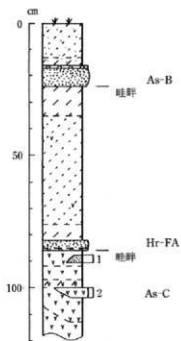


図1 II区B谷土層断面の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

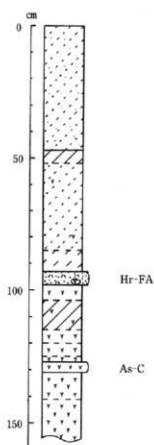


図2 I区A谷土層断面の土層柱状図

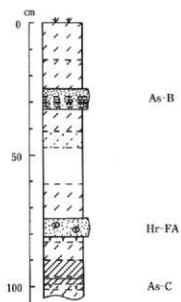


図3 I区B谷土層断面の土層柱状図

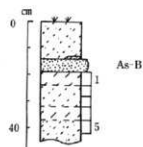


図4 III区A南壁の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号



検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群	学名	2区B谷土層断面								
		1	2	3	4	5	6	7	8	
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	30	8	15	15					
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type							8		
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	15	23	30	91	67	15	45	38	121
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	15	23	15	15	7	15			8
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	23	61	23	23	67	53	15		45

推定生産量 (単位: kg/m²・cm)

イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	0.89	0.22	0.45	0.44					0.63
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type									
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	0.96	1.44	1.91	5.73	4.24	0.95	2.84	2.38	7.61
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.19	0.28	0.19	0.19	0.09	0.19			0.09
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	0.11	0.29	0.11	0.11	0.32	0.25	0.07		0.22

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群	学名	1区A谷土層断面								1区B谷土層断面						3区A南壁					
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	1	2	3	4			
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	30	37	23	8	8				23											
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type														15						
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	30	23	45	99	15	53	120	105	38	60	30	152	30	15	30	90				
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	15				8				23	8	38									
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	52	22	15	38	23	53	38	7	30	38	23	8	8							

推定生産量 (単位: kg/m²・cm)

イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	0.88	1.10	0.67	0.22	0.22				0.66					0.44					
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type														1.26					
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	1.88	1.43	2.86	6.26	0.96	3.35	7.57	6.64	2.37	3.79	1.90	9.60	1.91	0.96	1.88	5.71			
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.18				0.09				0.28	0.09	0.47								
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	0.25	0.11	0.07	0.18	0.11	0.25	0.18	0.04	0.14	0.18	0.11	0.04	0.04						

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

表1 西普尺町遺跡におけるプラント・オパール分析

第2節 西善尺司遺跡におけるプラント・オパール分析

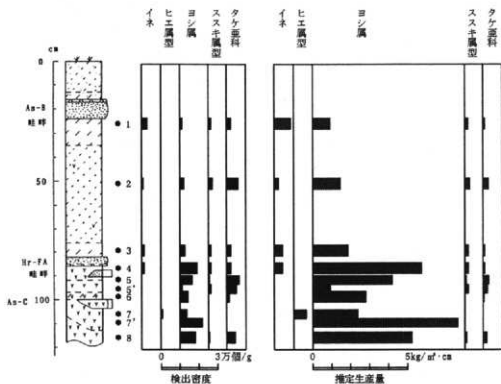


図5 西善尺司遺跡II区日谷土層断面におけるプラント・オパール分析結果

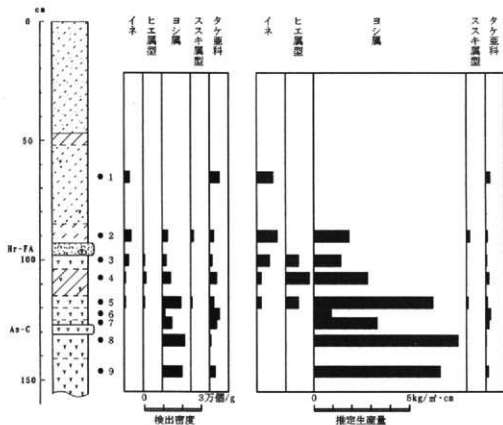


図6 西善尺司遺跡I区A谷土層断面におけるプラント・オパール分析結果

第4章 関連調査と結果

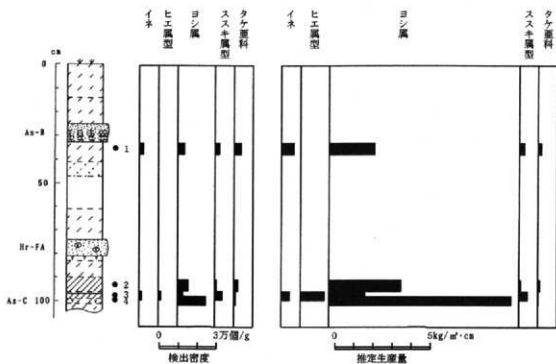


図7 西善尺司遺跡II区B谷土層断面におけるプラント・オパール分析結果

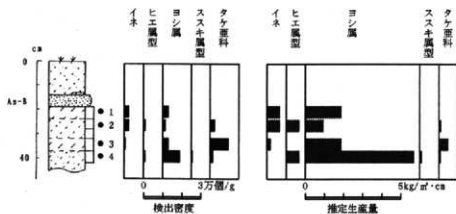


図8 西善尺司遺跡III区A南壁におけるプラント・オパール分析結果

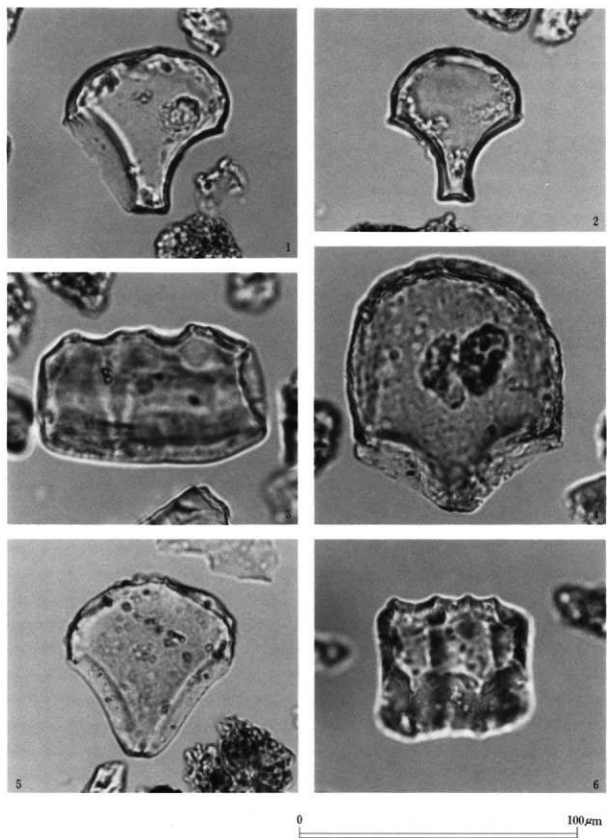


図9 植物遺骸体の顕微鏡写真

第3節 西善尺司遺跡出土木材の樹種同定

松葉礼子・植田弥生（パレオ・ラボ）

1. はじめに

群馬県前橋市西善町にある西善尺司遺跡から出土した炭化材と木材の樹種同定を行った。木材は大きく分けて、谷部から出土したものと、39号住居から出土した遺物である。今回調べた木材は、谷部から出土した流木・枕材と39号住居跡から出土した炭化材しており、腐朽・劣化が激しく詳細な加工等は不明である。これらの木材の樹種を知ることにより、本遺跡の人為的かかわりを知る手がかりの一つとなることを目的として調査した。

2. 方法と記載

同定には、切り欠いたサンプルから片歯剃刀を用いて、木材組織切片を横断面（木口と同義・写真図版a）、接線断面（板目と同義・写真図版b）、放射断面（柾目と同義・写真図版c）の3方向作成した。これらの切片は、ガムクロラールにて封入し、永久標本とした。樹種の同定は、これらの標本を光学顕微鏡下で観察し、原生標本との比較により樹種を決定した。これらの内、各分類群を代表させる標本については写真図版を添付し、同定の証拠とするとともに同定根拠を後述する。結果は、表1に示す。なお、作成した木材組織プレパラートは、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団で保管されている。

同定根拠

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. FAGACEAE 写真図版1a~1c

年輪の始めに、やや放射方向に伸びた大型の丸い管孔が一行に並ぶ環孔材。晩材部では、小型で、薄壁の角張った管孔が、火災状から放射状に配列する。道管の穿孔は単一。木部柔組織は、晩材部で接線状から短接線状。放射組織は単列同性で、道管との壁孔は、対列状を呈す。

以上の形質より、ブナ科のクリの材と同定した。クリは、北海道~九州までの温帯~暖帯にわたって広く分布する落葉性高木、あるいは中高木である。

コナラ属クヌギ節 *Quercus* Sect. *Cerris* FAGACEAE 写真図版2a~2c

年輪のはじめに丸い大道管が一行に並び、晩材部では徐々に径を減じた丸い道管が放射方向に配列する環孔材。道管の穿孔は単一、放射組織は、複合放射組織と単列同性の物からなり、道管との壁孔は櫛状。木部柔組織が、接線方向にほぼ帯状に分布する。

以上の形質より、ブナ科のコナラ属クヌギ節の材と同定した。クヌギ節は、いずれも落葉高木のクヌギ（岩手県以南~琉球）とアバマキ（山形県以西~九州）が含まれる。

ムクロジ *Sapindus mukorossi* Gaertn. SAPINDACEAE 写真図版3a~3c

中型の道管が単独もしくは数個複合して散在している。木部柔組織は、連合翼状を呈し著しく、道管の穿孔は単一、内壁に微細な螺旋肥厚がある。道管内には、黄褐色のゴム状の物質が詰まる事が多い。放射組織は、2~4細胞幅程度、輪郭は不整で同性である。

以上の形質から、ムクロジ科のムクロジの材と同定した。ムクロジは、落葉高木で、茨城・新潟県以南~琉球の暖帯から亜熱帯に広く分布する。

出土番号	樹種
1-A 谷 木-5 No. 1	クスギ節
1-A 谷 木-6 No. 2	クスギ節
1-A 谷 木-7 No. 3	クスギ節
1-A 谷 木-8 No. 4	クスギ節
1-A 谷 木-9 No. 5	クスギ節
1-A 谷 木-10 No. 6	クスギ節
1-A 谷 木-11 No. 7	クスギ節
1-A 谷 木-12 No. 8	クスギ節
1-A 谷 木-13 No. 9	クスギ節
1-A 谷 木-14 No. 10	クスギ節
1-A 谷 木-15 No. 11	保存状態が悪く不明
1-A 谷 木-16 No. 12	ムクロジ
1-A 谷 木-17 No. 13	ムクロジ
1-A 谷 木-18 No. 14	ムクロジ
1-A 谷 木-19 No. 15	ムクロジ
1-A 谷 木-20 No. 16	クリ
1-A 谷 木-21 No. 17	散孔材 炭化材
2-B 谷 No. 1	クスギ節
39住 No. 1	クスギ節 炭化材
39住 No. 2	クスギ節 炭化材
39住 No. 3	クスギ節 炭化材
39住 No. 4	クスギ節 炭化材
39住 No. 5	クスギ節 炭化材
39住 No. 6	クスギ節? 炭化材
39住 No. 7	不可 炭化材
39住 No. 8	クスギ節 炭化材
39住 No. 9	クスギ節? 炭化材
39住 No. 10	クスギ節 炭化材
39住 No. 11	クスギ節 炭化材
39住 No. 12	クスギ節 炭化材

表1 西善尺司遺跡出土木材樹種同定結果一覧

しかし、平面的に見ると、ムクロジやクリは、クスギ節とは出土する地点が異なることに気付く。断面図からも、ムクロジは、地面に刺さるような出土状況から杭列と考えられるような散状を示しており、横に寝た流木のような他の樹種の出土状況とは、異なっている。Na16のクリ出土地点はムクロジと近いが(図2)、ムクロジが一列に並んでいるのに対し、クリは、この列から外れる。出土状況の点からムクロジの杭列とは無関係の可能性が強いことが指摘できる。これらの結果から、出土状況を樹種面からも追認できたといえる。今回は、同定した樹種に極端な偏りがあり、同定した木材自体に人為的影響が強いと考えられるため、周辺植生の類推までは至らなかった。周辺の遺跡同様、二次林のクスギ節を多用する傾向の一環に含まれると考えられる。遺構内を局地的に見れば、人為的な木材利用の跡が見出せるが、遺構の意味としては周辺の状況を鑑みて決定する必要がある。

引用文献

山田昌久. 1993. 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成—用材から見た人間・植物関係史. 植生史研究, 特別一号: 242pp.

散孔材A Diffuse porous wood

管孔の丸い小管孔が単独または2~4個が放射方向に複合して散在している。放射組織は1~3細胞幅である。道管の壁孔は交互状でその孔口は大きく、穿孔は単一、内腔にチロースが発達し、螺旋肥厚が見られる。組織の保存状態が悪く横断面の年輪内の管孔配列や放射組織の構成細胞など確認できなかったため、分類群を特定するにいたらなかった。

3. 結果と考察

検出された樹種は、クリ、コナラ属クスギ節とムクロジのみという非常に偏った結果になった。39号住居跡で出土した炭化材は、すべてクスギ節であった。群馬県内では、弥生時代以降木製品にクスギ節が選択的に利用される傾向が顕著で、高崎市新保町の新保遺跡でも縄文時代までは、全232点中エノキ属(43)、クリ(38)、エゴノキ属(21)、コナラ節(16)、クスギ節(16)が優先していたが、弥生時代~古墳時代前期では、全1280点中クスギ節(433)、クリ(166)と他を圧倒して、クスギ節が増える傾向が伺われる(山田 1993)。これは、開発等に伴った森林の伐採が影響していると考えられており、弥生時代以後、県南部で検出された焼失家屋の主要な構成材はクスギ節であることが多い(平安時代: 波志江中野面遺跡他)。他にクスギ節を利用した木材は、炭焼き窯内の残存炭化材(9世紀: 今井見切塚遺跡)、農具(弥生時代~古墳時代: 新保遺跡、新保田中前遺跡)等多くが確認されており、本遺跡もこれらの事例と同様の供給源と選択が働いたものと考えられる。

旧河道(1-A)で最も多い樹種もクスギ節であった(図1, 2)。

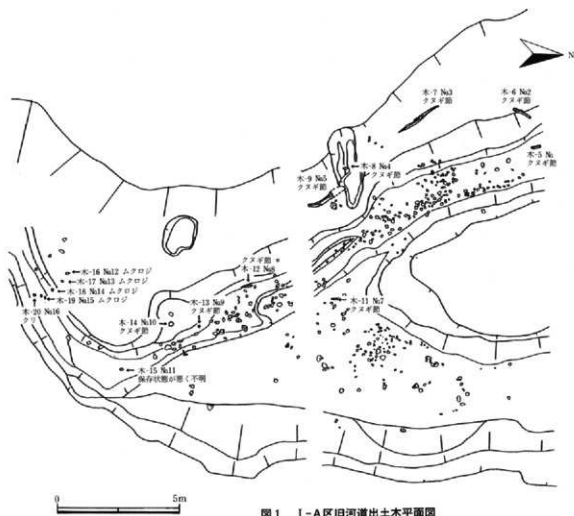


図1 I-A区旧河道出土木平面図

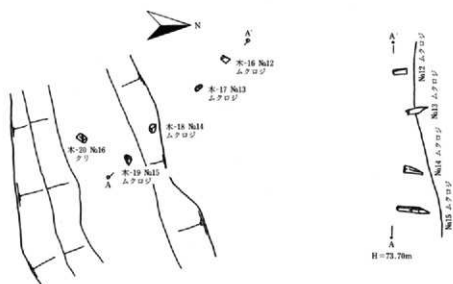
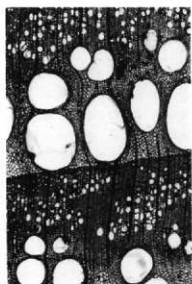


図2 I-A区旧河道枕列(sample. No.12,13,14,15,16)



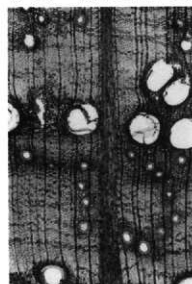
1a クリ bra: 1mm No7 1-A



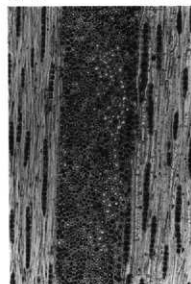
1b 同 bra: 0.4mm



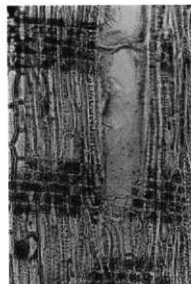
1c 同 bar: 0.2mm



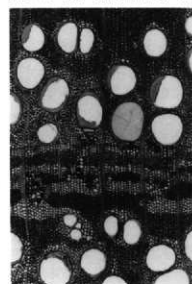
2a クヌギ節 bra: 1mm No15 1-A



2b 同 bra: 0.4mm



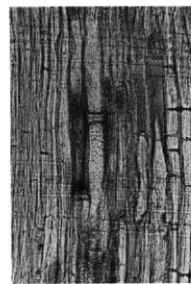
2c 同 bar: 0.2mm



3a ムクロジ bar: 1mm No16 1-A



3b 同 bar: 0.4mm



3c 同 bar: 0.2mm

図3 西善尺司遺跡出土木材組織顕微鏡写真

第4節 西善尺司遺跡炭化物密集地点の土壤中の全リン酸・全カルシウム濃度測定

松葉 礼子(パレオ・ラボ)

1. 概要

西善尺司遺跡炭化物密集地点で採取した土壤の全リン酸と全カルシウムの濃度を調査した。リンは、動植物必須の元素であるので、これらの体内には、自然的土壤含有量（バックグラウンド）よりも多く濃縮されている。そのため、人間を含め、動植物が生きた生活面には、遺体、排泄物、代謝物、食物残渣、燃料灰、建材などに由来するリンが蓄積し、バックグラウンドよりも多く存在することになる（竹迫 1993）。その上、リンは土壤中の所謂、活性Alや活性Feに吸着され難溶性のリン酸塩となるため、土壤に保持されやすい。以上のことから、全リン酸の濃度分布を調査・比較することにより、生活面の検出等に利用できる。

この方法は、基本原理から還元性土壤・水性堆積物には適さず、火山灰の風化土壤（例：黒ボク土）のようなリン固定能の高い土壤が適している。基本的には、濃度差の相対的な比較による分析であるため、発掘により確認された遺構面等の結果を補足するものである。ここでは、方形周溝墓内の炭化物密集層を検討するために全リン酸濃度と全カルシウム濃度（g/kg）を測定し、その濃度分布を図化し濃度分布の傾向を捉え、埋葬にかかわるかどうかが検討する。

2. 分析方法（全リン酸・全カルシウム）

①試薬：過塩素酸、60%，9N・濃硝酸、比重1.42，16N

②前処理：腐植質火山灰土壤や有機物質を多く含む土壤に於いては、過塩素酸で分解する前に次の処理を行う。風乾細土2.00gを300mlのトルビーカーまたは、ケルダールフラスコにとり濃硝酸10～20mlを加え、湯浴中または110℃前後の砂浴皿上で、10～20分加熱した後、電気式砂浴皿上で5～10分加熱分解する。分解がすんだら冷却後過塩素酸分解の処理に移る。有機質の多くない土壤では、②の処理は必要ない。

③過塩素酸分解：②の前処理後または、トルビーカーもしくは、ケルダールフラスコに秤取した風乾細土2.00gに、過塩素酸20mlを加え、電気式砂浴皿上で始めは弱く、後ほど強くして分解を行う。ビーカーやフラスコの壁に付着した土壤の炭化物質を分解中の過塩素酸ガスの逆流を利用して完全に分解するため、時計皿もしくは小漏斗を用いる。完全に分解すると白砂状のものが沈降し、上澄みは青みを帯びた黄色となる。この間分解開始後30～40分を要する。冷却後水30mlを加えて、ビーカー、フラスコの中の沈降物を攪拌し、200mlの定容フラスコに、ろ紙No 6を用い濾過し、熱水で白砂状の沈降物（けい酸）を洗浄する。

④定量：200mlにした分解液から一定量10～20mlをとり、全リン酸はバナドモリブデン酸法でリン酸を比色定量し、全カルシウムは原子吸光度法で定量する。

●バナドモリブデン酸法

i) 試薬：

I) 0.25%メタバナジン酸アンモニウム液：特級メタバナジン酸アンモニウム（NH₄VO₃）2.5gを500mlの沸騰水に溶かし、冷却液20mlの濃硝酸を加え、放冷後1ℓとする。着色びんに保存する。

II) 5%モリブデン酸アンモニウム液：特級モリブデン酸アンモニウム25gを60℃の温水に溶かし、冷却後ろ過して500mlとする。・III) 5N硝酸液・IV) リン酸標準液

ii) 操作：供試液（35ml以内）を50mlの定容フラスコにとり、水を加えて正確に35mlとする。供試液が中性のと

第4節 西善尺司遺跡炭化物密集地点の土壌の全リン酸・全カルシウム濃度測定

きは、5 Nの硝酸液 5 mlを加え、次にメタバナジン酸アンモニウム液 5 mlを加え良く攪拌する。最後にモリブデン酸アンモニウム液 5 mlを加え、フラスコの線をして良く混ぜる。黄色は、5分後に安定となるので、その後波長440 μ mの吸光度を測定する。測定に当たっては、平間理化比色計を用いた。(土壤養分測定法委員会 1986)

3. 試料と結果

全リン酸測定試料と結果は、表1に示す。各試料の位置関係等については、図1に図示した。

土色は、サンプリング時の観察による。色調は、標準土色帖(農林水産技術会議事務局 1967)に準ずる。

表1 群馬県 西善尺司遺跡 全リン酸・全カルシウム濃度測定結果

遺構名	サンプル名	全リン酸測定結果	全カルシウム測定結果	土色等
7号方形周溝墓	上層	2.10 g/kg	2.12 g/kg	炭化物細粒がまじり純粋な土色不明。暗褐色
7号方形周溝墓	下層	2.10 g/kg	0.79 g/kg	地山試料 茶褐色

4. 考察

概要を考慮して今回の結果(図1, 2)をみると、バックグラウンド(地山試料:下層)と炭化物密集層(上層)の間に濃度による顕著な差違は見られない。植物遺体が多く含まれている上層と、下層との間に全リン酸濃度に変化が見うけられない。全カルシウム濃度には濃度差で3倍程度の差異が見うけられ、有意であるようにも考えられるが、全カルシウムは、全リン酸のように土壌への固定能が高いとは言えず、全リン酸が同一濃度であることから、全カルシウム濃度だけでは有意な差異とは考えにくい。サンプルは、方形周溝墓内の炭化物密集層であることから、遺構面や埋葬などの認定の一助となることを目的として調査したが、明瞭な結果は得られなかった。

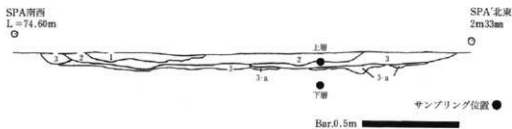
引用文献

土壤養分測定法委員会, 1986, 肥沃度測定のための土壌養分分析法, 養賢堂, 230-232pp.

農林水産技術会議事務局, 財団法人日本色彩研究所 監修, 1967, 新版 標準土色帖.

竹迫 敏, 1993, リン分析法, 第四紀試料分析法 2研究対象別分析法, 東京大学出版会, 38-45pp.

第4章 関連調査と結果



1. 黄褐色土 ローム主体。白色バミス少量含む。
堅く良く締まる。
2. 暗褐色土 As-Cをブロック状に含む。
ローム粒径 ϕ ~mm少量含む。
下面に炭化物層(厚さ~7mm)が広がる。
締まり良好。
3. 暗褐色土 2に似るが、ローム主体。
- 3a. 暗褐色土 ロームが主体でAs-Cを極少量含んでいる。

図1 7号方形周溝墓主体部セクション

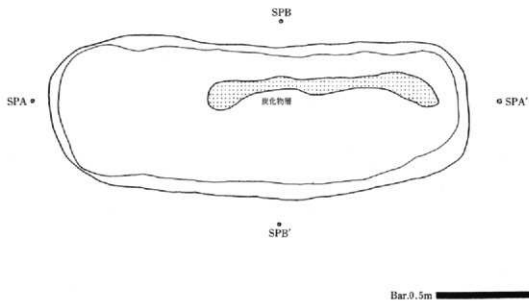


図2 7号方形周溝墓主体部平面図

第5章 調査の成果と課題

西善尺司遺跡における古墳時代前期の様相について

須田 貞崇

1. はじめに

西善尺司遺跡の立地する前橋台地東部地域は、今まであまり発掘調査が及ばない地域であり、詳細な遺跡の動向については長らく不明であった。今回、北関東自動車道路建設に伴って大規模な発掘調査が行われることになり、今まで不明であった本地域の様子が徐々に判明してきた。本章では前橋台地東部地域に本格的な農耕集落が展開される古墳時代前期の様相について、西善尺司遺跡の発掘調査の結果を中心に、周辺の遺跡分布や前期古墳の動向と併せて若干の考察を試みたい。

2. 古墳時代前期における西善尺司遺跡の様相

西善尺司遺跡では縄文から中近世の複合遺跡である。本遺跡では台地部と低地部の調査を行っている。

なお、群馬県内の古墳時代前期の土器編年はまだ確立していないため、ここではS字状口縁台付甕(以下S字甕)を中心に便宜的に伊勢湾周辺地域の編年に準拠した。しかし、同地域の編年に同定できないものも含んでおり、ここで示した時期区分は伊勢湾地域の編年に併行する時期ということになる。

さて、台地部で検出された古墳時代前期の遺構は、方形周溝墓14基・堅穴住居2軒・土坑等である。検出された方形周溝墓群のうち6・9・12号方形周溝墓周溝からは、S字甕が出土している。いずれも外面ハケメ調整の前にヘラ削り調整が行われており、故知の東海西部地域とは異なる独自の变化をしたいわゆる地域型S字甕とも呼ばれる群馬に在地化したS字甕である。時期はC類平行期と考えられる。10号方形周溝墓からも同様なS字甕が出土しているが、屈折脚高坏も出土していることからやや後出すると考える。IV-A区100・102号土坑も同様なS字甕が出土している。よって、本遺跡における古墳時代の遺構の開始時期は、4世紀初頭であり、中頃にかけて継続していることが確認できた。(第2章第3節参照)。

次に、低地部では浅間C経石(As-C)、榛名-浅川テフラ(Hr-FA)、浅間B経石(As-B)の一次堆積層を確認し、各直下層の調査を行っている。その結果、Hr-FA層直下とAs-B層直下からは水田を検出したが、As-C層直下では水田が検出されなかった。このことからAs-C降下時^{註1}には低地部では水田耕作が行われていないことが判明した(第3章第6節参照)。プラント・オパール分析の結果からも、種のプラント・オパールが検出されたのはAs-C上層に黒泥層が堆積し、さらに上層に堆積したAs-Cを含む褐色土であり、これが開田時の水田耕作土と考える。

水田は、開田以降耕作が継続する場合が多く、その開田年代を判断することは難しが、基本的に水田耕作は台地上の集落形成にともなって開発されたと考えるのが自然であり、開田時期は台地上の遺構と同時期と考える。このことは層位・プラントオパール分析の結果とも矛盾しない。また、先行する弥生時代の遺構が見られないことも一致しており、台地上の遺構数の増減と低地の水田の継続期間は基本的には連動している。

以上のことから、西善尺司遺跡では弥生時代の遺構はなく、As-C降下後の3世紀末～4世紀初頭に突如方

形周溝墓群が造営される。それに対応する集落は本遺跡内では確認できないが、藤川を挟んで西側に隣接する徳丸仲田遺跡でほぼ同時期の集落を確認しており、徳丸仲田遺跡の集落の基域として西善尺司遺跡の方形周溝墓群が造営されたと考えられる。このことは低地部での水田の検出状況と稲のプラントオバール分析の結果からみた水田の開始時期とも矛盾しない。

3. 前橋台地東部の古墳時代の様相

西善尺司遺跡の古墳時代前期の遺構が概ね3世紀末～4世紀初頭にかけて開始することは既に述べた。このことは西善尺司遺跡のみにもみられる現象ではなく、遺跡分布図(第2章第2節参照)からも分かるように、前橋台地東部地域の遺跡も概ね3世紀末～4世紀初頭に展開している。例外は一万田遺跡の弥生時代後期の方形周溝墓のみであり、集落は確認されていない。

集落と方形周溝墓の出現は、周辺の北関東自動車道関連遺跡である中内村前・徳丸仲田・横手油田遺跡でも確認しており、その開始時期は一律に3世紀末～4世紀初頭である。

一方、利根川を挟んだ前橋台地西部地域では様相が異なる。日高遺跡では、As-C層下では水田が検出され、台地上では弥生時代の方形周溝墓群が検出されている。新保田中村前遺跡でも弥生時代後期の遺構が検出されている。先行する弥生時代の遺構が基本的にはなく、As-C層直下からは水田が検出されない前橋台地東部の遺跡分布と比べて極めて対照的である。

4. 前橋八幡山・天神山古墳の出現

前橋台地東部地域にみられる一連の現象には、前期古墳の成立がその重要な鍵を握っているものと考えている。ここでは前橋台地東部地域の代表的な前期古墳である前橋天神山、八幡山古墳について検討してみたい。

前橋天神山古墳は全長126m、後円部径75m・高さ9.5m、前方部幅68m、高さ推定7mの規模をもつ前方後円墳である。1968・1969年に発掘調査された。埋葬主体は後円部に上位下位の2つ存在し、上位は攪乱のためはっきりしないが副次的な埋葬施設と考えられる。下位施設が、本墳の主体となる埋葬施設で、後円部中央に設置されていた粘土塚である。塚内には長さ8m、幅1.2mの木棺が納められていた痕跡があった。副葬品は銅鏡5面、碧玉製紡錘車、鉄製剣など多数が出土した。銅鏡5面のうち三角縁四神四獣鏡1面は京都椿井大塚山と同范関係を持つものである。後円部頂上には石敷きがあり、周辺部には底部穿孔坪型土器が配列されていた。

前橋市八幡山古墳は全長130m、後円部幅72m、前方部幅59m、後円部高さ12m、前方部高さ8mの規模をもつ前方後方墳である。埋葬主体についてはよく分かっていないが、後円部頂上部に乱掘の跡があり大正15・16年頃村人により掘られ、頂上から約1.5m下に長さ数mの玉敷き部分があり、一部に粘土の詰りである部分があったということである。出土品については全く不明である。1966年に前橋市教育委員会により周堀が調査され、周堀を含めた全体の規模・形状は東西約125m、南北180mの方形と推定される。

いずれも県内最古段階の前期古墳であり、両古墳は西善尺司遺跡の北方約1.5kmに位置し、両古墳の距離は400m程しか離れていない。八幡山古墳に関しては副葬品がなく天神山古墳との前後関係は不明であるが、近年、東日本の前方後円墳と前方後方墳の例からすれば、前方後方墳である八幡山古墳がやや先行すると推定される。注目すべきは、発掘調査により前橋天神山古墳もAs-Cの直上に築かれていることが確認されていることである。よって、その築造時期も西善尺司遺跡や前橋台地東部地域の遺跡と同様As-C降下以後であり、出

土品や副葬品の組み合わせなどから4世紀前半～中頃と考えられ、前橋台地東部地域に遺跡数が増加する時期とほぼ一致することになる。

5. 前橋台地東部に見られるヤマト政権の伸張

このようにみえると、今まであまり人手の入らなかった前橋台地東部地域に、定型化した前方後円(方)墳の出現を契機として、低地部では水田が拓かれ、台地部では集落が急激に増加していることが分かる。そしてその画期は、As-C降下以降の概ねC類併行期(3世紀末～4世紀初頭)に求められる。

厳密に言えば、定型化した前方後円(方)墳の成立する年代は、集落の開始時期より微妙に遅れているともいえる。これは、集落と首長墓の成立の時間差と考える。つまり、集落の出現する時期に、既に首長墓が存在していることはあり得ず、首長墓は集落の出現から一定の時間を経過した後に築造されるのが自然である。つまり、前橋天神山古墳が出現する4世紀中頃は、その前方後円墳を造営し得る社会的な基盤が成立・定着した時期と理解することができ、それより先行する3世紀末～4世紀初頭こそ集落が急激に増加を開始する画期と考えられよう。

ここに定型化した前方後円(方)墳に象徴されるヤマト政権の東国へ伸張の一端が読みとれるかもしれない。前橋天神山古墳の成立には鏡群に見られるようなヤマト政権との紐帯を背景に、当初からかなり組織化された大規模な農業基盤の拡充を伴っており、十分な開発が行われていなかった低地部の開発を意図したものであることが推察されるのである^{註2}。

5. おわりに

西善尺司遺跡での発掘成果を中心に、前橋台地東部地域の開発の画期をヤマト政権と関連の深い前方後円墳の成立と結びつけて解釈してきた。しかし、本遺跡の資料を中心としたため資料数が少なく、またAs-C降下年代にはさらに詳細な考察が必要であると考えている。よってその証明が不十分であることは承知しており、ここで示した解釈はあくまで一つの仮説と考えている。そのためには本地域の古墳時代前期の土器編年の確立が必要であり、今後の北関東自動車道の発掘報告の結果を待って改めて論じていきたい。

最後に小稿を記すにあたり森田 悌・坂口 一・大木紳一郎氏のご指導・ご助言をいただいた。文末に記してお礼申し上げます。

<註>

(1) As-Cの降下年代については4世紀中葉の降下と考えられていたが、波川市・有馬道28号住居及び高崎市上豊岡引開IV遺跡の住居などから覆土中に一次堆積層が認められ、いずれもその下位からB類古段階のS字甕が出土している。また、西善尺司遺跡の低地部でもAs-C層下層の黒泥からごく少量であるがS字甕が出ている。黒泥から出土したS字甕は頸部内面にハケメがありB類段階の特徴を示している。詳細については、今後の資料数の増加による精緻な考察が必要なのは言をまたないが、現段階では近年の土器の年代観からみて、筆者はAs-Cの降下年代は3世紀後半代に求めるのが妥当と考える。同様な見解は既に若狭徹氏が示している(若狭1998)。

第5章 調査の成果と課題

(2) 隣接する徳丸仲田遺跡では大規模な用水路が検出されており、また同様の遺構が約2km下流に当たる玉村町砂町遺跡でも確認されている。これらの資料は現在整理作業中であり、詳細な成果は各遺跡の報告書の刊行を待たねばならないが、仮にこの水路の年代がC類平年期であれば、農業用水路の掘削が低地部の開発を可能にした一つの要因と考えられ、その背景に組織的に整備された技術・集団の存在を示唆している。砂町遺跡については現地説明会で実見した。また徳丸仲田遺跡については、発掘担当の大木紳一郎氏に御教授頂いた。

<おもな参考文献>

- 赤塚 次郎 1986 「『S字壺』発書'85」『年報 昭和60年度』（財）愛知県埋蔵文化財調査センター
- 赤塚 次郎 1992 「東海系のトレースー3・4世紀の伊勢湾沿岸地域ー」『古代文化』第44巻6号
- 赤塚 次郎 1990 「V 考察」『副遺跡 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第10集』
（財）愛知県埋蔵文化財調査センター
- 赤塚 次郎 1997 「副遺1・II式再論」『愛知県埋蔵文化財調査センター調査報告書第73集』
（財）愛知県埋蔵文化財調査センター
- 赤塚 次郎 1997 「群馬国時代時代の東海と関東」栃木県立なす風土記の丘資料館 講演会資料
- 赤塚 次郎 1999 「三世紀への加重ー古墳時代初期の様式変動と共鳴ー」『考古学フォーラム』11 考古学フォーラム
- 石野博信編 1995 『全国古墳編年集成』 雄山閣出版
- 大木紳一郎他 1999 「徳丸仲田遺跡」『年報』18 （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 群馬県史編さん委員会 1986 『群馬県史 資料編2』
- 群馬県史編さん委員会 1992 『群馬県史 通史編1 原始古代I』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999 『徳丸仲田・徳丸高塚遺跡 現地説明会資料』
- 坂口 一 1999 「かつて大開発の時代があったー古墳時代前期の耕地拡大ー」『創立20周年記念 公開考古学講座』
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 寺沢 薫 1987 「布留0式土器拡散論」『考古学と地域文化』 同志社大学考古学シリーズIII
- 友廣哲也 1992 「群馬県の古墳文化初期の検討」『古代第94号』 早稲田大学考古学会
- 原田 幹 1996 「S字壺の分布と地域型」『編と壺 そのデザイン第4回東海考古学フォーラム』
第4回東海考古学フォーラム
- 前橋市教育委員会 1966 『八幡山古墳周濠調査報告』
- 前橋市教育委員会 1970 『前橋天神山古墳図録』
- 前橋市史編さん委員会 1971 『前橋市史 第一巻』
- 石島 和夫 1994 『東国古墳時代の研究』 学生社
- 若狭 徹 1998 「群馬の弥生土器が終わるとき」『人が動く・土器も動く 第2回特別展図録』 かみつげの里博物館

遺 構 一 覽 表

遺構一覽表

西善尺司遺跡遺構一覽表

第1表 西善尺司遺跡住居一覽表

No.	遺構名	位置 (グリッド)	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)	面積 (㎡)	方位	支柱穴		伊・竈	貯蔵穴	時期	本文 (頁)	写真 (P.L)
								総数	確認					
1	I-A区 1住居	P-Q-104	3.1	2.6	3	7.12	N-79°E	0	0	竈東壁	南東隅	9世紀後半	88	31
2	I-A区 2住居	R-105-106	2.4	2.0	8	4.17	N-89°E	0	0	竈東壁	南東隅	9世紀中葉	90	32
3	I-A区 3住居	N-0-101-102	3.6	2.5	10	8.44	N-111°E	0	0	竈東壁	なし	9世紀前半	92	32-33
4	I-A区 4住居	P-107	-	2.2	7	5.12	N-77°E	0	0	竈東壁	南東隅	平安	94	33-34
5	I-A区 5住居	P-Q-88-89	3.5	2.6	22	9.06	N-66°E	0	0	竈東壁	南東隅	10世紀前半	95	34-35
6	I-B区 6住居	L-M-91-92	3.3	-	18	(6.60)	N-91°E	0	0	竈東壁	なし	10世紀前半	98	35
7	I-B区 7住居	K-90	2.7	2.3	19	(5.08)	N-89°E	0	0	竈東壁	南東隅	10世紀前半	100	36-37
8	I-B区 8住居	L-M-89-90	3.2	2.9	17	8.38	N-90°E	0	0	竈東壁	なし	10世紀中葉	103	37-38
9	I-A区 9住居	P-90	2.3	2.2	16	3.92	N-55°E	0	0	竈東壁	なし	9世紀後半	106	39
10	I-A区10住居	P-89 Q-89-90	3.6	2.4	24	7.79	N-64°E	0	0	竈東壁	南東隅	10世紀前半	108	39-40
11	I-B区11住居	L-99-91	3.4	2.9	20	8.86	N-77°E	0	0	竈東壁	南東隅	10世紀前半	111	41
12	I-B区12住居	K-L-89-90	2.5	2.5	26	6.40	N-86°E	0	0	竈東壁	南東隅	10世紀前半	114	42
13	I-B区13住居	K-L-89-90	2.7	2.1	21	5.02	N-81°E	0	0	竈東壁	南東隅	10世紀前半	116	43
14	I-B区14住居	L-90	2.4	2.1	10	4.69	N-91°E	0	0	竈東壁	なし	10世紀前半	119	44
15	I-B区15住居	L-M-89	3.5	-	8	4.91	N-89°E	0	0	竈東壁	南東隅	10世紀中葉	121	45
16	I-B区16住居	J-99-91	-	2.8	3	5.72	-	0	0	-	南東隅	10世紀前半	123	46
17	I-B区17住居	J-K-90	3.2	2.5	9	7.37	N-91°E	0	0	竈東壁	なし	不明	125	46
18	I-B区18住居	J-89-90 K-90	3.4	3.2	4	9.53	N-92°E	0	0	竈東壁	南東隅	10世紀後半	126	47
19	I-B区19住居	M-89	3.1	1.4	5	4.13	N-94°E	0	0	竈東壁	南東隅	10世紀中葉	128	48
20	II-B区20住居	J-K-85	2.1	-	18	3.34	N-91°E	0	0	竈東壁	なし	9世紀後半	130	48
21	II-B区21住居	M-N-85-86	3.1	2.8	23	7.52	N-90°E	0	0	竈東壁	南東隅	10世紀前半	133	49-50
22	II-B区22住居	K-L-86	2.7	1.9	10	4.88	N-93°E	0	0	竈東壁	南東隅	10世紀後半	138	51-52
23	II-B区23住居	L-87	3.4	2.9	13	8.10	N-88°E	0	0	竈東壁	南東隅	10世紀前半	141	52-53
24	II-B区24住居	K-86	-	1.8	10	2.53	N-90°E	0	0	竈東壁	なし	10世紀前半	144	53-54
25	II-B区25住居	J-K-84-85	3.8	2.7	-	9.71	N-71°E	0	0	未検出	南東隅	9世紀後半	146	55
26	II-B区26住居	K-85	3.4	2.5	15	7.10	N-97°E	0	0	竈東壁	南東隅	10世紀後半	148	55
27	II-B区27住居	K-L-84-85	3.0	2.6	10	6.75	N-67°E	0	0	竈東壁	南東隅	10世紀後半	150	56
28	II-B区28住居	K-86	2.1	1.8	26	3.63	N-87°E	0	0	竈東壁	なし	9世紀後半	152	57
29	II-B区29住居	K-84-85	-	2.0	3	(4.66)	N-89°E	0	0	竈東壁	なし	9世紀後半	154	57-58
30	II-B区30住居	K-86	-	2.26	-	-	-	0	0	竈東壁	南東隅	10世紀中葉	156	59
31	II-B区31住居	K-85-86	-	2.1	2	5.24	N-89°E	0	0	竈東壁	未検出	10世紀中葉	158	59
32	II-B区32住居	K-86-87	-	-	-	2.12	N-96°E	0	0	竈東壁	なし	平安	159	60
33	II-B区33住居	J-K-86	2.7	2.0	14	4.95	N-89°E	0	0	未検出	なし	9世紀中葉	160	60
34	II-B区34住居	K-L-87	-	-	-	14	2.09	0	0	未検出	南東隅	10世紀前半	162	60
35	II-B区35住居	L-87	2.75	-	12	1.84	N-95°E	0	0	竈南東隅	なし	10世紀中葉	164	61
36	I-A区36住居	O-91	-	-	-	0.33	N-89°E	0	0	竈東壁	なし	9世紀後半	165	61
37	II-B区37住居	J-K-85-86	5.4	5.4	-	25.57	N-14°W	4	4	地床跡	なし	4世紀中葉	30	5+6-7
38	II-B区38住居	K-L-85-86	5.7	4.9	-	7.75	N-6°W	4	4	未検出	未検出	4世紀前半	34	7-8
39	I-A区39住居	M-N-89	3.0	2.6	5	6.81	N-88°E	0	0	竈東壁	なし	10前半前半	166	62-63
40	I-A区40住居	N-O-88	-	3.0	10	-	N-87°E	0	0	未検出	未検出	9世紀後半	170	63
41	II-A区41住居	N-O-86	2.6	-	-	5.09	N-91°E	0	0	竈東壁	南東隅	10世紀後半	171	64
42	I-A区42住居	P-88	-	2.1	-	1.66	N-73°E	0	0	未検出	未検出	不明	173	64
43	IV-A区 1住居	Q-R-33	-	-	-	13.68	N-358°E	0	0	未検出	未検出	不明	174	65
44	IV-A区 2住居	R-S-25	4.0	8	9.01	N-90°E	0	0	竈東壁	なし	8世紀後半	175	65	
45	IV-A区 3住居	V-W-34-35	3.4	2	4.93	N-78°E	0	0	竈東壁	未検出	8世紀中葉	177	66	
46	IV-A区 4住居	U-33-34	3.5	6	7.48	N-80°E	0	0	竈東壁	南東隅	9世紀中葉	180	67	
47	IV-A区 5住居	U-V-32-33	-	-	8.15	N-89°E	0	0	竈東壁	南東隅	9世紀中葉	183	68	
48	IV-A区 6住居	V-32-33 W-32	-	-	8	4.32	-	0	0	未検出	未検出	9世紀後半	185	68

第2表 西善尺司遺跡方周溝墓一覽表

No.	遺構名	位置 (グリッド)	長径 (m)	短径 (m)	長軸方位	周溝幅 (m)	周溝深さ (m)	時期 備考	本文 (頁)	写真 (P.L)
1	1号方周溝墓	O-P-102-105 Q-104	11.30	9.88	N-43°W	0.95~1.65	0.38~0.62	古墳時代前期	37	9
2	2号方周溝墓	P-Q-R-105-107	7.30	6.15	N-26°E	0.43~1.60	0.28~0.32	古墳時代前期	38	9
3	3号方周溝墓	Q-106-108 R-S-105-108	9.60	8.75	N-40°W	0.64~1.75	0.30~0.50	古墳時代前期	39	9-10

遺構一覧表

No.	遺構名	位置 (グリッド)	長径 (m)	短径 (m)	長軸方位	周溝幅 (m)	周溝深さ (m)	時期 備考	本文 (頁)	写真 (P.L.)
4	4号方形周溝基	K・M-91-92 L-91~93 M-93~95 N・O-92~95	6.33	6.04	N-35°W	0.84~1.76	0.34~0.44	古墳時代前期	41	11-12
5	5号方形周溝基	P-93~96 O・S-90~93 T-91~92	9.16	8.82	N-54°W	1.03~3.10	0.24~0.60	古墳時代前期	43 13	12-13
6	6号方形周溝基	P・Q・R-89~94	13.18	11.58	N-40°W	1.80~2.80	0.40~0.70	古墳時代前期	46	~16
7	7号方形周溝基 主体部	O・P-95-96	3.80 2.03	3.64 0.64	N-41°E N-41°E	0.40~0.95 —	0.19~0.31 —	古墳時代前期 一部溝切れ	41 52	17-18
8	8号方形周溝基	N・O-90-91	5.55	5.16	N-29°W	0.40~0.84	0.24~0.44	古墳時代前期	54	18
9	9号方形周溝基	L・M・N・O-85~87 I-89-90 J-88~90	10.90	9.35	N-17°W	0.92~4.66	0.24~0.40	古墳時代前期	56 20	19
10	10号方形周溝基	K-87~90 L-87~89	11.50	10.65	N-47°W	1.98~3.30	0.36~0.60	古墳時代前期	58	~23
11	11号方形周溝基	I・J-82~84	4.62	(2.40)	N-67°E	0.28~0.98	0.20~0.28	古墳時代前期	67	23
12	12号方形周溝基	L-89 M・N-88~90 O-88-89	7.75	6.95	N-22°W	0.80~1.40	0.40~0.90	古墳時代前期	68	24-25
13	13号方形周溝基	L-89-90	3.85	(3.65)	N-44°E	0.40~0.77	0.28~0.30	古墳時代前期	71	26
14	14号方形周溝基	K・L-84-85	5.75	(4.80)	N-11°W	0.34~0.90	0.18~0.24	古墳時代前期	73	26

第3表 西善尺司遺跡館一覧表

No.	遺構名	位置 (グリッド)	北辺 (m)	東辺 (m)	南辺 (m)	西辺 (m)	掘上幅 (m)	掘深さ (m)	面積 (㎡)	時期 備考	本文 (頁)	写真 (P.L.)
1	1号館	G~M-91~97	25.5	(28.7)	—	(28.7)	1.92 ~3.42	0.38 ~0.92	(460.0)	中世以降	234	85
2	2号館	J-79 H-83~91 I-78~88	62.4	—	—	—	4.18	1.26	—	一部のみ検出 中世以降	240	86
3	3号館	J・K・L-78~82	—	(17.8)	21.0	(16.6)	0.83 ~1.86	0.38 ~0.71	(313.3)	中世以降	243	86-87
4	4号館 西郭 東郭	IV-A・B区	29.4 14.4	40.5 39.7	15.9 15.5	42.5 —	2.52 ~3.18	0.98 ~1.20	942.2 625.0	中世以降	88 253	~90

第4表 西善尺司遺跡館立柱建物一覧表

No.	区 遺構名	位置 (グリッド)	柱間	建物種	庇等	主軸方位	時期	本文 (頁)	写真 (P.L.)
1	西善I-A区館 外4号館立柱建物	R-109-110	2×2	南北棟	—	N-4°E	奈良平安	187	69
2	西善I-A区館 外1号館立柱建物	P-105-106 Q-104~106	3×1	東西棟	—	N-80°E	中世以降	293	92
3	西善I-A区館 外2号館立柱建物	Q-102-103 R-102-103	2×2	南北棟	—	N-24°W	中世以降	294	92
4	西善IV-A区館 外15号館立柱建物	U・V-33・34	3×2	東西棟	—	N-83°E	中世以降	295	92
5	中内I-B区館 外1号館立柱建物	M-19-20 N-19	1×1	東西棟	—	N-77°E	中世以降	291	99
6	中内I-B区館 外2号館立柱建物	M-21-22 N-21-22	2×2	南北棟	—	N-14°W	中世以降	292	99
7	西善I-B区1号館1号館立柱建物	I-92-93	2×1	南北棟	—	N-41°W	中世以降	237	85
8	西善I-B区1号館2号館立柱建物	I-94	4×2	東西棟	—	N-87°E	中世以降	238	85
9	西善II-B区3号館1号館立柱建物	M-79-80	3×2	東西棟	—	N-90°E	中世以降	245	87
10	西善II-B区3号館2号館立柱建物	K・M-79-80 M-81	5×1	東西棟	—	N-79°W	中世以降	246	87
11	西善II-B区3号館3号館立柱建物	K-81	2×1	東西棟	—	N-90°E	中世以降	247	87
12	西善II-B区3号館4号館立柱建物	L・M-79-80	3×2	南北棟	北辺に庇	N-1°W	中世以降	248	87
13	西善II-B区3号館5号館立柱建物	L-80 M-79-80	3×2	南北棟	—	N-24°E	中世以降	249	87
14	西善II-B区3号館6号館立柱建物	K・L-80-81	2×2	南北棟	—	N-3°E	中世以降	250	87
15	西善II-B区3号館7号館立柱建物	K・L-80-81	2×2	東西棟	やや変形	N-77°E	中世以降	251	87
16	西善IV-A区4号館1号館立柱建物	Q-29~31 R・S-30-31	3×2	東西棟	東辺に庇	N-74°E	中世以降	261	88
17	西善IV-A区4号館2号館立柱建物	P-31-32 Q・R-30-32	4×3	東西棟	—	N-73°E	中世以降	269	88
18	西善IV-A区4号館3号館立柱建物	P・Q-29~31 R-29	3×2	東西棟	南辺に庇	N-70°E	中世以降	270	88
19	西善IV-A区4号館4号館立柱建物	O・P-29 P・Q-28	3×2	東西棟	西辺に庇	N-79°E	中世以降	272	88
20	西善IV-A区4号館5号館立柱建物	S・T-29-30	2×2	東西棟	—	N-78°E	中世以降	273	88
21	西善IV-A区4号館6号館立柱建物	P・Q-27-28 R-28	3×2	南北棟	北辺に庇	N-8°W	中世以降	274	88
22	西善IV-A区4号館7号館立柱建物	P-30-31 Q-30~32 R-31	4×3	南北棟	—	N-40°E	中世以降	276	88
23	西善IV-A区4号館8号館立柱建物	Q-29 R-28~30 S-29-30	3×2	南北棟	—	N-54°E	中世以降	278	88
24	西善IV-A区4号館9号館立柱建物	S-30 T-29~31	2×2	東西棟	やや変形	N-60°E	中世以降	279	88
25	西善IV-B区4号館10号館立柱建物	L-29-30 M-29-30	2×2	東西棟	—	N-64°E	中世以降	280	88
26	西善IV-A区4号館11号館立柱建物	O-30 P・Q-29~31 R-29-30	5×4	東西棟	—	N-56°E	中世以降	281	88
27	西善IV-A区4号館12号館立柱建物	P・Q-30-31	3×3	東西棟	—	N-53°E	中世以降	283	88
28	西善IV-A区4号館13号館立柱建物	K・R-28-29	2×2	南北棟	—	N-39°W	中世以降	284	88
29	西善IV-A区4号館14号館立柱建物	T-28-29	1×2	東西棟	—	N-80°E	中世以降	285	88

遺構一覽表

第5表 西普尺司遺跡竪穴状遺構一覽表

No	区	遺構名	位置 (グリッド)	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	面積 (㎡)	長軸方位	時期判定	備考	本文 (頁)	写真 (P.L)
1	IV-A区	1号竪穴状遺構	R-29	3.84	3.13	0.14	10.58	N-80°-E	中世以降	4号館内	286	92
2	IV-A区	2号竪穴状遺構	P-30 Q-29~30	5.24	3.23~4.0	0.34	10.85	N-68°-E	不明	4号館内	287	92
3	IV-A区	3号竪穴状遺構	P-31	3.70	(3.00)	0.26	8.98	N-18°-W	不明	4号館内	283	92

第6表 西普尺司遺跡火葬基一覽表

No	遺構名	位置 (グリッド)	平面形状	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	長軸方位	時期判定	備考	本文 (頁)	写真 (P.L)
1	I-A区1号火葬基	P92	長方形	1.39	0.47	0.12		不明	←I区火葬基	296	92
2	IV-A区1号火葬基	O-29~30 P-30	長方形(埋没)	1.03	0.63	0.41	N-18°-W	中世以降	←IV81土坑	296	93
3	IV-A区2号火葬基	P-30	不定形(埋没)	0.97	0.94	0.22	N-76°-E	中世以降	←IV86土坑	297	93

第7表 西普尺司遺跡井戸一覽表

No	遺跡区	遺構名	位置 (グリッド)	平面形状	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	底面標高(m)	時期	備考	本文 (頁)	写真 (P.L)
1	西普 I-A区	1号井戸	P-105~106	楕円形	1.51	1.24	1.11	73.59	中世(As-B後)	常滑燻出土	298	93
2	西普 I-A区	2号井戸	Q-105~106	円形	1.32	1.31	0.93	73.81	不明(As-B後)		299	93
3	西普 I-A区	3号井戸	Q-R-106	楕円形	0.83	0.72	1.04以上		不明(As-B後)		299	93
4	西普 II-B区	4号井戸	M-90~91	円形	2.16	2.16	0.95	73.56	10世紀		188	70
5	西普 II-B区	5号井戸	L-81 M-81~82	楕円形	2.17	1.6	1.05	73.37	不明(As-B後)		300	93
6	西普 II-B区	6号井戸	L-M-81	楕円形	2.16	1.88	1.79	72.59	不明(As-B後)		300	93
7	西普 II-B区	7号井戸	I-87	隅丸正方形	0.60	0.46	0.97	73.42	平安(As-B前)		190	70
8	西普 I-A区	8号井戸	N-106	円形	1.16	1.08	0.73	73.87	不明		301	94
9	西普 II-B区	9号井戸	I-87	隅丸長方形	0.62	0.59	0.92	73.45	平安(As-B前)		190	70
10	西普 IV-A区	1号井戸	V-42	楕円形	1.23	1.01	0.8	73.70	不明(As-B後)		301	94
11	西普 IV-A区	2号井戸	S-V-24	円形	1.04	1.01	1.5	74.00	不明(As-B後)		301	94
12	西普 IV-A区	3号井戸	P-Q-24	円形	1.36	1.3	1.7	73.10	不明		302	94
13	西普 IV-A区	4号井戸	P-24	円形	1.12	1.04	1.24	73.45	不明(As-B後)		302	95
14	西普 IV-A区	5号井戸	Q-32	円形	0.91	0.86	1.51	73.20	平安(As-B前)		191	71
15	西普 IV-A区	6号井戸	R-S-28~29	楕円形	5.05	3.96	2.81	72.10	不明	水室?	303	94~95
16	西普 IV-B区	7号井戸	N-30~31	円形	1.00	0.97	1.51	72.98	平安(As-B前?)		191	71
17	西普 IV-B区	8号井戸	L-M-30	楕円形	1.65	1.37	1.97	72.55	平安		192	71
18	西普 IV-B区	9号井戸	L-31	円形	0.75	0.71	0.67	73.76	不明		305	95
19	西普 IV-A区	10号井戸	L-31	楕円形	1.47	1.21	2.04	72.32	不明(As-B後)		305	95
20	西普 IV-B区	11号井戸	L-32	円形	1.10	1.02	1.05	73.35	不明(As-B後)		305	95
21	西普 IV-A区	12号井戸	P-33	隅丸長方形	1.88	1.68	1.68	72.94	平安(As-B前)		193	72
22	西普 IV-A区	13号井戸	S-28	楕円形	1.26	1.06	1.69	73.17	不明(As-B後)		306	96
23	西普 IV-B区	14号井戸	M-32	円形	0.96	0.86	1.32	72.38	不明		306	96
24	西普 IV-A区	15号井戸	Q-R-23	楕円形	1.09	0.95	0.89以上		不明(As-B後)		307	96
25	西普 IV-A区	16号井戸	V-36	楕円形	1.17	0.88	2.57	72.27	中・近世	輪花皿出土	308	97
27	西普 IV-A区	18号井戸	R-27	円形	1.31	1.28	1.67	73.37	不明(As-B後)		307	96
28	西普 IV-A区	19号井戸	Q-26	円形	1.15	1.12	1.29	73.80	9世紀		195	72
29	西普 IV-A区	20号井戸	U-V-30	楕円形	2.21	1.58	2.06	72.91	9世紀後半		196	73
30	西普 IV-A区	21号井戸	U-30~21 V-31	楕円形	2.00	1.66	2.17	72.80	9~10世紀	墓室土器	197	73~74
31	西普 IV-A区	22号井戸	P-26	円形	2.09	2.09	1.52	73.19	不明		309	97
32	西普 IV-A区	23号井戸	S-35	円形	1.16	1.15	2.5	72.40	不明(As-B後)		309	97
33	西普 IV-A区	24号井戸	R-35~36	楕円形	2.29	1.66	1.58	73.15	奈良・平安?		200	74
34	西普 IV-A区	25号井戸	T-35	隅丸長方形	1.01	0.79	0.64	74.57	古墳時代前期		74	27
35	西普 IV-A区	26号井戸	P-24	楕円形	0.8	1.1	1.49以上	73.24	不明(中世以降)		309	-
36	西普 IV-B区	27号井戸	L-M-31	楕円形	1.10	0.8	1.27	72.05	不明(中世以降)	←IV区82土	310	98
37	西普 IV-B区	28号井戸	L-M-31	正方形	1.04	1.03	2.59	73.15	不明	←IV区83土	310	98
38	西普 IV-A区	29号井戸		不定形	2.65	1.8	2.68	72.35	不明	←IV区103土	311	98

遺構一覽表

No	遺跡	遺構名	位置 (グリッド)	平面 形状	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	底面傾 高(m)	時期	備考 変更	本文 (頁)	写真 (P.L)
39	中内	1-B区4号井戸		円形	1.48	1.45	1.15		不明(As-B後)	・中内87土	313	-

第8表 西善尺司遺跡土坑一覽表

No	遺跡	遺構名	位置 (グリッド)	平面 形状	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	長軸方位	時期	変更 備考	本文 (頁)	写真 (P.L)
1	西善1-A区	1号土坑	O-104	不定形	1.05	0.93	0.15	N-72°-W	不明(As-B後)		315	100
2	西善1-A区	2号土坑	O-104	楕円形	(0.91)	0.78	0.08	N-78°-W	不明(As-B後)		319	101
3	西善1-A区	3号土坑	P-103	楕円形	(0.89)	0.70	0.28	N-46°-E	不明(As-B後)		319	101
4	西善1-A区	4号土坑	P-103	楕円形	(1.00)	(0.66)	0.16	N-29°-W	不明(As-B後)		319	101
5	西善1-B区	5号土坑	J・K-95	長方形	1.74	0.65	0.30	N-9°-W	不明(As-B後)		324	103
6	西善1-B区	6号土坑	K-95	楕円 長方形	1.23	0.90	0.39	N-80°-W	不明(As-B後)		324	103
7	西善1-B区	7号土坑	K-95	不定形	2.45	0.83	0.29	N-37°-W	不明(As-B後)		324	103
8	西善1-B区	8号土坑	K-94	長方形	1.39	0.69	0.07	N-3°-E	不明(As-B後)		324	103
9	西善1-B区	9号土坑	J・K-93+94	正方形	0.98	(0.90)	0.49	N-80°-E	不明(As-B後)		328	-
10	西善1-B区	10号土坑	K-93	長方形	(0.92)	0.75	0.46	N-10°-W	不明(As-B後)		328	106
11	西善1-B区	11号土坑	K-93	長方形	2.42	0.85	0.40	N-34°-W	不明(As-B後)		330	106
12	西善1-B区	12号土坑	K-93	長方形	2.51	0.80	0.42	N-8°-W	不明(As-B後)		330	106
13	西善1-B区	13号土坑	K-93	長方形	3.51	0.84	0.40	N-0°	不明(As-B後)		330	106
14	西善1-B区	14号土坑	K-93	長方形	1.06	0.86	0.43	N-0°	不明(As-B後)		330	106
15	西善1-B区	15号土坑	K-93	正方形	1.09	1.04	0.55	N-0°	不明(As-B後)		330	106
16	西善1-A区	22号土坑	Q-108	不定形	1.33		0.22		9世紀		202	75
17	西善1-A区	23号土坑	Q-106-107	ビット状	0.42	0.41	0.30	N-2°-E	不明		316	109
18	西善1-A区	24号土坑	O・P-103	楕円形	0.78	0.64	0.13	N-60°-W	9世紀		203	75
19	西善1-A区	26号土坑	R-103	楕円 長方形	1.14	0.78	0.09	N-53°-E	不明(As-B後)		325	101
20	西善1-A区	27号土坑	Q-102-103	楕円形	0.93	0.70	0.14	N-85°-E	不明(As-B後)		320	101
21	西善1-B区	28号土坑	I-94+95	楕円形	0.66	0.61	0.50	N-19°-W	不明(As-B後)		320	102
22	西善1-B区	29号土坑	I-94	楕円形	1.00	0.70	0.43	N-74°-E	不明(As-B後)		320	102
23	西善1-B区	30号土坑	I-94+95	楕円 長方形	0.79	0.53	0.09	N-21°-W	不明(As-B後)		326	-
24	西善1-B区	31号土坑	H・I-94+95	楕円 長方形	1.58	0.80	0.33	N-90°-E	不明(As-B後)		326	104
25	西善1-B区	32号土坑	H-94+95	楕円形	1.07	(0.45)	0.06	N-4°-W	不明(As-B後)		326	104
26	西善1-B区	33号土坑	H-94+95	長方形	1.20	0.89	0.14	N-81°-E	不明(As-B後)		326	104
27	西善1-B区	34号土坑	H-95	円形	1.00	(0.93)	0.25	N-1°-W	不明(As-B後)		324	104
28	西善1-B区	35号土坑	H-95	長方形	1.03	0.58	0.35	N-90°-E	不明		326	-
29	西善1-B区	36号土坑	G・H-95	不定形	1.65	1.21	0.31	N-3°-W	不明(As-B後)		315	100
30	西善1-B区	37号土坑	H-94	楕円形	0.68	0.53	0.38	N-84°-E	不明(As-B後)		320	102
31	西善1-B区	38号土坑	H-94	長方形	2.98	1.80	0.21	N-89°-E	不明(As-B後)		328	-
32	西善1-B区	39号土坑	H-93	長方形	(0.76)	0.60	0.37	N-13°-E	不明		324	-
33	西善1-B区	40号土坑	H-93	長方形	1.64	0.90	0.31	N-80°-E	不明(As-B後)		324	104
34	西善1-B区	41号土坑	I-93	長方形	1.31	0.70	0.24	N-88°-E	不明(As-B後)		329	106
35	西善1-B区	42号土坑	H・I-93	楕円形	0.73	0.61	0.41	N-88°-W	不明(As-B後)		320	106
36	西善1-B区	43号土坑	H・I-93	楕円形	0.96	0.91	0.48	N-68°-E	不明(As-B後)		320	105
37	西善1-B区	44号土坑	I-93	楕円 長方形	1.15	0.54	0.15	N-80°-E	不明(As-B後)		326	105 106
38	西善1-B区	45号土坑	I-93	楕円 正方形	0.68	0.55	0.15 ~0.34	N-26°-W	不明(As-B後)		326	105 106
39	西善1-B区	46号土坑	I-93	楕円 長方形	1.26	0.71	0.28	N-83°-E	不明(As-B後)		326	105 106
40	西善1-B区	47号土坑	I-93	長方形	(0.96)	0.85	0.37	N-79°-E	不明(As-B後)		329	105
41	西善1-B区	48号土坑	I-93	楕円 長方形	(0.52)	0.48	0.21	N-85°-W	不明(As-B後)		329	-
42	西善1-B区	49号土坑	I-93	楕円 長方形	1.48	0.96	0.36	N-32°-W	不明(As-B後)		329	-
43	西善1-B区	50号土坑	I-93	長方形	1.51	0.73	0.38	N-25°-W	不明(As-B後)		329	-
44	西善1-B区	52号土坑	I-93	楕円 正方形	0.62	0.55	0.12	N-20°-E	不明(As-B後)		323	-
45	西善1-B区	53号土坑	I-93	円形	0.51	0.50	0.36	N-12°-W	不明(As-B後)		329	-

遺構一覽表

No.	遺跡	遺構名	位置 (グラフィック)	平面 形状	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	長軸方位	時期	備考 変更	本文 (頁)	写真 (P.L.)
46	西善Ⅰ-B区	54号土坑	I-93	長方形	2.85	(0.97)	0.33	N-68°-E	不明		329	-
47	西善Ⅰ-B区	55号土坑	I-93-94	長方形	2.21	(0.81)	0.26 ~0.31	N-70°-E	古墳時代前期		329	106
48	西善Ⅰ-B区	56号土坑	I-94	長方形	1.41	(1.02)	0.26 ~0.34	N-68°-E	不明(As-B後)		329	106
49	西善Ⅰ-B区	57号土坑	I-94	楕円形	0.52	0.35	0.59	N-9°-E	不明(As-B後)		318	-
50	西善Ⅰ-B区	58号土坑	I-94	円形	0.61	(0.54)	0.06	N-0°	不明(As-B後)		318	-
51	西善Ⅰ-B区	59号土坑	H-94	楕円形	0.74	0.41	0.10	N-82°-E	不明(As-B後)		321	-
52	西善Ⅰ-B区	60号土坑	G・H-94	楕円形 長方形	0.53	0.33	0.22	N-3°-W	不明(As-B後)		316	-
53	西善Ⅰ-B区	61号土坑	H-93	不定形	0.58	(0.39)	0.12	N-77°-E	不明(As-B後)		316	104
54	西善Ⅰ-B区	62号土坑	H-92	楕円形 長方形	1.24	0.83	0.45	N-69°-E	不明		326	104
55	西善Ⅰ-B区	63号土坑	J-95	楕円形 長方形	1.15	0.59	0.32	N-84°-E	不明(As-B後)		327	103
56	西善Ⅰ-B区	64号土坑	J-94	楕円形 長方形	0.77	0.50	0.13	N-78°-E	不明(As-B後)		327	105
57	西善Ⅰ-B区	65号土坑	J-94	楕円形 長方形	0.73	0.52	0.18	N-77°-E	不明(As-B後)		327	105
58	西善Ⅰ-B区	66号土坑	I・J-92		4.26	0.51	0.39	N-28°-W	不明(As-B後)		327	105
59	西善Ⅰ-B区	67号土坑	I・J-93	楕円形	0.86	0.61	0.18	N-16°-W	不明(As-B後)		321	-
60	西善Ⅰ-B区	68号土坑	J・K-94	長方形	2.19	1.04	0.42	N-34°-W	不明(As-B後)		325	103
61	西善Ⅰ-B区	69号土坑	J-95	長方形	1.21	(0.77)	0.43	N-45°-E	不明(As-B後)		325	103
62	西善Ⅰ-B区	70号土坑	Q-109	楕円形 長方形	(1.52)	0.79	0.15	N-5°-W	不明		327	105
63	西善Ⅰ-B区	71号土坑	Q-109				0.22		不明		327	105
64	西善Ⅰ-B区	72号土坑	Q-108	楕円形	0.88	0.64	0.25	N-36°-E	不明		321	102
65	西善Ⅰ-B区	73号土坑	J-93-94	長方形	2.48	0.49	0.35	N-82°-E	不明(As-B後)		325	106
66	西善Ⅱ-B区	75号土坑	K-79	長方形	2.10	1.06	0.35	N-3°-W	不明(As-B後)		325	104
67	西善Ⅱ-B区	76号土坑	K-79-80	楕円形	1.45	0.80	0.23	N-11°-E	不明(As-B後)		321	102
68	西善Ⅱ-B区	77号土坑	J-80 K-80-81	楕円形 正方形	3.50	3.40	0.08	N-88°-E	中世		323	103 119
69	西善Ⅱ-B区	78号土坑	L-80	楕円形	1.69	0.61	0.08	N-82°-E	不明(As-B後)		321	-
70	西善Ⅱ-B区	79号土坑	M-80	楕円形 正方形	0.57	0.58	0.13	N-36°-W	不明		318	-
71	西善Ⅱ-B区	80号土坑	J-85	不定形	1.00	0.87	0.12	N-34°-W	不明(As-A後)		315	100
72	西善Ⅱ-B区	81号土坑	J-84	円形	1.11	0.92	0.15	N-66°-E	不明		318	100
73	西善Ⅱ-B区	82号土坑	J-84	長方形	1.81	1.24	0.10	N-71°-E	不明		325	104
74	西善Ⅱ-B区	83号土坑	M-85	楕円形	1.46	1.12	0.21	N-16°-E	奈良・平安		206	76
75	西善Ⅱ-B区	84号土坑	M-86	楕円形 長方形	2.04	0.92	0.27	N-78°-W	不明	←No24土坑	323	103
76	西善Ⅱ-B区	85号土坑	M-87	円形	0.91	0.82	0.21	N-9°-E	不明	←No25土坑	318	101
77	西善Ⅰ-B区	86号土坑	J-89	楕円形	1.18	0.95	0.22	N-67°-E	不明		321	102
78	西善Ⅱ-B区	88号土坑	J-85	円形	0.99	0.93	0.26	N-8°-E	平安時代		206	76
79	西善Ⅱ-B区	89号土坑	K-86	楕円形	1.84	1.08	0.27	N-4°-E	9世紀		207	77
80	西善Ⅱ-B区	90号土坑					(0.19)		不明		-	-
81	西善Ⅱ-B区	91号土坑	J-84	不定形	0.81	0.66	0.31	N-36°-W	不明(As-C後)		315	100
82	西善Ⅱ-B区	92号土坑	J-85	不定形	0.40	(0.41)	0.09	N-50°-E	不明(As-C後)		315	100
83	西善Ⅱ-B区	93号土坑	J-84	円形	0.35	0.30	0.08	N-10°-E	9世紀		207	77
84	西善Ⅱ-B区	94号土坑	J-84	円形	0.36	0.30	0.08	N-29°-W	9世紀		208	77
85	西善Ⅱ-B区	95号土坑	I-84	楕円形	0.67	0.52	0.13	N-37°-W	不明		322	102
86	西善Ⅱ-B区	96号土坑	K-86	楕円形	1.12	0.66	0.12	N-36°-W	10世紀		208	77
87	西善Ⅱ-B区	97号土坑	K-84	円形	0.95	0.88	0.14	N-13°-W	平安時代		209	78
88	西善Ⅱ-B区	98号土坑	J-86	不定形	0.88	(0.75)	0.22	N-10°-E	9世紀後半		210	78
89	西善Ⅱ-B区	99号土坑	J-86	不定形	0.71	(0.52)	0.16 ~0.26	N-13°-W	9世紀後半		210	78
90	西善Ⅱ-B区	100号土坑	K-86-87	楕円形	1.08	0.90	0.24	N-36°-E	不明		322	102
91	西善Ⅱ-B区	101号土坑	K-87	不定形	0.62	0.59	0.11	N-26°-W	不明		315	-
92	西善Ⅰ-B区	102号土坑	I-93-94	長方形	2.44	(0.80)	0.37	N-88°-E	不明		329	106

遺構一覧表

No.	遺跡	遺構名	位置 (グリッド)	平面 形状	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	長軸方位	時期	変更 備考	本文 (頁)	写真 (P.L.)
93	西善Ⅰ-B区103号土坑		I-93・94	長方形	2.04	0.54	0.33	N-73°E	不明(As-B後)		329	106
94	西善Ⅱ-B区104号土坑		K-86	円形	0.74	0.73		N-5°W	奈良・平安		211	78
95	西善Ⅱ-B区105号土坑		L-M-86	楕円形	0.79	0.65	0.18	N-54°E	9世紀		211	78
96	西善Ⅱ-B区106号土坑		M-86・87	隅丸 長方形	1.20	0.75		N-85°W	不明		-	-
97	西善Ⅱ-B区107号土坑		K-86	円形	0.99	0.91	0.16	N-81°W	不明		318	101
98	西善Ⅱ-B区108号土坑		K-86・87	不定形	0.57	0.70	0.09	N-90°	不明		315	-
							~0.15					
99	西善Ⅰ-B区110号土坑		L-89	不定形	2.19	1.75	0.36	N-81°W	9世紀後半		204	76
100	西善Ⅰ-B区113号土坑		J-92	不定形	1.29	1.20	0.44	N-9°W	不明(As-B後)		328	-
101	西善Ⅰ-B区114号土坑		J-92	長方形	0.80	0.51	0.34	N-8°W	不明(As-B後)		328	-
102	西善Ⅰ-B区115号土坑		H・I-92	円形	0.35	0.34	0.16	N-55°E	不明(As-B後)		318	-
103	西善Ⅰ-B区116号土坑		I-92	不定形	0.57	0.43	0.24	N-55°W	不明(As-B後)		318	-
104	西善Ⅰ-B区117号土坑		H-93	円形	0.32	0.31	0.31	N-82°E	不明(As-B後)		317	104
105	西善Ⅰ-B区118号土坑		I-92	楕円形	0.43	0.30	0.36	N-67°E	不明		317	-
106	西善Ⅰ-B区119号土坑		I-92	楕円形	0.92	0.55	0.12	N-82°W	不明		322	-
107	西善Ⅰ-B区120号土坑		H-93	隅丸長 方形?	2.10	0.83	0.30	N-43°W	不明		328	-
108	西善Ⅰ-A区121号土坑		O-92	不定形	1.10	0.68	0.36	N-17°W	不明		315	-
109	西善Ⅰ-A区122号土坑		O-93	楕円形	0.86	0.70	0.18	N-35°W	不明		316	-
110	西善Ⅰ-A区123号土坑		R-95	楕円形	0.61	0.55	0.20	N-9°W	不明		322	-
111	西善Ⅰ-B区124号土坑		K-91	長方形	2.00	0.50	0.17	N-64°W	4世紀	未検出の方形 周溝基か	74	-
112	西善Ⅰ-B区126号土坑		K-91	楕円形	0.55	0.51	0.15	N-9°E	不明	礎土あり	319	107
113	西善Ⅱ-B区127号土坑		J-86	隅丸 正方形	0.77	0.75	0.04	N-25°E	奈良・平安		212	79
114	西善Ⅱ-B区128号土坑		J-86	楕円形	0.37	0.31	0.27	N-70°E	古墳時代前期		75	27
115	西善Ⅱ-B区129号土坑		J-86	楕円形	0.68	0.52	0.18	N-76°E	古墳時代前期	全体図	75	27
116	西善Ⅱ-B区130号土坑		K-85	円形	0.46	0.44	0.18	N-88°E	奈良・平安		212	78
117	西善Ⅱ-B区131号土坑		J・K-77	楕円形	0.86	0.44	0.14	N-1°W	不明(As-B後)		322	-
118	西善Ⅱ-A区132号土坑			楕円形	1.06	0.62		N-59°E	古墳時代		75	27
119	西善Ⅱ-B区133号土坑			円形	0.56	0.48	0.18		不明		322	103
120	西善Ⅱ-B区134号土坑		K-68	不定形	1.62	0.49	0.46	N-57°W	不明(As-B後)		316	100
121	西善Ⅱ-B区135号土坑		K-68	楕円形	0.67	0.48	0.21	N-59°E	不明(As-B後)		322	100
122	西善Ⅱ-B区136号土坑		M-70	楕円形	0.68	0.38	0.10	N-70°E	不明(As-B後)		322	-
123	西善Ⅱ-B区137号土坑		M-70	楕円形	0.72	0.42	0.10	N-81°E	不明(As-B後)		323	-
124	西善Ⅱ-A区139号土坑			楕円形	0.85	0.78	0.29	N-75°E	不明		323	-
125	西善Ⅱ-B区140号土坑			楕円形	0.89	0.60	0.12	N-30°W	不明	→140-3土坑	323	-
126	西善Ⅱ-B区141号土坑		K-71	円形	0.49	0.48	0.21	N-18°E	不明	→141-1土坑	317	-
127	西善Ⅱ-B区142号土坑		L-70	円形?	0.49	0.48	0.48	N-70°W	不明		317	-
128	西善Ⅱ-B区143号土坑		K・L-78	不定形	3.29	1.41	0.31	N-31°W	不明		316	118
129	西善Ⅰ-A区146号土坑		M-89	円形	0.95	0.26	0.35	-	平安		203	-
130	西善Ⅱ-B区147号土坑		N-85	不定形	1.04	1.00	0.04	N-80°W	11世紀		213	78
							~0.12					
131	西善Ⅰ-A区148号土坑		P-88	楕円形	1.14	0.89	0.31	N-10°W	平安(As-B前)		205	76
132	西善Ⅰ-A区149号土坑		P-88	不定形	1.46	0.47	0.1	N-1°E	奈良・平安?		205	76
							~0.16					
133	西善Ⅱ-B区150号土坑		I-83	円形	0.50	0.46	0.10	N-40°W	不明	→139-2土坑	317	-
134	西善Ⅱ-B区151号土坑		J-71	円形	0.37	0.36	0.19	不明	不明	→140-1土坑	317	-
135	西善Ⅱ-B区152号土坑		J-83	円形	0.40	0.35	0.09	N-81°W	不明	→140-2土坑	319	-
136	西善Ⅱ-B区153号土坑		J-86	不定形	0.46	0.46	0.09	N-58°E	不明	→141-2土坑	319	-
							~0.24					
137	西善Ⅱ-B区156号土坑		L-86	円形	0.36	0.30	0.35	N-7°W	不明	→116B土坑	317	-
138	西善Ⅱ-B区157号土坑							不明	不明	→132土坑	319	-
139	西善Ⅱ-B区158号土坑		K-79	楕円形	1.19	0.88	0.3	N-50°W	古墳時代	→116井戸	80	29
140	西善Ⅲ-A区1号土坑		P-50	隅丸 正方形	0.80	0.62	0.33	N-80°E	不明		338	110
							~0.68					
141	西善Ⅲ-A区3号土坑		U-49	楕円形	1.72	1.10	0.26	N-11°E	不明		334	108
142	西善Ⅲ-A区4号土坑		U-49	円形	0.71	0.62	0.24	N-25°W	不明		333	107
143	西善Ⅳ-A区6号土坑		T-29	円形	0.71	0.71	0.26		不明		333	-

遺構一覧表

No.	遺跡	遺構名	位置 (グリッド)	平面 形状	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	長軸方位	時期	変更 備考	本文 (頁)	写真 (P.L)
144	西瀬IV-A区	11号土坑	S-23-24 T-24	正方形	0.88	0.83	0.17	N-80°-E	不明		339	111
145	西瀬IV-A区	12号土坑	S-23-24	長方形	1.25	0.87	0.34	N-11°-W	不明		339	111
146	西瀬IV-A区	13号土坑	S-23	隅丸 長方形	2.40	0.70	0.30	N-5°-W	不明		339	111
147	西瀬IV-A区	14号土坑	S-23-24	隅丸 長方形	2.00	0.84	0.22	N-9°-W	不明		339	111
148	西瀬IV-A区	15号土坑	S・T-25	長方形	1.46	0.95	0.15	N-11°-W	不明		342	113
149	西瀬IV-A区	17号土坑	T-27	長方形	0.90	0.65		N-85°-E	不明		342	113
150	西瀬IV-A区	18号土坑	T・U-27	長方形	1.50	1.14	0.18	真北	不明	←16土坑	342	-
151	西瀬IV-A区	19号土坑	T-27	長方形	2.50	1.26	0.23	N-4°-W	不明		342	113
152	西瀬IV-A区	20号土坑	T-27	長方形	2.85	1.00	0.15	N-1°-W	不明		342	113
153	西瀬IV-A区	21号土坑	T・U-27	長方形	3.83	2.70	0.50	N-68°-E	不明		346	115
154	西瀬IV-A区	23号土坑	U-28	方形	2.25	1.67	0.29	N-95°-E	不明	地下式土坑?	345	115
155	西瀬IV-A区	25号土坑	R・S-23	長方形	1.46	0.74	0.22	N-29°-W	不明		342	119
156	西瀬IV-A区	26号土坑	R-23	長方形	1.96	0.93	0.42	N-32°-W	不明		342	114
157	西瀬IV-A区	27号土坑	Q-23	長方形	1.12	0.71		N-80°-E	不明		342	113
158	西瀬IV-A区	28号土坑	Q-23	長方形	1.40	0.61	0.20	N-13°-W	不明		342	113
159	西瀬IV-A区	29号土坑	Q-22-23	方形	1.18	1.05	0.33	N-40°-W	不明		342	113
160	西瀬IV-A区	30号土坑	P-23	長方形	0.92	0.63	0.35	N-10°-W	不明		340	-
161	西瀬IV-A区	31号土坑	S-23-24	長方形	1.05	0.61	0.31	真北	不明		340	112
162	西瀬IV-A区	32号土坑	T-24	長方形	1.96	0.70	0.56	真北	不明	地下式土坑?	347	116
163	西瀬IV-A区	33号土坑	Q-23	楕円形	0.80	0.54	0.41	N-14°-W	不明		335	108
164	西瀬IV-A区	34号土坑	Q-23	隅丸 長方形	1.07	0.60	0.07	N-11°-W	不明		340	112
165	西瀬IV-A区	35号土坑	S-23	長方形	1.00		0.70		不明		339	-
166	西瀬IV-A区	36号土坑	T-23-24	長方形	1.50	1.18	0.76	N-55°-E	不明		339	-
167	西瀬IV-A区	38号土坑	T-27-28	不定形	4.90	1.78	0.16	N-6°-W	不明	土坑の重複?	341	-
168	西瀬IV-A区	40号土坑	T・U-26	地下式	3.53	1.60	0.73	N-15°-E	不明		348	117
169	西瀬IV-A区	41号土坑	T・U-27	地下式	4.86	2.30	0.50 ~0.79	N-9°-W	不明		115 347	116
170	西瀬IV-A区	42号土坑	U-25	長方形	2.56	1.97	0.80 ~0.46	N-27°-E	不明	地下式坑?	349	117
171	西瀬IV-A区	43号土坑	Q-27	長方形	3.00	0.72	0.11	N-4°-W	不明(As-B後)		341	112
172	西瀬IV-A区	44号土坑	Q-27	長方形	2.86	0.66	0.10	N-12°-W	不明(As-B後)		341	112
173	西瀬IV-A区	45号土坑	T-28	長方形	1.80	0.84	0.16	N-2°-W	不明		341	112
174	西瀬IV-A区	46号土坑	T-28-29	長方形	1.84	0.83	0.31	N-11°-W	不明		341	112
175	西瀬IV-A区	47号土坑	S・T-29	長方形	5.47	0.94	0.20	N-23°-E	不明		341	112
176	西瀬IV-A区	48号土坑	T-29	長方形	0.95	0.72	0.17	N-2°-E	不明		341	112
177	西瀬IV-A区	49号土坑	S-29	長方形	5.22	1.13	0.37	N-17°-W	不明(As-B後)		340	112
178	西瀬IV-A区	50号土坑	S-29-30	長方形	2.36	0.94	0.21	N-89°-E	不明		340	112
179	西瀬IV-A区	51号土坑	T-30	長方形	0.97	0.75	0.53	N-74°-W	不明		343	112
180	西瀬IV-A区	52号土坑	T-30-31	長方形	0.78	0.60	0.16	N-84°-E	不明		338	110
181	西瀬IV-A区	53号土坑	S・T-31	長方形	1.15	0.86	0.17	N-10°-W	不明		338	110
182	西瀬IV-A区	54号土坑	T-30-31	長方形	1.64	1.12	0.45	N-77°-E	不明		343	110
183	西瀬IV-A区	55号土坑	T-31	円形	0.53	0.52	0.53	N-78°-E	古墳時代		76	27
184	西瀬IV-A区	56号土坑	S-31	隅丸 長方形	1.56	0.96	0.72	真北	不明(As-B後)		343	114
185	西瀬IV-A区	57号土坑	S30	円形	0.81	0.77	0.76	N-3°-E	不明(As-B後)		333	107
186	西瀬IV-A区	58号土坑	T-32	楕円形	0.64	0.52	0.35	N-4°-W	不明		331	119
187	西瀬IV-A区	59号土坑	S・T-32	不定形	3.50	1.15	0.35	N-61°-E	不明		331	119
188	西瀬IV-A区	60号土坑	R・S-33	長方形	3.48	2.00	0.44	N-75°-E	不明	壁穴状遺構?	346	115
189	西瀬IV-A区	61号土坑	T-28-29 U-29	地下式	3.35		0.53	N-5°-E	不明		116 347	119
190	西瀬IV-A区	62号土坑	S-29	長方形		0.98	0.19		不明		343	-
191	西瀬IV-A区	63号土坑	S-29	長方形	1.64	1.10	0.19	N-5°-E	不明		343	114
192	西瀬IV-A区	64号土坑	S-29	楕円形	0.49	0.29	0.30	真北	不明		343	-
193	西瀬IV-A区	65号土坑	Q・R-28	楕円形	1.27	1.10	0.32	N-40°-W	不明(As-B後)		335	108
194	西瀬IV-A区	66号土坑	R-29	不定形	1.33	0.88	0.39	N-71°-E	不明(As-B後)		331	107

遺構一覧表

No.	遺跡	遺構名	位置 (グリッド)	平面 形状	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	長軸方位	時期	変更 備考	本文 (頁)	写真 (P.L)
195	西瀬IV-A区	67号土坑	Q・R-29	隅丸 長方形	0.52	0.29	0.23	N-4°-E	不明(As-B後)		331	107
196	西瀬IV-A区	68号土坑	Q-32	長方形	1.05	0.65	0.25	N-68°-E	不明		343	114
197	西瀬IV-A区	69号土坑	Q-32	隅丸 長方形	1.00	0.65	0.19	N-17°-W	不明		344	114
198	西瀬IV-A区	70号土坑	R-32	隅丸 長方形	0.77	0.63	0.21	N-17°-W	不明		338	111
199	西瀬IV-A区	71号土坑	R-31	楕円形	0.91	0.78	0.33	N-89°-W	不明		335	108
200	西瀬IV-A区	72号土坑	S-33	長方形?		1.15	0.21		不明		346	115
201	西瀬IV-A区	73号土坑	R-32・33	長方形	3.04	1.13	0.24	N-89°-E	不明(As-B後)		344	114
202	西瀬IV-A区	74号土坑	S-33	楕円形	1.14	0.72	0.32	N-51°-E	奈良・平安		213	79
203	西瀬IV-A区	76号土坑	R-33	不整形					不明		331	107
204	西瀬IV-A区	77号土坑	O・P-30						中・近世以降	一部P位変更	332	119
205	西瀬IV-A区	78号土坑	Q-29	長方形	1.61	0.76	0.42	N-11°-W	不明		344	114
206	西瀬IV-A区	79号土坑	Q-30	楕円形	1.15	0.93	0.30	N-58°-E	不明		335	109
207	西瀬IV-A区	84号土坑	Q-29	不定形	0.91	0.80	0.28	N-3°-W	不明		332	107
208	西瀬IV-A区	85号土坑	P-30・31	楕円形	1.19	0.92	0.27	N-71°-W	不明		335	108
209	西瀬IV-A区	87号土坑	U-25・26	地下式	4.31	1.94	0.64	N-42°-W	不明		348	117
210	西瀬IV-A区	88号土坑	R-23	長方形	2.42	0.79	0.20	N-13°-W	不明(As-A後)		344	-
211	西瀬IV-A区	91号土坑	P-28	楕円形	0.85	0.51	0.23	N-3°-W	不明(As-B後)		335	109
212	西瀬IV-A区	92号土坑	P-31	不定形			0.25		不明(As-B後)		332	-
213	西瀬IV-A区	93号土坑	P-30・31	楕円形	0.77	0.59	0.30	N-84°-E	不明		334	-
214	西瀬IV-A区	94号土坑	O・P-30				0.29		不明(As-B後)		334	107
215	西瀬IV-A区	95号土坑	U-30		0.98	(0.69)	0.30	N-71°-E	不明(As-B後)		339	111
216	西瀬IV-A区	96号土坑	T・U-31		1.93	(1.13)	0.17	N-72°-E	不明		345	111
217	西瀬IV-B区	97号土坑	M-33	楕円形	2.06	1.87	0.22	N-29°-E	不明		336	109
218	西瀬IV-B区	98号土坑	M-38	隅丸 長方形	1.51	0.86	0.18	N-90°-E	不明(As-B後)		344	114
219	西瀬IV-A区	100号土坑	R-24・25	方形	1.58	1.41	0.72	N-22°-E	古墳時代前期		77	28
220	西瀬IV-A区	101号土坑	S-23		1.31	(1.09)	0.16	N-33°-W	不明		336	109
221	西瀬IV-A区	102号土坑	P・Q-24	隅丸 長方形	3.12	1.86	0.76	N-1°-E	古墳時代前期		78	28
222	西瀬IV-A区	104号土坑	T・U-32	地下式	3.13	1.91	1.05	N-23°-W	不明(As-B後)		349	118
223	西瀬IV-A区	105号土坑	T・U-29・30	地下式					不明		348	117
224	西瀬IV-A区	106号土坑	P-28・29	方形	0.77	0.54	0.25	N-87°-W	不明		338	111
225	西瀬IV-A区	107号土坑	P-30	楕円形	1.30	1.05	0.40	N-70°-E	不明		336	109
226	西瀬IV-A区	108号土坑	Q-28	円形	1.03	1.01	0.63		不明		334	108
227	西瀬IV-A区	109号土坑	P-29	長方形	1.95	0.92	0.07	N-84°-E	不明(As-B後)		345	115
228	西瀬IV-A区	110号土坑	P-29		0.75	(0.30)	0.05	N-72°-E	不明		336	110
229	西瀬IV-A区	112号土坑	P-29・30	隅丸 長方形	1.42	1.01	0.14	N-14°-W	不明		344	115
230	西瀬IV-A区	113号土坑	P-29・30		(1.30)	(1.00)	0.11	N-4°-E	不明		336	-
231	西瀬IV-A区	114号土坑	U-27・28		(0.91)	(0.68)	0.18	N-73°-W	不明(As-B後)		331	119
232	西瀬IV-A区	115号土坑	V-38	長方形	1.60	1.14	0.18		6世紀後半		79	29
233	西瀬IV-A区	116号土坑	U-27		(1.05)	(0.62)		N-6°-E	不明		331	-
234	西瀬IV-A区	117号土坑	R・S-33・34	隅丸 長方形	2.73	1.35	0.35	N-35°-W	不明		345	115
235	西瀬IV-A区	118号土坑	V-31	楕円形	0.74	0.62	0.92	N-76°-E	不明(As-B後)		336	109
236	西瀬IV-A区	119号土坑	W-31・32	楕円形	0.34	0.28	0.63	N-16°-E	不明		333	-
237	西瀬IV-A区	120号土坑	W-32	不定形			0.30		不明		333	-
238	西瀬IV-A区	121号土坑	S-33・34	不定形			0.24		不明		332	-
239	西瀬IV-A区	122号土坑	Q-34	不定形			0.16		6世紀後半		76	27
240	西瀬IV-A区	123号土坑	Q-34	楕円形	1.72	1.23	0.24	N-53°-W	不明		337	109
241	西瀬IV-A区	124号土坑	P-34		1.11	(0.52)	0.37	N-55°-W	不明		337	110
242	西瀬IV-A区	126号土坑	P・Q-41	不定形	1.76	1.09	0.14	N-75°-E	不明		107	119
							~0.23				332	
243	西瀬IV-A区	127号土坑	Q-33・34	不定形			0.25		不明		333	-
244	西瀬IV-A区	128号土坑	Q-34	円形	0.65		0.25		不明		334	108
245	西瀬IV-A区	129号土坑	R-36	円形	0.62	0.60	0.20		不明		334	108

遺構一覽表

No	遺跡	遺構名	位置 (グリッド)	平面 形状	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	長軸方位	時期	変更 備考	本文 (頁)	写真 (P.L)
246	西瀬IV-A区130号土坑	P-33		不定形	1.92	(0.85)	0.44	N-32°W	奈良・平安		332	107
247	西瀬IV-A区131号土坑	V-32		隅丸 長方形	1.30	1.14	0.35	N-4°W	4世紀		78	28
248	西瀬IV-A区132号土坑	Q-44		楕円形	1.01	0.74	0.16	N-6°E	不明		337	110
249	西瀬IV-A区134号土坑	R-35/36		不定形	1.21	(0.70)	0.31	N-55°E	不明		337	-
250	西瀬IV-A区135号土坑	R-35		楕円形	0.52	0.42	0.19	N-73°E	不明		337	110
251	西瀬IV-A区136号土坑	Q-45		方形	0.99	0.85	0.36	N-13°W	不明		339	111
252	西瀬IV-A区137号土坑	P-41/42		楕円形	0.63	0.51	0.14	N-52°W	不明		337	110
253	西瀬IV-A区138号土坑	Q-41		楕円形	0.80	0.59	0.23	N-42°E	不明		337	-
254	西瀬IV-A区139号土坑	P-41		楕円形	1.06	0.66	0.20	N-8°W	不明		338	110
255	西瀬IV-A区140号土坑	P-42		楕円形	0.47	0.40	0.15	N-13°E	不明		338	110
256	西瀬IV-A区141号土坑	P-42		楕円形	0.74	0.57	0.20	N-25°E	不明		338	110
257	西瀬IV-A区142号土坑	R-32		隅丸 長方形	0.74	0.45	0.12	N-88°E	不明	--IV116-1土坑	338	110
258	西瀬IV-B区143号土坑	L-32~35		円形	11.50	(4.12)	0.67		近世(As-A後)		350	-
259	中内I-B区83号土坑	M-22		円形	0.95	0.95	0.36		不明(As-B後)		351	-
260	中内I-B区86号土坑	M・N-19-20		隅丸 長方形	1.37	0.95	0.11	N-65°E	不明(As-B後)		351	-
261	中内I-B区88号土坑	N-22		円形	(1.26)	(0.40)	0.26		不明		351	-
262	中内I-B区89号土坑	N-21/22		不定形	(1.30)	(0.40)	0.16		不明		351	-

第9表 西瀬尺司遺跡跡一覽表

No	区	遺構名	位置 (グリッド)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (m)	調査長 (m)	走行方位	時期 備考	本文 (頁)	写真 (PL)
1	I-A区1号溝	O-101・102 P-102 Q-102・103 R-103・104		0.62~0.16	0.34~0.06	0.10~0.04	21	北北西 ~南南西	不明	358	-
2	I-B区2号溝	K・L・M・N・O・P-92 L・P・Q・R・S-93		0.45~0.25	0.26~0.10	0.14	47	N-9°W	8~9世紀	225	82
3	I-A区3号溝	P-Q-108-109		1.75~1.57	1.11~0.76	0.31~0.3	6	北	9世紀後半	214	79・80
4	I-A区4号溝	Q-R-109		0.34~0.19	0.25~0.12	0.06	38	N-18°W	不明	358	-
5	I-A区5号溝	R-110		0.44~0.27	0.33~0.22	0.62~0.15	4	N-0°	不明	359	-
6	II-B区6号溝	L・M-79		2.04~1.80		0.10	5	N-18°W	中世	359	122
7	II-B区7号溝	H・I-83~87 H-89 ~91 I-89~90		3.13~2.20	2.25~2.00	0.83	40	東北東~南東	9世紀後半	30・81 217・82	
8	I-B区8号溝	L-103・104		0.66~0.47	0.30~0.14	0.22~0.1	8	北北東~北東	8C後半~9C初	215	80
9	II-B区9号溝	L-78-79 M-79-80 O・P-81・Q-81 Q・R・S・T-82		0.60~0.33	0.23~0.10	0.5~0.12	53	N-15°W ~東南	平安(As-B前)	216	80
10	II-A区10号溝	R-81~84 S-83・84 T-84・85 U-85		0.65~0.25	0.45~0.18	0.08	5	N-50°W	不明	360	80・ 122
11	II-B区11号溝	R-86 S-86・87		0.58~0.35	0.35~0.18	0.07	5	N-40°W	古墳時代前期	82	29
13	II-B区12号溝	R・S-81 S・T-80		0.50~0.28	0.27~0.10	0.14	4	N-30°E	不明	360	122
12	II-B区13号溝	K-79 L-79-80 M-80-81		0.43~0.20	0.20~0.03	0.07~0.06	18	N-50°W ~N-40°W	古墳時代後期	81	80
14	II-A区15号溝	O・P-78		0.43~0.20	0.25~0.10	0.12~0.1	8	西~南	不明	359	122
15	II-A区17号溝	J・K-69 K・L-M-70 M-0-71 O・P・Q-72 Q・R-73 R・S・T-74 T-75 U・V-76		0.80~0.30	0.45~0.08	0.26~0.07	62	N-35°W	不明	362	123
16	II-A区18号溝	K・L-70 O-71 O・P ・Q-72 Q・R・S-73 S・T-74 T-75		0.55~0.20	0.25~0.10	0.11~0.03	54	N-34°W	不明	362	-
17	II-A区19号溝	Q-72-73 R-73-74 S-74		0.61~0.18	0.37~0.05	0.10	17	N-47°W	不明	362	-
18	II-A区20号溝	J・K-68 K-64 L-69 ・70 O・P・Q-71 M・R・S-70・71		0.92~0.40	0.60~0.17	0.60~0.52	53	真北~ N-50°W	不明(As-B後)	362	123
19	II-A区21号溝	J-68 K-68-69 L-69 ・70 M-70-71 O・P-7		0.85~0.33	0.42~0.15	0.70~0.53	50	真北~ N-50°W	不明(As-B後)	362	123

遺構一覧表

No	区	遺構名	位置 (グリッド)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (m)	調査長 (m)	走行方位	時期考	本文 (頁)	写真 (P.L)
20	II-	B区23号溝	I Q・R・S-70-71 K-68・69 L-69	0.63~0.42	0.50~0.32	0.04	11	N-55°W	不明		123
21	II-	B区24号溝	J-73 K-72-73 L-71-72	0.65~0.45	0.47~0.28	0.12	16	N-55°E	不明	363	123
22	II-	B区25号溝	K-71 L-70-71	1.30~0.45	0.70~0.21	0.12	7	N-30°E	不明	363	123
23	II-	B区26号溝	J-68・69 K-68~70 L-69・70	0.75~0.35	0.45~0.13	0.10~0.07	7	N-40°W ~S-20°E	不明	363	123
24	II-	B区27号溝	J・K・L-74 M-74-75	0.80~0.30	0.60~0.10	0.22	20	N-10°W	不明	363	123
25	II-	B区28号溝	J-75~77	0.68~0.28	0.55~0.15	0.12	12	東西	不明	360	121
26	II-	B区29号溝	I・J-77	0.40~0.17	0.22~0.03		6	N-30°W	不明	390	121
27	I-	A区30号溝	M・N-96	0.40~0.18	0.24~0.09	0.14	58	北北西	不明	358	-
28	II-	A区31号溝	Q・R・S-69	0.37~0.25	0.23~0.14	0.04	9	S-27°W	不明	362	-
29	II-	A区32号溝	P-74・75 Q-73・74 R-72・73 S-72	0.36~0.17	0.17~0.06	0.04	20	N-42°E ~N-70°E	不明		-
30	II-	B区33号溝	J-70 K-70・71	0.80~0.30	0.40~0.10	0.08~0.04	9	N-25°W	不明	363	123
31	III-	A区1号溝	O・P・Q・R-54 S-54 ~62 O・R・P・Q-62	0.56~0.25	0.45~0.08	0.1~0.06	80	南北~東西 ~南北	不明(A・B後)	365	-
32	III-	A区2号溝	O・P・Q・R・S・T -54	0.88~0.18	0.60~0.06	0.10~0.09	24	南北	不明(A・B後)	365	-
33	III-	A区3号溝	R-49 S-49~51 R-5 2~56 S-56 T-57	0.48~0.22	0.28~0.05	0.06	50	L字状	N-10°Wより 不明(A・B後)	365	-
34	III-	A区4号溝	T-47・48 S-47~54	1.05~0.25	0.58~0.08	0.09	35	N-90°E	不明(A・B後)	365	-
35	III-	A区5号溝	P-61・62 Q・R・S・T・U-62	0.63~0.16	0.30~0.05	0.15~0.08	25	N-5°W	不明(A・B後)	365	-
36	III-	A区7号溝	O・P・Q-62				7	N-13°W	不明(A・B後)	365	-
37	III-	B区8号溝	K-62・63 L-60~62 N-59・60	1.18~0.20	0.90~0.04	0.04		N-65°E	不明(A・B後)		-
38	IV-	A区9号溝	U-42 V-40~42	1.45~0.83	0.85~0.35	0.20~0.18	14	N-70°E	不明(A・B後)	263	-
39	IV-	A区10号溝	U-39~42 V-38~40	1.52~1.35	1.10~0.40	0.60~0.3	18	N-70°E	不明(A・B後)	263	-
40	IV-	A区11号溝	T-41 U-38~42 V-38~40	1.90~1.02	0.45~0.12	0.58~0.47	17	N-70°E	不明(A・B後)	263	-
41	IV-	A区12号溝	S-40 T-38~40 U-35~39 V-33~36	2.80~1.20	0.88~0.23	0.70~0.54	46	N-70°E	不明(A・B後)	263	91
42	IV-A	B区13号溝	K-36 L-35-36 M-35 ~37 N-36-37 O-37 ~38 P-37~39 Q-38 ~40 R-39-40 S-40 ~41 T-41-42 U-42 ~43 V-42~44	5.50~2.55	0.90~0.23	1.58~0.83	68	S-40°E	不明(A・B後)	263	91
43	IV-	A区14号溝	P-23 Q-23・24 S-24・25 T-24	1.25~0.57	0.25~0.12	0.21~0.18	24		不明(A・B後)	260	-
44	IV-	A区15号溝	P-24 Q-24 R-24 S-24-25 U-25~ 28 L-25・26	1.40~1.05	0.40~0.30	0.61~0.29	41	N-13°W 避L字	不明(A・B後)	257	89
45	IV-A	B区17号溝	L-25~31 M-26-27 30-31 N-27-31 O-27 ~32 P-27-32-33 Q-27-28-32-33 R-27 ~28-33-34 S-27-28 ~34 T-28~34 U-28 ~30	3.18~1.65	0.62~0.24	1.30~0.88	137	N-15°~30°W N-70°E	不明(A・B後)	257	89-91
46	IV-	A区18号溝	Q-32 R-32-33	0.40~0.28	0.21~0.08	0.11	11	N-30°W	不明(A・B後)	367	120
47	IV-	A区19号溝	Q・R・S-34 R-35 S-33	0.94~0.27	0.57~0.17	0.23~0.13	21	N-50°Eより くお字状	不明	361	120
48	IV-	A区20号溝	O・P-29-30	0.52~0.30	0.31~0.07	0.08	7	N-80°E よりL字状	不明(A・B後)	367	120
49	IV-	A区21号溝	T-25-26 U-25~27	2.25~1.31	1.92~1.13	0.13~0.08	11	N-84°W	不明(A・B後)	367	-
50	IV-A	B区25号溝	L-31-32 M-31~33 N-32-33 O-33-34	3.30~1.05	0.70~0.16	1.12~0.47	82	N-70°E	不明(A・B後)	260	91

遺構一覧表

No	区	遺構名	位置 (グリッド)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (m)	調査長 (m)	走行方位	時期 備考	本文 (頁)	写真 (PL)
51	IV-	A区26号溝	P-34-35 Q-34-36 R-35-36 S-36-37 T-37-38 U-37-38 V-35-38W-34-36 U・V-42-43	1.82~1.42	0.22~0.06	0.52	8	N-35°W	不明(As-B後)	368	91-124
52	IV-	A区27号溝	L-30 L・M-N-31	0.50~0.33	0.25~0.07	0.20	12	N-27°W	不明	226	-
53	IV-	A区29号溝	P-33 Q・R-34 S・T -35 T・U-36 U・V-37 W-38-39	1.59~0.32	0.28~0.13	0.52~0.23	38	N-40°W	8世紀後半?	226	83-84
54	IV-	A区30号溝	U-37-38 V-38 R-35 -36 Q-34-35 T-37 -38 S-36	0.80~0.35	0.41~0.20	0.19~0.14	37	N-40°W	8世紀後半?	226	83-84
55	IV-	A区31号溝	P・Q-34	0.85~0.48	0.59~0.25	0.05	5	N-7°W	不明	226	83-84
56	IV-	A区32号溝	P-33-34	1.33~0.43	1.03~0.24	0.08~0.07	8	N-37°W	不明	226	83
57	IV-	A区33号溝	S・T-35-36 U-36-37 V-37	0.86~0.61	0.43~0.13	0.38~0.25	37	N-40°W	7世紀?	226	83-84
58	IV-	A区34号溝	S・T-35-36 U-36-37 V-37	0.70~0.33		0.26~0.17	32	N-40°W	不明		83
59	IV-	A区35号溝	T-34-35 U-35 V-35-36	0.37~0.23	0.16~0.08	0.11~0.08	16	N-40°W	古墳時代前期	82	29
60	IV-	A区36号溝	R-35 S・U-35-36 T-35-37	0.90~0.45	0.65~0.20	0.21~0.11	32	N-40°W	不明		83
61	IV-	A区37号溝	S-36-37 T-37	0.69~0.37	0.41~0.13	0.06	6	N-35°W	奈良・平安?	226	-
62	中内	26号溝	M-21	0.28~0.22	0.16	0.05	4	N-30°W	不明		371-
63	中内	27号溝	M-20-21 N-21	0.52~0.16	0.16~0.08	0.16	9	N-45°W	不明		371-
64	中内	28号溝	M-20-21 N-21	0.32~0.08	0.14~0.06	0.10	6	N-46°W	不明		371-
65	中内	29号溝	M-20-21 N-21	0.48~0.24	0.36~0.06	0.20	9	N-50°W	不明		371-
66	中内	31号溝	L-21-23 M-18-23 N-18-19-22-23	2.30~1.14	0.90~0.11	0.47~0.32	27	N-70°E	不明	260	99
67	中内	32号溝	M-23 N-13	1.95~1.33	0.48~0.14	0.21~0.17	7	N-15°W		257	-

第10表 西善尺司遺跡溝状遺構一覧表

No	区	遺構名	位置 (グリッド)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (m)	調査長 (m)	走行方位	時期 備考	本文 (頁)	写真 (PL)
1	田-A区	溝状遺構	K-62-63 L-60-62 M-59-60 O-55-56 P-54-55 Q-53-54 R-49-53 S-49-52 T-47-49 U-47-48	0.55~0.33	0.25~0.12	0.11~0.03	93.7	N-55°E	古墳時代前期	83	29-30

第11表 西善尺司遺跡島一覧表

区	遺構名	計測値 (m)	溝1 (m)	溝2 (m)	溝3 (m)	溝4 (m)	溝5 (m)	溝6 (m)	溝7 (m)	本文	写真			
I-B区	島	上幅	0.52	0.48	0.44	0.42	0.50	0.50	0.62	230				
K-103-104	下幅	0.30	2.24	0.30	2.04	2.20	1.66	0.24	1.88	2.27	2.00	0.30	1.96	0.40
L-103-105	深さ	0.14	0.10	0.22	0.08	0.14	0.18	0.13						
M-104-105	調査長	3.60	4.32	4.56	6.06	6.06	6.06	(3.38)	4.40	84				

第12表 西善尺司遺跡Hr-FA下水田一覧表 (本文 384 PL129・130)

区 No	調査面積(%)	長軸 (m)	短軸 (m)	面積 (㎡)	水口入口 水口出口 (水田No:位置)		各畦の長さ(m)				区画標高			
					北	東	南	西	最高	最低	差			
I 1	不確定	4.00	1.15+α	2.77										
I 2	100	3.00	1.90	2.47		3:中央	2.80	1.70	2.90	1.20	74.10	74.05	0.05	
I 3	100	3.50	2.40	5.37	2:左		2.90	2.30	3.50	2.60	74.10	74.05	0.05	
I 4	100	3.55	3.30	7.43			3.65	3.30	2.50	3.40	74.10	74.05	0.05	
I 5	不確定	4.80+α	1.85	7.88				(4.50)	2.90	(5.20)	74.00	73.95	0.05	
I 6	不確定	5.60+α	2.80				2.90	(1.50)		(5.75)	74.05	74.00	0.05	
I 7	不確定	4.00+α	1.60+α				(1.5)	(1.60)			74.05	74.00	0.05	
I 8	不確定	4.70+α	2.65				2.3	(4.00)		(1.60)	74.05	74.00	0.05	
I 9	不確定	8.20+α	2.70				2.7				74.10	74.00	0.1	

遺構一覽表

区	No.	調査面積(%)	長軸(m)	短軸(m)	面積(m ²)	水口入口 (水田№:位置)	水口出口	各畦の長さ(m)				区画標高				
								北	東	南	西	最高	最低	差		
I	10	不確定	2.20+ α	0.75+ α												
I	11	不確定	1.80+ α							(1.90)		73.75	73.75	0		
I	12	不確定	3.80	2.70+ α	6.97			(2.00)	(3.40)	(2.80)		73.75	73.70	0.05		
I	13	95	3.95	3.40	7.38			2.40	3.40	(2.40)	2.50	73.70	73.55	0.15		
I	14	95	3.15	1.95	3.10			(0.65)	(1.85)	(1.60)	(2.85)	74.00	73.95	0.05		
I	15	不確定	1.75	1.35+ α	1.10			1.80	(1.15)		(0.75)	74.00	73.95	0.05		
I	16	不確定	2.20+ α	1.05+ α	(1.13)			(1.30)			(2.70)	73.55	73.55	0		
I	17	不確定	1.00+ α	0.70+ α												
I	18	不確定	1.10+ α	0.60+ α												
I	19	95	1.50	1.20	1.23			(1.00)	(1.25)	(0.95)	(1.40)	74.00	74.00	0		
I	20	不確定	1.10+ α	0.90+ α												
I	21	不確定	1.35+ α	0.30+ α												
I	22	不確定	1.60+ α	1.10+ α												
II	1	不確定	4.25+ α	2.90+ α	(7.13)					(5.05)	(4.00)	74.25	74.15	0.1		
II	2	95	8.55	5.35	31.7			(5.55)	(2.80)	8.00	5.30	74.30	74.05	0.25		
II	3	100	8.40	5.30	34.1		4:左隅	8.50	4.65	8.60	5.40	74.25	74.05	0.2		
II	4	60	8.15	6.40	38.95	3:左隅		8.60	(6.00)	6.70	7.10	74.25	74.00	0.25		
II	5	100	6.75	6.00	30.4			6.80	5.75	7.20	6.30	74.10	73.95	0.15		
II	6	100	8.70	6.10	37.00			7.50	5.80	7.85	4.20	74.05	73.95	0.1		
II	7	不確定	6.30	5.30+ α	(19.45)			7.95	6.00		(3.65)	74.00	73.90	0.1		
II	8	不確定	5.45	4.00+ α	(16.17)				(3.10)	5.65	(5.50)	73.85	73.75	0.1		
II	9	99	11.35	4.55	43.83			5.65	10.10	5.45	12.10	73.85	73.70	0.15		
II	10	100	8.10	7.75	43.88			5.45	4.80	7.65	5.30	73.80	73.65	0.15		
II	11	不確定	8.40	1.65+ α	(6.65)			7.65	(2.10)		(1.16)	73.90	73.65	0.25		

第13表 西善尺司遺跡As-B下水田一覽表(本文 386 P.L130・131)

区	No.	調査面積(%)	長軸(m)	短軸(m)	面積(m ²)	水口入口 (水田№:位置)	水口出口	各畦の長さ(m)				区画標高				
								北	東	南	西	最高	最低	差		
I	1	不確定	5.90+ α	1.80+ α					(5.60)	(1.60)		74.70	74.70	0		
I	2	不確定	19.35+ α	5.35	(87.70)				(19.20)	8.2	(19.40)	74.65	74.50	0.15		
I	3	不確定	5.80+ α	3.00+ α	(8.60)					(6.35)	(3.20)	74.60	74.60	0		
I	4	100	6.10	6.10	27.60		5:右隅	3.00	5.50	9.80	6.35	74.55	74.50	0.05		
I	5	不確定	20.70+ α	14.80	210.60	4:右隅			14.10	12.80	(20.40)	74.60	74.40	0.20		
I	6	不確定	5.60+ α	4.70	18.33				(5.80)	3.50	(5.50)	74.70	74.60	0.10		
I	7	100	7.50	3.50	(19.95)			3.50	7.50	3.30	7.60	74.65	74.60	0.05		
I	8	100	7.50	4.75	27.30			3.30	7.80	4.70	7.80	74.65	74.55	0.10		
I	9	不確定	9.65	6.0+ α	(54.53)				(6.30)	10.40	(5.80)	74.70	74.70	0		
I	10	100	15.30	9.20	129.53			10.20	15.10	8.3	15.40	74.70	74.65	0.05		
I	11	不確定	9.70	1.65+ α	13.00			9.20	(2.50)		(1.60)	74.55	74.45	0.10		
I	12	不確定	11.05	7.80+ α	(22.60)			10.10	(2.80)		(2.35)	74.55	74.45	0.10		
I	13	不確定	4.70	1.80+ α	(6.17)			4.70	(1.80)		(1.75)	74.60	74.60	0		
I	14	不確定	8.15	1.60+ α	(10.50)			8.30	(1.55)		(1.50)	74.65	74.60	0.05		
I	15	不確定	0.90+ α								(1.90)					
I	16	不確定	11.20	10.90	(98.70)				(9.30)	(3.9)	(7.30)	74.45	74.25	0.20		
I	17	不確定	8.45	2.75+ α	(18.65)				(2.70)	(7.3)	(1.00)	74.50	74.45	0.05		
I	18	不確定	2.90+ α							(4.1)	(2.60)					
I	19	不確定	2.70	6.70				(6.80)			(1.90)	74.55	74.40	0.15		
I	20	不確定	8.75	5.85+ α	(46.60)			(8.25)	(5.25)		(6.50)	74.45	74.45	0		
I	21	不確定	5.30	5.20+ α	(22.20)			(4.60)		(4.6)	(5.10)	74.50	74.45	0.05		
I	22	不確定	2.90+ α	2.50+ α				(3.35)	(3.10)			74.35	74.25	0.10		
I	23	60	8.90	5.90	(26.85)			(3.90)	(1.10)	(6.5)	(3.50)	74.35	74.20	0.15		
I	24	不確定	12.65	1.60+ α				(2.60)	12.9	(1.10)	74.35	74.35	0			
I	25	不確定	8.50	4.60+ α				(4.60)		(4.6)	(3.10)	74.40	74.40	0		
I	26	不確定	10.30+ α	10.00+ α				(11.10)	(7.50)			74.35	74.35	0		
I	27	98	8.10	5.05	(30.63)			(8.00)	(3.80)	8.1	4.80	74.30	74.30	0		
I	28	70	9.25	3.80	(28.42)			(9.20)	3.30	9.1	3.80	74.35	74.35	0		

遺構一覧表

区	№	水調査 面(%)	長軸 (m)	短軸 (m)	面積 (㎡)	水口入口 (水田№:位置)	水口出口	各趾の長さ(m)				区画標高			
								北	東	南	西	最高	最低	差	
I	29	不確定	3.30	2.90+ α				(2.80)		(2.9)	(3.20)	74.40	74.35	0.05	
I	30	不確定	11.90	5.60				(11.70)	(4.90)	(11.6)	(3.10)	74.30	74.20	0.10	
I	31	不確定	5.16	1.55+ α				(8.40)		(7.1)	(4.90)	74.35	74.15	0.20	
I	32	不確定	7.40+ α	3.80+ α				(6.90)	(3.95)			74.15	74.10	0.05	
I	33	不確定	6.65+ α	4.80+ α				(12.70)			(3.95)				
II	1	不確定	2.70+ α	0.75+ α							(3.3)	74.75	74.70	0.05	
II	2	不確定	4.30+ α	0.70+ α							(4.1)	(0.80)	74.80	74.80	0
II	3	不確定	11.90+ α	11.90			5:右		5.00	13.4	(14.30)	74.75	74.60	0.15	
II	4	不確定	5.10					(4.1)			4.90	74.80	74.75	0.05	
II	5	不確定	14.50	13.20	169.65		9:右側		(11.60)	17.00	3.50	74.70	74.55	0.15	
II	6	不確定	11.40+ α	8.00	67.33				6.90	5.70	(11.80)	74.75	74.60	0.15	
II	7	不確定	6.75	1.00+ α							(6.70)	74.80	74.80	0	
II	8	不確定	10.00+ α	9.40				8.60	(10.50)		(7.80)	74.70	74.70	0	
II	9	不確定	12.35	11.25+ α		5:中央		14.10	(10.60)		(10.60)	74.70	74.35	0.15	
II	10	不確定	8.35+ α	8.50	(51.73)						(8.50)	8.4	74.75	74.70	0.05
II	11	不確定													
II	12	不確定	8.50+ α	6.15	(46.27)			(8.50)		(8.70)	6.30	74.70	74.65	0.05	
II	13	不確定	8.25+ α	2.75+ α				(8.70)			(2.60)	74.65	74.65	0	
II	14	不確定	6.10+ α	4.15+ α						(5.50)	(5.80)	74.55	74.50	0.05	
II	15	不確定	12.90	9.00	84.08			8.10	14.00	12.46	7.10	74.50	74.35	0.15	
II	16	不確定	3.30+ α	2.20+ α						(2.40)	(9.80)	74.45	74.40	0.05	
II	17	不確定	1.50+ α	0.55+ α						(2.19)		74.50	74.50	0	
II	18	不確定	12.50	2.30+ α						(2.10)		74.45	74.25	0.20	
II	19	不確定	2.70+ α	1.35+ α				(2.70)			(0.90)	74.40	74.30	0.10	
II	20	不確定	8.00					7.80	(2.00)		(3.90)	74.50	74.45	0.05	
III	1	不確定	6.80+ α	3.35+ α							(5.00)				
III	2	不確定	23.35+ α	13.30				(6.50)	12.15	(23.90)		74.90	74.85	0.05	
III	3	不確定	11.30+ α	10.40					(11.30)	10.00	(12.90)	74.90	74.90	0	
III	4	不確定	33.50	11.50+ α								74.90	74.90	0	
III	5	不確定	13.40+ α	12.40+ α							(24.00)	13.40	74.85	74.85	0
III	6	不確定	24.25+ α	9.15+ α				(24.00)	(8.40)			74.85	74.85	0	
III	7	100	44.25	7.70	316.30		10:右側	44.50	8.20	44.00	7.70	74.90	74.85	0.05	
III	8	不確定	10.00	5.30+ α	38.80			10.40	(3.45)		(4.50)	74.85	74.85	0	
III	9	不確定	33.60	4.05+ α	120.70			33.50	(3.75)		(3.45)	74.85	74.80	0.05	
III	10	不確定	12.20+ α	7.30+ α				(12.40)			(4.75)	74.80	74.80	0	
III	11	不確定	13.30	7.30+ α					(1.50)	13.10	(2.30)	74.70	74.70	0	
III	12	不確定	9.50	4.90+ α							4.20	(1.50)			?
III	13	不確定	4.70+ α									74.70	74.70	0	
III	14	95	19.50	6.40	89.80			13.1	3.65	19.80	4.50	74.70	74.70	0	
III	15	100	4.40	3.10	11.80			4.3	4.60	3.00	3.80	74.70	74.70	0	
III	16	不確定	4.70+ α	1.90+ α				(4.8)	(2.00)			74.70	74.70	0	
III	17	不確定	17.85	5.90+ α				18	2.40	(9.85)	(2.00)	74.70	74.65	0.05	
III	18	100	4.90	2.00	7.30			4.2	1.65	3.00	3.50	74.70	74.70	0	
III	19	不確定	9.00+ α	2.00+ α	11.60			10.2	(2.50)						?
III	20	不確定	3.65	2.95+ α	8.40			4.2	(2.80)			(2.55)	74.65	74.65	0
III	21	不確定	3.15+ α									(3.25)	74.65	74.65	0

写 真 图 版



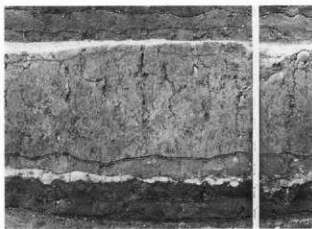
1. 西善尺司遺跡空中写真(東から)



2. 西善尺司遺跡空中写真(南から赤城山を望む)



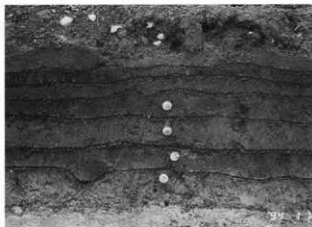
1. I-A区低地土層断面(北壁)



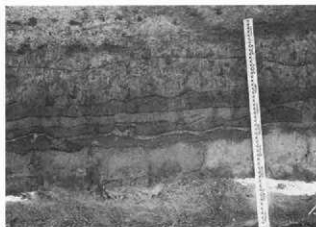
2. II-B区低地土層断面(北壁)



3. 同 拡大写真(北壁)



4. III-A区低地土層断面(南壁)



5. IV-A区台地土層断面(南壁)



6. I-A区台地土層断面



7. 同 拡大写真



8. IV-A区台地土層断面



1. III-A区石器集中部全景(南から)



2. 同 遺物出土状況(南から)



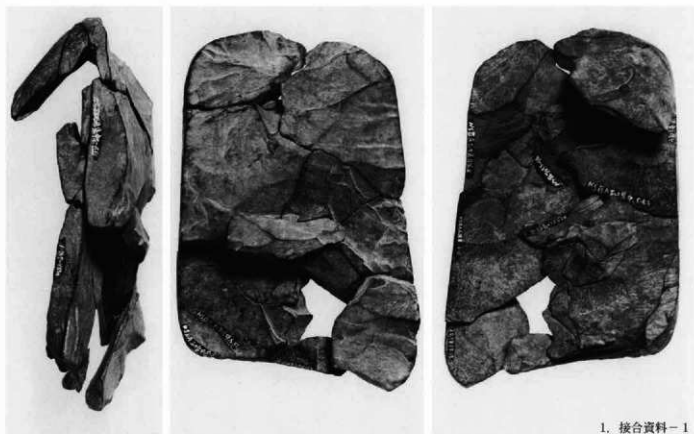
3. 同 遺物出土状況(南から)



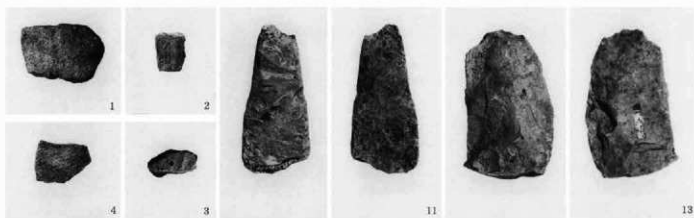
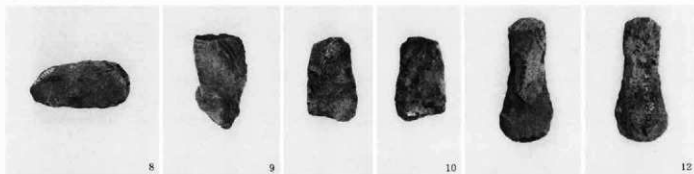
4. 同 遺物出土状況(南から)

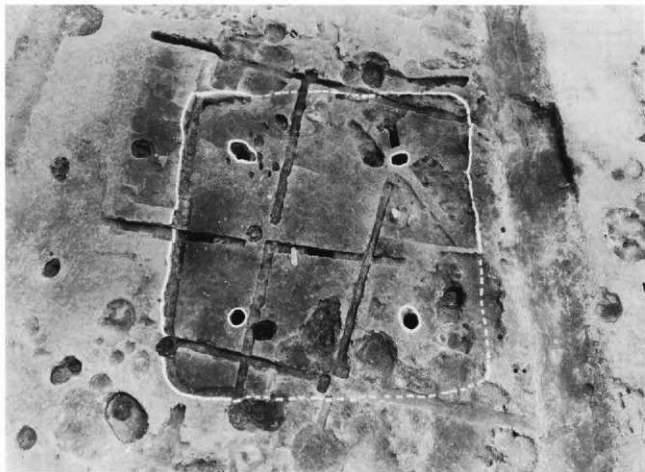


5. 同 出土遺物



1. 接合資料-1





1. II-B区37号住居全景（西から）



2. 同 住居構架面



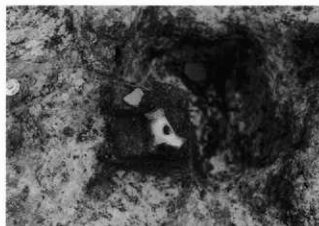
3. 同 炉土層断面



4. 同 住居土層断面



5. 同 周溝



1. II-B区37号住居遺物出土状況(1)



2. 同 遺物出土状況(2)



3. 同 遺物出土状況(3)

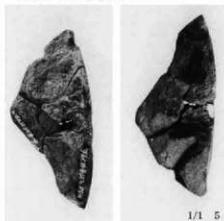


4. 同 遺物出土状況(4)



5. 同 遺物出土状況(5)

6. 同 出土遺物(1)



2



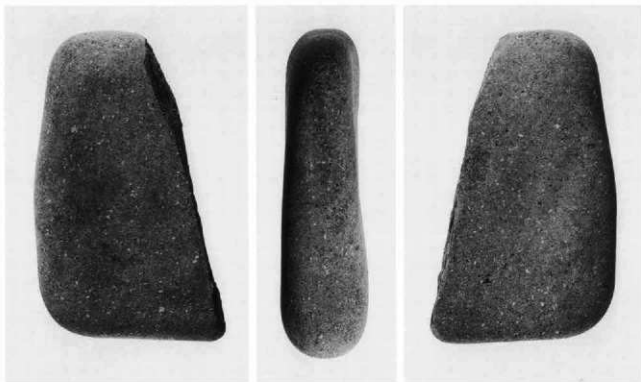
1



3



4



1. II-B区37号住居出土遺物(2)



2. II-B区38号住居全景(西から)



1. II-B区38号住居構築面(西から)



2. 同 炭化材出土状況(西から)



3. 同 炭化材出土状況(北西から)



4. 同 遺物出土状況(南から)



5. 同 遺物出土状況(南東から)



6. 同 遺物出土状況(西から)

7. 同 出土遺物





1. 1・2・3号方形周溝墓全般(東から)



2. 1・2・3号方形周溝墓遠景(南から)



3. 1号方形周溝墓土層断面A-A'



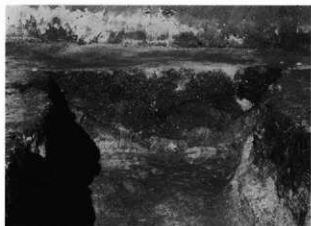
4. 1・2号方形周溝墓土層断面A-A'



5. 2号方形周溝墓土層断面D-D'



1. 3号方形周溝墓土層断面B-B'



2. 同 土層断面C-C'



3. 同 遺物出土状況



4. 同 遺物出土状況



5. 同 出土遺物



1. 4号方形周溝墓全景(東から 手前13号方形周溝墓)



2. 同 土層断面A-A'



3. 同 土層断面B-B'



4. 同 遺物出土状況(南辺付近)



5. 同 遺物出土状況



1. 4号方形周溝墓遺物出土状況(南辺付近拡大)



2. 同 出土遺物



3. 5号方形周溝墓全景(南西から 左7号方形周溝墓)



4. 同 土層断面D-D'



5. 同 土層断面B-B'



1. 5号方形周溝墓遺物出土状況



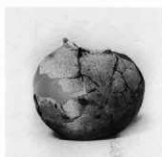
2. 同 遺物出土状況



1



4



5



2



3

3. 同 出土遺物



4. 西善尺可遺跡方形周溝墓遠景(南から)



5. 6号方形周溝墓遠景(北東から)



1. 6号方形周溝墓全景(北東から)



2. 同 土層断面B-B'(中位はHr-FAの一次堆積)



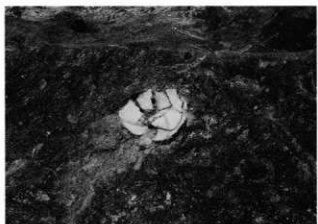
3. 同 土層断面C-C'(中位はHr-FAの一次堆積)



4. 同 遺物出土状況(南西辺付近)



5. 同 遺物出土状況(南東辺付近)



1. 6号方形周清墓遺物出土状況



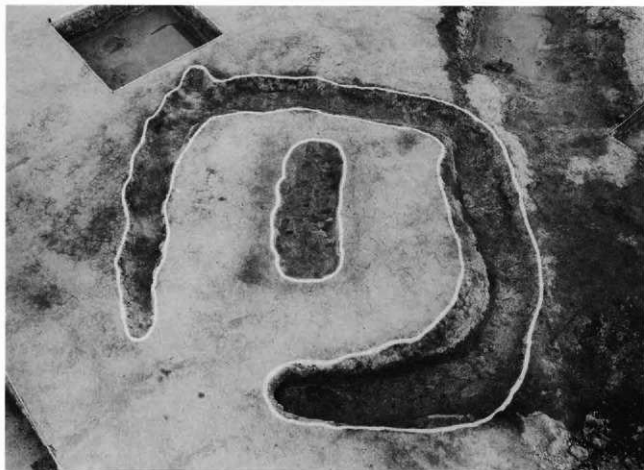
2. 同 遺物出土状況

3. 同 出土遺物





1. 6号方形周溝墓出土遺物



1. 7号方形周溝墓全景(南西から)



2. 5・7号方形周溝墓土層断面C-C'



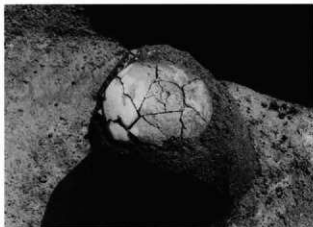
3. 7号方形周溝墓土層断面B-B'



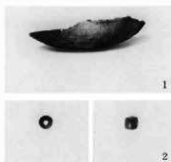
4. 同 主体部全景(底面に炭化物層が広がっていた)



5. 同 完掘状況



1. 7号方形周溝墓遺物出土状況



2. 同 出土遺物



3. 8号方形周溝墓全景(南から)



4. 同 土層断面B-B'



1



2

7. 同 出土遺物



5. 同 土層断面D-D'



6. 同 遺物出土状況(北隅)



1. 9号方形周溝墓全景



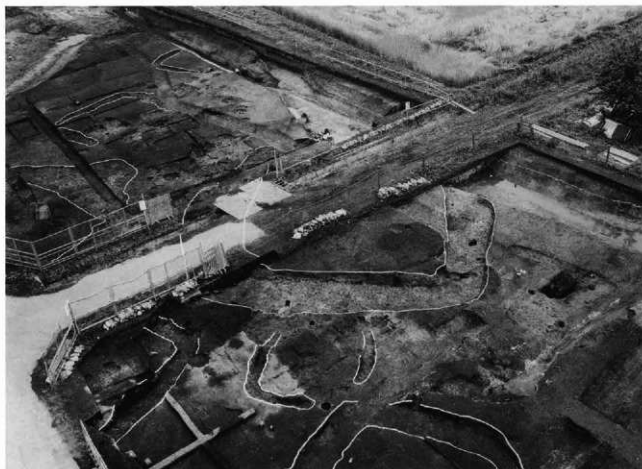
2. 同 土層断面D-D'



3. 同 土層断面E-E'



4. 同 出土遺物



1. 10号方形周溝墓全景(北西から)



2. 同 土層断面B-B'



3. 同 土層断面D-D'



4. 周溝内土坑全景(南から)



5. 周溝内土坑土層断面(南から)



1, 10号形周溝墓遺物出土状況



2, 同 遺物出土状況(南西辺付近)



3, 同 遺物出土状況



4, 同 遺物出土状況(北東辺付近)



5, 同 遺物出土状況(S字裏出土状況)



1. 10号方形周溝墓出土遺物(1)



19



20

1. 10号方形周溝墓出土遺物(2)



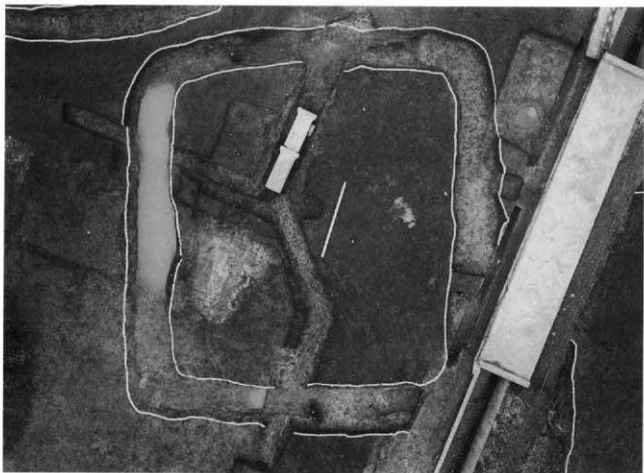
2. 11号方形周溝墓全景(北から)



3. 同 土層断面A-A'



4. 同 土層断面B-B'



1. 12号方形磚溝墓全景(南から)



2. 同 土層断面C-C'



3. 同 土層断面D-D'



4. 同 遺物出土状況(南西辺付近)



5. 同 出土状況



1. 12号方形周溝墓遺物出土状況(南西辺を北から)



2. 同 小形丸底土器出土状況



1



2



5

3. 同 出土遺物



3



4



1. 13号方形周溝墓全景(南から)



2. 同 土層断面A-A'



1



2



2

3. 同 出土遺物



4. 14号方形周溝墓全景(南から)



5. 同 土層断面B-B'



6. 同 出土状況(北辺付近)

7. 同 出土遺物



1



2



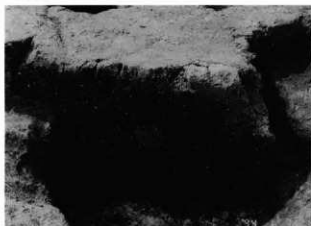
1. IV-A区25号井戸全景



2. 同 土層断面



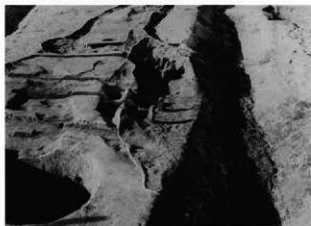
3. II-B区128・129号土坑土層断面



4. II-A区132号土坑土層断面



5. IV-A区55号土坑（南から）



6. IV-A区122号土坑遺物出土状況（南から）

7. II-B区128号土坑出土遺物



1

8. II-A区132号土坑出土遺物



1

9. IV-A区122号土坑出土遺物



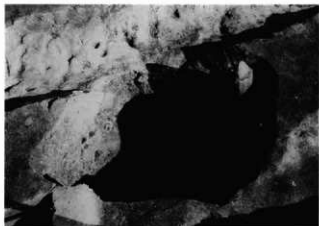
2



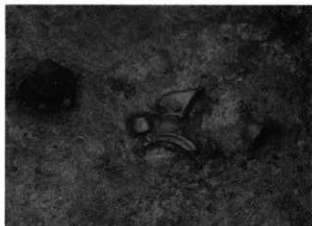
1



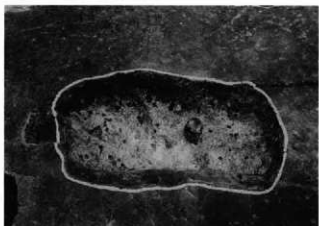
3



1. IV-A区100号土坑全景



2. 同 遺物出土狀況



3. IV-A区102号土坑全景



4. 同 遺物出土狀況

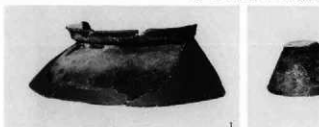


5. IV-A区131号土坑全景

7. IV-A区102号土坑出土遺物



6. IV-A区100号土坑出土遺物



1



2



4

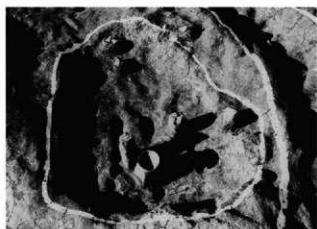


3



1

8. IV-A区131号土坑出土遺物



1. IV-A区115号土坑全景



2. 同 出土遺物



3. II-B区158号土坑出土遺物



4. II-B区158号土坑全景



5. IV-A区35号溝



7. III区溝状遺構(北よりIV-B区を望む)



6. II-A区11号溝全景(南から)



8. III区溝状遺構土層断面B-B'(南から)



1. Ⅲ区溝状遺構(南西よりⅣ-A区を望む)



2. Ⅲ区溝状遺構(南西より中央部付近を望む)



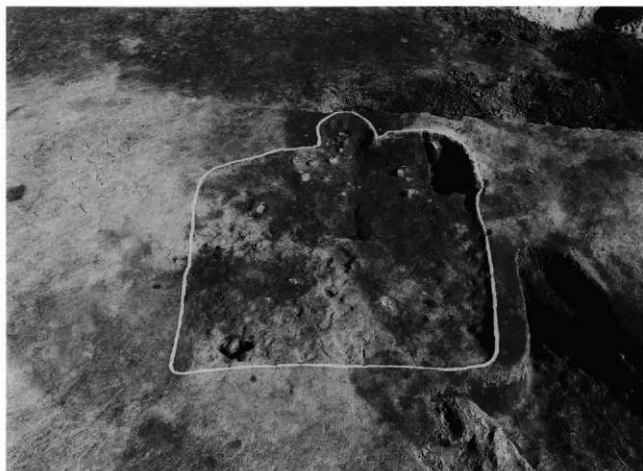
3. 風倒木痕出土遺物



4. I・Ⅱ区7号溝と集落群遠景



5. 平安時代の集落群遠景(西から)



1. I-A区1号住居全景(西から)



2. 同 壚全景(西から)



3. 同 遺物出土状況

4. 同 出土遺物



1



3



5



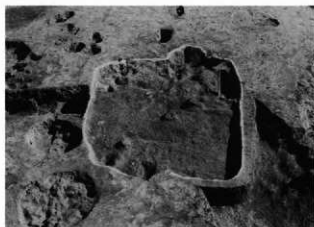
2



4



6



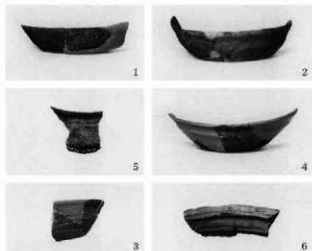
1. I-A区2号住居全景(西から)



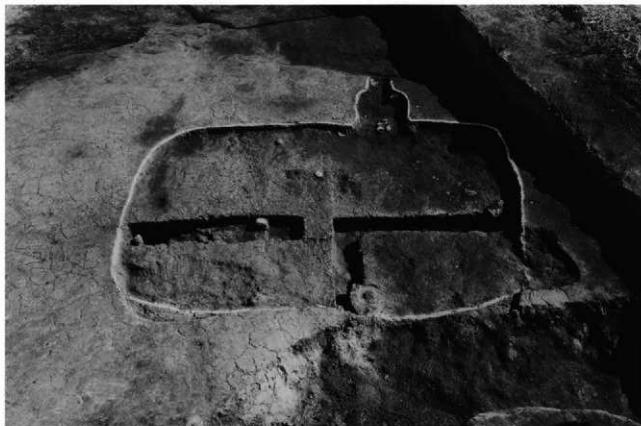
2. 同 竈全景(西から)



3. 同 遺物出土状況



4. 同 出土遺物



5. I-A区3号住居全景(西から)



1. I-A区3号住居構築面全景(西から)



2. 同 竈全景(西から)



3. 同 3号住居竈土層断面(西から)



4. 同 遺物出土状況



1



2



3



4

5. 同 出土遺物



6. I-B区4号住居全景(西から)



7. 同 竈全景(西から)



1. I-B区4号住居貯蔵穴土層断面



2. 同 遺物出土状況



3. I-A区5号住居全景(西から)



4. 同 構築面全景(西から)

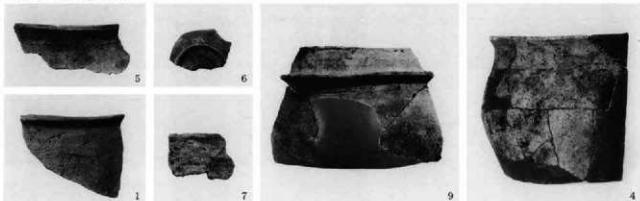


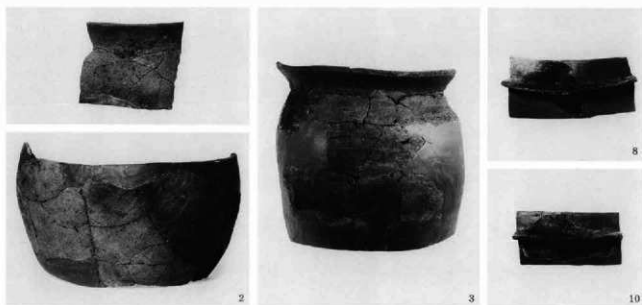
5. 同 竈全景(西から)



6. 同 遺物出土状況

7. 同 出土遺物(1)





1. I-A区5号住居出土遺物(2)



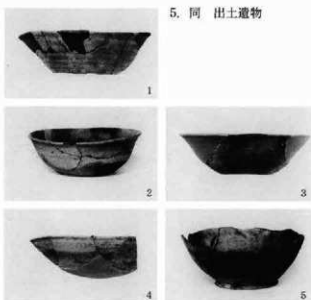
2. I-B区6号住居全景 (西から)



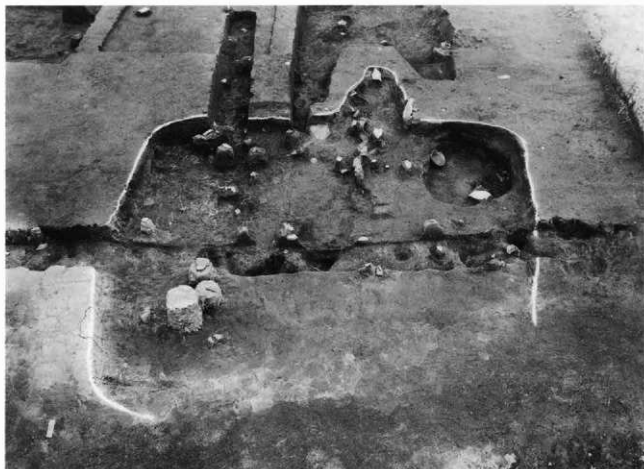
3. 同 竈全景(西から)



4. 同 遺物出土状況



5. 同 出土遺物



1. I-B区7号住居全景(西から)



2. 同 竈全景(西から)



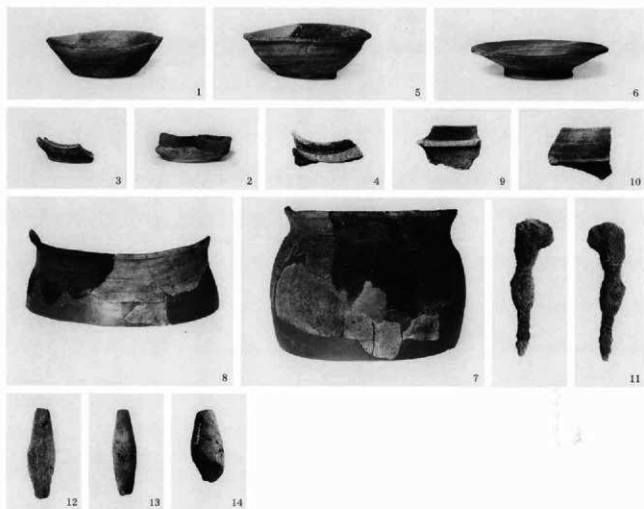
3. 同 貯蔵穴全景(西から)



4. 同 遺物出土状況(竈右袖付近)



5. 同 遺物出土状況



1. I-B区7号住居出土遺物



2. I-B区8号住居遺物出土状況



3. 同 住居全景(西から)



4. 同 遺物出土状況



5. 同 遺物出土状況



1. 1-B区8号住居遺物出土状況

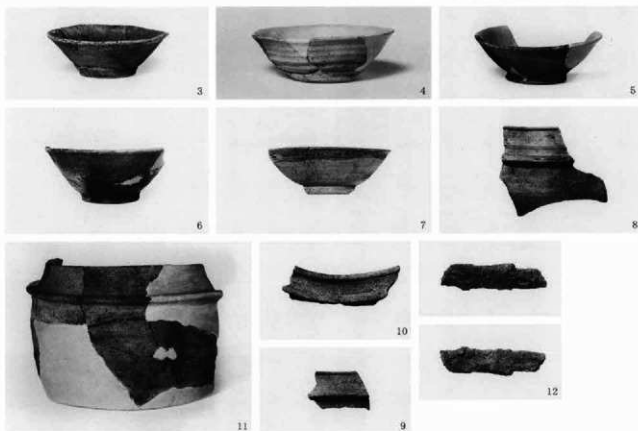
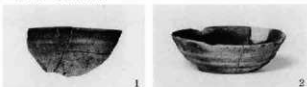


2. 同 竈全狀(西から)



3. 同 遺物出土状況

4. 同 出土遺物





1. I-A区9号住居全景(南西から)



2. 同 構築面全景(南西から)



3. 同 遺物出土状況



4. 同 遺物出土状況



4



4

5. 同 出土遺物



1



2



3

6. I-A区10号住居出土遺物



9



9



9



9



9



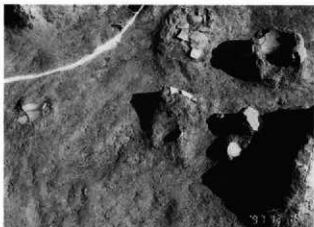
9



1. I-A区10号住居全景(西から)

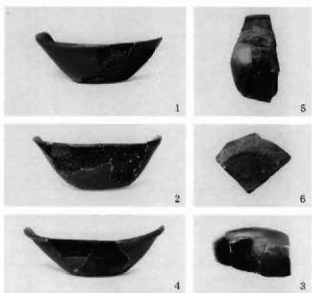


2. 同 竈全景(西から)



3. 同 遺物出土状況(竈前付近)

4. 同 出土遺物





1. 1-B区11号住居全景(西から)



2. 同 竈全景(西から)

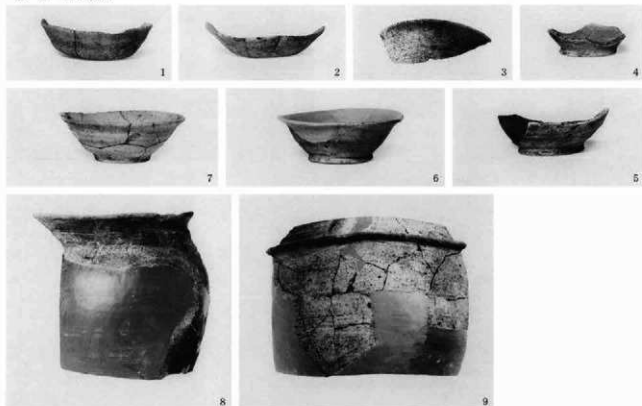


3. 同 貯藏穴全景



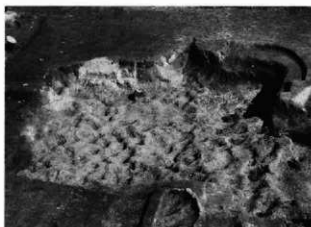
4. 同 遺物出土状況(貯藏穴)

5. 同 出土遺物





1. 1-B区12号住居全景(西から)



2. 同 構築面全景(西から、奥12号・手前13号住居)

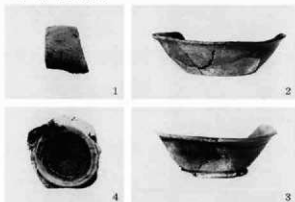


3. 同 竈全景(西から)

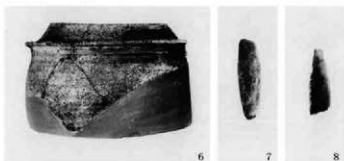


4. 同 遺物出土状況

6. 同 出土遺物



5. 同 貯蔵穴土層断面





1. I-B区13号住居全景(西から)



2. 同 構築面全景(西から)



3. 同 竈全景(西から)



4. 同 遺物出土状況

5. 同 出土遺物



1



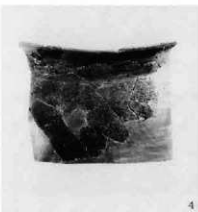
2



5



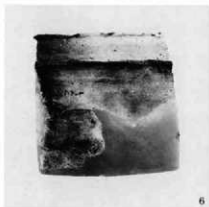
3



4



7



6



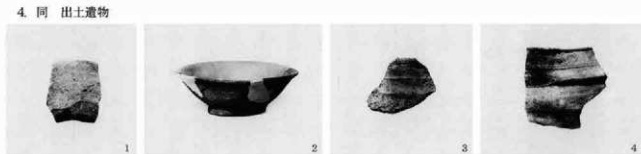
1. I-B区14号住居全景(西から)



2. 同 竈全景(西から)



3. 同 遺物出土状況(竈付近)



1

2

3

4



1. 1-B区15号住居全景(西から)



2. 同 構築面全景(西から)

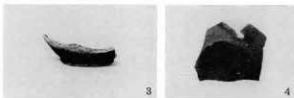
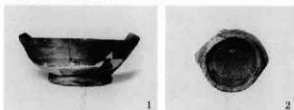


3. 同 竈全景(西から)



4. 同 貯蔵穴全景(西から)

6. 同 出土遺物



5. 同 遺物出土状況





1. I-B区16号住居全景(西から)



2. 同 住居土層断面(西から)



4. I-B区17号住居全景(西から)



3. 同 遺物出土状況

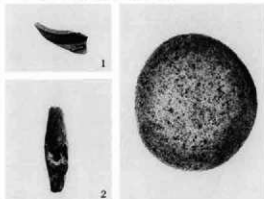


5. 同 龜全景(西から)

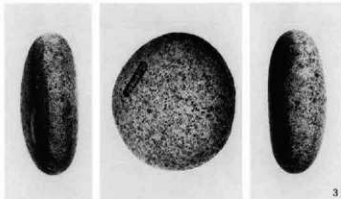


6. 同 遺物出土状況

8. I-B区17号住居出土遺物



7. I-B区16号住居出土遺物





1. I-B区18号住居全景(西から)



2. 同 竈全景(西から)



3. 同 貯蔵穴全景(西から)



4. 同 貯蔵穴セクション(西から)



5. 同 遺物出土状況



6. 同 遺物出土状況



1



4



2



3



6



5

7. 同 出土遺物



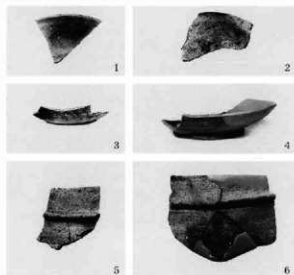
1. I-B区19号住居全景(西から)



2. 同 竈全景(西から)



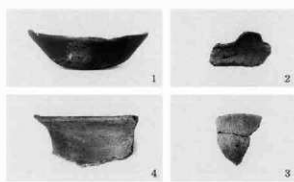
3. 同 貯蔵穴全景(西から)



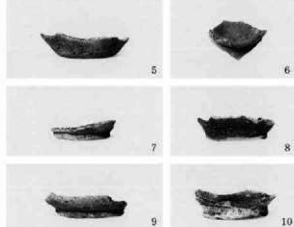
4. 同 出土遺物



5. II-B区20号住居全景(西から)



6. 同 竈全景(西から)



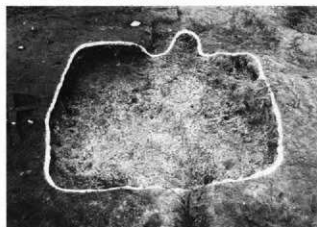
7. 同 出土遺物



1. II-B区21号住居全景(西から南面のみ)



2. 同 住居全景(西から前面調査時)



3. 同 構築面全景(西から)



4. 同 住居土層断面(南から)



5. 同 貯蔵穴全景・遺物出土状況(北西から)



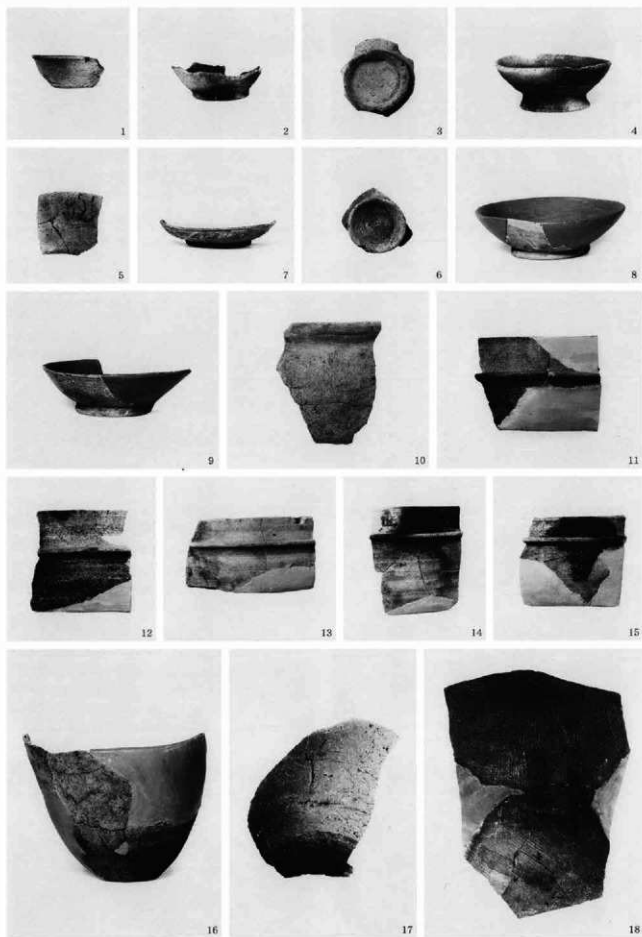
6. 同 竈全景(西から)



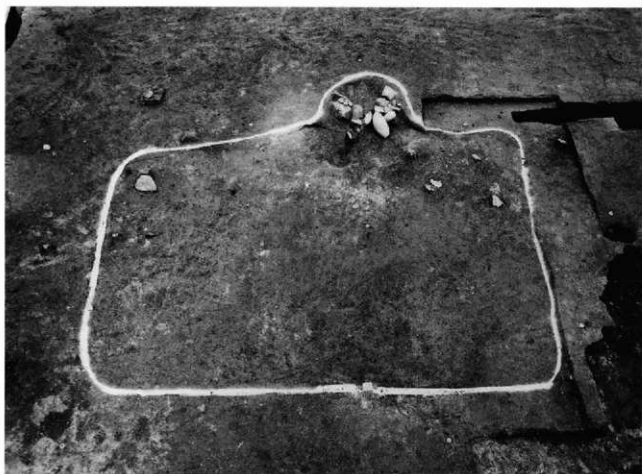
7. 同 住居貯蔵穴全景(西から)



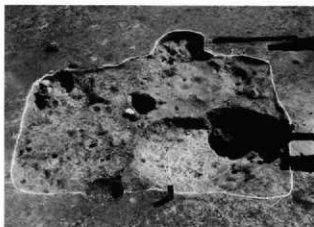
8. 同 遺物出土状況



1. II-B区21号住居出土遺物



1. II-B区22号住居全景(西から)



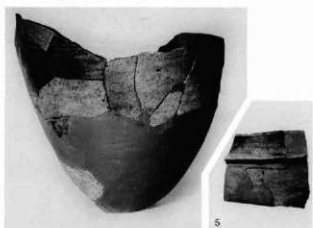
2. 同 構築面(西から)



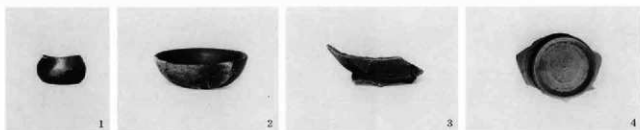
3. 同 竈全景(西から)



4. 同 竈土層断面(西から)



5. 同 出土遺物(1)



1. II-B区22号住居出土遺物(2)



2. II-B区23号住居全景(西から右は34号住居)



3. 同 住居全景(南から)



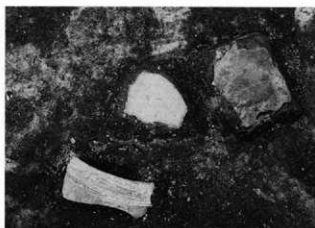
4. 同 竈全景(西から)



5. 同 住居床下土坑土層断面(東から左は34号住居)



6. 同 遺物出土状況



1. II-B区23号遺物出土状況



2. 同 遺物出土状況



3. 同 遺物出土状況

4. 同 出土遺物



6



4



1



2



3



5



7



8

5. II-B区24号住居出土遺物



1



2



3



II-B区24号住居全景(西から)



2. 同 構築面全景(西から)



3. 同 竈全景(西から煙道部残存)



4. 同 竈完掘(西から)



5. 同 竈構築面全景(西から)



6. 同 竈土層断面A-A'(南から)



7. 同 竈土層断面B-B'(西から)



8. 同 遺物出土状況



1. II-B区25号住居全景(西から)



2. 同 構築面・床下土坑土層断面(西から)



4. II-B区26号住居全景(西から)



5. 同 竈全景(西から)

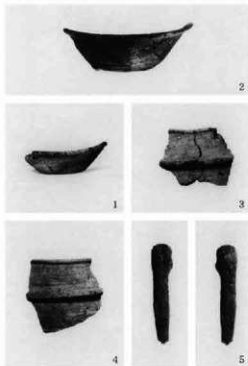


6. 同 貯蔵穴全景(西から)



3. 同 出土遺物

7. 同 出土遺物





1. II-B区27号住居全景(南西から)



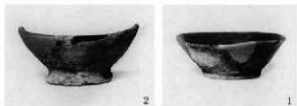
2. 同 構築面全景(南西から)



3. 同 竈全景(西から)



4. 同 貯蔵穴全景(北西から)



5. 同 出土遺物



1. II-B区28号住居全景(西から)



2. 同 竈全景(西から)



3. 同 竈全景(南から)



4. 同 竈土層断面(西から)



5. 同 遺物出土状況



6. 同 遺物出土状況

7. 同 出土遺物



1

2



3

8. II-B区29号住居出土遺物

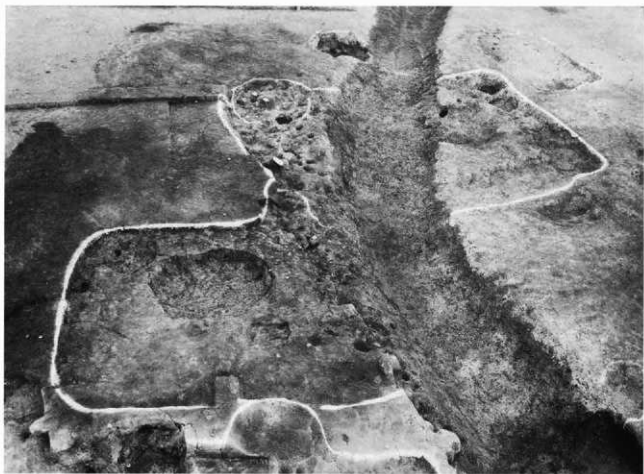


1

2



3



1. II-B区29号住居遺景(西から手前が20号、中央が29号、奥が25号住居)



2. 同 住居全景(西から)



3. 同 構築面(西から)



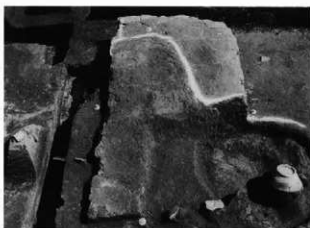
4. 同 竈全景(西から)



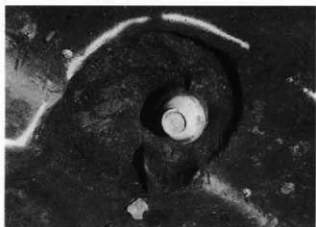
5. 同 遺物出土状況(南から)



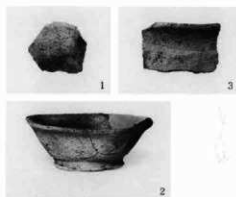
1. II-B区30号住居全景(西から)



2. 同 竈全景(西から)



3. 同 貯蔵穴全景(北西から)



4. 同 出土遺物



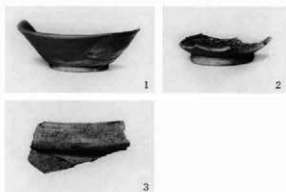
5. II-B区31号住居全景(西から手前28号住居)



6. 同 遺物出土状況



7. 同 遺物出土状況



8. 同 出土遺物



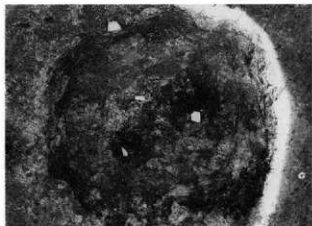
1. II-B区32号住居全景(南から窺のみ)



2. II-B区33号住居全景(西から)



3. 同 構築面全景 (西から)

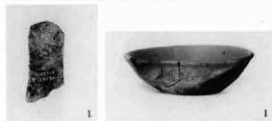


4. 同 構築面遺物出土状況

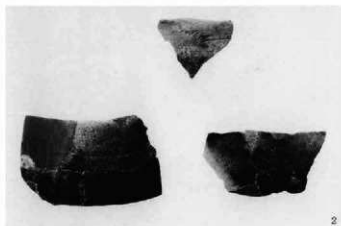


5. 同 II-B区34号住居全景(左は23号住居)

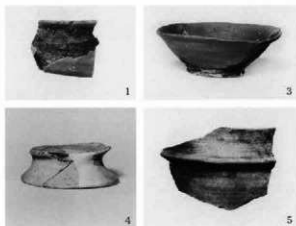
6. II-B区32号住居出土遺物



7. II-B区33号住居出土遺物



8. II-B区34号住居出土遺物





1. II-B区35号住居全景(西から)



2. 同 竈全景(北西から)



3. 同 竈遺物出土状況



4. 同 遺物出土状況



5. I-A区36号住居全景(西から。竈のみ)



6. 同 竈構築面全景



7. II-B区35号住居出土遺物



8. I-A区36号住居出土遺物



1. 1-A区39号住居遺物出土状況全景（西から）



2. 同 住居全景（西から）



3. 同 竈全景(西から)

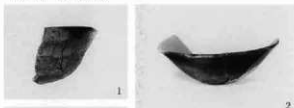


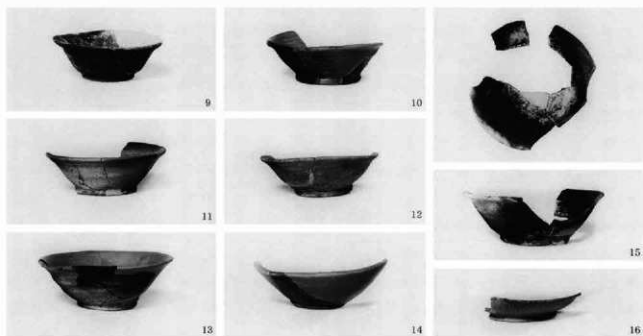
4. 同 遺物出土状況(北西隅付近)



5. 同 遺物出土状況

6. 同 出土遺物





1. I-A区39号住居出土遺物



2. I-A区40号住居全景(西から)



3. 同 構築面全景(西から)



4. 同 遺物出土状況



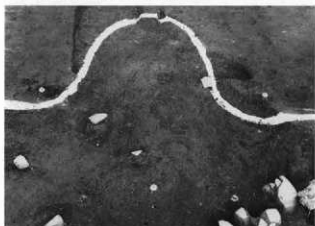
5. 同 出土遺物



1. II-A区41号住居全景(西から)



2. 同 構築面全景(西から)



3. 同 竈全景(西から)



4. 同 貯蔵穴土層断面(西から)



5. I-A区42号住居全景(西から)



6. 同 遺物出土状況

7. II-A区41号住居出土遺物





1. IV-A区1号住居構築面全景(西から)



2. 同 構築面土層断面(南から)



3. 同 竈土層断面



4. 同 出土遺物



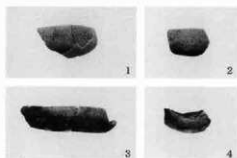
5. IV-A区2号住居全景(西から)



6. 同 竈全景(西から)



7. 同 遺物出土状況



8. 同 出土遺物



1. IV-A区3号住居全景（西から）



2. 同 竈全景（西から）

4. 同 出土遺物



5

6

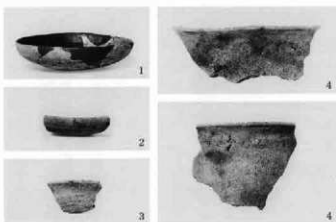


3. 同 竈土層断面（西から）



7

8



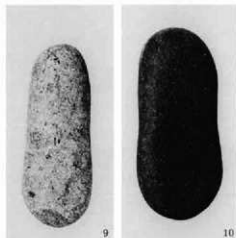
1

4

2

3

4



9

10



11



12



1. IV-A区4号住居全景(西から)



2. 同 竈全景(西から)



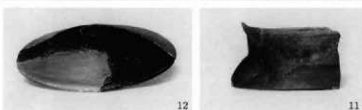
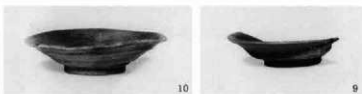
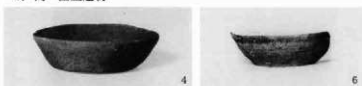
3. 同 貯蔵穴全景(北から)



4. 同 遺物出土状況



5. 同 出土遺物





1. IV-A区5号住居全景(西から)



2. 同 竈全景(西から)



3. 同 竈土層断面B-B'(西から)



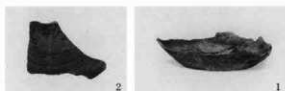
4. 同 床下土坑土層断面



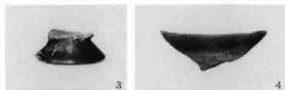
6. IV-A区6号住居全景(西から)



7. 同 床下土坑全景



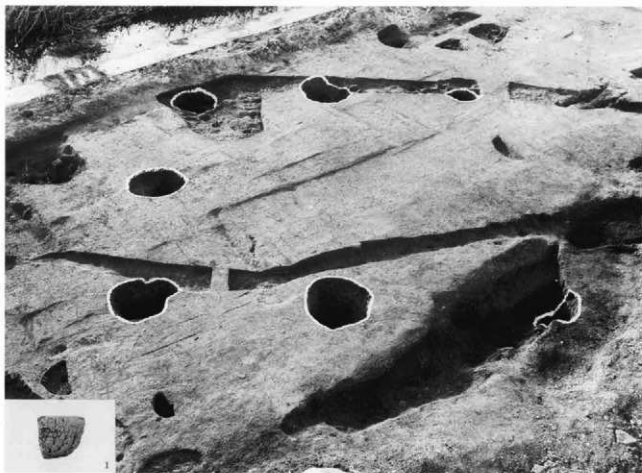
5. 同 出土遺物



8. 同 出土遺物



1. I-A区藤川左岸部全景(南から)



2. I-A区4号掘立柱建物全景・出土遺物



1. I-B区4号井戸全景



2. 同 土層断面



3. 同 遺物出土状況



1



3



2



5



4

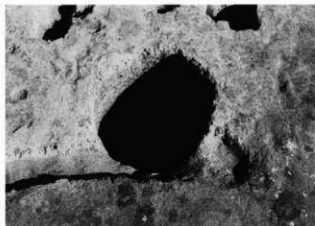
4. 同 出土遺物



5. II-B区7・9号井戸全景(東から)



6. II-B7号井戸土層断面(南から)



1. IV-A区5号井戸全景(西から)



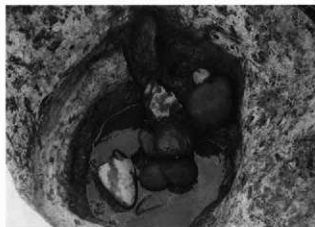
2. 同 土層断面(東から)



3. IV-B区7号井戸全景(南から)



4. IV-B区8号井戸全景(南から)



5. 同 遺物出土状況(東から)



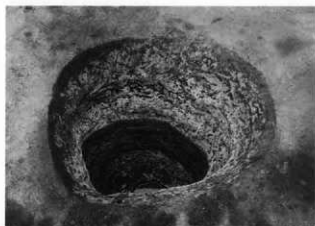
6. 同 土層断面



7. IV-A区5号井戸出土遺物



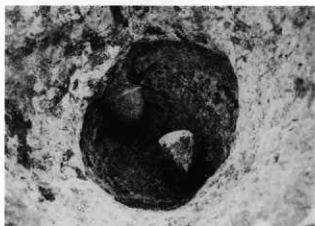
8. IV-B区8号井戸出土遺物



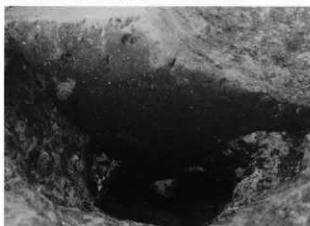
1. IV-A区12号井戸全景(西から)



2. 同 土層断面(南から)



3. IV-A区19号井戸全景(南から)



4. 同 土層断面(南から)

5. 同 出土遺物



1



2



1



2



1



1



1/4 2

6. IV-A区12号井戸出土遺物



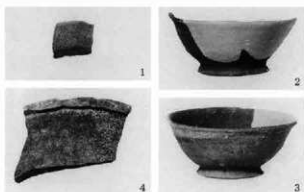
1. IV-A区20号井戸全景(南から)



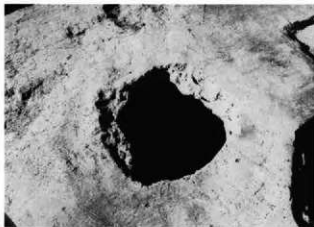
2. 同 土層断面(南から)



3. 同 遺物出土状況



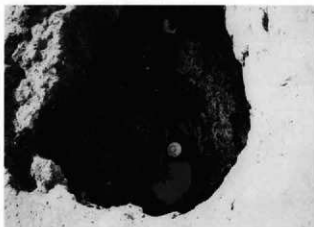
4. 同 出土遺物



5. IV-A区21号井戸全景(南から)



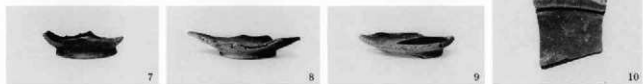
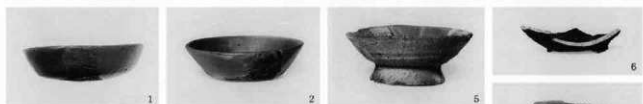
6. 同 確出土状況(南から)



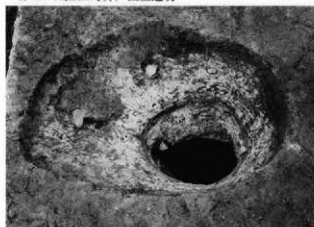
7. 同 遺物出土状況



8. 同 遺物出土状況



1. IV-A区21号井戸出土遺物



2. IV-A区24号井戸全景(南から)



3. 同 土層断面(南から)



4. 同 出土遺物



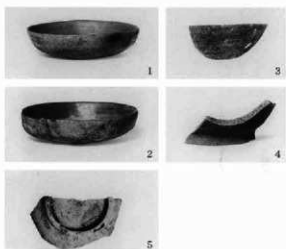
1. I-A区22号土坑全景(南西から)



2. 同 土層断面



3. 同 遺物出土状況



4. I-A区22号土坑出土遺物

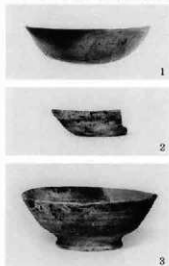


5. I-A区24号土坑全景(南から)



6. 同 土層断面

7. I-A区24号土坑出土遺物





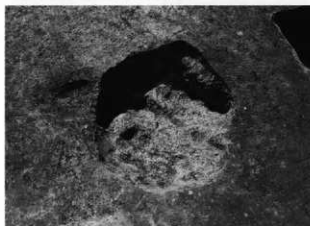
1. I-B区110号土坑全景(南から)



2. I-A区149号土坑全景(南から)



3. I-A区148号土坑全景(南から)



4. II-B区83号土坑全景(南から)



5. II-B区88号土坑全景(南から)



2



1

6. I-B区110号土坑出土遺物



1



2

7. I-A区148号土坑出土遺物



1



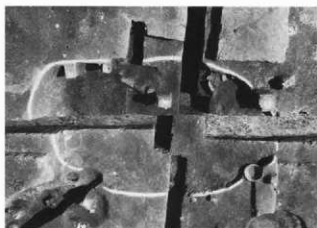
2

8. II-B区83号土坑出土遺物



1

9. II-B区88号土坑出土遺物



1. II-B区89号土坑全景(南から)



2. II-B区94号土坑全景(南から)



3. II-B区93号土坑全景(南から)



4. II-B区93・94号土坑全景(南から)



5. II-B区96号土坑全景(東から)



6. II-B区89号土坑出土遺物



7. II-B区93号土坑出土遺物



8. II-B区94号土坑出土遺物

9. II-B区96号土坑出土遺物



1



2



3



4



5



1. II-B区97号土坑土层断面(西から)



2. II-B区98号土坑遺物出土状況



3. II-B区99号土坑遺物出土状況



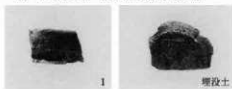
4. II-B区98・99号土坑全景(北から)



6. II-B区104号土坑出土遺物



7. II-B区105号土坑出土遺物



5. II-B区98・99号土坑出土遺物



8. II-B区130号土坑出土遺物



99土坑 3



9. II-B区147号土坑出土遺物



2



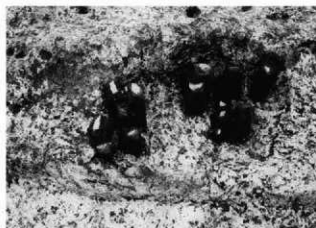
2



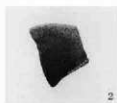
1. II-B区127号土坑全景(南から)



2. IV-A区74号土坑全景(南から)



3. 同 遺物出土状況(南から)

4. II-B区127号土坑
出土遺物

5. IV-A区74号土坑出土遺物



6. I-A区3号溝全景(南東から)



1. I-A区3号溝遺物出土状況

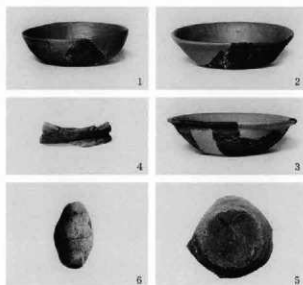


3. I-B区8号溝全景(東から)



5. I-A区9・10号溝全景(南から)

6. 同 出土遺物



2. 同 出土遺物



4. 同 出土遺物



7. II-B区9・13号溝全景(北から)



1. II-B区7号溝全景(北から)

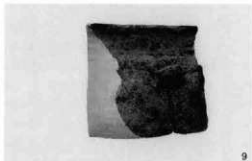
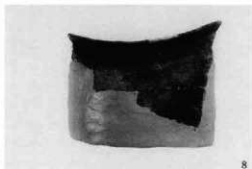
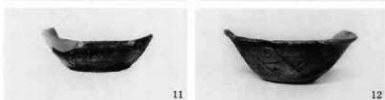


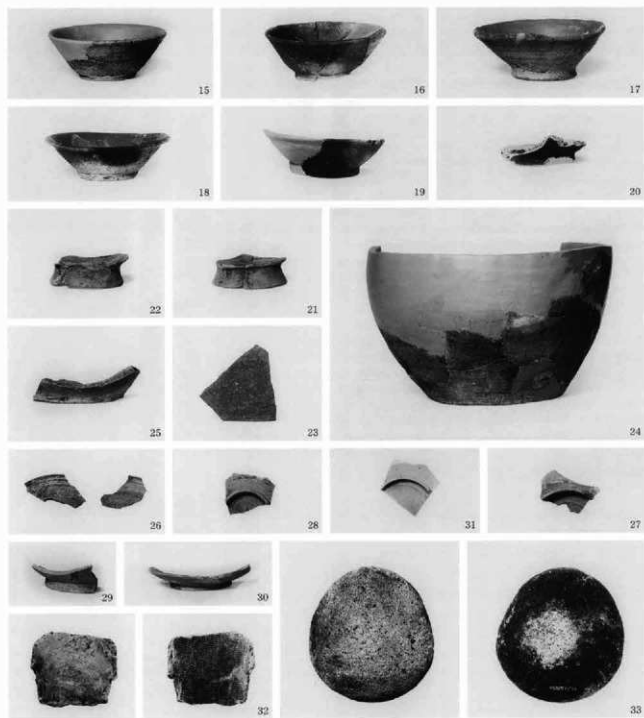
2. II-A区7号溝全景(東から)



3. 同 遺物出土状況(西から東側を望む)

4. 同 出土遺物





1. II-A·B区7号溝出土遺物



2. I-A·B区2号溝出土遺物



1. IV-A区31・32号溝全景(南から)



2. IV-A区29・30号溝全景(南から)



3. IV-A区33・34・36号溝状全景(南から)



4. IV-A区33号溝全景(北から)



5. IV-A区33・36号溝全景(南から)



6. IV-A区31・36号溝全景(南から)



7. IV-A区29号溝遺物出土状況



8. 同 遺物出土状況



4

1. IV-A区31号清
出土遺物



7

2. IV-A区33号清出土遺物



3

4. IV-A区30号清出土遺物



5



8

3. IV-A区29号清出土遺物



1



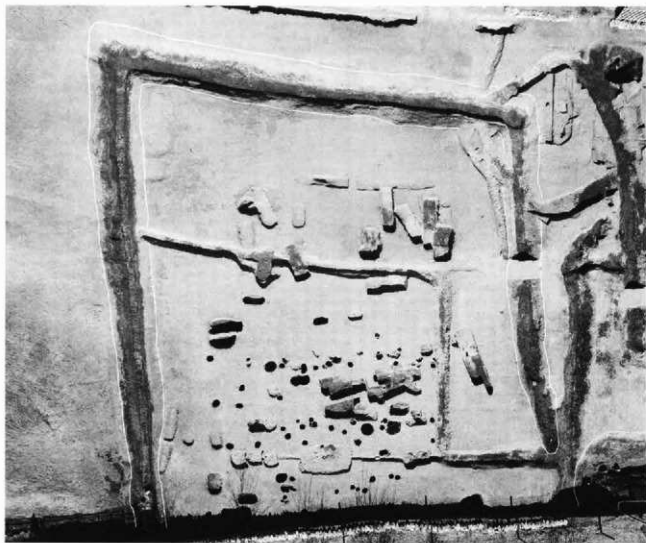
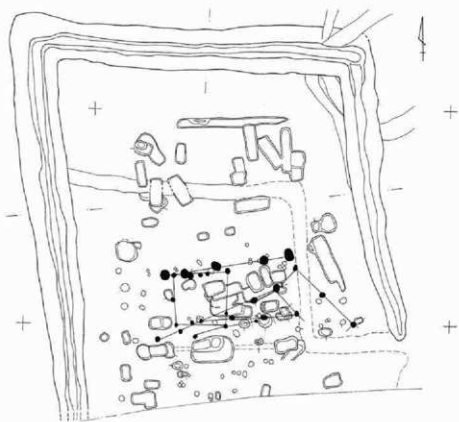
2



5. I-B区畠全景(北から)



6. 同 全景(東から)



1. I区1号館全景



1. 1・2・3号館全景(左が1号、中央が2号、右側が3号館)



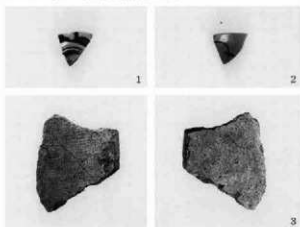
2. 1・Ⅱ区2号館東側(Ⅱ区を東から望む)



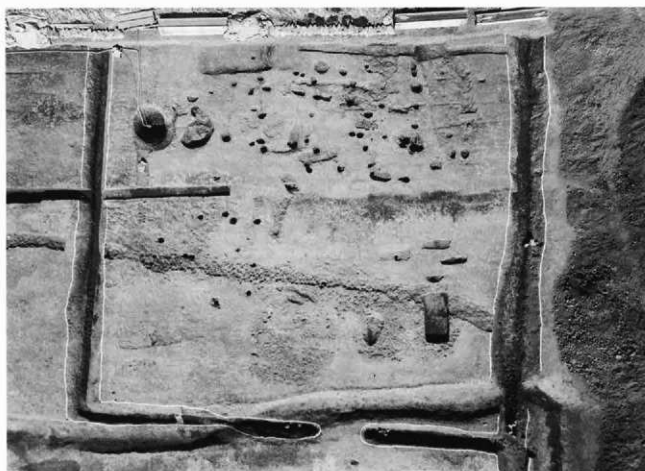
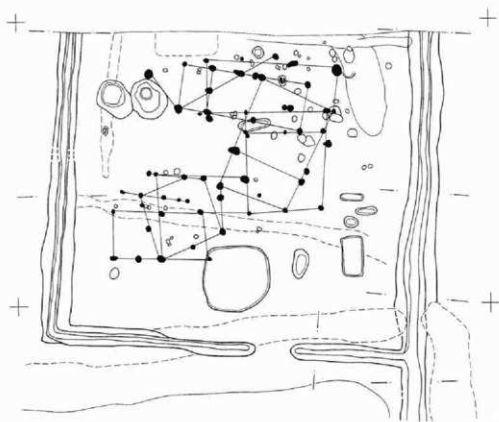
3. 1・Ⅱ区2号館中央部(東から)



4. 1・Ⅱ区2号館西側(Ⅰ区を西から望む)



5. 1・Ⅱ区2号館出土遺物



1. II区3号館全景（南から）





1. IV区4号館全景(南から)



1. IV区4号館15・17号溝北側連結部(南から)



2. 同 南側連結部(西から)



3. 同 北側連結部土層断面(南から)



4. 同 15号溝全景(南から)



5. 同 人口部(西から)



6. 同 船内部遠景(東から)



7. 同 土層断面A-A'(南から)



8. 同 土層断面B-B'(南から)



1. IV区4号館全景(南から)



1. IV区25号溝土層断面B-B'(南から)



2. 同 土層断面E-E'(南から)



3. IV区13・26号溝土層断面(南から)



4. IV区13号溝土層断面C-C'(北から)



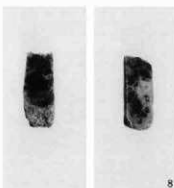
5. 同 土層断面D-D'(南から)



6. IV区12号溝土層断面C-C'(南から)



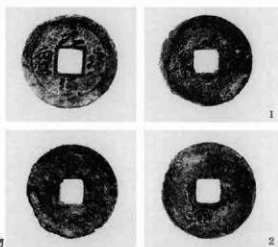
7. IV区17号溝出土遺物



8. 4号館6号掘立柱建物出土遺物



1. IV区4号館1号竪穴状遺構全景(南から) 2. 同 出土遺物



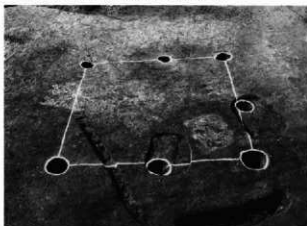
3. IV区4号館2号竪穴状遺構全景(東から)



4. IV区4号館3号竪穴状遺構(南から)



5. I-A区1号掘立柱建物全景(南から)



6. I-A区2号掘立柱建物全景(北東から)



7. IV-A区15号掘立柱建物全景(南から)



8. I-A区1号火葬墓全景(西から)



1. IV-A区1号火葬墓全景(西から)



2. IV-A区2号火葬墓全景(西から)



3. I-A区1号井戸全景(西から)



4. I-A区2号井戸全景(東から)



5. I-A区3号井戸土層断面(東から)



6. I-A区1号井戸出土遺物



7. II-B区5・6号井戸全景(南から)



8. I-A区2号井戸出土遺物



1. I-A区8号井戸全景(南から)



2. IV-A区1号井戸土層断面(南から)



3. IV-A区2号井戸土層断面(南から)



4. IV-A区3号井戸全景(西から)



5. IV-A区6号井戸全景(西から)



1. IV-A区6号井戸土層断面(東から)



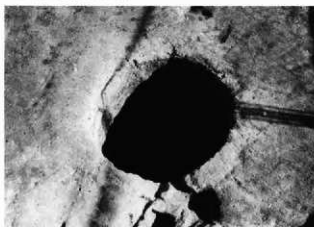
2. 同 露出土状況



3. 同 完掘(西から)



4. IV-A区6号井戸出土遺物



5. IV-A区4号井戸全景(西から)



6. IV-B区9号井戸全景(南から)



7. IV-B区10号井戸全景(南東から)



8. IV-B区11号井戸全景(南東から)



1. IV-A区13号井戸全景(東から)



2. 同 土層断面(東から)



3. IV-B区14号井戸全景(西南から)



4. 同 土層断面(西南から)



5. IV-A区15号井戸全景(東から)



6. 同 土層断面(東から)



7. IV-A区18号井戸全景(南から)



8. 同 土層断面(西から)



1. IV-A区16号井戸全景(南から)



2. IV-A区22号井戸土層断面(北から)



3. IV-A区16号井戸出土遺物



2



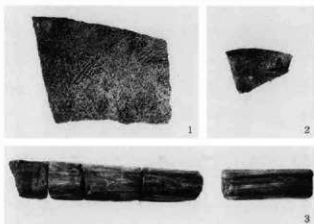
4. IV-A区23号井戸全景(南から)



5. 同 土層断面(南から)



1. IV-B区27・28号井戸全景(南から)

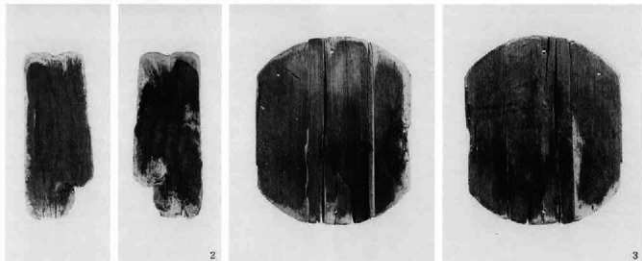
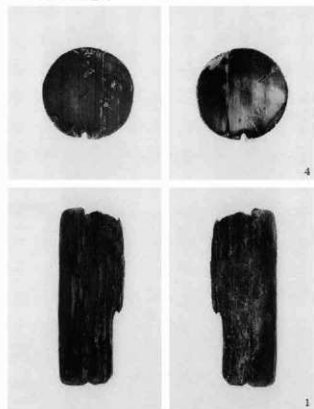


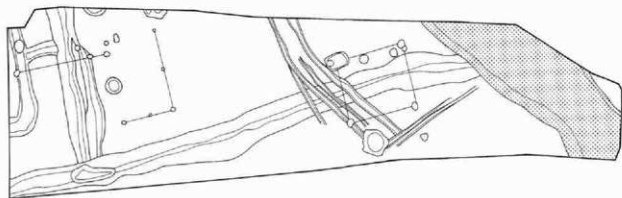
2. 同 出土遺物



3. IV-A区29号井戸全景(南から)

4. 同 出土遺物





中内村前 I-B区全景



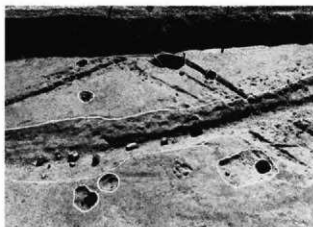
1. 中内村前 I-B区全景(東から中央はIV区31号溝)



2. 中内村前 I-B区全景(西から)



3. 中内村前 I-B区西部(東から)



4. 中内村前 I-B区中央部(北から)



1. I-AK1号土坑全景(南から)



2. I-B区36号土坑土層断面



3. II-B区80号土坑全景(北から)



4. II-B区91号土坑全景(西から)



5. II-B区92号土坑全景(南から)



6. II-B区134・135号土坑全景(南から)



7. I-A区23号土坑全景(南から)



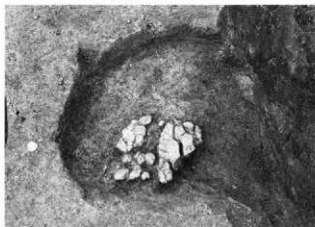
8. II-B区81号土坑全景(南から)



1. II-B区85号土坑全景(南から)



2. II-B区107号土坑全景(西から)



3. II-B区126号土坑全景(南から)



4. 同 遺物出土状況



5. I-A区2号土坑全景(南から)



6. I-A区3号土坑全景(北から)



7. I-A区4号土坑全景(北から)



8. I-A区26・27号土坑全景(南西から)



1. I-B区28号土坑土層断面(南から)



2. I-B区29号土坑土層断面(南から)



3. II-B区37号土坑土層断面(南から)



4. I-A区72号土坑全景(東から)



5. I-B区86号土坑全景(北から)



6. I-A区76号土坑全景(北から)



7. II-B区95号土坑全景(南から)



8. II-B区100号土坑全景(西から)